

市整会25周年記念誌

市
整
会

市
罄
公

[illegible]

目 次

巻 頭 言	市整会々長	長田 明	4
祝 辞	大阪市立大学医学部名誉教授	島津 晃	5
//	大阪市立大学医学部教授	山野慶樹	6
〔Ⅰ〕 25年を顧みて			
1. 開業医会と共に17年		伊藤成幸	9
2. 創立20周年行事に当って		松尾澄正	12
3. 市整会と私		吉中正好	14
4. 25周年記念行事		長田 明	15
5. 市整会旅行の思い出		上田晏弘	18
6. 「市整会草創のとき」ーそして25周年ー座談会		宮内 貴	19
7. すばらしき「65の会」		妻鹿利和	30
8. 20周年記念行事を担当して		黒田晃司	31
9. 25周年記念誌の編集に携わって		阪本邦雄	34
10. 整形ソングの由来		木下 孟	35
ー 余島キャンプの追想から			
〔Ⅱ〕 市整会25周年記念祝賀会			38
〔Ⅲ〕 自由投稿			
1. 生涯現役	特別会員	三好 宏	51
2. 自由題		矢頃恒三	52
3. すばらしき東欧への演奏旅行		近藤 隆	52
4. 整形外科の皆様にお詫びを		坂本和英	53
5. 臍曲り		奥野博敏	54
6. 私の健康法（旅行とダンス）		奥野博敏	56
7. 私の山歩き		木下 孟	58
8. 追想 水野祥太郎先生		和田 忍	59
9. 卒後42年の思い出		有馬清徳	61
10. 枯談診療閑話		花岡俊行	63
11. ヴァンクーヴァのんびり3週間		吉田正和	64
12. 熊との出会い		宮内 貴	65
13. 時の流れの中で		石上 直	66
14. 私の故郷		竹村 永	68
15. 若かった頃の断章		階堂嘉寿雄	69
16. 戦争		江口 亨	71
17. あるべき開業医像		吉中正好	72
18. 「25才のころ」		石崎嘉昭	73
19. “犬煩惱?”		長田 明	74
20. 旅行とロマネスク美術		笹岡正雄	76
21. 「つれずれなるままに」		井上博夫	77

22. 「或る山歩き」	榎本高明	78
23. ちょっとした記憶錯覚かな	木全俊弘	79
24. “医師としてのあるべき姿”	兪 炯奉 (谷本吉造)	80
25. 56才 定年時代	廣田龍二	81
26. くたくた会賛歌	前野岳敏	83
27. 医師になって30年	明石武彦	84
28. タイ国の病院で	門田嘉弘	86
29. 新高山 (玉山3,997米)	奥田好彦	87
30. 25才の時	許 国広	89
31. 「懲りない人たち」	中村英健	90
32. 美しき鳥たち	小野興三郎	91
33. 夢	佐竹兼爾	92
34. 開業して16年	山田忠尚	93
35. 『金土金土金日日』	楠 正敬	94
36. 「ゆとりを持って」	菱川 泰	95
37. 『この4年間を振り返って』	頼 功	96
38. クラフトマンシップ	吉田昌司	97
39. 開院2年を振り返って	中島一行	98
40. 整形外科医としての御師匠さん達	吉田研二郎	99
41. 雑 感	楯 憲一郎	101
42. ある少女の死	阪本邦雄	102
43. 趣味と実益	箕輪恵次	103
44. 最近の私	西上茂樹	107
45. 『開業医としての出発』	飯田伊佐男	107
46. 開業医生活を振り返って	久保俊雄	108
47. マイペースで	呉家守二	109
48. 大学卒業後、現在、そして、これからの自分	島田永和	109
49. 休日は家庭サービス	岩本善介	110
50. 読書の愉しみ	堀澤欣弘	111
51. 私の少年期を過ごした村	山中健作	112
52. 市整会25周年にあたって	秋野一男	113
53. 「楽しみ」	倉田順弘	114
54. フラメンコギターに出合って	茶之木頼彦	115
55. 開業して思うこと	増田 博	116
56. 人生はあみだくじ (?)	馬野隆信	117
57. 「最近の暮しぶり」	光武 宏	118
58. 『老無く男女挙ってプールリハビリテーション』	阪本博史	119
〔Ⅳ〕 あんけ〜と		122
〔Ⅴ〕 市整会の歩み (年表)		158
〔Ⅵ〕 資 料		168

巻 頭 言



市整会会長 長 田 明

大阪市立大学整形外科開業医会（市整会）は本年、平成9年に創立25周年を迎えました。誠に喜ばしいことであります。大阪市立大学整形外科学教室が来年、平成10年に50周年を迎えますので、市整会の先輩諸先生方が入局後24年目にして発足させたわけであります。数人の先生方が集まり「開業医のわれわれにも何かできることはないのか」と先ずは結束という形で始まったと聞き及んでおります。それが現在会員数150余名という大所帯に発展いたしました。

市整会が今日あるのは初代伊藤会長を始めとして2代松尾、3代吉中各会長のご努力は勿論のことですが、各会長をサポートしてくださいました会員各位の一人一人のご協力とご努力の賜であることは言うまでもありません。

そしてこの度、このように25周年の記念事業を楽しく催すことができますのも会員の皆様方のご尽力のおかげであると心より感謝申し上げます。

皆様ご承知のように、昨今の医療情勢は厳しいものであります。保険医療という統制医療のもとで、私達は何とか少しでもいい医療を地域住民に提供できるように努力しなければなりません。このような時に多くの会員諸先生方が、それぞれの地域で地区医師会の役員として、また大阪府医師会の各種委員会において大いに活躍しておられるものたいへん喜ばしいことであります。

どうかお互いに密に連絡をとりあって、明日の整形外科開業医の発展をめざして一日一日を大切に頑張っていきたいものです。記念すべきこの四半世紀を契機に皆様方の更なる和を切望してやみません。

平成9年6月吉日

☆☆☆ 祝 辞 ☆☆☆



竜の落とし子

大阪市立大学医学部名誉教授

島 津 晃

大阪市大整形外科開業医会設立25周年祝賀会によせて

4半世紀、クォーターは歴史の重みを感じさせる。創立は私が泉北国立病院にいた頃であり、故小谷教授を支える有力な団体として発足。私が3代目教授になってからも、大学内・外の活躍を通じて現役の教室員一同への支援と叱咤激励を受けた。

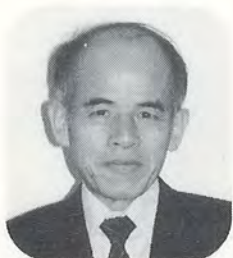
えてして、開業医会は親睦団体として遊びが優先されるものであるが、お互いの医学レベル向上のための講習会を年何回か催され、私を含め現役教室員が講師に招かれたものである。

同窓会活動の大きな柱である奨学基金制度の設立も制度的に確立していた開業医会があったからこそ可能であったものと考え。そして、大阪臨床整形外科医会の有力な支持団体として、さらに日本整形外科学会に評議員を送出し、それらを通じての功績は大きい。

このような会に育て上げられたのも伊藤先生、松尾先生を始めとする歴代会長の手腕と、これを支えた会員一同の真摯な態度によるものと考え。今後とも医療行政の厳しいなか、新しいメンバーを指導し、更なる活躍を期待するものである。

平成9年3月

☆☆☆ 祝 辞 ☆☆☆



市整会25周年を祝って

大阪市立大学医学部教授

山野 慶樹

市大整形外科同門会の開業医の先生方の集い“市整会の発足25周年”誠にお目出とうございます。

私が入局した頃は巷には、整形外科での開業医は見当たらず、その頃は外科医は開業しやすいと言う時代でした。数年後に同門から開業される先生がぼつぼつ現われ、この先生方のなみなみならぬご努力で十分開業できることが証明され、後に続く方が続々現われたように思っています。それでもこの頃は手術設備から病室まで完全武装され、中には外科、整形外科と看板を挙げ頑張っておられた先生方もおられた様です。お陰様で整形外科が世間に認識されるようになり、整形外科的治療、理学療法の設備が整うと共に、さらに高齢化社会を迎え、開業された先生方をはじめ皆様方のご協力の賜と存じます。

今や市整会の会員は私どもの同門会員の1/3、150人を超える程になり近畿、大阪地区では一大勢力まで発展しており、ご同慶の至りでございます。今後は、長田 明会長のもと市整会のますますのご発展を祈念いたします。

将来の医師増加を見越して文部省は、大学の入学定員の削減を遅らせながら指導していますが、今後暫くは医師増加が続く中で、私共は医師としての能力、医療の質を高めていかねばならないと考えています。厚生省は家庭医制度を押し進めています、この様な状況から同好の集いからお互いの学問的に切磋琢磨する、自浄作用を有する会に発展していただきたいと望んでいます。

私ども大学のみならず関連病院は、市整会の先生方のご要望に応ずべく努力を致す所存でございますので、今後とも宜しくお願いいたします。

平成9年6月

〔Ⅰ〕25年を顧みて

〔Ⅰ〕25年を顧みて



開業医会と伴に17年

伊藤 成幸

変遷極りない昭和の御代も終り、平成元年を迎え、世の中の動きも序々に昭和から平成へと変わりつつあった。丁度、その時期に、長年つとめた市大開業医会の会長を昭和の終焉とともに退くことになりました。17年の長きに渡り、大過なく会長の重責を、全うできたことは、ひとえに副会長、理事の先生方をはじめ、会員の皆様のおかげで、ここに、つつしんで深く御礼を申し上げます。

この会長時代の17年を振り返ると、いろいろな出来ごとや、いろいろな人との出会い等が、思い出されます。

昭和47年、日本中の学園紛争も終り、市大整形外科も、やっと落ちつきをとりもどした頃、松井、宮内、吉田洋等の先生方が、中心となって、市大整形外科教室出身の開業医の先生方に「開業医は、一国一城の主ではあるが、個人の力は、しれたもので、それぞれの力を結集すれば、大きな力となり、何かが、やれるのではないか。」というようなことで、開業医会を作ろうと 呼びかけがあり、それに同調した31名の方が発起人となって、昭和47年11月26日、アベノのエコーホテルにて、市大整形外科開業医会発足準備会なるものが、出来あがりました。(資料1)

全く零からの出発で、発起人の皆さんは、医学、医術に関しては、すぐれた人ばかりですが、このような会を運営するには、全くの素人の集りでした。今から見ると、なんとなく可笑しい議案になっておりますが、当時では、皆さん真剣に開業医会を作る作業に、取り組んでおりました。当時の名簿を見ますと、亡った方や、いろんな事情で退会された方もおられますが、懐かしさで一杯です。

その後、仮の執行部ができて、翌年、昭和48年5月20日(日)心斎橋の大成閣で、第1回的大阪市大整形外科開業医会総会がひらかれ、この日をもって正式に、会が発足しました。資料2は、その当時、各会員へ発送した案内状です。

総会のあと、当時、整形外科教授の小谷先生に、「大学紛争の前後—現在の医局について」と、いうお話をしていただき、教室内も、やっと落つき、少しずつ研究活動や、内部の秩序も恢復してきたというような、話であったと思います。

その時の会員は、34名で、整形外科同窓会員の総数は、165名で約1/5の人が、開業医会に入っていたことになります。以后、年々会員の数も増えて参りました。会員数の推移(資料3,4)を見ますと、昭和63年現在では、100名となっております。因みに、整形外科同窓会員の数は、名誉会員を入れて、314名で、約1/3の方が、私どもの会員になっておられます。このように、多くの会員を擁した整形外科開業医の会は、当時、他の大学では、全くその類を見ないものであり、他学等からいつも羨ましがられておりました。

市整会が発足した当初は、開業医会と呼んでおりましたが、この会として、やりたい事業、すなわち 将来に対する夢が、いくつかありました。実現したものもあり、また実現不能のものもありました。

夢の1つは、昭和48年、発足当時、大学と関連病院は、お互いに人事交流、その他で比較的密接な関係にありましたが、開業医と大学との関係は、全く別の世界に、お互に住ん

であり、遠い親籍のような通り一遍の関係であり、なんとなく淋しく、もっと密接な関係をもちたいと思っておりました。ギブアンドテークお互いにプラスになるようなこととして、相互援助の委員会を作り、私ども開業医が倒れた時に、この委員会を通じて、大学や関連病院から援助をしてもらうという申し合せをしました。今まで2～3件のケースがあります。逆に大学へは、それ相当の資金援助を行い、両者の関係を急速に深めて参りました。現在では、整形外科同窓会の中で、かなり重要な存在になっております。これも同窓会々長で第3代目教授の島津先生と理事長の木下先生に負うところが大きかったと思っております。

二つ目の夢は、われわれの会から日整会の評議員を出して、整形外科の中央情勢を知りたいということでありました。幸にして、立候補した私が、辛うじて、当選し、14年7期（うち1回落選）評議員を勤めさせていただき皆様に、日整会の情報をお伝えしてまいりました。それまで、私ども開業医は日整会については、その事業内容、運営の方法など、全く分らず、雲の上の世界を見ているような感じでありました。

また、健康保険の審査員との関係を密にして、いろいろな情報を得たいと思っておりました。審査員と知り合うということだけでも当時は、大きな夢であり、2～3の審査員の先生に、講演をお願いして顔つなぎをするというような状態でありました。自分達の仲間から委員を出すというようなことは夢のまた夢でありました。

現在では 社会保健の審査員に、反田先生、久志本先生、労災の審査員に長田先生が、なっておられます。いろいろと新しい情報を提供していただいております、われわれ会員にとって、非常にプラスになっております。

四番目の夢は、税務対策です。会員の皆さんの納税額が、余りにも大きすぎて、なんとなく馬鹿らしいと、いう気持ちで、なにか、よい方法は、ないかと夢みておりましたが、これだけは、私どもの会では、如何ともしがたいことでした。

また、医事紛争対策は、余りにも 生ぐさい話で、夢の中には、出てこなかったものの一つですが、昭和60年3月より医事紛争専門の米田弁護士を顧問にお願いし、さらに木下先生が、現在、大阪府医師会の紛争処理委員になっておられます。この件に関しては、非常に心強いかぎりです。

次は、勉強会です。（年表参照）

小谷教授、島津教授をはじめ、助教授、講師の先生方それぞれ整形外科の専門分野についての話や、他の科の先生方の講演等、そして、健康保険審査員の酒井純義先生や、その他の審査員のお話を聞いて、私どもの明日からの診療に非常に役立つことが出来ました。

また一般教養として、柴田辰男先生のご努力により、巾広く、いろいろな講師を紹介していただき、とくに学者の村松剛先生に、再三に渡って、国際情勢（とくに中近東）について。人間国宝になられた文楽の竹本住太夫さんや、文士の石浜恒夫先生。政治家で、暫の社長、中田先生。落語家、浪曲師の春野百合子さん。など、その道の一流の人達の、その道での苦労話など、なかなか味のある深みのある話を、身近で、しかも差し向かいの感じで、お聞きして、またと得がたい経験をしたものと思います。

昭和61年6月より、勉強会をさらに充実させ、日医の生涯教育の一環として、中味の濃い専門的な勉強と教養的な勉強をしようということになり、懇話会を、年間3～4回開催して、面白い話を拝聴するようになりました。（資料5）この会に出席することによって私自身の視野が、かなり広がったと思います。講演の合間に食事をしながら、アットホームな雰囲気の中で、話が弾み、非常に楽しい集いになっておりました。

次の夢は、最も大切な、会員の親睦です。はじめての懇親旅行は、昭和54年、亡られた

小林愛次郎先生のお世話で、北九州唐津への一泊旅行でした。当時としては、珍しいイカの生き造り、川ガニの料理等を満喫して参りました。それに味をしめて、そのあと毎年いろんな所へ、ゴルフや観光に出かけましたが、とりわけ、昭和56年、第3回の熱海への旅行は、相当、派手に、芸者を10人ほどあげて遊んだことがあります。(資料6)翌日ゴルフ組が出払ったあと、観光組の私は、前日の深酒で、寝ておりましたら、AM8頃、若い女性が私の部屋にとびこんで参りまして「早く起きて下さい。遅いですよ」と、叩き起され、寝ぼけまなこで、女の子を見ましたが、何んのことか分かりませんで、そのままフラフラ起きて洗面して目が覚めた時、やっと前後の事情がわかりました。それは、前夜5～6人の先生方と芸者7～8人とで午前3時頃まで私の部屋で飲んでワイワイ云っていた時に、酔いも手伝って明日一緒に十国峠へ観光に行こうと云うような話になったようでした。それでその芸者さん達が、芸者姿から一転洋服姿で、サッソーと現われたということです。芸者をつれて、物見遊山をしたのは、後にも先にも、生れて、はじめて、私にとりまして、大きな思い出となりました。あとで一部の先生から、羽目を外しすぎると、キックお灸をすえられました。また62年の長崎旅行は、観光と、シーボルトの遺跡を追って、沢井康悦先生と少し心残りな、しかしすばらしい一日を過ごしました。その他恵那峡では、或先生の彼女のお守りしたり、宮崎では、それぞれホテルの部屋は、シングルで、思い思いゆっくり休めた？と云うような、振り返って見ますと非常に楽しい懇親旅行でありました。

ゴルフや観光に、最近は、味覚の探究と、いつの間にやら17年が、たってしまいました。この会も、年々盛会になって私が会長を退いたあと、松尾会長のご努力でさらに、大きく充実した会に発展しており、吉中、長田会長へとバトンが引き継がれ、若い先生方が、年々増加しているということは、非常に喜ばしいことです。この若い力をもって、他の大学に余り類を見ない、この市整会を、さらに大きく充実したものにしたいと思えます。

(文中の資料は、P.168～P.182参照して下さい。)



創立20周年行事に当って

松尾 澄正

大阪市大整形外科開業医会は昭和47年11月31名の発起人に依って企画されたものであります。数回の会合を行い、討議されたのち、昭和48年5月20日発会式が挙行されました。

学術、会員相互の親睦、相互援助の三つを柱として活動が始められたのですが、初代会長、伊藤成幸先生は17年の長きに亘り、輝しき業績を残された事は皆様既に御承知の事と存じます。

その名会長のあとを不肖私が二代目会長として引継いだ訳であります。引き受けた時には社会的基盤と学問的組織としての地位は確立されていました。私は既に敷かれたレールの上を走るだけになっていました。

25周年記念誌に何ぞ書けと云われ、馬令70才を数える身となり、脳細胞の破壊がひどくなった現在、以前の記憶をたよりに筆をとっておりますが、なかなか文章がまとまらず、駄文をつらねています。

先般の座談会の際、会長として苦労した事とは問われましたが、それは伊藤会長時代に勉強があまり好きでない私を学術担当に任命された事です。学術とは、整形外科専門の研究会はもとより、開業医として知っておいた方が良いと思われる専門外の学問も勉強しようとする事になりました。外科、皮膚科、形成外科、麻酔科等々です。更に医学とは直接関係はないが教養を高める為の講演会も行いました。当初研究会の出席者が少い事に頭を悩ました。然し私が引受けた頃には盛大になっていました。

村松 剛先生の世界観、奈良薬師寺の山田法胤さんの「佛教に於ける心の研究」、日高正法先生の「芸術と人間」「四柱推命」の話、「百人一首のなぞ」等は興味深く記憶に残っています。

この様に立派な組織を更に充実し発展させる為には私一人の力では何ともなし難い事があります。幸い前会長伊藤成幸先生をはじめ顧問の木下 孟先生や副会長諸先生方、更に名幹事吉川秀明先生の御支援により何とか職務を続ける事ができたと思っております。

色々と私を助けて頂いた先生方の事を思い出し、それを記する事に依り、御礼の意を表したいと思います。

学術面では、南平先生におまかせ、講師の選択、交渉、期日の設定まで一人でやって貰いました。中味の濃い、質、量ともに充実した研修会はその都度盛会に行なわれました。

相互援助の上田先生、長田先生は整形外科教室との連絡を密にし、教室員の派遣などに関して势力的に活動して頂きました。

定款、大阪市大整形外科開業医会の規則をよりやさしく、又活動が永続できる様にと、曲った事のきらいな宮内 貴先生の御苦勞に依り立派に改正されました。

整形外科教室と開業医間の連絡に便利な様にと、診療所マップを松井善邦先生に作って頂きました。

会員の年令別表および分布図は総務委員の石崎先生が発表されました。(資料3)

福利厚生委員の上田、黒田(晃)両先生は細かにアンケートを集計し、分析して、「うまいもんを食う会」「楽しい旅行」やらと大へん御苦勞をかけました。会員はもとより家族まで

その恩恵を受けました。熱海旅行が最大の思い出となりました。

対外的には、日整会の評議員として伊藤成幸先生が選出され、O C O Aの役員、理事等にも沢山の先生方が出ておられます。今や市整会の実力は外部にも認められる様になりました。また他にも多くの先生方に御支援を頂いておりますが思い出せず、誌上を持ってお礼を申し上げますと共に、失礼の段、平にお許し下さい。

私が会長として一番良い思い出として残っている事は何を云っても市整会20周年記念行事であります。ロイヤルホテルの最上階で、伊藤成幸先生の基調講演に始まり、式典は厳粛に終了しました。続いて祝宴が行なわれた訳ですが、その影の立役者、黒田晃司先生の御苦勞を忘れてはなりません。何回もロイヤルホテルに赴き、シェフとの交渉を重ねて、最高料理（資料9）を作る様にと、またその料理に合ったワインを出す様に有名なソムリエを指定されました。会員の先生方はタキシード姿、御婦人はイブニングドレスか和服の正装姿、はじめに鳳 蘭（資料10）のショーを聴き、次いでモーツァルトを聞きながらの会食であった。上田先生、長田先生の軽妙な司会に依り宴会はいやが上にも盛り上がりしました。

誠に残念な事は、その朝ギックリ腰を起された島津教授の御出席が得られなかった事です。その宴会の情景を詳しく写真を撮り数百枚のものを整理して、夫々の全員のアルバムを作ってもらいました。先生はもとより、奥様の御苦勞、御協力、大変だったと思います。

黒田先生のおかげで、家族写真入りアルバムと20周年記念アルバムの2冊を残す事ができました事は、私にとって最大の幸せであります。本当に有難うございました。

祝宴を少し派手にやり過ぎた為に会計の小松先生には後始末をして頂き大へん御迷惑をおかけしました。三代目の会長を吉中先生にお願いしましたが、先生は間もなく、市大整形外科同窓会の会長の要職に就かれましたので現在四代目の会長は長田明先生に引受けてもらいました。男前、頭脳明晰、決断力、判断力のすぐれた長田先生のリーダーシップに依り、この会はますます発展するものと信じます、会員の皆様の更なる御協力をお願いします。



市整会と私

吉中 正好

私と市整会との出会いは、大学在席中、「脊椎カリエスの最近の手術療法についてちょっと、話をせい」と言われてアベノの「一ツ谷」旅館？で20～30分間話させてもらったのがはじまりだと思います。14～5人の先生方がおられたのを覚えています。

それ以后開業してからは一応は会員に自動的になったようですが、一回も出席せずじまいで伊藤先生、松尾先生に会うたびに出席するようにいわれたのを記憶しております。

その内に二代目会長松尾先生より次の会長になるようにいわれ迷っていたのですが、丁度私の年代が市整会発足当時の先生方と若い先生方の中間になることから、お引受けすることになりましたのが平成5年3月頃だと思っています。

この当時は市整会も曲りがどに当り、少しづつ会としての整いも要求されるようになり、これまでのようにまあまあと言う雰囲気ではなくキッチリとした会の運営が要求されるようになってきたと肌で感じとっていました。市整会発足当時は伊藤初代会長、松尾二代目会長からよく聞いていましたが『開業するとなにか淋しくなり、色々な事を相談する機会もないとのことで、何人かの人が集まり、日頃の診療のこと、保険のこと等を気楽に話し合えることができたならなあ、と思っていることが集約されて会を結成しようじゃないか』となったと聞いています。

私が引き継いだ時は、会員数は、100人を越えており、いかにしたら多くの会員が会に出席していただけるかと考えました。また、いかにしたら大学及び関連病院との連絡がうまくいくようになるかと、心をくだき学位を授与される前の若い先生方に学位研究論文を市整会の研究会において発表してもらってはと考え実行に移しました。発表される若い先生にもよい刺激となり、市整会のメンバーにも新しい知識が吸収できよかったなあと思っています。長田会長の時代になっても続けてもらっているのを嬉しく思っています。また、開業しますと、何事についても相談する事が困難なため、本音で話し合える場というのが本当に必要です。このためには若い人がフランクに話せる雰囲気の会の育成（若市会）また、諸先輩の中には、各方面（地区医師会、大阪府医師会、保険審査員、紛争委員等）で活躍されている方が多くおられます。この人々を講師にお招きし、話してもらうことも考え実行いたしました。（木下、反田、鈴木、長田各先生方）

更に他方では、親睦を図るためゴルフ大会も計画し、楯先生の御尽力で年1回泉ヶ丘で7月に開催されるようになり、年々多くの人が参加され、平成8年度は30人近い先生方の参加をいただきました。

また、秋には一泊または家族連れのハイキングも杉本・南平先生のもとに計画され多くの人々の参加を得ています。このように会としての運営と同時に大学への協力としては、平成7年の骨折研究会援助 更に、マイクロサージャリー用の顕微鏡手術器の寄付と種々協力させていただきました。更に、市大整形外科教室開校50周年を平成10年に迎えるにあたっては、長田会長、小松副会長を中心とした現スタッフの多大の御尽力により、多額の寄付を頂けるよう御配慮をいただき心から感謝いたしております。

私は、現在は市大整形外科同窓会の理事長を務めさせていただいています。この立場から市整会の皆様（同時に市整会会員ですが）に役立つことがあれば何事によらず御相談下さいますようお願いいたします。

最後に 市整会の今後ますますの発展を祈念して筆を置きます。



市整会25周年の歩み（平成7年～）

長田 明

平成7年5月27日南海サウスタワーホテルでの市整会総会に於いて、第三代吉中会長よりバトンタッチをうけ市整会の舵取りをさせていただくことになりました。幸い小松先生がそのまま副会長として残ってくださることを快く承諾してくださいましたし、榎本、渡辺両先生が新しく副会長としてサポートしてくださることになりました。また 役員の先生方も殆どそのまま残ってくださることになり百万の味方を得た気分で市整会丸を出帆させることができました。

以下 順をおってこの二年間をふりかえってみたいと思います。

*平成7年5月27日 総会 於：南海サウスタワーホテル

1 日本の都市交通－鉄道趣味から都市交通問題へ

元住吉市民病院院長 山崎 匡二郎先生

総会にひきつづいて私達の教室の大先輩である山崎先生に講演していただきました。先生の若々しい気概にふれ我々も、もっともっと頑張らねばと心を引き締められるお話をお聞きしました。

*平成7年7月16日 市整会ゴルフコンペ（第3回）

泉ヶ丘カントリークラブ 参加者27名

優勝 小松 堅吾先生

*平成7年7月22日 研修会 於：三井アーバンホテル大阪ベイタワー

1 腰椎椎間板手術における神経周囲の電氣的凝固操作が神経に及ぼす影響

大阪市大整形外科助手 湊 康行先生

2 阪神大震災と活断層

大阪市大文学部教授 平野 昌繁先生

湊先生のお話をお聞きして 現在大学でやっておられる研究のほんの一端を覗かせて頂きたいへん勉強になりました。

*平成7年11月18日 研修会 於：ワシントンホテル

1 屋久島の森林と猿

京都大学霊長類研究所 東 しげる先生

*平成8年1月20日 新年会 於：全日空シェラトンホテル

1 世界の整形外科

市大整形外科教授 山野 慶樹先生

世界各地で先生が見開きしてこられた楽しいお話をお聞きしたあと、今年より渡辺副会長の発案でご夫人同伴の新年会を催しました。

*平成8年5月18日 総会 於：エコーホテル

- 1 ジャーナリストから見た現代の医療問題について
毎日新聞学芸部編集委員 黒田 耕太郎氏

*平成8年7月6日 研修会 於：ホテル阪神 クラブ「スターライト」

- 1 審査についての新しい動き、特に新指導大綱、監査要綱について
大阪府社保審査委員 紀野 正先生
- 2 松野 迅 バイオリンコンサート
ピアノ 樋口 博行

いつもは反田先生に審査についてそのポイントをご説明願うのですが、今回は保険医協会の紀野先生のお話をお聞きしました。第2部は「スターライト」を借り切って 新進気鋭の松野 迅先生のトークを交えてのコンサートを楽しみました。名器ストラデバリウスを使用してトロイメライ、ユーモレスク、ハンガリア舞曲など私達の耳になじんだ曲を演奏してくださいました。今回は家族会でしたのでご婦人方にも大いに満足していただけたようでした。

*平成8年7月28日 市整会ゴルフコンペ（第4回）

於：泉ヶ丘カントリークラブ 参加者31名
優勝 坂井 和夫先生（特別参加）

昨年につづいて今年も楯先生のお世話でゴルフコンペを楽しみました。特に昨今コンペは取りにくいというなか、ほんとうにありがとうございました。この場を借りてお礼申します。

*平成8年11月9日 研修会 於：三井アーバンホテル大阪ベイタワー

- 1 最近の人工股関節全置換術の動向について
大阪労災病院関節整形外科部長 鍵山 博士先生
- 2 下肢のスポーツ障害、外傷について～サッカーJリーグチームドクターの経験をふまえて～
済生会中津病院整形外科部長 北野 公造先生

今回の研修会は日整会にも申請をしてスポーツ単位を含めた2単位を認定していただきました。私達の教室の仲間2人を講師に迎えてアットホームな講演会を持つことができました。

*平成8年11月23日 秋のレクレーション 西の京への誘い

- 1 赤膚焼き窯元 古瀬窯の見学と絵付け
- 2 レストラン萬京にて創作懐石
- 3 薬師寺から唐招提寺へと散策

家族の方とともに晩秋の古都奈良を満喫しようという企画です。幸い晴天に恵まれ楽しい一日でした。

*平成9年1月25日 新年会 於：ウェスティンホテル

- 1 身体障害とスキー
大阪市大整形外科リハビリテーション部助教授 大久保 衛先生

2 ビデオ「雪に謳うー第15回インタースキー野沢温泉大会参加の記録」

3 奈良赤膚焼きでの皆さんの作品展示

平成8年からの新年会より夫人家族同伴で楽しもうと企画しております。大久保先生のお話をお聞きし、これに関するビデオを鑑賞して先生にその解説をしていただいたのですが皆様心より感銘を受けられたようでした。

*平成9年4月12日 総会 於：エコーホテル

1 骨代謝から見た骨粗鬆症の治療法

大阪市弘済院付属病院整形外科部長 佐藤 哲也先生

日整会教育研修会認定講演1単位を申請しました。日整会に申請するようになってから研修会の参加者が増えてきました。認定単位の必要でない先輩の先生方（六五会）も多数ご参加してくださいました。認定単位などに関係なく前向きに勉強しようという先輩諸先生方の姿勢には頭が下がります。これからもいろいろとご指導頂きたいと思います。

*平成9年6月28日 市整会25周年記念祝賀会 於：帝国ホテル大阪

参加者：107名（夫人44名）

2年余りにわたって準備を進めてきた祝賀会ですが、お陰を持ちまして無事終了することができました。お世話いただいた役員の先生方をはじめ会員の皆様方には心よりお礼申し上げます。

当日は整形外科学教室より島津名誉教授ご夫妻、山野教授ご夫妻、高見前医局長ご夫妻、油谷医局長ご夫妻にご臨席頂きました。お忙しいなかをお出かけ下さいましてありがとうございました。また、島津名誉教授より「竜のおとし子」と言う先生の著書を市整会会員に頂戴いたしましたことをご報告いたしますとともに会員を代表いたしまして先生に御礼を申し上げます。

記念式典（司会 渡辺先生）では松尾澄正市整会第2代会長に先生のこれまでの労をねぎらって感謝の証をお渡しいたしました。また、市整会の生みの親とも云うべき先生方やこれまでの研修会、講演会などでいろいろとご尽力いただいた先生方に感謝の意を込めて花束をお贈りいたしました。

記念祝宴とコンサート（司会 天野先生）では天野先生の軽快にしてたいへんソフトな司会のもとにホテルホットセクション古川料理長の味とソムリエが厳選したワインを楽しみつつデザートコースあたりから始まった奥田真祐美さんのシャンソンに耳を傾けました。奥田さんは皆様ご存じのように私達の教室の秘書として第2代故小谷教授、第3代島津教授時代に活躍しておられた方です。私などもずいぶんとお世話になりました。ある時期から再び歌の道に専念され、今やこの世界で大活躍の最中です。記念すべき25周年祝賀会にお招きできたことは大へん喜ばしいことだと思っております。今後ますますのご発展をお祈りする次第です。

当初、30人余で発足した当会も現在170余名の市整会として成長いたしました。そして記念すべき25周年を私の時に催すことができましたことは身に余る光栄であると感謝いたします。願わくば市整会が今後ますます大きく羽ばたいて行くことを願ってやみません。会員の皆様のご協力と一致団結した和を宜しくお願い申し上げます。



市整会旅行の思い出

上田 晏弘

1981年 伊藤会長、小林先生の、要請で、厚生福利委員を、引き受けてから、黒田先生に、引き継ぐ1987年迄、担当しておりました。当時は、小生も36才の若輩者で、髪も黒く、無理もきく元気な頃でした。会長の希望で、「会員の多くが、喜んで参加できる企画を、上田君のアイデアでよろしく」との事で、頑張った昔の旅の、エピソードを紹介したいと思います。

才一回熱海一泊旅行、少し横道に逸れますが、市整会の命名も、この旅が、発端でした。

申し込みの際、団体名記載が必要となり、市大整形外科を略して「市整会で、申し込みよろしいですか？」伊藤会長はじめ皆さんが、「それでよろしいがな」という事で、「市整会」という名が、生れたのです。そのまま今に継続されているのは、ご承知のとうりです。さて湯の街熱海への旅、約三十名の大所帯で、当時の先生方皆さん若くて、元気で、色気も充分。宴会も華やかに、粋な芸者衆呼んで、歌い飲み踊って、熱海の夜を、多いに満喫したものです。小生の記憶では、「市整会」最大の、宴だったなあとと思っています。翌朝ゴルフ組は、四組でプレイ。

観光組は、いつの間にか粋な、姉さん方も同伴になっていて、「こんなん初めてや」と鼻の下を長くして楽しい一日を過ごされたらしく、帰りの車中嬉しそうに話されたお顔が、今でも目に浮かびます。まさしく豪遊で、ありました。後々までも、思い出話に、花が咲いたものでした。一部の先生からご批判をいただきました事も、今思えば、良き思い出です。

参加者が、一番少なかった浜松への旅のこと、幹事も少し図に乗ったか、またまた熱海の夜の雰囲気、企画し、浜松ロイヤルホテル、シングル二十五室を、予約。浜松カントリークラブ四組を予約。ところが、伊藤先生、木下先生、妻鹿先生、広谷先生、と私のわずか五名の参加者しかなく「中止にしましょか」「いや折角企画したのだから、予定通り行きましょう」と会長のひと声で、浜松へ。ホテルの一室で、炬燵を囲み、函館大火災を、経験した、三味線のうまい 年増芸者相手に、しつとりと、盃を酌交し、いい気分で、浜松の夜の街へと繰り出しました。タクシーの運転手さんの案内で、国鉄浜松駅近くに、少しさびれた処でしたが、ハワイアンのが、上手な、マスターが、いるという触込で、あまり期待もせず行ったのです。先ず店で、一人ずつ得意ののどを、聞かせ、カラオケも、満喫したところで、マスター登場、ウクレレ片手に「憧れのハワイ行路」を、聞いて、あまりの上手さに一同びっくり。アンコールして、またまたびっくり、ハワイアンで有名な、あのバッキー白片本人だったのです。何曲も聴かせてもらい大いにチップをはずみ、皆、興奮醒めやらずの旅の夜でした。

思い出は、つきませぬが、それなりに、色々と、イベントを、企画し、それなりの、成果は、あったと思います。元幹事のボヤキになりますが、私共は、開業医という特殊性一人一人が一城の主で、時間的、物理的制約が、ある中で、アクシデントが起きると、全てを、ぶっつけていかななくてはならない宿命にあり、様々な、条件を、満たしながらの、スケジュール作成、宿泊予約等々なかなか大変なことです。会員の意識と努力が、イベントの成功に必要と、痛感致しております。

時代も変わり、スマートな若い先生方の、素晴らしい感覚で、これからも、良い企画を、心待ちに、しております。



「市整会草創のとき」 —そして25周年—座談会

宮内 貴

出席者（敬称略）（年度順）

有馬英之、松尾澄正、和田 忍、吉田 洋、宮内 貴、石崎嘉昭
小松堅吾、長田 明、吉川秀明、黒田晃司、南平克積の各先生

上記の先生方の出席を得まして、平成8年10月5日座談会形式で昔のことなどを思い出して戴きましたが、確かな記録がありませんので一部不確実なところもあるかと存じますがご容赦下さいますよう。なお、当時の中心的役割を果たして下さった伊藤・広谷・柴田・松井先生方など多数の方が、御都合で出席を得られませんでしたのが残念でした。

本日は御多忙のところ、御出席下さいましてありがとうございます。座談会の「言い出しっぺ」でもありますので司会役をさせて戴きます。

先ず、市整会の昔「開業医会」の「生いたち」から振り返って戴き、更に今後への希望などをお聞かせ戴いたらと思います

先ず「生いたち」から口火を切らせて戴きます。

宮内；昭和44～5年頃から「春帆」と言う寿司屋がありまして、そこでなんとなく飲んだり、食べたりしながら、節税の話、保険の請求、薬を如何に安く買うかという話等々、いわゆる開業術の研究などをして2～3年が過ぎました。私達2～3人（松井、吉田（洋）、宮内）の知恵では、ぱっとしませんので、私達よりも先に開業されている先輩の大村・広谷・安積・有馬（英）・松尾・和田先生方を引きずり込んで、先輩達の開業術の良いところを盗みとって、自分等の糧にしようと言う大それた事をたくらんでお誘いしたというか、一緒に集まってもらって、お互いの親睦と情報交換などして「たくさん集まればこわくない」式で、この集団をつくったと言うのが、事の始まりだったろうと思っています。

和田；どんどん開業してくる人が増えてきて、開業する人を組織化して、いざという時に大学に充分面倒みてもらえる組織を作らなければいけないという事を、言い出したのは私であり、その時、宮内先生と松井先生に何処か料理屋に集まってもらって話し合った。2～3回会ってそのうちに、僕は忙しくて、忙しくて、いわゆる“門前市をなすごとく”の感じで、後は両先生に組織化をお願いした。開業で町に出て、一番不安なのはバックアップのない事、だからそういう組織を作って、いざという時には大学に助けてもらうというような感覚で初め作り出した。

この会の出来たのは、宮内先生と松井先生の努力のたまものだけれど、さて、その組織が出来て25年経ったけれど、今になって考えてみるとあまり助けてもらった事はなかった。

そういう話があって、宮内先生と松井先生に頼んではじまったのがこの会の初めだと思う。

宮内；たくさんの先輩方からいろんなことを教わったけれども、今、和田先生がおっしゃるように大学の教室とか関連病院は、われわれ開業医は相手にしてくれない。何とか認めてほしいという気持ちで、個人個人が「もの」を言っても力が弱いから“一国一城の主”

ではあるけれども、これをひとまとめにして大学なり、あるいは関連病院に「もの」を言える様な組織を作ったらどうかというのが始まりかと思います。今、和田先生がおっしゃった様に、患者を紹介しても素っ気ないし、返事ももらえないし、軽くあしらわれていた。当時の風潮として開業医と言うのは、疎外感を持たれて実に軽々に扱われていたので、「何とかできないか」というのが事の始まりで、皆が力を合わせれば何とかなるのではないかという事で「何かやろう！」何かやるには『数だ、金だ』。開業医の数がその頃30人近くになっていたので、一つの会が出来るとであろうということが、事の始まりではなかったかと思ひ出しているところです。

吉田；割に、綺麗な言葉を使っているけれどね、実際はもっと「もの」が言える会にするために、金を集めようという事になった訳でしょう。同窓会というものがあるのに、同窓会とは別個に開業医会を作る本来の目的は、金を集めて医局のバックアップをしよう、そのかわり見返りとして、手伝い、援助を医局からして欲しいというのが根本だったと思う。

松尾；教室に対して実力を持とうじゃないかというのは、だいぶん後からだと思う。最初は、協同の利益を守る為にはどういうふうにすれば良いかと言う、もう少し血生臭いものだった。開業した我々が生きていく為に、お互いに情報を交換していこうとしていたが、駄目だったので、先程言った方向に発展して行った。

吉田；その直後でしたか、学会のお金を集めたのが1回目では？

宮内；それはずっと後だと思います。

我々開業しているものが、教室に「もの」を申すには学問では太刀打ち出来ない。「教室」に「もの」を申すには金しかない。これが金集めの始まりで。昭和47年11月26日開業医会発足準備委員会を作った。名前を連ねている先生方が31名（別表①）。会の大義名分、その目的、方向づけなどを盛り込んだ定款を作ったり、そして入会を勧誘したりと、その下拵えに苦労しました。そしていよいよ、昭和48年5月20日大成閣で発会式をした。その時に定款も承認してもらい、会長に伊藤先生を選出、副会長が大村・有馬英之・松尾の各先生方3人のもとに各理事を決め、とにかく会員を増やそうという事になった。その当時一番困ったのは、入会してもらえるかどうかという事でした。当時「メリット」とか「デメリット」という言葉が流行していた。「入会したら会費を取られる。会費を払ってまで、その会に入るメリットがどこにあるのか？」というのが、まず第一の難関だったと思います。伊藤先生・松井先生がいらしたら、ここらがもっと詳しく判るのですが、今日欠席で残念です。

別表①

上田寿夫、笠井 選、広谷 巖、海原正治、伊藤成幸、大村清一、安積和夫、杉田道治、松尾澄正、有馬英之、和田 忍、牧野光夫、岩津 昭、木股泰時、林 敏夫、吉田正和、小林愛次郎、小寺太平、妻鹿利和、宮内 貴、吉田 洋、松井善邦、竹村 永、反田英之、福西 修、上原昭夫、小田淑郎、梅原 薫、



小松；「メリット」「デメリット」論議は25年たった今でも変わらないですね。

松尾；入会してもらおう為の“メリット” “デメリット”という事と、開業医会の役員だけが大学から良い目しようとしているんじゃないかというドギツイ批判というか発言があった

様にも思います。「どうしてこういう会を作るのか？」というのを説明するのが、一番難しかった。

和田；しかし、あの時割に皆集まったよね。やっぱり皆、必要性を感じていたんじゃないですか？この組織は宮内先生、松井先生が作った様なものだ。

宮内；一番最初に作った定款がありますが（別表②）、その目的と言うのは、開業医の質的向上、発展や開業医の使命遂行という言葉と並べているんですが、結局は会員相互の協調を目的とするという「親睦団体」です。事業として医業の運営及び合理化を促進し、医療保険や税制の研究、あるいは「学術研究会」の開催、大学教室との交流等を定款の中でうたっているのですが、これらを実行する為に、伊藤会長も大奮闘して下さって色々な事業が毎年行なわれる様になって、親睦を目的として観光とゴルフというのが、当時の主な事業であった（別表③）。

別表②

第2章 目的および事業

第3条 この会は大阪市立大学整形外科教室との連携を保ち、本会員の資質向上を図り、会員相互の協調と親睦扶助を推進することを目的とし、次の事業を行う。

- (1) 学術研究会の開催に関する事項
- (2) 市大整形外科教室との学術交流および相互援助に関する事項
- (3) 医療制度、医療保険、税制、医療紛争等に関する事項
- (4) 会員相互の親睦促進に関する事項
- (5) 開業せんとする同窓生への相談および援助に関する事項
- (6) 関係機関、団体との連絡調整に関する事項
- (7) その他この会の目的達成に必要な事項

別表③

観光とゴルフ旅行

昭和54年	唐津	59年	浜松	平成元年	滋賀（招福楼）	4年
55年	片山津	60年	恵那峡	2年	花博会場政府苑	5年
56年	熱海	61年	宮崎	3年	「暫」にて	6年
57年	温田温泉	62年	長崎		落語の会	7年
58年	山中温泉	63年	神戸（群愛飯店）		（桂 文福）	8年 中止

更に一般教養の向上をということで、主に柴田先生が中心になってお骨折り下さって、総会の時に毎年、各界の人達を講師（別表④）として話を聞いている。こういう過程を歩いてきました。教室との連携を保つ、あるいは関連病院との関係をどうするかという意志の疎通を持ちたいというか、密接な関係を持ちたいという事で、伊藤先生の言葉を借りればギブ アンド テイク の精神でいこう。それではどうすれば良いか？当初は教室からの希望で本を寄贈するため何十万円出すとか、「サウンドスライド」を第1～35まで合計120万円寄贈するという具合でした。

そうしている間に、段々と医局との関係がうまく行くようになってきた。それから相互援助委員会というのが出来たりしました。これは一番最初は長田先生が窓口になって下さったのでしたかね？

別表④

総会講師

昭和54年	落語家	平成元年	村松 剛
55年	村松 剛	2年	山崎 道治
58年	森 恕	4年	村松 剛
59年	竹本 住太夫		
60年	村松 剛		
61年	石浜 恒夫		
62年	中田 昌秀		
63年	松添 壯		

長田；これは最初、上田先生が窓口になっておられたが、現実問題として大学側の対応がイマイチという感じで、例えば馬場先生や藤縄先生が倒れたときも応援はしてくれたのですが、個人的な付き合いの中での応援という形になったように思う。

小松；藤縄先生が入院の時は、僕が委員会の下請けの格好で医局と交渉した。楠先生が医局長で、何曜日に誰が出てくれるという事など、かなりの期間協力してくれました。医局から2～3人出してくれました。

松尾；昭和58年に急性肝炎で入院して1年間休んだ時、半年間交代で来てもらった。

吉田；僕も直腸癌の手術をした時は、約2カ月間休業しました。その時も楠先生が医局長で、お願いして随分、助けていただきました。メンバーが巡ぐりに来てもらったが、手の外科グループに楠先生が個人的に頼んできたらしい。一応事前に教授にお願いし、その場で楠先生にお話して頂きました。

宮内；石浜信太郎先生のところも、このシステムで助けてもらいました。

吉田；まあまあ、ちゃんと出来ている場合も、そうでない場合もあったのかもしれない。大なり小なり一応お世話になっています。

《有馬先生・石崎先生 登場》

石崎；僕も胃潰瘍の治療のとき休ませてもらって、医局というより個人的に3人程の先生方に来てもらっていた。

宮内；医局長がくるくる替わるからパイプがきれるんですかね。

有馬；パイプは引き継ぐはずだったでしょう？

宮内；ところが、そんなにうまくいかないんですよ。今は無しという事ではなくて、頼めば何とかしてくれるんですか？これは一番大事なことです…

定期的に会合か何かするような事は？それは今はもう無いのですかね。

長田会長いかがですか？

長田；特に何も無いです。

和田；僕、今医局にいる人と時々会う事があるんだけど、お金の事も含め開業医会との ギブ アンド テイクだけれども、ギブが流行っているが、もう少し医局の方も考えたらどうだと個人的に言っている。彼も言っていたのは、同窓の先輩から入院



の依頼があっても優先出来ない。サービスが出来ないのか、していないのか、実際は出来ていないと言っていた。早く入院でも言って欲しかったみたいだが、端的に言うなら教授にでも紹介してもらえば早くしやすい。下の先生に紹介してもらっても、順番を変えたりする事は難しい。整形外科もプロフェッサーの枠を持っている。だから少しは融通が効く。
黒田；そうみたいです。教授に頸椎症の患者のOPをお願いしたら、もちろん3カ月くらいかかりましたが、入院してOPしてくれました。

長田；入院してちゃんとしてくれるけれども、思っているよりもうんと待たされる。

和田；一昨年位に言った事があるが、そりゃひどいでー。首の患者がいてOPLLと頸部挫傷による四肢麻痺の患者を、何とかしてくれと教授に頼んだ。病室係にもう一回頼んだら、患者を連れて来いと言った。診察にと。起立歩行困難な患者を当院の救急車で連れて行って、診察券・カルテを作って又連れて帰った。それから3カ月待たされた。教授に何回も電話した。そうしたら“和田よ俺は定年間際だから言うこと聞かないんだ”と。だから私はこの市整会に入って何のメリットも無かった。島津先生が教授であっても。

宮内；この種の話は尽きませんが大事なことで、今後善処して欲しいと思います。次に、会の事業の一つとして、各診療所の所在地の地図帳を作って、医局・外来に置いてもらって、患者の紹介をしてもらおうということをやりを始めた。又、医事紛争が多発しはじめたので、昭和60年3月より、この会に顧問弁護士（米田先生）をお願いして対処することになりました。また、61年5月からは、広報の一つとして開業医会報を年2～3回発行。61年頃から、整形外科の専門的分野、或いはその周辺の学問、或いは著名な人達の話を書いて教養も広めようと年2～3回の勉強会も始まった。学会をするので金を集めてくれというのは、何年頃だったんでしょうか？

有馬；一時は教室の事務員（教授秘書）を一人、開業医会から出す時代もあった。うちも健康保険が要ったからね。そのときは市大では社会保険に入れないから、うちの事務員として社保・厚生年金はうちで負担していた。

長田；それは、松井先生もしてらしたね。秘書の健康保険証を作って自分のところの従業員ということにしてもらった。

宮内；ちょっと話は前後するんですけど、先程言いました会が発足した当時は、会員を勧誘するのに難儀したという話をしましたが。石崎先生は誰に勧誘されましたか？

石崎；誰に勧誘されたのか判りませんが、理事になれと言われたのは吉田正和先生。

宮内；会に入るのに何を感じて、入会されたのですか？

石崎；何を感じてっていうか、奈良県で開業しているのは、当時僕一人だったんです。市大のそういう会があれば僕も心強いですしね。開業のニュースも判らないから、だったら入ってもらおうかなと思った。

宮内；小松先生は誰に誘われましたか？

小松；僕は、松井先生だったですね。電話で誘われました。開業したら孤独で疎外感がありますよね。それで、情報交換と親睦だけが目的でした。先程言われた様にお金を集めて、医局をバックアップしようという話は全然無かった。その精神は今も変わりません。

宮内；長田先生はどうでしょう。

長田；勤務医時代、松井先生の所にずっとバイトに行っていたんです。だから、松井先生にはお世話になりましたし、開業する時にも随分面倒見てもらった。開業したとたんに「お前今迄勤務医でいたが、開業したらこういう会があるから出て



来い。」と言われて、訳がわからぬまま入会した。何という事なく入ったら突然世話もしなければいけないという事で、今から思えば理事のことなんでしょうね。「出て来い」ということでミナミの料理屋の二階で、あの時確か5～6人だったと思いますが、反田先生が一生懸命、総務みたいな事をしておられた。そしたら、反田先生に「今迄、僕がしてきた事は後は君がしてくれ」と言われて、さっぱりわからないまま引き継ぎさせて頂いたという記憶があります。僕は松井先生なんです。

吉川；僕も松井先生なんです。松井先生にうちにずっと来てもらっていて、その後柴田先生にしばらく来てもらっていました。松井先生が会に入ったら大学から人を頼めるよと言うので入った。この会で色々大学から誰か来てもらえないかと言ったら、ギブ アンド テイクでまずギブが先だとえらく叱られた。

宮内；テイクはありましたか？

吉川；別にテイクは、ありません。そのうちに誰か、来てもらえるようになるかと思っていましたが、誰に頼んだらいいのかもわからず、ずるずると来て、未だに誰も来てもらっていません。

宮内；現在の泥沼に足を突っ込んだわけですね。

黒田；私は松井先生に開業する時に随分とお世話になりまして、「お前も来いよ」と誘って頂きましたけれど、開業した時にちょうど例の熱海の親睦旅行に参加しました。

宮内；例のどんちゃん騒ぎしたときだったんですね

黒田；その後、しばらく4～5年開業時の忙しさのために、御無沙汰しまして、落ち着いた頃から来させて頂く様になりました。

宮内；入るのいやだったですか？

黒田；いやいや、大学やめたら、もう一人になりますのでね。そういう会があるという事は、非常に心強かったんです。

南平；昭和57年開業しましたんで、もうその頃は形がだいぶ整っていた。伊藤先生の方から声を掛けて頂いて、石崎先生にも声を掛けて頂いて、黒田先生が近い存在で、声を掛けてくれてすんなりと入った。何も抵抗ありませんでした。

宮内；昭和58年に同窓会が奨学基金をつくるということで、私はそちらの仕事を主として、やることになりました。当時は、開業医会の先生方が非常に快く、しかも高額の拠出金を出して頂いて、全奨学基金の2／3を開業医会員の先生方が出して戴いたために、今日奨学基金が存在する。という経過があり、この頃から大学の医局にも、或いは同窓会にも、開業医会というものの存在価値というか、顔というか、大きなウエイトをしめてきたような気がします。まゝ開業医会が市民権を得たようなものですね。先程、和田先生がおっしゃった様に、医局との水の通りが良くなったような、関係がうまくいく時代になったと思います。松尾先生が、平成元年会長を引き受けられた。伊藤先生が17年間会長をされて、二代目の会長を松尾先生が、平成元年からされている。

松尾；その頃から任期を2年にしようという事になって、1期だけなら引き受けましょうと言って引き受けたが、確か2年より少し延びまして5年間しました。次の引き受け手がなくてね。吉中先生を口説いて会長をして頂いたけれど、吉中先生は本当は、木下先生が狙っていた。これは同窓会の会長にしようと、そのため吉中先生は短かったでしょう。

宮内；何に一番苦労されましたか？

松尾；初代会長、伊藤先生の17年間に亘る輝かしい業績を残して頂き、その後を引き継いで二代目会長をお受けした訳ですから、組織・基盤ともに確立されたレールの上を走るだけでした。有馬・宮内・林先生の三副会長、学術面では南平先生、行事や催事には柴田・黒

田先生、会計 小松先生、庶務 吉川先生、渉外関係は長田先生、その他まだ思い出せない先生もおられるかと存じますが、沢山の先生方に助けて頂いたおかげで、無事任期を全うする事ができたと思っています。感が鈍いせいか特に苦勞した思いはありません。

黒田；定款を新しく作った時ですね。

松尾；宮内先生と二人で定款を変えたのはいつでしたかね。

宮内；定款の話ですけれども、先程話しました第1回の時に作った定款が年が経ったし、色々な先生方、例えば特別会員の先生たちも入りたいという希望者が出て来て、この定款では具合が悪いと事になって、一部手直ししているんです。途中でそれからもう一度作れという事で、今の定款は3回目です。松尾先生が会長の時に、松井・長田・黒田先生など出てもらって出来た。その当時、開業医会という名前がそぐわない、或いはおかしい、どうもヘンテコだという事で、何か良い名前はなかろうかという事で名前をアンケートをとって、当選した人には賞金を出せと言って、結局誰ももらわずじまいでしたが…

長田；私の記憶では、開業医会という名前を、総会とか役員会をする時に、開業医会とパッと書いたら、何か開業医が集まって、また金儲けの相談でもしているんじゃないかと、世間に思われるのが具合が悪いので、何か愛称を決めたらどうだということだったと思います。

宮内；あれを言い出したのは当時福利厚生担当をしていた上田先生。ゴルフへ行く時などに観光地に又、医者がゴルフをしに来てるんだと思われたくないからと言い出した。

長田；ただ当時、市整会という名前が出た時にね、当時市整会というのは、市立大学で医学部があるのは全国で3つなんですよ。横浜・名古屋・大阪なんです。他に市立大学で医学部はないんです。そこで市整会というと、何処か判らなくなるんじゃないかという意見が出て、横浜は市整会とは言わないそうだけど、名古屋の同門会は市整会というらしいんです。それでね、市整会という名前を躊躇したんです。しかし、結局名古屋と大阪は離れているからいいだろうという事になった。

黒田；この時、整形外科の開業医会というのが全国である所が非常に少ないとい事を誰かが言っていましたね。

長田；無いんじゃないですか？

黒田；阪大の整形外科の先生に聞いたら阪大には無いということでした。

長田；何処にも無いよ、こんな会はね。あるのはいわゆる同門会でしょ。名古屋の市整会も同門会だと思いますよ。阪大の阪整会のように、市整会というのは市大の同門会の様な在り方が本来的なのかもしれませんね。京大は京整会というけど、あれは開業医会？あれは同窓会になるの？

黒田；OB会みたいなものでしょう。

宮内；松尾先生が会長を引き受けて下さったその年か次の年に、丁度20年経過しました。そこで20周年記念パーティーをやったんです。ロイヤルホテルで。

松尾；その時の市整会の基金といいますかね、たくさんありましたね。

宮内；教室の40周年記念事業のために、たくさん集め過ぎたというか、大金を拠出して戴いたわけです。その残りを市整会の財産として、持っておこうということで貯めておいた。またいつか教室から金を出してくれと言われるかも知れない。その度に集金するのは、担当理事が苦勞するから貯めておこうとしたものです。その貯金を20周年記念パーティーの飲み食いに使うのはどうかという話になって。

小松；教室の40周年記念事業でしたね。その時に1000万円ちょっと集まって200万円余使った。800万円残り、その800万円の中の400万円位を、うちの市整会の20周年事業に使って、残し

てある金を医局が欲しいと言って、出したからね。市整会の20周年事業には、その中の3～400万円位しか使っていないですよ。

吉川；今、200万円余り残っています。去年マイクロサージャリー用の顕微鏡を買うというんで、300万円出した。それで、私が会計を引き継いだ時には500万円位あった。

黒田；結局使ったのは200万円位ですよ。400万円喰いこんだんですよ。でも宮内先生に随分おこられまして、最後にアルバムを作って皆様に買って戴きまして、それで200万円程お金が集まりました。400万円喰いこんだ内200万円は、そのアルバムで返したことになります。200万円程は宮内先生がおっしゃる通り、市整会のパーティーで使いました。

宮内；その時の会長が松尾先生ですね。

松尾；私が一番良い目をさせてもらっていますね。せっかくするなら、ちょっと変わった事をしようと、オーストラリアに行ったんですよ。ライオンズの世界大会に出席したとき、大学の学生達がタキシードを着て、シドニーのホテルで卒業記念パーティーをしていた。これは良いなぁと思い、20周年という一つの区切りであるから、皆タキシードを着て、奥様はドレスか和服を着て、盛大にやろうと企画をただけでして、実際にやってみると、柴田先生と黒田先生御夫婦も、色々な事を企画して頂いた。一度料理を5万円出して、シェフにたのんでモーツアルトの時代のメニューそのまま作ってもらって、その料理を試食に行って、これなら良いと実際に当日に出した。だから一番良い目をさせてもらったのは私ですね。その時にだいぶお金が喰い込んだと思うんです。これを何かしようというので、黒田先生が随分協力して下さいったと思うんです。後で10万円ずつ出して、穴埋めしようとした事を書いていますね。



小松；「鳳 蘭」200万円という事ですが、ついてくるスタッフの宿泊代から交通費から、ありとあらゆるもの、楽器のリース、車代などで300万円越えてましたね。後で聞いたらそれ位の感覚でないと「鳳 蘭」など呼べない。プロダクションは所詮そんな感覚だと。

松尾；本当はね、300万円だと言っていた。柴田先生に随分と値切ってもらって200万円で本当に来てもらえるのかなという話だった。ただ、付き人のアゴアシを考えていなかった。後から聞くと奥様方の評価が良かった。毎年して欲しいと言われた。ただ残念な事は、その朝、島津先生がギックリ腰になって動けないという事で、出席頂けなかったという事が、非常に残念です。その後はちょっとお金を使い過ぎましたけれども、黒田先生御夫婦には色々とお世話になったんです。プロとセミプロに撮ってもらった写真をいちいち編集してもらったんですが、それは大変だったと思います。良い記念になったと思います。だから、私の場合は苦勞していないんです。各分担して頂いた理事の先生が助けて下さったので、本当に良い目だけさせて頂いたという印象ですね。学術面では南平先生が、高度というか、いわゆる医学と医学以外も含めて、質量ともに充実した研究会を企画し実行して頂きました。

宮内；伊藤先生が欠席なんです、伊藤先生も長年会長を勤めて下さって、最初の頃から色々苦勞されて来られたんですが、紙上参加として原稿を書いて頂こうと思っています。松尾先生のお話は先程お聞きしました。それからだいぶ若返って、吉中会長が誕生しました。吉中先生も今日は医師会の用事で来られないという事で、紙上参加で原稿を書いて頂こうと思っているんです。この頃から、世代がうんと若返りまして、次に長田先生という事になる訳ですが、長田先生、何かちょっと前後の感想を聞いた上、市整会に対する希

望・要望・教室に対する希望などを聞かせて下さい。

長田；吉中先生がずっとやって頂けるものと思っていたんですよ。そしたら、木下先生に呼ばれて「宮内先生の後の奨学基金が小松先生だと。市整会は君だ。そして、同窓会の方は吉中先生」と。木下先生の命令というか、言われたら「イヤだ」とは言えない。一つの大きな存在ですね、あの人の言葉は。私はあの時に、そんな事をする気持ちも無いと随分お断りしたんですけれども、結局これは“天の声”だという感じでお引き受けさせて頂きました。その後、小松先生・榎本先生・渡辺先生に、助けて頂きましてやらせて頂いています。本当にこれで良いのかなと思っています。ただ、役員とかが若返ったという事で、吉中先生の頃からボツボツそうになってきたんですが、古い先生達の御出席が少なくなってきて非常に淋しく思っています。もっと役員会などに出てきていただき、もっと高所から忌憚の無い御意見を頂きたいというのが希望です。

宮内；今、ちょっと古い先生方という話が出ましたけれど、去年から木下先生の提案で、「6・5の会」というのをやれということで、去年第1回をやり、今年も又するつもりなんですけれども、「6・5」というのは65歳以上、まゝ老人会ですね。市整会も年寄りと、若い人との間に大分年齢差が出来て、若い人達が年寄りと飲み食い出来るかという気分になっているのかもしれないという意味から、年寄りは年寄りで酒を飲もうかという事で「6・5の会」というのを、昨年よりやっています。老人会にもふるって御参加下さい。次に、今後の市整会に対する要望と言いますか。希望というか、どうあるべきかという事を松尾先生から…

松尾；最近ボケてきましてね、70歳になったら役員から除外してもらいたい。新しく開業した人と我々とは、大変年齢の差があるから、総会をしても若い人というのはなじみが少ないのか、忙しい為か、年齢の差が多いから出たくないのか、判りませんけれども、年に1度の総会には皆さん一緒に出て来て頂きたい。

有馬；そんなに希望というのは無いんですけれど、私もこの前、市大に新館が出来たから一回ちょっと入院してみようかと思って、胆石があったので腹腔鏡手術というのは珍しいし、一回受けてみようかと入院したんです。集中治療室などもその時に見に行ったり、色々と市大の新しい所も見せてもらった。昔と違って全部コンピューターですし、外来のシステム・手術・検査室・X線・MRI等の新しい設備・新しい麻酔・外科手術の実際を見学しました。第1外科・脳外科にはいつも患者さんを紹介したり、電話したりで密接だが、整形外科との間がだんだん疎遠になっている。私も以前はクリニカルカンファレンスなどに顔を出して、症例などを検討していたが、この頃は滅多に行かなくなり、特別な症例を入院させたいと思う時だけ行く。症例に応じて各専門医に依頼する。うまく教授が引き受けてくれるとスムーズに入院させる事が出来る。やはり、多少、教室との関連を密接にして欲しいと思う。今迄は市整会の担当理事と市大の医局、医局長と担当の係りとの間で定期的に年2～3回の会合をする事になっていたが、今は途絶えているという話ですので、そういう事も是非やって欲しい。その時に開業医の新しい先生方や皆さんの意見を吸収して、向こうに伝達もして教室と市整会との関係を密接になるようにして欲しい。個人的には何かあったら直接行って頼んでいる。

和田；二年程前に、島津先生の所にRAで環椎脱臼で固定しないといけない患者を頼んだが、半年待たされた。指の切断が年に1～2例あるが、絶対とってもらった事がない。現在はもう全部関西医大の救急センターに頼んでいる。市整会は、私の希望する事は一つも出来なかった。残念です。大学の新病院建設にも500万円出した。医局には何かにつけていつも取られっぱなしの感が強い。その意味では市整会は、失敗だったかもしれない。原点にも

どって、大学医局がちゃんと面倒みってくれる市整会なら、皆よろこんで集まってくるはずだ。開業した教室員の面倒をみるのが医局のつとめでもあるはずなのに、せっせと市整会に貢がせて面倒みない医局ってあるだろうか。

吉田；患者を市大に紹介した事が最近ほとんど無い。さしあたって一番困っているのは、エキスパートのメンバーがいなくなったようで、患者が来ても、誰に紹介して良いか判らないので、他の病院に紹介する事が多い。たまたま、市大に紹介しても返事が無い。

石崎；医局に対しての要望として、私は奈良県で開業しているため、どうしても奈良県の基幹病院に紹介する事が多く大学に紹介する機会が少ない。その意味では余りメリットを受けることはないが、これまで一人前に育てていただいたことに感謝する気持ちで医局にささやかな協力をしてきました。現状の医局との関係では男女の関係の様に、一方が熱い思いを抱いているのに、相手にこちらの想いが伝わらず、すげなくされて、むなしく感じている状態かと思います。こうした我々の想いを現医局のスタッフに伝えて頂いて、この会のメンバーが紹介しやすい様な、又紹介してよかったと思えるようなシステムを作っていただきたい。この会に対する要望として、本会の行事に対する出席率、会から医局の学会運営に対する協力（寄付のお願い）などにたいするメンバーの態度等から考えて、多くの人がいろんな意見や考え方を持っておられることが想像出来る。個人個人の医局との関わり方の差や年代の違いや、その他諸々の因子が根底にあると思うが、その差違を乗り越えて常々思っているのは本音で話の出来る場としてこれまでも又これからも一層大切にしていきたいと考えています。長田先生や執行部の方には会員の最大公約数が何処にあるのかお考えいただき今後ともよろしくリードしてください。

長田；大学は紹介患者はいらないという事は絶対に無いんだと思う。紹介患者がどれだけあるかという事で、病院のランクが決まる。山野教授が紹介患者が少ないんで恥ずかしいと言っていた。こちらが紹介しても、うまく受けてくれないなら、もっと大学とコミュニケーションを取るべきだと思う。年に何回か医局長レベルの人と話し合いする事が必要だと思うので、今後その方向で検討してみましょう。大学の診療しているスタッフ全員にそういう意識を持ってもらわないとだめだと思います。大学とコミュニケーションを取るのはどうしていけばよいかがこれからの課題だと思う。市整会の若い先生の意識調査も大切だと思われるが、これはどうすれば良いか、何か良い案があれば教えて欲しいと思います。

宮内；今、先生のおっしゃった悩みというのは、第1回の伊藤会長の時の会員を増やす為の勧誘の時と同じ苦労なんです。市整会の存在価値を問われている時代なのかも判らないですね。メリット・デメリットという所に問題がある。

小松；市整会の問題点は今、長田先生と宮内先生が指摘された通りです。この会の重要な目的に情報交換と保険診療の研修がありますね。保険診療について言えば、反田先生と鈴木先生などは特に教室出身者ということで、会員が皆、お世話になっておりますよ。審査上カバー仕切れないケースもあるとはいえ、特に注目してくれていることは確かです。鈴木先生も70歳までは現在の審査委員を務めるため、皆さんのお役に立ちたいと言ってくれました。あまり前面に出したくないメリットだけど、本会会員であることの大きなメリットと考えられますね。他に教室をバックアップする件では、何度協力金などのお願いをしてきましたが、これは強制とか割り当てでなく、あくまでも会員の先生方へのお願いなんです。しかし、これも程度の問題で回数とか金額が多すぎると反発も強くなるのが心配です。

吉川；大学から昼の診察だけでも来て欲しいと思って入会した。医局にお願いしたら、先生の所は遠いから家を9時に出て40分かかるから、診療時間を9時40分からにしてもらいたいと言われた。早く出れば良いのに大学に行く時と同じ時間に家を出るという考えがおか

しいので、とある先生に相談したら“そんなんやめておけ”と。もうちょとのしんぼうと、もうちょっとと頑張っているうちに定年が来てしまう。どうしても時は、他の大学の医局に頼もうと思っています。若い人は会費の納入は結構良い。出ていこうという意志はあると思う。その人達の思っている様な内容の集まりが無い為に、出てこない気がする。昨年は90%近くの会費の納入があった。役を離れた年上の先生方もあまり出席してくれない。皆が時間の都合をつけて出席してきて欲しい。僕は大学から人を派遣してもらう事を半ばあきらめている。医局を通すより個人的に頼まないとだめなような気がする。親睦という意味と自分の存在を示すために出席している。

南平；この中では一番新米ですが将来の事ですので、私自身も若い人の事がかなり分からなくなってきている。会というのは、年寄りもいて若い人もいて、成り立つものです。たとえば、自己紹介する時に若い人にはさせるけどれども年寄りにはさせない。機会があれば両方にアプローチしてもらわなければならないと思う。市整会でも、日整会の認定単位を取得できるように学術の方でももらっ



た。このことは市整会の研究会の意味が出て来て、ものすごい良い事をして頂いた。今後もしやって行って欲しいと思う。同窓会と市整会は質的に違うので、同窓会として論議して果たすべき内容の役割と、市整会自身が果たして行くべき役割というのは、元来異質のものであって当然。学術を担当させて頂いた時、開業医とは最先端の学会の分科会です様な話をしてもらっても、もう一つ意味がない。グローバルな専門的な話し、教養的な話しを織り交ぜて、講演会のテーマにしたらいと考えると、そのようなテーマを選びました。会員も152名になり、年会費2～3万円でも年間予算も大きくなり、我々のニーズに合致した独自の活動をしていけばよい。市整会として、他の集まりとは一味違った方面に進んで行ってほしい。

黒田；若い先生からものすごく強烈な不満が出ているようで、市整会というものがどういうものであるかを知らないため、大学に対する不満が市整会に出ているわけです。入局する先生が非常に多いので、大学で面倒みきれない状態になっているようです。多い時で15～16人も入局しています。何処かの病院へ出向させられて教授が変わったり、係の先生が変わったりして、島流しになったような先生がいて、大学へもどれないので、しかたなく開業したという先生は、大学に対する不満があり、開業しても市整会でそのように扱われるのではないかと考えています。大学に対しての不満の多い人は、市整会に対しても不満が多い。若い先生を医局でもっと大切にしていだだかないといけないと思う。以前、ある教授が入局する人を制限しようとしたが、翌年には大幅に入局者が減った事もあり、それも出来ない様です。こういう点でもっと良い知恵があったら、市整会もうまくいくのではないかと考えています。

宮内；時間も少なくなってきましたので、まだまだ、たくさんの御意見があるかと思いますが、今後も、いろいろな苦難を乗り越えて、ますますこの市整会が有意義な会に発展してゆくことを期待して、今日の座談会は終わりたいと思います。ありがとうございました。



すばらしき「65の会」

妻鹿 利和

アンケート・自由課題の要請を戴きあらためて振り返り率直に感じたことは、長い期間良き先輩・友人に恵まれて、あの激動の時期を無事に過ごし、今も変わらず友情が続いていることでありました。私の入局した当時は今の世相とあまりにも隔りが大きく、その様な背景の中で、少しの酒をくみかわし聞いた話などが、かえってより鮮烈な印象として残り、連帯意識を育くまれた様に思います。

元来、私はカラオケの嫌いな部類に属する人間ですが、会合などで若い人達のアップテンポな歌が交叉する場所では、何となしにストレスを感じるのは、私一人だけではなさそうです。そのようなスローバラード風な人達(?) (おこられるでしょうね) の会が平成7年秋に、孟さん(木下先生)の音頭で、第一回の会合がもたれました。

この“65の会”は年一回秋の季節の良い時期に、料理と、楽しい会話を主旨とした機会をもつために設けられました。私は第2回目の昨年の会に、市整会のサロン風かな位の軽い気持ちで始めて出席しました。その時のことですが、おそらく木股先生と云えば頑固に低周波治療の推進に長い期間努力された方との思いが多いと思います。この木股先生は実は大変なダイヤモンドコレクターであり鑑定もなさるそうで、ダイヤにまつわる楽しい珍しい話をされ興味はつきませんでした。出席された人が、いつもと異ってリラックスした雰囲気での会でした。

この会には年度毎に変る世話人だけで何の規約もありません。

皆様も早く65歳になって、ぜひ入って来て下さい。いろんなキャラクターの人達の楽しいお話を期待しております。

この機会を借りて皆様に御報告しておきます。



20周年記念行事を担当して

黒田 晃司

1991年の総会を前にした、開業医会の理事会（当時はまだ市整会という名称が用いられてなかった。）ときに、「会員数がしだいに増えて100名になろうとしている今、新しく参加した若い会員と、この会の創設に関わった会員との年令差、考え方のギャップが大変大きくなり、この会の運営に色々な問題が生じている。」ことが指摘されました。「同窓会という、各年令層の構成によって成立している組織である以上ここで何か、ドーンと皆んなの意識を引きつけるイベントをやって、老いも若きも、1つの方向に注意を向けるようなことをやろう。」という木下先生の発案があり、松尾会長の立案によって、1992年の総会は市整会創立20周年記念パーティーを開催しようということが、急に決定されました。17年余り会長を続けられた伊藤先生から、二代目会長松尾先生にバトンタッチされたところでもあり、「マンネリ化していた市整会の行事に新風を送り込みたい」という、理事会の意向も一致して、計画の実行に向けて走りだしました。松尾先生から「やる以上最高のものを」とか、また別の理事からは「非日常性のものに」…等々、色々な注門が続出して、計画の立案段階で論議百出、堂々巡りして遅々として進みませんでした。私はこの時福利厚生係でした。長年この係を務めてこられました上田先生が手伝ってくれていまして、年に一度、神戸の群愛飯店や滋賀県の招福樓にバスで出かけたりしました。この延長上の行事ということで、私が20周年記念事業を担当することになりました。まず、この事業を進めるために20周年記念事業実行委員会の組織を作りました。

実行委員長	松尾会長
会 計	小松先生
記念式典 司会	上田先生
記念パーティー 司会	長田先生
記念誌（アルバム）	黒田
委 員	理事の各先生

日時 1992年5月9日（土）一連休明け

場所 ロイヤルホテル シャンボール

と一応決定して、話しを進めて行きましたが、何しろ急に出てきた計画なので予算と会費のことで論議が沸とう、行きつ戻りつ堂々めぐり、足りない予算を埋める方法がないため、一時は会場をロイヤルホテルから費用が安いところへ変更しようという案など雲行きがややしくなり、担当している私としては胃の痛む期間が数ヵ月続き、「私のようなものでは、役不足でやっぱり無理か！」「これではどうていできないナァ!!」「いつ止めさせてもらおうか！」と毎日毎日悩んでいました。こんな時は、松尾先生や小松先生に「この会は皆んなが参加して、勝手なことを自由に言えるのがいいところだから」「大じょうぶ、最後は私が責任持つから」と励ましていただきました。「もう一回だけ」「もう一回だけ我慢」「もう一回待とう」と言っている間に10月になってしまいました。この頃柴田先生から「パーティー

のアトラクションは鳳蘭で行こう」という案が突然出され、決定されました。

このアトラクションについては、色々の案が出されました。有馬先生からはデモテープをつけて「紙風船」が推薦されました。また希望として、多かったのは「武田鉄也」や「さだまさし」でしたが、ロイヤルホテルのアトラクションの係の人の話ではいずれも500万円以上かかるとのことで、予算的にとても出せる価格ではありませんでした。そこで室内楽の四重奏くらいで行こうという話しにおちつきかけていたとき、突然降って湧いてきたのが、鳳蘭の話でした。

11月になって、このアトラクションが現実化したころから、急に皆んなの意見が求心化してきました。伊藤先生も予算のことを心配して下さいまして、会場をもっと安い所へ移す案を考えて下さったりして、色々とお心づかいをして下さいましたが、この後、やっとロイヤルホテルで開催することが正式に決定されました。しかし予算的に400万円程度不足していました。この解決に妙案はでてきませんでした。仕方なく、市整会にプールしてあるお金を一時的に使用して、後に参加者が、不足分を負担することにして、この問題は後に残してGO!!（このお金を集めるのに大変ご苦心された先生方からは大目玉をちょうだいしました。）結局最終的に赤字が生じました。私も非常に責任を感じましたので、パーティーの終わった後、この会の出席者のアルバムを60冊ほど作り、出席した先生方に買っていただくという形で、出席者の受益者負担として、赤字を一部埋めてもらいました。

この作業は、パーティー当日、3人のカメラマンに来てもらい撮影してもらった36枚撮りフィルム30本余りの写真の中からそれぞれの人の分が100枚程度になるように写真を選び出し、7000枚ほど焼増しして、これを分けてそれぞれの人のアルバムを作りました。写真代が35万円程かかりましたがこれで、150万円くらい寄付してもらったことになりました。60冊程のアルバムを作るため、家内と二人で2週間余り毎日夜鍋をして、作業をしました。（この件で、後に多数の皆さまから家内宛に色々の品を送っていただきました、ありがとうございました。）

もう一つ私にとって忘れられないのは 伊藤初代会長への感謝状のことです。これに関しても、始めは創立にかかわった31名の先生全員にという案もあったのですが、予算の都合で副賞に「ボールペンや時計を出しても誰も喜ばないし無駄だ」という意見が大勢をしめ、色々意見が出た後伊藤先生にシャレた賞状を贈ろうという案に決定されました。シャレた賞状とは賞状を額に入れたりするのではなく「外国の学会などで皮表紙のついた二つ折になっているノート型のものが良い」という注文でした。さっそく文具店など関係の所に当たりましたが、目指すものは見当りません。どこへ聞いてみても「そういう物はありません」とのことでアルバムのナカバヤシ（堺に工場がある）の関係者に聞いてみると「100個以上のご注文でしたらお作りいたします。」との返事でした。とうてい予算的に無理なので手作りすることにしました。私が簡単なスケッチを画いて、装具屋さんにとのんで合うようななめし皮を調達してもらいました。まずボール紙を芯にして、厚みを出すために詰め物を入れたりしながら思考錯誤の末1ヵ月ほどかかって作りました。（ほとんどは家内の作業でした。）少々不揃いなのは、手作りのためです。（伊藤先生おゆるしを。）副賞は結局花束になりました。当日、松尾会長から伊藤先生に手渡された花束が、伊藤先生の奥さまに贈られたのが、印象に残っています。「あれがよかった」との感想が多数の会員の声だったと思います。あれは伊藤先生が前持って、考えておられたのか、あの場の咄嗟のハプニングだったのか、さわやかな印象が心に残っています。

20周年の記念にアルバムを作りましたが、この案の「言いだしべ」は小松先生でした。作ることが決定されたとき、すぐにあちこちの大学のものを調べましたが私が見つかるこ

とができたのは阪大の同門会のものだけでした。それは5 cm程の分厚いものです。白黒の写真の入った名簿で、各一人が一ページで、家族の名前や年令など家族構成までこまかく記入されているプライベートなもので、すごい内容のものでした。そこで我々は予算などを考慮して各会員にカラー写真二枚、一枚は会員のもの、もう一枚は家族のものを提出してもらって、一ページに二人分を集録することとしました。さっそく写真集めにかかりましたが、予想通り大変な作業でした。年が変わって1992年になって1月と2月の2ヵ月間は看護婦さんに「大変ですネェ!!」と感心されたり、あきれられたりするほど電話をかけました。最終的にはカメラを持って写真を撮りに行くつもりでいましたが、幸い、伊藤先生、松尾先生、小松先生、長田先生等のご協力を得まして、期限ぎりぎりまでかかりましたが、ほぼ全員から集めることができましたのは、今にして思えばすごいことでした。次にこの写真の印刷もダイコロを始め大手の印刷屋さんでは100冊余りの印刷では予算の倍以上がかかりますので、最終的には知り合いの会社にたのんで、やっと予算の範囲で作ってもらいました。そのため写真の説明文などは加えることはできませんでした。それが心残りでしたが、今でも時々取り出してみますと「自分を自分でほめてあげたい」と満足しているのは私の自己満足でしょうか。それとも良い仕上がりですか？

また当日のパーティーの衣装を「タキシードにしよう」と決めたのは、松尾先生の案でしたが、これには少々クレームもありました。「非日常性」という点では楽しい案であったと思っています。

とにかく、この20周年記念事業を担当したことで、私は市整会という組織にひと一倍の愛着ができたことはまちがいないことです。



25周年記念誌の編集に携わって

阪本 邦雄

昨年6月の理事会において会長の長田先生から、来年は市整会25周年を迎える年であり、25周年記念行事を行おうではないかとの提案がありました。たまたまその場に居合わせた私に、黒田先生から準備をすすめてくれないかとのお話があり、その時はあまり深く考えずお引受けいたしました。しかし、後で考えると大変な事を引き受けたなと思っております。ただ、引き受けた以上は立派なものにしたいと、またいろいろな先生方に御協力をいただかなければいけないと考え、若手を中心に西上茂樹、久保俊雄、呉家守二、森沢康二、天野裕一各先生方に御協力をお願いして、市整会25周年記念事業準備委員会が発足いたしました。

まず、記念事業の内容といたしましては、25周年記念祝賀会（パーティー）と記念誌の発行を企画致しました。また、日程につきましては25周年祝賀会を平成9年6月とし、記念誌発刊をパーティーの写真も載せるために平成9年7月末と計画致しました。そこでまず長期の準備を要する記念誌の方から取りかかることにしました。記念誌の内容は、自由題、アンケート（質問）及び先生方の写真の掲載を考え、平成8年8月に第一回原稿希望を致しました。この自由題の題目は、一応、自由題としましたが、25周年記念ということもあり「25才のころ」や「あるべき開業医像」、「人生観」、「趣味」、「最近、特に感じること」、「10年後の私」、「私の町」等の題をあげさせていただき、その他、詩、短歌、俳句、随筆、小説等について応募致しました。また、できるだけ全員の先生方の自由題の原稿の掲載を考えておりましたが、どうしても無理な先生にはアンケートを掲載しようと企画致しました。このアンケートは、当初無記名としておりましたが、アンケートと言うよりも質問に近く、その内容も私生活に関するものが多くそのため各先生方の人柄や考え方が表現されていると考え、そのまま掲載させていただくことになりました。

第一回目の募集では自由題が19名、アンケートが22名の先生方からの応募がありました。ただ当初予定致しておりました応募数よりも少なかったため、さらに第二回目の募集を長田先生、黒田先生及び25周年記念準備委員会の先生方から電話によりお願いしました。最終的には、自由題が52名、アンケートが92名と多数の先生方からの応募をいただき、この誌面を借りてお礼申し上げます。

準備を開始してから約一年、あっという間の一年でした。今までは、何げなく雑誌や記念誌に目を通していましたが、今回、記念誌の発行に携わらせていただきこのような雑誌の発刊というものは大変なものであると実感いたしました次第でございます。

記念誌の発行に関してまったくの素人の私が、これら多数の原稿の山を前にして、一時はどのように進めたらよいのか迷い、右往左往したものです。もともと楽天主の私ですので、まあ、毎日少しずつでも整理して行けばよいと考え、マイペースで割り振り等の作業を行っていき、ようやく市整会25周年記念誌の発刊に漕ぎつく事ができました。これもいろいろな御提言、御助言をいただきました長田先生、黒田先生をはじめ各先生方、さらに記念誌準備委員会の先生方の御協力によるものと感謝致しております。

はないだろうか。勿論替え唄である。花岡先生と確か一緒だったと思う。

いつの時代でもヒットソングが生まれると、必ずと云っていい位、替え唄が作られる。戦争中にも権力者への反抗や憎しみをこめた替え唄が流行ったものである。替え唄はその時代の背景や風俗を色濃く反映したものだと思う。勿論、艶ネタの方が断然多かったが。余島でよく歌われていた余島キャンプの唄も長い間アメリカのフォーク・ソングの替え唄とは知らなかったものである。

整形の唄の前段は軽やかでノビノビしたリズムの元唄が選ばれ、後段はガラリと、調子を変えた、怨歌調の歌が選ばれた。こういうやり方はキャンプソングの替え唄の中に先例があったからだろうと思う。残念なことは選ばれた元の唄が何であったのか、全く記憶がないことである。それ所か元唄のリズムそのままなのか、それとも音痴によるアレンジが加わったのか知る由もない。

歌詞作りは容易であった。1950年代のノイエヘレンの日常生活をそのまま書けばよかった。

ギプス日は火曜日午前、ゴテゴテに巻かれたロレンツやバツチュラーのギプス包帯の切除にはギプス刀が用いられ、手にマメを作って精を出したものである。ギプスカッターが出現するのは昭和30年代に入ってからである。汗を流してギプスを切っていると、気の利いた患者のお母さんがアイスクャンデーを持ってきてくれたこともある。

ギプス場に古いタイプのホーロー製の浴槽があってギプス後の洗濯用に使ったり、掃除用の水槽に使ったりしていたが、ここに湯を張り、ロレンツギプスの赤ちゃんを数人並べて30分程つけておくと、ギプスは軟らかくなり切り易くなる。ギプス包帯中の赤ちゃんは風呂に入れにくいので不潔になることが多いので一挙兩得だという処置係もいたが、赤ちゃんの泣き声の大合唱でオーベンから目玉をくらったこともあった。

午前中の手術は清潔な手術が多く、代表的なのはコロナ手術である。この手術は1932年先天股脱に対する関節形成術としてColonna.P.C.により考案されたのである。麻酔はエーテルのオープンドロップが用いられた。麻酔係に当たると気の使いようは大変なもので、一刻も早く手術が終って欲しいと願ったものである。手術の助手も大変である。手術はほとんど例外なく教授が執刀し、脚もちは大てい講師かオーベンの助手で我々無給医は鉤引きである。よくどなられたし、筋鉤でたたかれることもあった。

手術が終るとすぐにギプス包帯が始まる。雷オヤジから開放され緊張感が除々にほぐれていくのが判った。主治医はそれからが大変だった。水分不足、酸素不足で術後、不幸な転帰をとることがあったからである。

過ぐる、中部日本整形学会で広橋先生がコロナ手術の遠隔成績について発表した。それを聞きながら私達の青春に、幕がおりるように感じた。

この替え唄はいつの間にか若い医局員の間に拡がった。同時に余島キャンプでおぼえてきたキャンプソングも大した流行を見せたものであった。

昭和42年9月号の同窓会誌の整形ソングを、再録させていただく。

〔Ⅱ〕市整会25周年祝賀会

(1) 市整会25周年記念祝賀会 進行表

平成9年6月28日 帝国ホテル大阪 3階 『孔雀東の間』

17:30	受付開始
18:00	記念式典（司会 渡辺径宏先生） 会長挨拶 市整会会長 長田 明先生 来賓挨拶 大阪市大整形外科学教室教授 山野慶樹先生 功労会員表彰 松尾澄正先生記念品贈呈 有馬英之、和田 忍、松井善邦、宮内 貴、 柴田辰男、吉田 洋 各先生方に花束贈呈 閉会の辞 市整会副会長 榎本高明先生
18:30	記念祝宴（司会 天野裕一先生） 同窓会理事長挨拶 吉中正好先生 乾杯の御発声 大阪市大整形外科名誉教授 島津 晃先生 祝 宴
20:00	記念音楽会（司会 天野裕一先生） —— 奥 田 真祐美 オンステージ —— 奥田さんの紹介 前野岳敏先生 花束贈呈 南平克積先生 奥田さんへのお言葉（PART I） 宮内 貴先生
21:00	閉会の辞 市整会副会長 小松堅吾先生 奥田さんへのお言葉（PART II） 島津 晃先生 閉会の辞 同窓会前会長 木下 孟先生

市整会 創立25周年記念祝賀会

Dîner

平成9年6月28日

孔雀東の間にて

Foie Gras d'Oie aux Fèves

鶯鳥のフォアグラ そら豆とジェリーのハーモニー

Brochet de Fruits de Mer en Villeroy

魚介類の銀串焼き ヴィルロアソースで

Soupe Glacée d'Asperges Vertes

グリーンアスパラガスの冷たいスープ

Soufflée de Langouste "ROTHSCHILD"

伊勢海老のスフレ ロッチルド風

Sorbet au Calvados

カルヴァドスのシャーベット

Tournedos Flambé au Poivre en Chemise et Foie Gras

特撰牛フィレ肉のクレープ包み フォアグラ添え

Salade de Saison

季節のサラダ

Mousseux au Champagne Coulis de Framboises

シャンパン風味のムスリーヌ 今が旬の桃と共に

Mignardises

小菓子

Café

コーヒー

IMPERIAL HOTEL

OSAKA

(3) 出席者



司会 渡辺先生



長田会長



オ 2 代会長 松尾先生に感謝状が贈られました。



市整会の設立功労者に花束が会長から贈られました。



伊藤先生 御夫妻



松尾先生 御夫妻



柴田先生



〈ゲスト〉島津名誉教授 御夫妻



木下先生 御夫妻



有馬先生 御夫妻



〈ゲスト〉山野教授 御夫妻



長田先生 御夫妻



吉田正和先生 御夫妻



和田先生 御夫妻



階堂先生



吉田 洋先生

松井先生



宮内先生 御夫妻



石上先生 御夫妻



三好先生 御夫妻



吉中先生 御夫妻



柿本先生

笹岡先生



小松先生 御夫妻



上田先生 御夫妻



石崎先生

木全先生



渡辺先生 御夫妻



吉川先生 御夫妻



榎本先生 御夫妻



前野先生 御夫妻



布谷先生 御夫妻



明石先生 御夫妻



奥田先生 御夫妻



中村英健先生 御夫妻



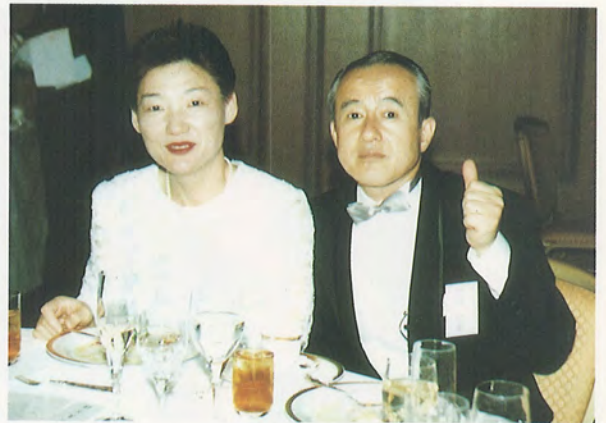
越宗先生 御夫妻



片上先生



杉本先生 御夫妻



黒田先生 御夫妻



吉田昌司先生



佐久間先生



南平先生 御夫妻



菱川先生 御夫妻



楠先生 御夫妻



戸田先生 森下先生



小寺先生 御夫妻



森沢先生 御夫妻



〈ゲスト〉高見勝次先生 御夫妻



司会 天野先生



頼先生 御夫妻



吉田研二郎先生 御夫妻



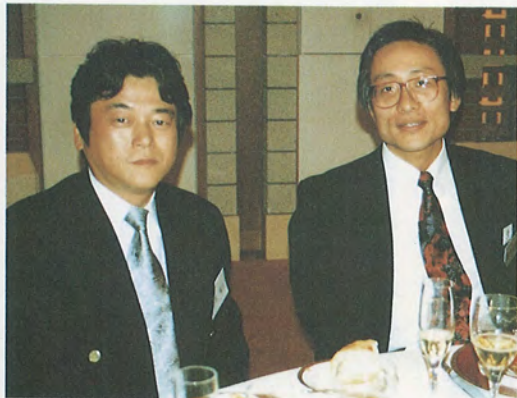
箕輪先生 御夫妻



〈ゲスト〉油谷安孝先生 御夫妻



久保先生



坂部先生

清水先生



片平先生 御夫妻



阪本邦雄先生 御夫妻



馬野先生 御夫妻



秋野先生 御夫妻



山下先生

天野先生



西上先生 御夫妻



増田 博先生 御夫妻



中村 董先生 御夫妻



阪本博史先生

黒澤先生



〈ディナーショウ〉奥田真祐美さんの歌うシャンソン

〔Ⅲ〕自由投稿

— 50 —



生涯現役

三好 宏 (特別会員)

戦後50年日本の復興・成長・衰退の歩みは我々の世代（昭和9年生れ）の歴史そのものである。終戦を集団疎開地の島根県（広島県との県境）で迎えた小生にとって原爆雲をまじかに経験し、幼ない心にも敗戦の屈辱を味わいこの時から私の人生が始まったと思っている。

大阪市立大学理工学部から医学部専門課程を過した大学時代はスポーツ（日本拳法・準硬式野球）に興じ、麻雀・酒にあげくれた楽しい時代であった。おかげで追試・再試の連続で悪戦苦闘の末医師となった時に、当時の解剖学の鈴木教授から「ようお前みたいな者が医者になれたなあ」と言われたことは一生忘れえない思い出に残るお言葉であった。医局生活11年間は臨床・研究に比較的まじめに過ごし、助手時代には大学紛争を経験し如何に自分が社会的に無知であったかと思い知らされた時代でもあった。

大学病院を辞し、平野区の地で開業した昭和48年からが小生にとって苦難の幕開けであった。開業当初は医師・看護婦の慢性的な不足の中で1000日当直・地方への娘（ひめ）買い（看護婦見習い探し）で東奔西走したが、病院経営面では比較的良き時代であった。高度成長に伴い国民の健康面に対する認識のたかまり及び医療検査機器の開発等の要因も含め医療費の高騰と高令化社会に伴う福祉予算の膨大が進んだ最近10数年間の医療行政の改悪は当然の如く中小病院を経営する我々にとって過酷なものとなり現在では氣息奄々の状態となっている。しかし小生は負けない。開業当時は親友（医師以外）達が定年を迎える60才頃には自分も第一線を退ぞき悠々自適の生活を送るつもりであったが、現実とはまったく逆で還暦を迎えた一昨年から小生の真の現役生活が始まったようなものである。しかし人生50年と云われているが生後10年は単なる動物と考えれば実質60才までが主体的な人生と考えられる。この間無為徒食したつけが今まわってきたものと変な納得をしている。

「奉仕の理想」を錦の御旗として集う国際的組織としてロータリークラブがある。大阪市大の先輩・同輩・後輩諸氏も数多く入会し活躍されているが小生も約22年前からこのクラブ（平野ロータリークラブ）に入会し社会奉仕活動を通じて自己研鑽を行なっている。このクラブは一業種一人制の会員構成で各業界の代表者の集まりであり、色々な奉仕活動を経験し各個人の職業・地域社会への個人としての奉仕に役立てようとするものである。当初「金持ちの昼食会」ぐらいに考えていたが年を経るごとにその目指す方向が理解出来るようになり、特に他企業のトップの人々の苦勞談や経営努力を見聞きするにつけ自分がいかに人間として、経営者として拙劣であったかを思い知らせ人間形成・社会人・経営者にとって向上の場としてこの上ないものと信じている。この組織の活動はメンバー全員に定年はなく在籍中は生涯現役で会長が終ればまた1会員として各活動に参加することが義務づけられている。

先日、市大医学部野球部O・B会のゴルフコンペで同級生の吉中君と一緒にだったがゴルフの内容は別に（彼はシングル）これからの我々の医師としての将来を語り合ったが決して楽観的なものではなかった。医療の見直し（改悪）・医師の定年制の検討等我が国の医療行政は医療費削減のみ目的とした後退する施策の乱発状況である。しかし小生は60才を

超えてから真の現役として歩みだしたが由に自分には老後はない。何故ならば生涯現役であるからだ。「10年後の私」が心身健康で現役でありますよう自己に向かって祈念してやまない。



自由題

矢頃 恒三

その頃、信州の病院で冬の寒さに耐えていた時代には、現在のように結構な暖冷房などは思いもよらなくて診察室はダルマストーブに薪と石炭。夜の風呂上がりに廊下を当直室に帰りつく頃には、ぶら下げていたタオルがパリッと凍りかけている状態、軀の冷えないうちに寝床にもぐり込む。しかし土地の旧い人達は素ッ裸の軀の上に寝巻きと布團をかけて寝るとかえって暖かいと云います。又、高原の秋、山男自身が手造りのログハウスでの生活では、夕陽に映える紅葉は軀の芯まで染まる様に眞赤。陽が落ちて夜になると降る星の如くとかいわれるように、まさに満天の星が手の届きそうなところに輝いて、恍惚と眠ることも忘れていたりする。但しこれは、40数年前、小生が28才頃のお話しです。



すばらしき東欧への演奏旅行

近藤 隆

私は今23時10分発アエロフロートロシア航空の機上にてこれを書いている。

今回は二度目の海外演奏旅行であるが、医業を含めて身辺を整理したいとの願いをこめでの旅立ちと思い定めている。

昭和24年外科医局から整形外科設立への部屋づくり旧市大病院北棟に始まったのを昨今のように思い出せる。当初は整形外科では喰えぬと言われながら数名の態勢から今日の50周年の声を聞いて感無量としながらも今や小生にとっては無縁に近い存在になった思いは否定できない等を考えながらも飛行機のゆれに身をまかしている。

先日、豊嶋泰先生の突然の訃音に接して驚いたが、今回の演奏旅行の仲間に先生に永年にわたりつきあった患者がおり彼は旅先からもう手紙が出せなくなったと悲しんでいた。

25年頃から整形外科即カリエスと思われる位カリエスが長く、ギプスベットに仰臥排膿を繰り返す若い女性患者のこといつも薄化粧をして迎えてくれたことは青春時代のひとこま、忘れることのできない医局生活時代であった。

飛行機は無事モスクワ着赤の広場、武器庫（宝物殿）、ロシア正教会堂など型のごとくまわる。

地下鉄にも乗り有名な彫刻を見てクレムリン見学と足跡を残したことに満足してホテル入り。翌日モスクワから2時間半南下しブカレスト着そこからバスでルーマニア中央トランシルバニア地方にあるルーマニア第二の都市ブラショフ着、朝合唱指導をうけ夕刻より文化会館小ホールにて演奏会を催す。暖かい会衆に迎えられ楽しい演奏会となる。翌日さらに北行第二の地トゥルグ・ムレシュに向う。途中のシギョラマは全く城塞を中心に広がる中世紀の町そのもので、落ち着きがあり歴史を感じさせる。トゥルグムレシュは当地オーケストラの指揮者で今回の仕掛人の本拠地である。宿舎のある文化会館小ホール（宮殿）の二階の間は一見にあたいるステンドガラス窓の素晴らしい部屋で大切に保存されている。二回目の演奏会も若干の事故があったものの成功裡に終了あと楽しい打ち上げとなり就寝。

翌日は観光 吸血鬼ドラキュラ伝説の舞台のプラン城のあるシナイアをまわりブカレストへ…人民の館を見てのブカレスト入り、あわただしい日程を終了、私への今後の生き方を考える旅も終了した。書記長としてあれほど名声を博したチャウセスがロシアのチェコ進攻から狂い出した。人民の広場、巨大な国民の館を見ると人そのものの名声を全うすることのむずかしさを痛感させられる。

大地を流れる遥かな大河のようなゆったりした時を持ちたいものだ。せめて夢の中では…

帰路の飛行機はビジネスクラス、少しゆったりした気分になるが疲れかまた帰ってからの多くの仕事の現実に毒される思いで、考えもまとまらぬ間に寝込んでしまったようだ。



整形外科の皆様にお詫びを

坂本 和英

私の父は日韓併合以前より朝鮮半島に赴き、植民地朝鮮及び満州国の成立には深く関わっていた。朝鮮における重要な政策にはしばしば関わっていた。私はその間に坂本家の次男として京城（現ソウル）で生まれた。父は語学の天才で、同時に法律の専門家として働き朝鮮における重要法律の草案者でもあった。と言えあたかも日本帝国主義の手先であるかの誤解を受けそうだが、私の父ほど朝鮮人を愛していたものはあるまい。

私の生い立ちはこれらの影響を受けている。

大学卒業と同時に徴兵検査では「甲種合格」で戦地に駆り立てられたが、大いに悩んだ。何故戦地に行かなければならないのか…何故命をかけて戦わなければならぬのか。そのとき私の体内には既に「忠君」の精神は皆無に等しく、雄大なアジアの思想が動き出していた。「神ながらの国、日本」のためではなく、「家族肉親兄弟は勿論の事、朝鮮の民族も含めて、爆弾の雨から守らなければならない」、そのために戦う必要があると、胸深く納得して戦地に赴いた。それにはどうすればよいかと…思考作戦は続いた。結論として航空戦となった。躊躇することなく航空隊を志願した。3人に一人の割で医学的試験に合格し、

一人の航空隊付き軍医が生まれた。もっとも念願はかなったものの「医者が足りなくて困っている」飛行機には乗せないとなった。些か歯がゆかったが辛抱した。

結果はアメリカ機の大本営指定飛行場広東大空襲で全身に孔をあけられ右脚を飛ばされた。生きていたのが不思議である。

その後市大整形外科に至るまでの諸々の経過は決して正常ではなかった。だが私の学問的な行動を大阪で快く許していただいたのは、市大の鈴木清先生と水野祥太郎先生であった。しかし此処でも道は平坦ではなかった。水野先生に支えられたとは言え、唐突なテーマの出現は、かなり深刻な消化不良の副作用を招いた。研究は伊藤、木下の諸君の有力パワーによって何とか続いた。更に私の非力を宮本先生が支えていただいたと言うが、宮本先生と詳細を話し合ったことは一度もない。残念である。

もともと歩行研究は多くの分野に関連する大変基礎的なもので、整形外科だけでなく多方面の分野に展開できる。私は人類学的に展開したかったが、その私の緒論的論文は、共産主義的であるとして排除され没となった。これはまさに青天の霹靂であった。母校大学を持たない私にとっては、死活問題であった。この種の全く角度を変えた私の論文はいつかい発表されていない。まだ私の自宅の倉庫で多分虫食いになっているだろう。

私は此処で私の学問的生活に終止符を打つことにした。従って私の研究資金を支えた文部省や私に同調し一緒に歩行の研究を進めて頂いた友人に今も申し訳ないと思っている。途中で投げ出したことは真にだらしないことである。此処で私の念願である「世界観」のスタートの夢は挫折してしまった。島五郎先生から東大で続けてはとの勧めもあったが、お断りした。

当時の世相は根も葉もない「共産主義」のレッテルは何よりも厳しかった…怖かった。今にして思えば私の弱気である。学者になれる資格はないと思う。

此の欄を借りて当時の皆さんにお詫びします。おそらく無責任な奴と思われたでしょう。

その後市大整形外科では「歩行の研究」の陰は見られなくなった。整形外科に関わらず、歩行の問題は、例えば人類学に限らず、又現代の人間生態学的にも巨大なテーマだと心得ています。残念でならない。今や共産主義の恐怖は消え去りました。馬鹿馬鹿しい幻影に追われることなくもう一度…と思わぬでもないが、今更どうにもならないことです。

一時のつきあいでしたが市大整形外科の皆様有り難うございました。此の記念誌を借りてお詫びいたします。



臍曲り

奥野 博敏

市整会の皆様、今日は。28年入局の奥野です。日頃、何かとお世話になりまして有難うございます。私は、医局にご無沙汰してから久しく、40年近くになりました。

B型人間特有の、個性の強い、変人とまでは行かなくとも、臍曲りの傾向にある私は、40年前の在局中に感じた大学の医局の冷たさ、教授の指示通り行った或手術中、自分では、

村八分にされたと感じた事が頭から退かず、それなら、自分の道を歩こうと考えて、ほぼ完成していた学位論文の原稿もほり出して医局を去りました。長らくご無沙汰していると、医局の敷居は、ますます高くなり、今日迄不義理を続ける結果になってしまいました。

今度も、会誌には投稿を遠慮するつもりでしたが、3回も督促を受け、これ以上不義理を続けて、役員の方々に、ご迷惑をお掛けしては申し訳ないと思い、重い腰を上げました。

そして、自由題には、今迄誰にも打ち明けていなかった村八分と感じた手術の時の思い出を書いて発表したいと思い、記事は脱稿しましたが、おめでたい25周年記念誌には不釣合と思い、又、当時の医局の先生も、多く、故人になってしまわれた今、今更、と思い直して書き直しました。

在局時代、私は、筋電図、低周波治療に対する研究を行っていました。私の学位論文は『低周波治療の基礎問題』でした。

今でも、麻痺に対する治療の1つとして、低周波治療が使用されていますが、低周波刺激時の刺激波の長さ、刺激周波数、刺激波の波形、皮膚インピーダンスの変化等を、自作のブラウン感オシログラフで測定し、結果に統計学的吟味を加え、危険率0.01%で比較し、有意の差の有無を調べ、どの様な波形でどの様な条件で刺激を行えば、一番障害が少く、最大の効果が上げられるかを研究したものであり、研究は、1953、54年の文部省科学試験研究費共同班の電極第3作用と低周波電流による治療的応用の年次報告集1及び2に発表し、昭和31、32年の低周波医学研究会にも報告しましたが、これを纏めた私の学位論文は、整形外科教室からは出ませんでした。35年になり公衆衛生学教室の故堀内教授が拾って下さって、主査が堀内教授、副主査が放射線科の藤野教授と、衛生学教室（前外科教室）の滝内教授で、旧制の学位審査が終るぎりぎりの36年にあきらめていた学位を戴きました。

臍曲りですが、人と争う事の嫌いな私は、地区医師会では昭和42年より10年間、理事や副会長を勤めさせて頂きましたが、この間、一度も選挙活動らしい事も行わず、最後は、派手に選挙工作を行う対立候補に嫌気を感じ、選挙投票の直前、総会で所信を表明し、立候補を辞退した経験もあります。

又、日常の診療でも、医師の報酬は技術面に対する報酬を要求すべきで、商売人の様に薬を売ってその薬価差益で儲けるべきではないとの主義で、昭和57年より100%院外処方箋を発行し、完全な医薬分業を行っています。

医師定年制に関しても、自分では、まだまだ現役を続ける自信はありますが、後輩の育成、体力と医療責任等を考え、最新の医学を身に付けた若い方に譲る方が患者さんのためでもあると考え、昨年古希を迎えたのを機に、B会員に転向しました。

生じた余暇は、特別養護老人ホームの管理に向け、収入は今迄の数分の1に減りましたが、ボランティア気分で往復2時間40分も掛かる施設に通っています。入所者の大部分は恢復の見通しの少ない病気をもち、家庭でも介護に手を焼いている方です。これらのお迎えの近い老人に対し、私は、病気を完治させるために、苦痛の多い治療を加えるより、精神的、肉体的な苦痛を取り除き、残された余生の毎日を満足して送ってもらうのが第一と考え、これをモットーにして施設の方々に協力してもらっています。たまに入院した方や一時帰宅した方が再び施設に帰って来て、やっぱり、ここが一番居心地が良いと言っておられるのを聞いて、ほっとしています。

回診は週2回行っていますが、回診時の対話は私の目と入所者の目が同じ高さである様な位置で行い、例え、相手が食事中や、横臥中でも、決して見下した位置では行わない様にし、ボケ老人がわけの分らない事を話して来ても、一応、相手が納得行く相槌を打つ様心掛けています。入所時大声でわめき、手に咬みつきに來た老人が、背中を叩くと、にっ

こり白い歯を見せる様になって来るのをみると、やり甲斐のある仕事に巡り合わせて良かったと考えています。

臍曲りの私です。これからもご迷惑をお掛けする事があると思いますが、何卒お許し下さいますようお願い致します。この機会に、今迄のご無沙汰、ご無礼をお詫び致します。



私の健康法（旅行と社交ダンス）

奥野 博敏

私達夫婦は、2人共、年より大分若く見られているらしい。若く見られて決して悪い気はしないが、何故その様に見られているのか、少し、原因を探ってみた。2人に共通の最大公約数は、1，2人共現役で診療している事。2，旅行好きで、ダンスをしていると答が出た。

皆様も、それぞれ、自分の健康管理には、色々と配慮されておられる事と思う。私達の仕事は人一倍ストレスが溜りやすい。世間では、ストレス解消の手軽な手段として、旅行が良いと言われている。私も同感である。古希を過ぎた今、元気なうちに、出来るだけ遠くへ足を伸ばしておきたいと考え、家内とよく海外へ出掛ける。私の海外旅行の最初は1967年（昭43）に薬屋の招待で台湾へ行ったのが始まりである。

一方、社交ダンスとの出会いは20年遅い。戦後、進駐軍と共にやって来たダンスの全盛時代も、ダンスは軟派のするものだと考え、見向きもしなかったが、1986年（昭62）の北欧3ヶ国の旅行を機に、今ではダンスと縁が切れない仲になってしまった。

6層のデッキを持つ3万屯級のシリア・ラインの豪華フェリーで、ヘルシンキからストックホルムへ向う途中、船首の見晴しの良い美しいキャビンで、生演奏に合わせて楽しげに踊る外人を見たのが、ダンスに関心を持ち始めた最初である。その2年後、寝屋川医師会内で、ダンス同行会の発足の話が持ち上がり、私も家内も、友人に誘われるまま、ダンスのダの字も知らぬのに入会し、週1回、プロの先生の指導で、ステップを踏む事になった。始めた頃は何もわからず、皆に付いて行くのがやっとで、夜、犬の散歩中に、ステップを踏む練習を行った事もあった。それから早や7年、今では、月曜の午後は近くの百貨店の読売カルチャー教室で、木曜の午後は、もっと近いダイエーのカルチャー教室で、各1時間半づつ、冬でもワイシャツ1枚で、額の汗を拭いながらレッスンするのが日課になってしまった。

年をとってからも良いと言われる運動には色々あるが、散歩やジョギングは単調すぎる感じがする。その点、聞くだけでも浮き浮きする軽快なリズムに乗って身体を動かす社交ダンスは、私の様に、65才になっても始められる楽しい運動である。私の教室にも、私以上の年配の方が何人かおられる。

もう一つ、社交ダンスの良い点は、草臥たら何時でも休め、休んでいても、誰にも迷惑を掛ける事が無い点で、この点は、老人の運動にはもってこいである。パーティー等では、この間に、美味しい飲み物や、料理を口にする事も出来る。

私は、レッスンに行く時、少し気取って行く。これは、パートナーに対し、男性としての最低限のエチケットを守るため、出掛ける前、日頃、診察室ではあまり付けないネクタイを取り出し『今日はどれにしようかな』と選ぶオシャレも、ストレスの解消に役立っていると思っている。

社交ダンスをする様になってから、海外旅行でも、思わぬ楽しいハプニングに巡り合う機会が多くなった。

1994年の夏は、3泊4日のエーゲ海クルーズで無数の白い小さい教会と昔の風車で有名な美しいミコノス島や、数千年前の古代トルコの巨大な遺跡のあるエフィソス等を巡ったが、航海中、2万8千屯の豪華客船では色々なショーが催され、カジノ有り、ダンスパーティー有り、時の経つのが早かった。

ニュージーランドでは、2度、新年を迎えた。第1回のウェリントンでは、40才台の若気で飲んでいたので、ニューイヤーパーティーは夢の中。ロトルアでのゴルフで、硫黄の吹き出している岩のあるバンカーにボールを打ち込んで困った記憶がある。2回目の1996年の新年は、クライストチャーチの大聖堂前の広場で迎えた。午前0時を期して、大聖堂の美しいデコレーションが点燈され、近くのビルの屋上からは、数百発の花火が打ち上げられた。0時のカウントダウンを待つ間、集まった数千人の群衆のあちこちで、野外ステージの陽気なダンスに合せて踊りが始まり、各国の人々が互いに手を取り合って踊っていた。家内も見知らぬ外国の若者等と、本当に楽しそうに踊っていた。私はこの楽しいシーンをビデオに収めていた。

今年、1997年のカウントダウンはカイロのホテルで迎えた。午前0時のカウントダウンが終り、暫時の暗闇から開放された人々は、幻想的な人工霧の立ち込める中で、点滅する3色のライトに照らされ、ダンスに興じた。大晦日の4日前に乗ったナイル・クルーズ船でもディスコ・パーティーが催され、クルーズ最終日の30日の夜は、カラベヤ・パーティーとかで参加者全員がエジプトの民族衣装を纏い、私達一行7名も、3才の男の子を含め、全員、コムオンボ神殿前の夜店で買ったばかりの衣装を付け、頭にターバンを巻いてエジプト人になりすまし、着飾った現地の人々や、フランスの人々と手をつなぎ、楽しい踊りの一夜を過ごした。

私達がストレス解消の手軽な手段として行っている社交ダンスが、旅行先でも思わぬ役に立っている、記事にした次第である。

楽しい旅行も、足腰が弱ってしまえば行けなくなる。いつ迄も続けられる様、ダンスで鍛えておきたいと思っている。

Could you like a dance with us?

shall we ダンス!!



私の山歩き

木下 孟

私が15,6才の頃、槍、穂高に始めて登った。中学の国語のテキスト・ブックに載っていたアルプスのお花畠についての文章が印象的で、作家の名は忘れたが、私の脳裡に勝手に夢をふくらませたアルプスのお花畠が描かれ、一度アルプスに登って自分が描いたお花畠をたしかめてみたいという思いがつのっていた。この夢が実現するとなって、私は嬉しさで一杯だった。

島々から歩いて徳本峠を越え上高地におりたが、山といえば、信貴、生駒、葛城、金剛しか知らなかった私にとって徳本峠からのアルプスの眺望は想像に絶するものだった。今も鮮烈に残っている。

上高地から槍を目指したが、何故か穂高に向っていた。横尾で道をまちがえたのだろう。翌日、穂高山荘から槍を経て、高山の方におりた。私が勝手に描いたお花畠は華麗すぎた。本当のお花畠は素朴で楚々としたものだった。雪溪も始めて見る夏の雪だった。この3泊4日の槍、穂縦走は未知なる山へのあこがれを一層胸の奥底深く、つのらせることになった。

戦争が終って、昭和22～3年頃から私の山歩きが始まった。それから10年余り、物に憑かれたように山に登った。周りに山の好きな連中がいたこともある。見様、見かねで岩登りにもいどんだ。時間と体力があれば可能なスポーツだったのである。そして青春のうっ積をはき出していたのかも知れない。単独行も多かった。自分1人の都合で場所・日程を作り自分の体力に合わせて行動できるからである。気がねがいらぬ。食いつつ歩き、歩きながら飲み、昼食として休憩することなく、結構道のりをかせいだものである。美しい山、苦しかった山、可愛い山、様々で、私なりの百名山がある。

そして50年近くがすぎた。山登りから山歩きにさらに山を見る旅に変わりつつある。今では年に2～3回、そのうち1回は周りの人に支えられて、私の誕生日前後、2月から3月にかけて、私の体力に合うような所を選んで貫って、1泊2日で歩いている。60才をすぎてからはこの山行は私の体力テストのようなもので健康のバロメーターでもある。

今年は2月、京都と滋賀の境にある皆子山に出かけた。今年は雪が深く、バス停から登りにかかる沢の入口まで、林道があって車なら5分位の道を、ワカンをつけてラッセルする始末、林道を歩くのに1時間も要した。さらに沢をつめると夏道も定かでなく、雪はますます深く腰まで没することしばしば、時計はすでに午後一時を過ぎ、予定の山頂までの往復はとても無理と判断して、昼食をすませて下山した。

その前夜、雄琴温泉に一泊、雪は一晩中降り続き、雪見のカモ鍋は山歩きより楽しかったことがせめてもの慰めといえた。いままでも天候が悪化して途中で断念したことは今回だけではないので、今年もサバサバした気持ちで帰宅した。ここ数年ふり返ってみると、大山、比良山、木曽御獄、谷川岳、木曽駒、台高山系の三峰山、そして今年の皆子山と続いている。

いつも山頂に着くと、リーダーが持参したワインで乾盃する。いつ頃から始まったかは定かでないが、「誕生日おめでとう」の思いつきから始まったことだが、何時の間にか儀式

のようになって続けられている。「今年の健康を願い、来年また一緒に来よう」という暗黙の了解が成立するのである。何とも楽しいものである。

さて、来年の山行きはどうなるのか、古希登山と称して、かつて山行を共にした方々にも声をかけて3月頃いかたと私の希望を伝えている。さてどういう山が選択されるのか、今から楽しみにしている。

いつも楽しく山行を共にしてくれる古い仲間にも心から感謝しつつ、古希山行の宣伝をかねて書かせていただいた。



追想 水野祥太郎先生

和田 忍

“花の万博”が盛大に開催された鶴見緑地公園のすぐ近くに私の病院がある。その院長室に大切な額が二枚架かっている。ひとつは、緒方洪庵の適塾を描いた油絵、もうひとつは恩師水野祥太郎先生の肖像である。

ある時、市大整形外科出身の十年選手のドクターが、水野祥太郎先生の肖像を見て「先生この人は誰ですか？」ときいた。

私はしばらく彼の顔をみつめてから、次のように語った。

『大阪に蘭学をもってきたのが緒方洪庵であり、大阪に整形外科をもってきたのが水野先生です。』

適塾には天下の俊才が多く集り 医学だけでなく広く蘭学を学んだ、幕末のあの時代に緒方洪庵が育てた多くの人材があったお蔭で、日本は欧米の植民地にならずに近代国家の幕明けを迎えることが出来た。慶応を開いた福沢諭吉もその一人。

また第二次長州征伐の際、高杉晋作は百姓も加えた奇兵隊を組織し、当時プロの戦争集団であった幕府軍を敗走させた。彼もまた蘭学を学んでいたとしか考えられないという説がある。

明治陸軍の創設者大村益次郎もまたしかり、海援隊を創った維新の先覚者坂本竜馬も蘭学の知識があつてのことでしょう。

阪大の整形外科教室の開講は、終戦の昭和20年。そこからこられた水野先生が昭和24年に市大整形外科教室の初代教授になられた。

学者としても教育者としても超一流で、阪大教授、川崎医大学長をつとめられた。

さらにアフガニスタンにも水野整形外科を創られた。先生の口癖だった「砂漠の真中に、落下傘で落とされても生きていける医師」をたくさん育てられた。教授になられた方も七・八人を数え、私の入局当時の教室員は30数名が、現在では500名近い在籍者を数えると聞いてます。

私にとって恩師水野祥太郎先生は、昭和の緒方洪庵であり、適塾の絵と水野先生の肖像をこの部屋におき、毎日眺めているわけだ』と。

話をきいてくれた十年選手のドクターは『そんな話は今日始めて聞きました。そんな偉い

先生だったんですか！」

先日 水野祥太郎教授、小谷勉教授を偲ぶ会で、「水野先生のことが今に伝わっていない例のひとつ」として、右の様なエピソードを紹介したわけです。

ふり返ってみると、私は昭和28年に卒業し、インターンを修了後「どこの教室に入ろうかな」と迷っていました。

当時水野先生の恐怖は学生の間にも知れわたっていたのです。

気に入らないことがあると、学生や患者の前であろうと「バカ バカ バカ」を連発して教室員を罵倒したり、手術中に勾の引き方が悪いと、手術用の金槌で勾を引いている者の手を叩いたり、当時の手術室用の下駄でへまな教室員の向う脛を蹴ったり（私も入局後その洗礼を受けました）している姿を、インターン生は皆見ていたのです。

殆どの同期生が入局先を決めたのに、まだ迷っていた私が、整形外科の医局をのぞきに行ったのです。24年卒の学生にも妙に人気のあった木部先生につかまってしまいました。『和田よ、整形外科は新しい学問で面白いぞ、水野先生は一生懸命教えてくれるよ、内科や外科に行かず、新しい学問と一緒に勉強しようや』と熱心にすすめてくれたのです。

木部先生の言葉で私の決心が固まったのです。

入局してからわかったことですが、あれだけの熱意をこめて入局をすすめてくれた木部先生が一番ひどく「バカ バカ バカ」の洗礼を受けていました。水野先生との師弟関係を微笑ましく印象に残っています。

さて、入局してみて最初に驚いたことは『日本は敗戦国だから朝9時から仕事をしていては間に合わない。回診・手術は8時から始める。したがってその準備のために、7時半には出勤すること』という水野先生の御命令。

教授室からはピーピーのコールが絶え間なく鳴って教室員が呼び出され、研究や手術の教育・指示がなされていました。

一番多くピーピーの洗礼を受けていたのは、つまり一番かわいい弟子であったのは島津先生だったと記憶しています。

水野先生が病院を出られるのは、9時前ということはありませんでした。深夜神戸に帰宅され、朝8時前には教室に入っておられた毎日。今考えると奥様の御苦労は大変だったと思います。

入局して間もなく水野先生独創の脊椎外科が始まった。冷膿瘍にメスを入れられたのは、おそらく世界で水野先生が最初だったと思います。

当時の学会ではヨソの教授達、特に京都府大の教授は色をなして水野先生を非難されていました。

しかし、市大の整形外科には全国から患者さんが集り、手術待ちの人が多く、さらには評判を聞いてハワイからも来阪するなど大盛況で、連日の手術。時には午前1時、2時までがんばりました。

教室員は帰宅しようにも終電はとっくに過ぎ、当直室は満杯。仕方なしに当時市大病院の坂を下ったあたりにあった遊郭に宿直をした剛の者もありました。（深夜を過ぎるとびっくりする程の低価になりました。）

あれほどの情熱と力で教室員を指導してくれた水野先生にめぐり会えたことは、私の最大の運というものであったかもしれないし、当時の教室員皆の思いであったでしょう。

先日、市大第一外科（昭和19年開講）出身で同じ区内で開業している十年選手と飲む会での話では、初代沢田教授、鈴木教授のエピソードを面白おかしく随分喋ってくれました。

私の十年間の医局生活で体験したことと、第一外科のエピソードは全く同じようなことでした。

市大整形外科では初代教授のエピソードが十年選手に伝わっていないのは何故だろう。私の思い込みが激しすぎるのだろうか。

先日の水野・小谷教授を偲ぶ会でそんなことを言ったら、竹村先生、高橋先生から『和田はん、水野教授はもう我々の世代の頭にしか存在してまへんで』と言われた。そうなのか……。といささか寂寥の感にとられる此頃です。



卒業42年の思い出

有馬 清徳

昭和22年（1947年）戦災の焼跡から産声を上げた大阪市立医大予科に始まる私の医師への航路は、現在の豊饒の時代では考えられない苦境の連続であった。金30円也の願書代だけで入学できたのは幸であったが、大阪船場の家財を戦災で失い、亡父の遺産であった数千坪の農地もGHQの命令一下、不在地主とて農地開放で取上げられ、我々母子3人の生活は、売り食いも尽き果て、とても学業に専念する環境ではなかった。幸い、市大予科の同僚T君のお世話で、競輪新聞の筆耕印刷の仕事を得て（日当800円）、育英会の学業資金貸与と授業料免除で何とか大学へと進学できたのである。

したがって、卒業後は就職できる医局が必要で、当時の水野祥太郎教授の下で、関西労災病院へ直ちに就職し、社宅も貸与され、しかも大学医局在籍の待遇も得られるとあっては喜んで整形外科に入局した次第であった。

開院間もない尼崎市の関西労災病院は、武庫川近くの田圃のまん中で、外堀も未だなく、当時、全病室の半数にあたる250床を擁する整形外科を率いる高知県出身の宮本孝男部長は、黒まむしの異名をもつ精悍な青年大尉を思わしめ、新入局の4名は正にてんやわんや、整形外科のABCからたたき込まれたのである。

朝8時から夜8時までの手術や、1人20名にも及ぶ受持ち患者の回診、処置、術前、術後の記録など、正に病院びたりの生活であった。

しかも給与は、新入りの看護婦と同じ1万3000円とあっては、喰っては行けず、民間病院への出張当直料で喰いつなぐ毎日である。

しかし、今にして思えば昔の良き時代と云うか、人情豊かで、慰めてくれる麗人も色々で、毎正月の部長宅での新年会や、医局の旅行、スキー場への出張診療、自動車の運転練習やゴルフに至るまで懐かしい思い出の数々がある。

ここで私の医師としての仕事以外に趣味として現れたのがオートスポーツへの参加であった。昭和35年（1960年）運転免許を左ハンドル車とった当時、関西労災病院での他科の部長がルノー、ヒルマンなど日本でのノックダウン車に興じたのに便乗して、数人で車を借り受けたのを皮切りに、15万円のオースチン（日産製）を購入、仙台の学会にも昔の

東海道を経て参加し、これが後年ヒルマン車となり、いすゞ自動車との付き合いから、日本初のグランツーリスモとして登場したベレットGTにより昭和40年（1968年）から10年に及ぶオートスポーツ（レースからラリーへ）への参加、となったのである。

さらに1977年、スイス・アルプスへの旅行で撮影した「マッターホルン3景」と題する私の作品が、西宮市展に入賞したのに始まる写真へのかかわりが、今日の医業と写真との併立へと進んだのである。

以下、私の卒業42年の思い出を年代順に辿って見よう。

昭和29年（1954年）；市立医科大学卒

昭和30年；医籍登録。関西労災病院整形外科勤務。（故宮本孝男部長）

昭和35年；医学博士の学位を受く（義足膝つき手軸位の研究）。自動車運転免許取得、オーステン、ヒルマンに乗る。

昭和38年；神鍋スキー場で負傷（右下腿骨折）。

昭和39年；ベレットGTによるオートスポーツに参加（レース）

昭和40年（1965年）；田中病院整形外科科長。鈴鹿サーキットでの参加、第1戦で6位入賞。

以後関西スポーツカークラブ、いすゞスポーツカークラブにて活躍、3位入賞。

昭和43年；鈴鹿12時間耐久レース、JAF公認レースに競技長、コース委員長、救急委員長としてレース運営に参加。

昭和46年（1971年）；西宮に有馬整形外科を開設、診療開始。レースよりラリーに転向。上位入賞を続ける。

昭和47年（1972年）；年間シリーズラリーに参戦、第8代JMGラリーチャンピオンを獲得（ワークス・ベレットGTRにて）

昭和49年（1974年）；いすゞ自動車のジェミニにてJAF公認関西500kmラリーに優勝。

昭和53年；海外旅行において写真撮影を開始。写真家本庄光郎氏の指導を受く。

昭和54年；西宮市展（写真の部）大谷記念美術館長受賞。（マッターホルン3景）

昭和55年（1980年）～57年；西宮市展に3年連続西宮市展賞受賞。白光写友クラブ入会。

以降、芦屋、宝塚市展、兵庫県展、朝日写真展、二科展等に入賞多数。

昭和58年（1983年）；第1回有馬清徳写真展開催。中国よりローマまでシルクロード撮影を続ける。

昭和63年（1988年）；シルクロード写真展「時は光りのなかに」東京（有楽町阪急）大阪（阪神百貨店）で開催、写真集も出版。

平成元年（1989年）～65年（1990年）；南極取材の作品展「南極光」大阪、神戸、東京で開催。

平成3年（1991年）；「シベリア北極圏」写真展 東京・大阪で開催。写真集出版。

平成4年（1992年）；シルクロードの続編、「時は光りのなかに」（ペルシャからメソポタミアへ）を東京・大阪富士フォトサロンで開催、写真集を出版。市大開業医会で講演。

平成8年（1996年）；1月大阪阪神百貨店美術画廊、2～3月奈良市写真美術館にてシルクロード総集編写真展を開催す。

現在、日本写真作家協会常任理事、日本写真協会、日本写真芸術学会、日本旅行写真家協会各会員、白光写友クラブ会長を努め、尊敬される写真家像を求め全国的に活動を行い、また、次回作として、ベーリング海峡とその周辺を取材中で近々発表を予定している。



枯淡診療閑話

花岡 俊行

田村先生に聴いた話ですが、かつて大阪労災病院の初代院長を勤められた小沢先生が、早朝、病院の玄関を掃除されていて、定刻に出勤してきた医師を驚かせ、恐縮しながらその姿に感動したというエピソードがありました。

私は自分の医院で受付職員以外は人を雇わず一人で運営していますので、玄関のシャッターは自分で開けることになります。年月が変り人が変わっても必ずいつも扉を開ける前に早く来る老人患者がいて、その人と時間を競ってしまうことになり、段々とエスカレーターして5分、10分と早めに開けなければならず、朝寝坊ができなくなってしまいます。

戸を開けるとゴミと缶が必ず内・外に捨てられていていつもムカッとしします。風のいたずらで舞い込んだものも多いのですが、明かに故意か無分別に捨てられたゴミもあります。特に休診の翌日はいろいろなゴミの溜り場で、玄関前の楠の大木の落葉は許せますが、タバコの箱とセロハンテープ、吸殻、チリ紙、新聞紙から雑誌、段ボール片とあきれるばかりで、缶は飲み物が半分程残したままであったり、チョココンと据えて置かれたりして怒りもきりがありません。掃除は受付の女性が後でするにしても一応気になるゴミは除かないと気がすまず腹を立てながら作業する始末です。小沢先生のことを思うと我慢々々とストレスを抑えています。卒先して大きい気持で周辺を綺麗にしておくことも地域医療サービスのひとつとゴミを拾っています。それにしてもとんでもない物を捨ててゆく奴がいます。

記憶違いだと失礼ですが、香川医大の学長になられた恩地先生が附属病院の外来玄関で自ら患者の案内と相談を引き受けられたことを新聞で読んだことがあります。先生はおそらく「診療」の入口のサービスを重視され、その手本を御自身の実行で示されたと強い印象を受けた記事でした。

話のスケールが小さくなりますが、受付や待合室に花を生けておくサービスも患者を迎える心構えとして必要でしょう。ほのかな花の香と色合の美しさは癒しの心を誘うかもしれません。玄関は患者からみて医院の第一印象となるかもしれません。

開院当初は家内がささやかに花を生けていましたが、受付の女性の母親が田舎から沢山見事な切花をかかえて持って来てくれるようになり、花瓶をかき集めあちこちに色彩のあでやかな自然の贈り物が飾られるようになりました。そのためか来院する患者が次第に花に興味をもち、待合での話の種にこと欠かない様子でした。数人の老婦人がそれぞれ自作の切花を次々と持ち寄って品評会よろしく育ての苦心を語り合っています。

ある時、初期のリウマチ関節炎の婦人が来られ、この人が大へんな園芸マニアのうえ治療で元気を取り戻すとよくしゃべり、待合も一時、新しい花の名：ランンキュラス・アクスロメリアで賑わいました。そのうちこの婦人を中心に待合で苗の交換が始まり、一時は種苗市場を思わせる活気があり面白い現象でした。この人の症状がやがて悪化進行するにつれ来院も遠のき在宅のまま縁が切れると、このブームも過ぎ去って定期に持ちよってくる患者さんの花で今も和まされています。

水野先生がちょっとしたことにも節約やリサイクルを日常の仕事の中で心がけておられることを懐かしく思い出します。診療室の身近なことにその精神を役立てるようにしていま

す。

医師会から来る沢山の情報のコピー紙の裏は必ずいろいろと使い、毎回の封筒も捨てずに応用して使うようにします。机の周辺の小物入れは薬の箱や缶で整理しています。ディスプレイの材料の多い医療の現場で産業廃棄物は増える一方です。些細なことでも、せめて罪ほろぼしに環境対策に協力すべきであると考えています。

とりとめもないことを失礼ながら3人の偉大な先生の日常の姿を偲び書いてみました。年齢を考えもうしばらくこの調子で仕事を続けてみようと思っています。



ヴァンクーヴァーのんびり 3 週間

吉田 正和

7月17日、家内・末娘と Air Canada で Vancouver へ。帰国は8月6日。大阪空港でなく関西空港になって、豊中の私にとってはとても不便だ。この数年、殆ど毎夏多湿高温を逃れて Vanco. 市内の、各航空のクルーも泊まるホテル内に PentHouse を30日間予約している。最上の18階でテラスからの眺めは良いしツインでもダブルでも入るベッドルームが2つと広いリビング・ダイニングルームで炊事場も浴室もあり、諸サービスはホテルと同じだが出入り自由で、いざとなれば7人は泊まれる。ここを拠点に気ままに行動出来る便利さが気に入っている。その代りに米・味噌・醤油・海苔・鰹節・米酢から午糶・山の芋まで、あちらでは良い品が手に入らぬ物は持参し、サーモン・肉類・野菜・果物は買い出しに歩いて気ままに料理する訳。山上千メートルのスキー場にワラビが沢山生えているのを発見してからは重曹も欠かさない。

2日目にナイアガラ観光帰途の家内の従弟夫妻が立ち寄ったので、早速キンピラゴボウで歓待し驚かす。3日目は B.C.Stadium へアメフト試合を観に行く。夕食のバスケットを注文・持参し、地下鉄で2駅だ。

今年は遠出はしない心算。4日目からは女共はショッピング・ロックバンド・公園めぐり、私は Stanley Park の森や Grouse Mt. へ昆虫採集に。亜熱帯に近い日本の様には虫が多くないし、街は消毒が徹底してるのかモンシロチョウも蚊も緑に見掛けないが、森林地帯へ行けば面白いものも採れる。1993年には Gr. 山上でアカボシウスバシロチョウが沢山翔んでいるのに驚いた。今年の狙い目はセダカオサムシ族2種、これは一昨年・昨年各一頭だけ得たが、生命誌研究館のDNAによる分類研究の材料に全体をと頼まれたから。と言ってもそう簡単に採れるものではない。滞在中に公園へも山へも5～6度づつ通ったが、山上の谷筋に仕掛けたトラップで1種6頭をようやく得ただけ。それでも、8月3日に後追いで来られた同館顧問の大澤名大名誉教授は「これだけ採って頂いたら、私はもう帰ってもいいくらいです」と喜んで居られた。彼は後 Whistler で同種を3頭得たが、もう一種は遂に2人共採れなかった。又来年だ。

虫採りの苦労はさて置き、山や森歩きは楽しい。森の中のビーバーレイクには（もうビーバーは居ないが）赤・白・ピンクの睡蓮が一杯咲き水鳥や小鳥の姿も多いし、山は涼しく

て今年は蚊・ブユ・アブも割に少なく、深い針葉樹林の崖道際には亜高山植物の花が咲き蜂や蝶やカミキリムシ等が訪れる。雷鳥の親仔やリスにもよく遭うが、Black Bearも時々現われるので一寸気をつけて歩く方がいい。1,200m余の数峰を持つ山塊だが、地下鉄・SeaBus・Bus・ロープウェー・スキーリフトを乗り継げば、さして歩かずに1時間半で1,100mまで登れる。私は半額のSeniorだから、2ドル25セントのDaypassでロープウェー以外は何回でも乗り換えられるし、ロープウェー・リフト共通券も割引なのでタクシーを使う必要もない。

山でも欧・米・亜各国の人々が登っているの、ドイツ語や中国語・朝鮮語等で挨拶を交わすのもまた面白い。今回は捕虫網を振っている後方から降りて来た日本男性が「虫採りですか」と声を掛け「シロチョウにしては翔び方が違うと思ってたら、ウスバシロでしたか」とよく知っている様なので、名刺交換をしたら岡山の大学の分子生物学教授で、U.B.C.で学会があり一日暇が出来たので手近の山へ登ってみたのだ、とのこと。しかも「私の知合いでは大澤と言うのがオサムシ気違いですが・・・」とは、まことに奇遇だった。

7～8月にはSt.Park南端の海岸で毎年数回花火大会がある。ホテルのテラスからも打ち上げは見えるが、やはり真近で仕掛けも観ようと、砂浜にゴザを敷いた。家内と娘は持参の浴衣で下駄をカラコロ鳴らして行ったので、あちこちから「コンバンワ」「お元気ですか」「その履物は？」などと声が掛かり、中々の人気。スペイン・ポルトガル等々の競演で、日本・中国の花火師が参加する事もあるが、数千発30分程度でPL花火にはとても及ばない。でも各国の男女老幼多数で賑わい、ドドーンと大きく開くと歓声が浜を揺るがす。一帯は歩行者天国で出店・大道藝・ロックバンドetc.もゆっくりと楽しめる。

13日まで居たいと言う娘を残して夫婦だけ帰国、10日にはお盆休みの次男が行ってドッキング、17日まで夜の街を十分に楽しんだらしい。オサムシももう一頭採って来た。治安は日本並みに良いので、独りでも先ず心配はない。こんな出たり入ったりが出来るのもPent Houseの利点で、来夏の予約も済ませて来た次第である。



熊との出会い

宮内 貴

それは、笠ヶ岳（岐阜県、2897m）よりの下山途中であった。

65才の節目にと、平成6年盆休みに4泊5日の縦走に出た。西穂高、穂高、槍ヶ岳、笠ヶ岳山荘に泊り、笠新道を新穂高へと降りた。常日頃のわずらわしいもろもろのこと、患者のことなどすべてから開放され、この4日間、のんびりと、ひたすらに、ただ一人の世界に遊ばせてもらったことに感謝しながら、予定どおり、途中事故もなく、満ちたりた気分で歩いていた。

山行のかえり、いつもそうだが、またあの喧噪な大阪へもどらねばならないかと、うんざりした気持でもあった。

予定では新穂高へあと1時間程のところであった。道はもちろん、大小の石ころだらけの巾1m、高さ1m位の堀割りの急斜面で、熊笹と低木の生い茂る悪路で、足もとだけに全神経を集中してあるいていた。耳に入る音としては、ときどきの小鳥の鳴き声と、自分の靴音だけの世界で、前後には登る人、降りる人はいなかった。無音の境地であった。

突然!!。3-4m前方の堀割で右側上方より左側へ大きな黒い塊が地響きをたてて、宙をとんで左側の笹藪へと消えた。足もとだけを見て歩いていたため何事がおこったかわけもわからず一瞬茫然と棒立ちのままだった。

藪の中をブルトナーでも移動しているかと思った。次の瞬間ピタッと物音は消えた。5-6秒してまたガサガサと移動する。2-3回くり返して、だんだん遠ざかっていった。棒立ちから我にかえってやっと足が動いた。5-6歩歩いたところで道の両側の土くずれを見て「ははん、そうか」と納得できた。右側の藪を見上げて、またびっくり。棒立ち。子牛ほどの黒いものがおる。しばらくの間にらめっこのかたちで身動きができない。もう一頭いたのだった。数秒ののち右側の藪のなかに先程と同じように移動して遠ざかって行った。

やっと我にかえった。いやおどろいたの、びっくりしたの、表現がむずかしい。

知らぬが仏のこっちに比べて、むこうさんはこっちの動きをじっとうかがっていたらしい。自分に危害がないとみて退散したものらしい。こちらは加害どころか何もできなかった。ただ恐怖のみが残った。もう夢中で石ころの急坂を走るが如くかけおりた。

老婆心ながら新穂高の登山案内所に報告した。白髪のおっさん「ああ、そうですか、わかりました」それだけ。帰路、平湯温泉の道路沿いに「熊牧場」の看板が数ヶ所あった。タクシーの運転手「ときどき出てますね。怪我人もけっこうありますよ」とのたもうた。



時の流れの中で

石上 直

終戦後の混乱が続く中、私には今風の語るに足る充実した青春などなかったように思う。旧制州本中学、旧制第六高等学校、阪大、大阪市大へと当時の学制改革の波に揉まれ、物心ともに貧相な時代であった。その頃は学費のみか生活費も稼ぐために、所謂アルバイトに明け暮れた。その後医師になってからも方々の病院へ手伝いに出る機会が多く、あるときは某医院で6畳位の和室で虫垂炎の手術をするはめになったといった、今では考えられないような経験もあり、善悪は別として医療全般の浅いが巾広い雑学を身につける結果となり、後年開業するに当ってはかなり役に立った。

S32年からS45年迄、部長以下14名、整形外科だけで250床を持った関西労災病院整形外科に身を置き医師としてスタートした。この後随分長い間医局の末席をけがしていましたが、医療の面でも、研究学会関係のことについても、実にいきいきと活動しておられた良先輩達に恵まれ、そこで学位まで取得できたことは、いまだに懐かしく、諸先輩に深く感謝しています。最近、目下改造新築中の関西労災病院を訪れた際、今なおちらほら当時

のスタッフが頑張っておられるのに接し驚いています。その後約5年間は個人病院に在籍し、そこで2名の一般外科医と共に過したことによって、一般外科、麻酔についてもある程度の知識を得る機会がありました。

そしてS50年、新しい街泉北ニュータウンで開業する運びとなりました。当時企業局などの意向で整形外科の標榜はできませんでしたので、石上外科と名乗りました。蓋を開けてみると標榜、科名などどうでもよかったのではないと思われる状況でした。新しい街は若い世代の人達であふれ、子供の多い町でした。近くに医療機関がなかったせいで、実に雑多な科に渉たる患者が来院しました。全てに対応したわけではありませんが、分を弁えながら守備範囲の他科診療もやってきて、今も続いています。他方個人医で、一人で手術するなどということは社会通念に反する時代に入りつつありました。開業して最初で最後の手術は上腕果上骨折でした。しばらくはこれまで関連した病院に赴き手術をやっていましたが、それと自院が多忙になるにつれ、本格的な手術から手を引き遂にメスを捨てました。

その頃から校医、PTA会長、医師会理事、地区スポーツ団体や老人会のお世話など、およそ町の開業医が辿る道を踏襲してきました。変わったところでは民生委員もやられています。新興住宅地での住民の動向を知り得る立場にあり、地域医療をやっていく上で大変助けになっています。

開業してメスを捨てた頃から、少年期以来の夢であった絵を画くことを始めました。しかし間もなく、単に壁面を飾り、あるいは棚に置いて楽しむ熊の飾り物は、日本住宅事情や都市構造の貧弱さの故と思われ、だんだん満たされなくなってきました。屋内外を問わず、しっかりした occupation を持つ立体造形物に憧れを抱くようになり、また一方精神的にも、淡泊で見慣れた日本的感覚ではなく西欧文化が持ったたかで強靱な感性を垣間見てみたいとの願望が芽生えてきました。たまたまその願いに合致したある彫刻家に出会ったことを切っ掛けに、そのままずるずるとその魅力に取り付かれ、彫塑の世界に入ってきました。本質的に異質なものを求めたのだと思います。初めは趣味の積りで入った世界ですが、五里霧中やっていくうちに二科展に出品するようになり、今年で連続12回入選することができました。こうなるともう趣味の域をいくらか越えてしまい、この世界での新たな意欲が湧いてきました。ところが、医師として科学的な思考形態の中で長く培われた精神が、もともとはみ出せない生真面目な性格と重なり、自由で創造的造形を生み出す上でマイナスになっているのではないかと感じ始め、果して科学的思考が基になっている医業と感覚的な世界にある彫塑が同一人の中で共存し得るものなのか疑問が出てきました。今は悩みながら私はその中でしかできないものがきっとあるに違いないと信じて、これからも続けていくことにしようと考えています。

この他、ゴルフはときどき。社交ダンスは最近ブームの故か機会が多く、妻との唯一の共通の趣味としてやっています。忙しいことです。

保険医定年制が取り沙汰される昨今。両道とも可能な限り頑張りたい。

簡単な自己紹介に終止しました。よろしくお願いします。



私の故郷

竹村 永

私の本籍地は奈良県橿原市曲川町である、私は此处で生まれ、育ち、約30年間そこで暮らしていた。もっとも、昔は奈良県高市郡金橋村曲川であったが、八木町、今井町など周辺の町村が合併して橿原市ができたのである。奈良県の地図をご覧になればおわかりになるが、南半分が吉野地方の山であり、周囲を山に囲まれた中央が大和盆地である。吉野や、宇陀地方の人達は大和平野の真ん中の事を国中とよんでいる。現在の高市郡は橿原市と高取町と明日香村だけである。私の生まれた村は、橿原市の最も西に位置しており、竹之内街道につづく長谷街道沿いにあり、高田から葛城川を渡ればすぐである。村の東は曾我川が流れ、隣町の曾我町になる、曾我川は越智岡丘陵の西側を北に流れ、曾我町で高取川と合流し、北西に大きく湾曲している。この湾曲している所の西南にある村落が曲川（まがりかわ）で、その地名は地形即ち川の形から名づけられたものと考えられている。その昔、曲流が名所となり、天文12年(1552)2月の「吉野詣記」によると、称名院三条西公条がこの地の風情を愛し、曲流する桃の花びらに曲水の宴のことを思い出し「さかづきに千歳もめぐる桃の花、川はまがりの水にうかべて」という歌をのこしている。現在は洪水が多いため、河川改良事業で護岸工事が進められ昔と違った形になっている。

また、曲川は安閑天皇の勾（まがり金橋宮があったところで、安閑天皇紀元年正月に「都を大倭国の勾金橋に遷す、因りて宮号とする」とあり『古事記』安閑段に「御子、広国押建金日命、勾の金箸宮に座しまして、天の下治らしき」とある。勾金橋宮あとは、曲川の大垣内の金橋神社だと諸書ともに比定している。これはこのちかくに「大宮ノ坪」という子字の名が残っているのが大きな根拠になっているが、現在は訪れる人もないぐらいのささやかなたたずまいである。この村から西をみれば二上山がきれいに見えた、西に沈む夕日は、昔の人が夕陽丘から海に沈む太陽をみて西方極楽浄土を思い浮かべたと同じように、雄岳と雌岳のあいだに沈む夕景は、当麻に生まれ『往生要集』を著した天台宗の学僧、恵心僧都源信がこの西に沈む夕日をみて感じた想いと同一のものであろうかと考えている。

私は此处から、畝傍中学、畝傍高校へ6年間かよった。中学入学当時は戦争中であり、学校から4 km以内の生徒は徒歩通学が原則であった。私の家は学校から3.7kmということで歩いて通った、曲川の東隣の町は曾我である。現在この二つの町には国道24号線のバイパスが通っている。此处は5世紀末に大和朝廷に迎えられた木満致の一族や、その従者たちが定着したといわれているところである。曾我川の堤防に沿って北に歩くと、近鉄大阪線の真管駅にでる。この駅のすぐ西南に宗我都比古神社がある。式内社で後世に蘇我馬子の建てたものであるという伝承が加わっているが、祭神は宗我都比古・宗我都比売の両神であり、当地の地主神であるのだろう。弥生遺跡として有名な中曾司遺跡はこの神社のすぐ北西にある、また最近話題になった藤原京の北西端は24号線のバイパス沿いである。このあたり東に三輪山や大和三山を望み、西に二上山や葛城、金剛の山なみを望み、穴虫道、竹之内街道に通じる交通の要点であった。

曾我の町を出てしばらく歩くと今井町にはいり、この町はずれに飛鳥川が流れている。この川に架かる橋を渡ると八木町である、私の出た学校は八木町の東のはずれにあり、近

鉄大阪線を挟んで、北東には耳成山がある。何年か前、NHKの朝の連続ドラマ“よーいどん”という番組の冒頭の運動会のシーンは、我が母校の校庭で撮影された。余談ながら、うちの医局には、畝傍の出身の先生がたくさんおられそれぞれ大活躍しておられる。福西、松田兄弟、原、増田、森北の諸先生であり心強い限りである。

学校から南に行けば、藤原京を通過して甘樫丘を通過して明日香の石舞台に達する、古代史ブーム、観光ブームに賑わう明日香の里であるが、古都保存法によって保護され、観光バス、サイクリング車、人、人、人であふれかえり昔日の面影はないがよく遊びまわったなつかしい場所であり、明日香についてはいろんな本にかかれていますのでそちらに譲りたい。駄文お読みいただければ有がたいことである。



若かった頃の断章

階堂 嘉寿雄

市整会にお世話になって25年にもなりましたか一何を書くべきなのか良い案が浮かばないまま書き出しましたので勝手な独言とお許し願います。以下—

さていつの間にか老人になって昔を振りかえることで何かを見付けるかも知れません。しかも8月という月ですから、半世紀以上もスリップしてしまいました。その頃国家（イコール軍部）は我々当時の若者が学校を卒業するまで待ち切れず半年から一年も早くいい加減に学業を放棄させ戦場へさらって行きました。私自身も浅はかな怖いもの知らずでした。輸送船では敵潜水艦に追いかけられたり、味方の空軍機がその潜水艦に体当たりしていても、まるで当然のことのようにな一種麻痺したような感懐でいたようです。とても許せない恐ろしい感情です。それは護衛空母から飛び立った何処の誰とも知らない矢張り我々と同じ仲間の若者が自分を捨てて救ってくれたのに違いなかったからです。

南方の僻地でいわゆる玉砕予定の部隊付き軍医として着任したとき僅か24才でした（入隊は22才）。その地はマラリア、デング熱、チフス、赤痢等の伝染病に囲まれた環境の熱帯地でしたが何とか切り抜けていました。少し慣れた頃です、ある憲兵が現地人から押収した粉末を苦味のため胃薬と思い何グラムか服用したのが何とストリヒニンだったらしく、それはまるで薬理の実験さながらの最後を看取りました。

ある時のことです、私の部隊は船舶部隊（暁部隊とも称しました）に属し海岸に駐屯していましたので港湾でやられた海軍の将兵も診ましたが爆雷で砕かれた両下腿開放骨折で骨端が飛びだして両方の下腿が折れ曲がったまま岩壁に泳ぎついた凄惨な精神力の水兵や、腹部穿孔を輸送トラック内でほとんど声を漏らさず頑張り通した海軍学徒士官たちもみんな同年輩の仲間でした。船が魚雷で真二つになってもかろい背骨の損傷ですんだ兵隊もありますがたいはいはどうしようもない死が至る所にありました。原隊で共に過ごした中井軍医（慈恵出身）も乗務中の病院船（サイベリア丸）でこちらへ来る途中で撃沈されました（彼はたしか泳げないと言っていました）。

また空軍でさんざんに叩かれても陣地を温存する為に沈黙を守る情けない味方の高射砲

隊とか、あとで被害状態を偵察にきた友軍機を腹立ちまぎれに銃撃したこと等いろいろ。

そのうち嘘のように終戦。しかしホッとしても油断できません、現地（北部スマトラにいました）インドネシアの独立戦争が始まったのです。その巻きぞえをくった日本軍小部隊の犠牲の続発（耳や鼻をそがれ虐殺されていました。インドネシア人が兵器獲得のため日本軍の小部隊を味方の損害を顧みずに大軍で襲撃し相手を全滅させて武器を奪う―独立戦争に必要な兵器の調達―という作戦をとっていたからです）。こんな中私自身も危なかった経験があります。ある日分散した分遣隊の診察に本隊から離れたとき衛生兵一名とで現地人20名位に包囲され、さてはとドキッとしたことがありましたが、そのとき付近の民家の中年の女性が何か大声で怒鳴って解散させ命を助けてくれました。軍刀こそ吊っていましたが腕の赤十字のマークのお蔭だったかも知れません。このおばさんも何処の誰かも判りません。人生何処かで誰かに会い誰かに救われている、何んと不思議な有り難い事だったろうと思います。

とにかくするうち現地で英軍から武装解除を受け丸腰になってマラッカ海を渡りシンガポールの戦時捕虜収容所に移動しました。チャンギーという所です。戦犯刑務所があってまだ時期が早かったせいもあり、本国からの正式な弁護団が来ないうちから軍事裁判が行われてだいたい不当な処刑も行われた噂を耳にしました。岩波文庫「きけわだつみのこえ」に我々と任地が同じだったその人の遺書がのせてあります。

ここの収容所は強制労働用の収容所であって降伏条件として国家賠償の一部だったのでしょう。我々当時は若者はこのように戦争で生命の供出を強制され、幸い生き残ってもその誤った国家の償いの為に強制労働に服させられる、そういう虐げられた世代だったと言えるでしょう。

そうしてここで何年働けば帰国させてくれるのか、どれだけの作業をなしとげればすむのか全く判らないまま半ば絶望的な気持ちにもなりましたが、いつかは帰れるに違いないと信じ現況に甘んじるしか仕方ありませんでした。それでも自分の部隊や軍医を持たない小部隊の医務に毎日携わる日常は砲火にさらされる嘗ての境遇からみれば有り難いことに平和を味わえたのです。

こんな状態では中には破れかぶれに連合軍の物資倉庫を襲撃する無鉄砲な連中（多分現地に流して金儲けをする目的）がいてそのための射殺された死体は原隊へ送り返されてきますが、そのとき創の縫合にワイヤが使用されている事を初めて知りました。縫合用としての金属は何とも痛いたしく感じました。（弾丸の摘出と救命の為にだけできた創かどうかを疑いました―被服包帯がなく全く出血の痕跡が認められませんでした）。

収容所ではまたこんな事がありました。ある夜半のことです、収容所は当然有刺鉄線で囲まれています、そこを突破して近くに住むらしいマライ人（中国系と思う）の男が意識を失った子供を抱きかかえ助けを求めて私の医務室へ飛び込んできました。軍隊では小児科の経験がありません。全く困ってしまいました。そのときフッと小児科の西沢教授の講義で子供の「ひきつけ」を見たら何でも「かん腸」してみよと言われたことを思い出し実行したところ、それこそ何十匹ともちょっと数えられないくらい多数の回虫の塊を排出しゾッとするほどでしたが子供は物の見事に意識を回復。大喜びの父親があとで50本入り缶詰の英国たばこをウントコサお礼にと例の囲いを抜けて持ってきてくれたのには何事につけ不自由だったこちらも大喜びしました。

次からつぎへと今まですっかり忘れていたことが数限りなく湧き出てきて際限がなく肝心の整形外科開業の経験を書く余裕が無くなってしまいました。整外を勉強させていただくようになったきっかけは（私の学生の時はまだ整外の科目がなくたしか骨折学といいま

した) 家にいたばあやさんが肩の脱臼骨折をおこして来院しました時以来です。その整外におられた小谷先生がなんと私がシンガポールのチャンギーにいた頃隊の医務室の丁度向かい側にあった南方軍司令部に出入りされているのを時々お見かけして覚えていたので本当に奇遇でした(多分通訳もなさっていたのだらうと思います)。

それから水野教授の外来診察での名講義を受け感銘を受けました。開業かたわら見学程度の研修でしたが今こうして振りかえれば最も素晴らしい時期だったと思います。

今はもう人生の黄昏が訪れ平均寿命も過ぎてしまった。これからは神が与えた付録の人生であり、最後の最も厳粛な試練に立ちむかえるよう整理すべき時なのであらうと考えています。



戦 争

江 口 亨

当時的大阪・上町台地と呼ばれた法円坂には、未だ天王寺～梅田間の市営の路面電車が通っていました。

私が、かつて国立大阪病院整形外科入局2年目の昭和37年には、富田林の府営住宅より、朝6時半前に家を出て、通勤したものです。

交通は、近鉄河内長野線と、天王寺～上本町一丁目間の電車2本でしたが、上本町筋は、当時もすでに車の渋滞がひどく、市電とてなかなか順調よく走ってくれるものではありませんでした。

或る日、一日の勤務を終え、病院を出て市電の停留所の方に差しかった時、当時の内科部長Y先生と一緒にになりました。

Y先生は、インターン時代よりご指導を受け、やさしい瞳に微笑みを浮かべ、落ち着いた言葉遣いをされる温厚なお人柄で、やや面長な顔立ちに薄くなった頭髮、血色の良い顔色と、恰も佛像面を思わせるようなご容貌の方で、常々、尊敬の念を抱いていた先生です。

丁度運悪く、その時間帯は、通勤のラッシュ時とかち合い、路面より一段高く造られた停留所には、立錐の余地なく、市電待ちの人々であふれていました。

私達2人は、後の電車を待とうということになり、歩道際で電車待ちをしていたところへ、やがて市電がゴトンゴトンと音を立てて走って来ました。

電車が止まり、ドアが開くや開かずの内に、待合客が乗車口に殺到しました。その場は我先に乗車しようとする人々で瞬時にして混乱を極め、小ぜり合いが始まり、乗車がかどらないばかりか、後に続く乗客の中には、停留所の高段より路面に落ちる人も出る始末でした。

「江口君、戦争とは何かね？」

突然、Y先生が私に声を掛けられました。お偉い先生に、突拍子もない質問をされ、直ぐにはお答え出来ず、戸惑っていました。

「見てごらん。－あれが戦争だよ。」

「－？」

「今、あそこで起こっている電車への先乗り争いが、もし、国家単位・宗教単位で行われれば、これが即ち戦争だよ。」

「－？」

「この様な光景を巷で見る限り、この世から戦争は絶対に無くならないよ。」

私は、この日の出来事を暫くの間、繰り返し繰り返し考えてみました。やがてY先生の言葉は、戦争を定義づける単純かつ明快なものであると確信するに至ったわけです。

この日の出来事を経験して以来、既に30有余年が過ぎ去りましたが、世界史をひもとくまでもなく、今だに地球上のあちこちで、様々な戦争が絶える間もありません。

この地球上から、戦争は無くならないものなのでしょうか。世界各国の主導者達を一国に集め、タイムカプセルを使い、30年前の混雑する市電の現場に連行したら、主導者達は、各自どのような行動をとるのでしょうか。そして皆さんは、この光景を想像しながら、ブラックユーモア風の政治漫画にするとすれば、どのような画を描かれますか。非常に興味深いものです。



あるべき開業医像

吉中 正好

これからの、整形外科医としての開業医像について私の考えは、次のようです。

整形外科医としての専門知識は必要です。この上に立脚して更に巾広い医学に対する知識、一般常識を要求されると思います。

私は整形外科医だから他の事は知らないでは、通じない世の中になると思いますし、狭い医学の中に閉じこもらず、世間の人々と巾広いおつき合いをなし、また色々な趣味を持ち広いさらに深い人間を形成していく必要があると思います。

この事は患者さんに接する態度に自然とにじみ出てするもので患者さんと対等で人間同志のお付合が可能となるのではと思っています。

ともすれば医師側が有利な立場で患者さんを診てやるのだとの思いが態度にでるものです。特に（大きなバックのある）大学、及び官公立の病院に勤務されていると、このような傾向が自然と自分で意識しなくとも態度で表われてくるものです。

自分の経験からすれば大学に在籍している時、外来診療には、うんざりする程の患者がこられ、自分の実力の程を知らずに自分自身を偉いと勘ちがいし、自然と態度が大きくなってしまっていたものです。

これが、開業してみるといかに大学又は大きな病院で頑張っただけで自分自身で偉いと思っても患者さんには、なにも関係ないことで患者さんにとっては、いかに親切で患者さん自身の病気のことは勿論色々なことに相談に乗ってくれる医師であり人間であってくれるのが大切なのです。（※医学的〈整形外科的〉知識、経験を十分に蓄積をしてあることは必須

条件ですが…)

この間食事をするためにある食堂に入ると「同じような店が多くあるのに当店を選んでいただき心から感謝いたします」と掲示してあったのを見たのですが、本当にそうだと実感しました。これからは医療情勢は冬の時代にはいり、きびしい日が続くものと思っていますが経済面では苦しいが、心の安まる人間としての医師の活動を続けて医師としての満足感を持つことが出来るよう念じております。



「25才のころ」

石崎 嘉昭

昭和36年に大阪市大医学部を卒業しました。丁度25歳の春で当時、まだインターン制度があり、教務に全国のインターン受け入れ病院の名簿が備えてありました。大阪から離れたい思いもあり、北海道の病院を選びました。そこは札幌から函館本線で旭川方面の砂川で上砂川線の支線に乗り換え、終点の上砂川で降りたところです（現在廃線）。その炭鉱町には、三井鉱山の経営する山の一つで三井砂川鉱業所という石炭鉱山がありその附属病院に行きました。国のエネルギー政策の転換のため石炭産業は構造転換を余儀なくされ、従ってこの町にも規模縮小に伴う退職者や離職者の募集などが始まりかけた時期だったと思います。私は鉱業所につとめる独身者や単身赴任者の入る朝陽寮に入れてもらいました。その寮には会社の職員以外に病院関係では2人の外科の先生と我々インターン4人（北大、2名、札幌医大1名）でした。外科、整形外科、内科、小児科、皮膚科、産婦人科のある百床足らずの病院でした。北大から来た一人は大変まじめで、後に札幌市立病院の耳鼻科で活躍しました。札幌医大出身者の秋野君と言って彼もまたまじめな人で母校の生理学の教授になりました。現在消息不明の山平君は私と一番近い感じで勉強よりも人生を楽しむ方に重点を置いていました。眼科や耳鼻科の常勤の先生はおられず週に数回北大から出張して来られました。当直も当たりましたが免許状もないのに一人前の医者のように振る舞って主に風邪や疲労など簡単な患者を診ました。外科はこの病院では花形の科で、5～6人の医師がおられました。当時としては先進的な犬をつかって肝臓移植の実験などもしておられました。後に北大第一外科の教授になられた葛西先生が当時講師でそのグループの仕事を指導されていたようでした。初めて当直したとき、子供の患者でこわい、こわいと訴えるのでなにがこわいのか聞いても訳が分からず困っていると、ここの言葉で「こわい」という意味は、大阪弁の「しんどい」と同じ意味であることが分かり、早々に日本も広いものだ后感心しました。約一年間この病院で研修を受けましたが、その間いろいろのエピソードがありましたが少し紹介させていただきます。一つには悲しい出来事ですが、坑内で落盤事故があり、崩落した坑内に埋もれて炭塵で真っ黒になった何人かの犠牲者を数人のインターンが、家族の方々にショックを与えないように変形した四肢や、ヘルメットをかぶったまま偏平になった頭部を見やすく形を整えたりそれこそ泣きたい思いで作業しました。炭坑ではガス爆発、坑道の崩落、水没など常に危険をはらんだ作業環境です。こち

らに來なければ、意識しないで使っているエネルギーも、多く人々の犠牲の下に生み出されていることが実感として判らなかったと思います。それに関連して、外科の田中先生にしばしばタクシーで30分の距離にある砂川市のキャバレーに連れていてもらいました。何回か行っていると、同じ顔ぶれの数人のグループに時々出会いました。先生によると鉱業所の幹部と労働組合の組合長や幹部の人たちでした。当時はまた総評の中でも炭労は戦闘的な組合の一つでした。坑内の事故や、経営側と労組との対立（石炭産業の斜陽化に伴う）等がありこのような姿を目の当たりにして、まだ若くて単純な頭には想像外の出来事でした。楽しい思い出としては、病院から山スキーにバスで行ったとき、スキーの板にシールを付けて登るときは遅れずに付いて行きましたが、さて下る時にはこちらの人は林の中を縫うようにすいすいと滑っていきますが、私は付き添ってくれた人に見守られながら、木の一本一本にしがみつくようにしてやっとの思いで麓の道まで辿り着きました。先行者はバスの横で薪を燃やし暖を取りながら待ってくれました。皆さんに大変迷惑をかけました。この上砂川町内にもこじんまりとしたスキー場がありました。そのリフトには座席が無く、上部を走るワイヤーから太いロープがたれ下がっていて、ロープの下端に団子状に結び目が作ってあり、乗り場からスキーを付けたまま、ロープを素早く股に挟んで雪の斜面をスキーで滑りながら上がっていくのです。しばしばバランスを崩して転倒し次の人に迷惑をかけました。リフトに乗るのも一苦勞でした。時には鉱業所の職員のひと、芦別岳や十勝岳などに登ったり、インターンの連中と女性を誘って支笏湖等に遊んだりしました。北大のインターンの人に頼まれて時々汽車に乗って函館本線の深川駅の近くの深川市立病院に当直に行きました。深川は砂川に比べてさらに寂しいところでした。当時は患者さんは馬や、冬など馬そりで通院してくるそうですがそんな雰囲気のところでした。私も夜、急患で看護婦さんや事務のひとと雪の中を懐中電灯を照らしながらゴム長靴（当時はこの辺りの冬期の定番の履き物でした）を履いて往診したこともありました。又上砂川にある共産党の診療所に当直に行ったとき、妊娠後期の妊婦のアッペの急患が来てその常勤の先生（北大の脳外科から出張）と手術をはじめましたが、子宮が大きくなっているため、とうとうアッペが見つからず、後日所長さんが再手術で摘出されましたが、まさに渡辺淳一の世界です。ほんの一年間ですが、北の広大な大地、炭坑町、冬の雪、美味しいジンギスカンやラーメン、この四つのキーワードの下に、大阪では決して経験できなかった珠玉のような青春の一ページとして思い出に残っています。



“犬煩惱？”

長田 明

祖父はボクの父親が15歳の時に世を去ったそうだが、子供はあまり可愛がらなかったと聞いている。その反動なのかもしれないがボクの父親は大変子煩悩な人だった。その父親の血を引いたのかどうかボクもかなりの子煩悩だと自分で思っているから、他人様から見れば相当なものなのだろう。

ボクの二人の娘も数年前に成人式を終えた。最近では何かと親の面倒をみってくれる。誠に有り難いことである。願わくばそれぞれが早くいい伴侶を得て独立してくれることを望んでいるのだが、なかなか思いどおりにいかないのが世の常らしい。そんな時、下の娘が突然一匹の犬を連れて帰ってきた。と言うより娘が犬と帰ってきたあとにボクが帰ってきたのであるが。とにかく家族が一匹増えたのである。

ボクは動物は好きであるが別れの時（死んだとき）がつらいのでなるべく飼わないようにしている。それでも今回で三度目である。最初はコッカースパニエル（犬）のデージー♀、次がシャム猫のフルフル♀、そして今回がゴールデンレトリバー（犬）のベベ♂である。

下の娘の友人達が数人この種の犬を飼っているらしく、自分も欲しいと言っていたのであるが、ボクは別れがつらいのでダメだと言っておいた。ところが姉娘が

“お父さん、京子がレトリバーのぬいぐるみを買ってきて抱いて寝ているんだよ”

“へー、まるで小学生やないか”

“友達が犬を連れて集まるとき京子はぬいぐるみを持っていくんだよ”

ここで子煩悩が顔をだして“オイ、京子 そんなに欲しいんやったらどこかで手に入れてこい”

ということで家族が一匹ふえてしまった。いや 姉妹の連係プレーにまんまとはめられたのかもしれない。

わが家にやってきたのは生後三ヶ月の頃である。どういうわけか外出の嫌いな犬でなかなか散歩に連れ出せない。玄関を出るとたんにボクの真正面へまわってきて、引き綱を抱え込んで坐ってしまう。なだめすかして少し歩くとまた同じことの繰り返しである。近所の人々に

“センセとこの犬 ケッタイな奴ですな、散歩きらいな犬なんか始めて見ましたわ”

冗談じゃない、こっちは悪戦苦闘しているんだ。

“そうですね、ボクかてこんなん始めてですわ”

しかしよく観察していると、どうやら道路上のあらゆる物体つまり人、物、動いている自転車、車などが怖いらしい。踏切で電車の通過待ちをしている時がその最たるものであった。ボクの両膝の間に身体を突っ込んで怯えた目でごうごうと走り抜ける長い大きな怪物を眺めていた。おそらくわが家に来るまでは、飼い主に親兄弟みんな一緒に車にのせられて公園へ連れて行かれ、そこで放してもらい遊んでいたもののようなのだ。だから車に乗るのはたいへん好きである。“クルマ”と言うと喜んで車のところに行きドアを開けてもらうのを待って乗り込んだらいつまでも乗っている。

そんなわが家のベベ君も次第に大きくなると今度は散歩に連れていけという。毛が長くなってきたので雨の日が大変である。特にお腹の毛がビショ濡れでドロドロになってしまう。そのまま家へ入って来られるとたまったものではないのできれいに拭いてやるのだがこれまた大変な仕事である。

“何かエエ方法ないんかいな、金太郎さんの腹あてでも作ったらどや”

“レインコートがあると思うワ”

ということでペットショップで犬用のレインコートを買ってきた。

“ウワーうまいこと出来てるワ、ウンコもオシッコもこのままできるやん”

ベベ君もこのレインコートは気に入ったらしく、近所の人から“可愛いネ、よく似合うネ”と言われ得意満面で雨の散歩を楽しむようになった。ところがどうしたことか数回着用した或る雨の日、どうしてもレインコートを着ようとしないう。やっとのことで着せて出かけたのだが、何か下を向いてシオシオと歩いている。一体どうしたんだろう？体調でも悪い

のだろうか？と考えてハッと思い当たることがあった。雨の散歩のときにはめったに他の犬と出会うことはないのだが、この前の時には確か数匹の犬達と出会った。そうだ、それに違いない、きつと言われたんだ。

“お前ケッタイな奴やナ、そんなおかしなもん着て、なんじゃいそれ”

“そやけどパパとママが雨の日は濡れるからこれ着て行け言うねン”

“アホかお前は、雨の日は濡れるに決まってるやんケ、お前過保護やナ”

レインコートを出すと必ず部屋の隅に逃げていって向こうを向いてしまう可愛いヤツである。



旅行とロマネスク美術

笹岡 正雄

1971年12月私は初めてジャンボ機に乗り、初めて海外に行った。途中、コペンハーゲンに着陸するべく機が傾き旋回した時、赤い屋根、白い壁の家々と教会の塔が目に入った。「ああ自分は現実にアンデルセンの地に来たのだな」という思いは忘れられない。

そうして最初の滞在地のパリーの生活が始まった。

モンマルトルの丘。丘の遥か向こうには、パリーの町が広々と横たわっている。東京のように根本的なところで変化してしまっている景観とは一味違う。その西北の麓、奈良で言えば、若草山の山下、丹波町辺り、朝な夕な丘の上のサクレ・クール寺院の鐘の声が聞こえて来る様な閑静な街の宿であった。

美術館巡りもいいが、こちらに鑑賞能力がなければ、貴重な時間の浪費とは云えないが、疲れ易い。名所旧跡を絞れば、風景、建築即ち教会ということになる。云うまでもなくフランスはキリスト教国、日本の町々に寺があるように教会がある。違うのは、寺は多く町外れに在るが、教会は町の広場と共に中心にある。パリーの様な大都会ともなると、あちこちに広場があり、教会があるということになる。やがて私は時間の余裕をみては、これらの教会に入って、先ずマリヤ様にノフランの蠟燭を捧げ、椅子に座り心を静めることを慣らした。これは異国で異人であるストレスを和らげる効果がある。その頃の私は、系統的に美術として教会を観ることもせず、その歴史を探る事もなかった。

数年後、1973年テレアビブの *s i c o t* に参加した際、ロマネスク教会について、故小谷勉教授等により、その建築、装飾、彫刻、壁画などを学ぶ機会を得た。

その繊細な美術的な説明を聴き、実地演習をフランス、オーストリア、イタリアなどで見聞できた。十世紀の頃、ヨーロッパは、「暗黒の中世」を抜け出て、平和と共に富の蓄積、宗教の興隆と修道会の発展によって、簡素にして素朴な——後にロマネスク様式と云われる教会が、[日本では、200有余の国宝建築があるが、その大半は、京都・奈良を中心とする近畿地方に偏在している様に] 主に上記の地方に多く建立されていた。これに続くのが、ゴシックである。ここで必要となる基礎的知識は、当然、旧約・新約聖書である。更めて、信仰は別として、その解釈の説明も受けた。

シナイ、ネゲブ砂漠、死海、エルサレムと同行し、実地説明も受け、一木一草も留めな

い旧約の荒野、緑と花に覆われた新約の地、それと旧約聖書から生れたユダヤ教、キリスト教とイスラム教の重なり合っているエルサレムの旧市街の様子など、感銘を受けた。僅かあと数年で、キリスト生誕二千年の祝年、趣味の道とは云へ、先は遠く深い。



「つれずれなるままに・・・」

井上 博夫

◎1996年7月、ジョージア州アトランタで、世界の197ヶ国が参加して、オリンピックが開催された。連夜にわたりテレビ観戦で睡眠不足。日本選手も柔道、陸上で大活躍。日本選手は試合前からの期待が大きすぎるのか、動作に固さがみられる。テレビの画面から緊張感がにじみ出る。マラソンの有森祐子選手が3着でゴールした瞬間の笑顔がすばらしい。勝ったという気持と、やり終えたという安堵感がもたらす笑顔であった。

◎俳優の渥美清さんが亡くなった。というのに世間の人々にとっては、フーテンの寅さんが亡くなったという感じがした。まるで寅さんが実在の人物であるかのように・・・。

お人好し、自由奔放で気ままに生きる寅さんの生き方に共感し、あこがれの気持ちをいなく。ここに人気の秘密があるようだ。国民栄誉賞、生きている間にあげたかった。

◎市川宣恭先生、豊島泰先生、下村正彦先生、自分の身近であった先生達の訃報に接した。みんなまだまだと思われる先生方で、いつも突然のことで、「エー、どうして？何んで？」とどきっとさせられる。皆様の御冥福をお祈り致します。

◎「脳内革命」という本がベストセラーになっている。年をとるにつれ脳細胞は退化して、ボケの症状がでてくる。ボケを防ぐためには、一日一回ハッとすること、ドキッとすることで脳を刺激することが必要だといわれる。

最近、何かいいことないかなあと思うことしきり。

◎今年は宮沢賢治生誕百年です。童話「よだかの星」はいま読んでも何か教えられるものがあります。「雨ニモマケズ、風ニモマケズ、雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ、ジョウブナカラダヲモチ、欲ハナク、ケッシテイカラズ、イツモシズカニワラッテイル……、……、ミンナニデクノボウトヨバレ、ホメラレモセズ、クニモサレズ、ソウイウモノニワタシハナリタイ」この詩のように、開業医として、これからも頑張っていきたいと思います。



「或る山歩き」

榎本 高明

3, 4年前のことである。運動不足解消の目的で、ルーム・ウォーカーを購入して歩き始めた。歩いているうちにだんだんと自信ができてきて、どこかの本当の山を登りたくなってきた。あちこちの山の本を買ってきて、どこを歩こうかと思案していたが、独り登山で久しぶりであったし、体力的にも不安があったので、矢張り一度登ったことのあるところの方がよいと考えた。以前に木下先生や岩瀬先生らで行ったことのある五竜・唐松の縦走を選んだ。盆休みを利用して2泊3日の行程を考えた。丁度夏休み中の大学生の長男が、オヤジ独りでは心配なので、荷物持ちと一緒に言ってやろうと言いだした。彼も登山の経験が全くなかったが、二人で登ることにした。

元々、娘は親とはよく話をするが、男である息子は、オヤジとは必要なこと以外あまり話をしない。平素から息子とオヤジの関係は、そんなある程度のスキマのあるものと漠然と考えていたし、それに慣れていた。しかし今回は二人で一緒に行くことになったのである。神城から遠見尾根を登り、五竜小屋につく予定であった。麓の神城のペンションに一泊した。夏のスキー場の村は静かであった。息子と二人だけで一つの部屋に寝るのも久しぶりで、大人になって勿論初めてであった。

遠見尾根は、長く、しんどい尾根の登りの連続であった。ルーム・ウォーカーで鍛えてきたとはいえ、体重も増え、大きなお腹を持ち上げるのは、きついものであった。荷物の多くは息子が持ってくれたが、一步一步が大変だった。特に遠見尾根の最後の登りは非常にきつかった。ハアハア言いながら二人で必死に登った。10歩登っては休み、又10歩登っては止りといったふうで、予定より可成時間がかかった。登山初体験の彼にとっては、命の危険を感じるような、こわい場所も多少あったようであったが、遥か彼方の山小屋に到達するという一つの目的のために、二人で助け合い、励まし合って一生懸命に登った。大袈裟な言い方だが、まるで一緒に苦労している戦友か、運動クラブの仲間か、友達同志のような気持さえしていた。

やっとのことで五竜小屋に着いた。夕食後山小屋の外に出た。広々と果てしなく続いている雲海の中に、真赤な夕陽が沈んでいくのを、全く見えなくなるまで二人で無言で見送っていた。

山小屋は盆の時期で大変混雑していた。布団が敷きつめてあり、枕が頭の方と反対側とにずらりと並べてあった。真上を向いて寝れない程混んでいて、斜位になって、お互い両横の人と肩が重なり合って臥た。足元の反対側に寝ている人とも足や膝がくっついていて、疲れてはいたが、そんな窮屈な寝かたは久しぶりなので、なかなか寝つかれなかった。息子がトイレに行ってきて、窓から見た真暗闇の中の星が素晴らしくきれいだと感激して帰って来た。私にも星を見てこいと勧めてくれたが、帰ってきたら寝る場所が無くなってしまいそうだったので、諦めて眠ることにつとめた。暫くして左肩が重なっている息子の寝息が聞こえてきたので、安心して眠りに入りかけたが、横や足元の人の動きで、すぐに目覚めてしまって、こちらは目が冴えていた。20才を過ぎた息子と一つの布団で、しかも肩を重なり合わせて寝るということは、都会では全く考えられないことであった。眠れぬまま

に、ほんのりとした満足感を味わっていた。

翌朝、早くから唐松をめざして、後立山連峰の一部の縦走にとりかかった。30分程歩いた下りの狭い所で、向うから来た人とすれちがうとき、浮石に足をとられて滑って転倒してしまった。左足の強い捻挫（脛腓靱帯損傷）であった。睡眠不足で頭がまだ半分眠っていたのと、集中力の無さのための不覚であった。足をひきずりながら、唐松を経て、八方尾根を下りて行った。痛い、つらいものであった。彼に助けてもらいながら、やっとのことで下りれた。天気が素晴らしくよかったので、立山、剣や、白馬三山も雲海の上にきれいに見えた。彼に山の名前などを得意になって説明したりした。

今回の山行きは、今までのものとは一味違った趣があった。息子に対して今までは、こちらが一方的に助ける、いわば一方的な人間関係であったが、今回はお互いに助け合う、或る意味では対等な立場での友達の関係に、一時的にしろなれたのは興味深いことであった。その後、お互いの心が接近したように思えた。或は私の方だけが、接近していたのかも知れない。



ちょっとした記憶、錯覚かな

木全 俊弘

10月末、大学での骨折研究会が終って、附属病院から表に出た時だった。一瞬、方向感覚を失った。そんなに方向音痴ではなかったつもりであったのに。日が暮れて暗くなっていたこともあったのかもしれない。立派な大きな建物の市大附属病院である。

記憶とはどのようなになっているのだろう。時間と共に変化するのかもしれない。確実なことは現在自分が憶えていると思っていることは、現時点での自分の記憶と信じているものであって、時間と共に拡大、縮小、変形したりするのではないかと危惧している。それともボケが始まったか。

市大病院の建っている所は密柑山と云われた所であったと聞いたことがある。大阪の南市民病院が大学の附属病院の母体になったのは50年史などの記録にのこっている。旧館と称した建物の上の所に URBANUM VALETUDINARIUM in OSAKA 2585 とのレリーフがあった。

この由来を学生の時、解剖学の鈴木清先生から聞かされたことがあった。市民病院とラテン語で書かれたものであろうが、話の内容は全く忘れてしまった。このレリーフがそのまま新しい病院の5階の講堂の横に記念として置いてあり懐かしく思った。

旧館の前に東館の出来たのは昭和42年から43年頃であった。それまで、そこは空地の広場になっていたと思う。確かにこの場所である。昭和21年か22年頃、私が小学校1年か2年の時、学校から大相撲を見に連れていってもらったことがあった。上町線のチンチン電車を降りて、少し猥雑な感じの狭い通りを歩いて着いた大相撲の行なわれていた場所がここだったのだ。その時の相撲の様子記憶は全くなく、友達がその当時の粗末な紙に横綱の羽黒山だったか照国かのサインをもらって得意になっていたのだけは不思議とはっきり

憶えている。その当時、医者になるなど、ましてこの場所で勉強や仕事をするようになるなどとは夢にも思っておらず、その前の建物が病院であることも知らなかった。この記憶はずっと憶えていたのではなく、ずっと忘れてしまっていた。大学の専門課程の時か、教室に入局してからか定かではないが、旭町通りの方から大学の方へ歩いて帰ってくる途中、何故か突然「あっ、そうだ！」この場所だったのだと思い出した。旭町通りの雰囲気からかもしか、10年以上もこの場所に來たこともなかったからかもしれない。暫くたって、この記憶は自分の錯覚ではなかったのかとも思うようになっていたが、今年と同窓会報「仁滞」で藤森先生の書かれている中に「昔は大相撲の大阪場所が行なわれていた場所に現在は新医学部校舎の工事が進められています」をみて、この自分のおぼろげな記憶は間違っていなかった……。忘れていた記憶をなぜ突然思い出したのか自分でも判らなかった。

最近の阿倍野橋界限の変貌は激しいように思うのはここ数年間あまり天王寺の方へ出向かなかったためかもしれない。

30年以上も前に木造だったJRの天王寺駅がビルになり、中学生の時、学校から映画鑑賞に行ったアポロ座の映画館も大きなビルに変わったのもその頃だったと思う。市大整形外科の第3病棟と云われた貴志病院のあとに大きなビルが建ってからも20年以上にはなる。天王寺公園も様子が変わり、ジャンジャン横丁周辺も変わろうとしている。旭町通りから少し入った中華料理の珉々やグルメの雑誌にも載ったことのあるマルヨシとか云ったフランス料理屋は今もやっているのかナ。私も少し年をとってきたと云うことか。

附属病院周囲の風景。少し年をとってしまった私の記憶をたぐり寄せるきっかけとなるようなものが少なくなり、知らない土地に來たような感じである。しかし、こんなに立派な大学病院が出來ました。大学の診療・研究・教育が益々成果をあげることでしょう。



“医師としてのあるべき姿”

兪 炯 奉（谷本 吉造）

私は人間の生命に対する尊厳の念こそが、今日まで医学を進歩させてきたのだと思っている。医師として生命の尊厳を知ることが、出発点であると同時に終局の目標でもあると思う。「医は仁術なり」と言われて久しいが、医師とは常に人間愛に徹した科学者であると考えている。臨床医師として直接患者の診断、治療に当たる者も、基礎医学に従事する者も、人間の生命の尊厳を守るという使命に変わりはないのである。医師の使命が人間の生命の尊厳を守ることにあるとすれば、その責任はあくまでも使命に忠実であることに帰するであろう。この崇高な使命を担う医師であるためには、まず円満な人格と豊かな教養の持主でなければならないと思う。人生を深く把握し、病人をいかに精神的に肉体的にいたわるかということこそ、医療に携わる者に課せられた使命なのだと思う。医師の使命はどこまでも生命を守ることではなければならない、患者の貧富、地位、職業、年令、美醜にとらわれることなく、ただひたすらその生命を守ることに専念しなければならないのである。従って医師たる者は、献身的自己犠牲的な愛、使命感、職業的良心を自覚し、絶えず

相手の立場に対する深い思いやり、相手の身になって考えること、相手の気持が自分の気持として実感できること、それは又「人生をいかに生きるか」という問題にもつながろうかと思う。その際、愛こそが人類の生命を救うのであると思う。その意味で医師が天職と呼ばれる所似があるのではなかろうか。故に医師たる者は絶えずその職の尊さに誇りをもち、その職にあることに無限の喜びを感じなければならないと思う。それはもはや職業の喜びではなく、生きる欲びである。職業と考える限り、それはまことに苦しい職業である。しかし人生をいかに生きるかの問題に直面した時、医師は自分の生き方に無限の喜びと誇りを感じるであろう。この誇りだけが今日のきびしい医療情勢の中で悩み苦しみ、ともすれば挫折しがちな我々の心を支えてくれているのではなかろうか。私は弱い者への同情こそが医療の出発点であると考えている。肉体的苦痛に苦しみ、精神的不安におののく人間への同情、すべての患者を自分の子供であるかのように、自分の親であるかのように、或は又、自分の妻であり、夫であるかのような気持でいたわる心が必要であると考えている。さすれば必ずや医療にとって最も大切な医師と患者との間の信頼関係を得ることができるものと信じている。よく不安を訴え、薬や注射の中身を問いただす患者を医師によっては極端に嫌い、時にどなりつけたりするのを聞くが、最近の医師不信、医療不信もこういう医師の優越意識に由来するものではなかろうか。医師は患者の病気を治すという役割を持っているが、だからといって、患者に対して絶対的上位にあるというのではない。患者の生殺権を握っているつもりのおごり高ぶった心は決して持つてはならないと思っている。患者は医師に全幅の信頼をよせ、医師も又患者をかけがえのない一人の人間として扱うところに真の医療が成立するのだと考えている。医師は又、患者の信頼に答えるべく、日進月歩の医学に立ち後れることなく、絶ゆまぬ研究心と、真理に対する愛をもって、一生研究を続けなければならないのである。それが職業人としての良心ではなかろうか。医の倫理観が強く問われる昨今、医学の原点に立ちかえって医師としてのあるべき姿を考えてみた次第である。



56才 停年時代

廣田 龍二

1940年（昭和15年）に出発した銀河鉄道の20560日におよぶ喜怒哀楽の旅の後、ただ若いだけが誇りであった私もついに黄昏の中背の丸くなった皺の多い時々老眼鏡ありの姿でここ『停年駅』についた。通りすぎてきた人生という旅の思い出はどれもが懐かしく50年も前のこととは考えられないくらい鮮明に思い浮かべることができる。B29 終戦 進駐軍 ジープ マッカーサー 焼け野原の街 天皇陛下 モンペ 停電 痩せてギスギス 雑炊 ナンバコ 秋祭 葬式等昭和30年迄の記憶が鮮明である。これら昔の一つ一つの出来事が大きな衝撃となって心に刻まれ、その残像のお陰で今も当時のガラクタをスムーズに捨てられないでいる。

しかし今の若い人達は物も心もなんでもドライにポイポイと上手に捨てる。私の思考や

体質・行動様式もこれら貧しかった時代の影響を多分に受けている。一日 一ヶ月 一年 五年 十年という『時』の流れがほとんど変わらず豊かで平穏な時代に生れ育った若い人達、この人達には物・心面での貧乏がない。その為人間としての優しさや貧しい人・病める人・弱い人を想いやる気持ちをつくり発揮する場やチャンスが今の社会では極端にない。故に、このような『想いやり』の気持ちが人間に存在することすら気づかずに通りすぎてしまっている人達が実に多い。悲しいほど物がなく一日一日がどうなるかわからない貧乏の中で、小さな物でさえ分けあわなくてはならなかった過去を持ち『和』を柱とするよう教育されてきた私達—停年時代—全てに自分が『主』と考えクールに生きる現代人、その間にはお互いがどんなに努力しても根本的に渡りえない深い感情の溝が厳然と存在する。『葛藤の停年時代』、一般的には安定した環境にいるようにみえるがとんでもない。社会的には現在の地位に留まれるか、他の部への出向をまぎれなくされるか『希望』と『挫折』の岐路である。そして肉体的にも精神的にも半分若く半分古いという中途半端な時代で、ほとんどの人がかつて経験したことのない莫然とした不安感や不眠、そして最も強烈な容貌の変化、更に『尿』周辺のものものの愁訴に愕然として、今迄の『若い』という自信がふきとんでしまうのが普通で—ついこの間まであった黒々とした髪やしみのない張りのあった皮膚もいつとはなしになくなり、そして数々の感動的な人生の名場面を写したであろう黒い瞳もその光を失い、柔軟な思考の世界もついに停滞し、そして、そして!!老化した今、どんなにお金をつんでも又どんなに蜂のように舞っても、あのキラキラと光り輝いた若さはもう二度と帰ってこない。映画の上では『若さ』や『人生』は簡単にサヨナラ!!サヨナラ!! ところで開業医の平均寿命は66才(24090日) 難解なお経のお坊さんは82才(29930日)。何故こうも違うのかわかりきったことで、人間という機械、使用方法が違えば耐用年数が異なっていて当然です。私が66才で逝けば残る生存日数は3650日、うまくゆけば76才残りは7300日でFIN。

人間が星になるということは何千年の昔からクレオパトラや楊貴妃、そして最近ではターザン、スーパーマン(自殺)ですら死の存在を証明していますが…。悲しいかな私達は自分の死の存在を自分の経験を通してしか理解できず、又旅立ちがあまりにも突然にやってくるため、ほとんどなにも用意できないうちに逝ってしまいます。日頃色々な分野で研鑽を積み、多くの人達の旅立ちにも遭遇された停年時代の貴方もそろそろ人生の黄昏です。残る最終の勉強として『死にざまの研究』が必要です。(1) 死ほど確実なものはない—不安・恐怖 (2) 生きたしるしを残す (3) 身辺整理—遺言(状)—逝く鳥跡を濁さず (4) 人事をつくして天命を待つ (5) 死をみつめ生を楽しむ—遺産、安楽(死) 遺言 相続税 終身保険 年金 厚生年金(遺族年金) 除籍謄本 不動産の権利書 生命保険等 (6) 臨終から荼毘—仏式 キリスト教式 神式 費用かからないのは神式です。そして色々な費用を精算し、最後の勉強が終り永遠の眠りとなります。『時』の大きな流れからすれば、今生きているということはほんの一瞬の輝きでしかありません—残る人生如何に過ごせばよいのか『意』のおもむくままに進めば周辺に波風が立ち周辺の平穏を願えば『意』を押さえねばならず…。太く短く生きるのも人生、細く永く生きるのも人生、人生ふりかえってみれば全て不満。己を吟味して再度ふりかえってみれば全て満足。私の終末は2006年4月、遅ければ2016年4月。その時周辺にどんな人がいるのだろうか? 人生幸福であったか? いや不幸であったか? 全ては死なんとわかりません。立って半畳、寝て一畳、諸行無常、人間万事塞翁が馬(禍福はあざなえる縄の如し) 全ては運命、神の御心に結論、人生はケセラ・セラ—なるようになるわ〜。



くたくた会賛歌

前野 岳敏

昭和40年に市大を卒業し、1年間のインターン（われわれは第1期の青医連）の後、昭和41年医師国試、5月に市大整形外科に入局しました。その1年後の昭和42年5月より、小生は長期出張で大阪厚生年病院整形外科へ行くことになりました。

その頃はボウリングが大変盛んな時期で、当時は薬品メーカーも気軽にスポンサーになってくれて、医局のボウリング大会や麻雀大会が度々行われていた古き良き時代でした。（大学病院は大学紛争で大変でしたが…。）

そのような昭和43年5月に、整形外科の医員3人と病棟婦長さん2人の計5人でボウリング同好会、くたくた会ボウリングクラブ（KKBC）の月例会をスタートさせました。

それ以来、会としては1回も欠けずにつづくこと28年以上になり、本年8月には月例会は340回、成績、記録等を報告するKKBCジャーナルは9月号で308号になります。

くたくた会の“くたくた”とは、小生のEMGの師匠であるT先生の名前をもじったもので、くたくたになるまで頑張る会と云う意味です。小生は昭和48年に市大にもどりましたが、KKBCはつづけました。月例会は原則として、毎月第2木曜日夕刻より、3ゲームのハンディーゲームでしたが、第80回からは6ゲームの試合になりました。又第4木曜日にはリーグ戦等の6ゲームの試合を行いますので、1ヵ月2回のゲームが行われます。

その間、メンバーの出入りは多少ありましたが、（約20名以上）現在は男性6名（整形外科医5名、外科医1名）、女性は3名（眼科医、耳鼻科医各1名、婦長さん）の合計9名です。最初からのメンバーは、小生を含め3名が残っています。フランチャイズのボウリング場も、ファミリー会館、中の島ボウル、ラサ、福山ボウリングと移り、現在の新大阪イーグルボウルに来て10年近くになります。イーグル以外のボウリング場はすべて閉館になり、やむおえず移動した次第です。

この会は大変アットホームで楽しい会です。ボウリングを楽しみ、ゲーム後の喫茶店では、サロンの話題が広がり、情報交換の場になったり時には症例検討会にもなります。毎月2回、厚生年金病院の気心知れたメンバーの同窓会がおこなわれている感じがして、当日はいつも、浮き々した気持で参加しています。

その成績は、28年以上も投げている割には、個人的には大波、小波がありますが、会全体のレベルとして変っていないように思われます。ハンディはメンバーの過去3ヵ月、36ゲームのアベレージと180ピンの差の80%（女性は90%）が1ゲームに加算されます。ちなみに平成8年8月8日発行のKKBCジャーナル307号によりますと、I先生HD.0、K先生、HD.6、W先生、HD.13、小生HD.19、最も多い人で38です。小生も20年程前、一時HD.0になったことがありましたが、最近はコントロールが乱れてスコアが伸びません。それと云って、年令と成績とは余り関係ありません。HD.0のI先生は昭和7年生れ、K先生は昭和元年、W先生は大正14年生まれで、皆さん年令的には小生よりはるかに上ですが、（小生は昭和14年生まれ）成績もはるかに上で、HD.0のI先生など、正にプロ並みと云える実力です。小生の成績は、波が大きく、乱調がなければ、そこそこのスコアが出るのですが、乱れると口に出すのがはずかしくなる程の結果が出るのが最大の欠点です。

永平寺にでも行って、座禅を組み精神修行が必要だと、常々痛感しております。

それでも本年1月のリーグ戦では、グロス256ピンの小生の生涯ハイゲーム記録、ハンディーを加えたネットでは、273ピンでKKBC通算最高記録が出ました。

又この8月月例会で優勝し、通算50勝一番乗りを果たしました。それでも平均6.8回に1回の優勝ですから、1年に2回も優勝できない計算になります。

このように同じ様なレーンで、同じマイボールを使って競いながら、その日によってコントロール調整がむずかしく、又たった10人たらずのメンバーでも、仲々優勝するのがむずかしいボーリングをしていますと、風力、風向、芝などもっともっと多くの条件を考慮しなければならないゴルフなど、きわめてむずかしいプレーと考えてしまって、食べずぎらいになってしまいます。

気楽な仲間とワイワイガヤガヤ言いながら、一投一球に喜怒哀楽を爆発することができ、短時間に切りがつく、わがたくた会ボーリングは、長年にわたって小生にとって、最良のトランクライザーの役目を果たしてくれています。始めた頃は、小生は20才代でしたが、現在は還暦目前です。手取り足取り、親切に整形外科を始め、多くの事を教えてくださったメンバーの先輩の先生方も、元気一杯とは言え、今では古希の前後におられます。年令の事を考えると大変さびしいのですが、メンバー全員が、いつまでも元気でボウリングを続けられる事を祈ってやみません。又当KKBCでは杉 良太郎の歌う“ぼけたらあかん、長生きしなはれ”の歌のテープを全員に配り、“くたくた会賛歌”として愛唱することをすすめています。くたくた会は不滅です！



医者になって30年

明石 武彦

光陰矢の如しとよく言われます。私も早54才になりました。大阪市立大学医学部に入学して36年、医者になって30年、開業して18年が過ぎました。今ふり返って見るとアッと言う間に年月が過ぎ去ったように思います。

整形外科へ入局した頃に4～5年上の諸先輩方をみて、その先生方は整形外科医としてすべて熟知されていて私は尊敬すると同時に果して自分も一人前の整形外科医になれるのだろうか心配したのがつい先日のように思い出されます。

大学卒業の年はインターン制度の廃止で揺れ動き、入局した時は大学紛争が続いて大学での私達の研修が思うにまかせない時代でした。この当時他の医局では内部で分裂したようですが、整形外科は医学部長をされていた小谷勉教授の下に一致団結して外に当たり、医局内では研修制度を改善する為に委員会も作られました。入局して日の浅い私も委員になり、今思えば自分勝手な意見を出しておりました。更には今後は若い人の意見が必要とのことで恐れ多くも私は日本整形外科学会評議員にさせていただき東京での評議委員会に出席しました。この会では大学の教授、助教授、大病院の院長、整形外科部長の先生方と同席して整形外科への入局したての私は多いに恐縮したものです。

入局して1年余りで大阪労災病院へ出ましたが。その後の10年余りは私にとって整形外科医として大きく成長した年月でした。その当時4～5人いた若手の医者は少しで早く一人前になりたい、少しでも多くの手術を経験したくて午後に手が開くと整形外科に集まり救急の患者さんが来るのを待って、手術場の婦長さんとケンカをしながら救急手術をしていたのが今となってはなつかしく思い出されます。

大阪労災病院では多くの先生方に色々の分野の御指導をいただきました。特に長田 明先生には全人工股関節置換術を教えていただきました。あの当時、全人工股関節置換術は日本に於いては初期の項で、手術道具の発表に始まり、手術手技、手術適応、1年目、3年目、5年目の術後成績の学会発表に追われ 毎日毎日が本当に充実した日々でした。また長田先生の勧めでフランスのリオンへ膝の勉強に行かせていただいた事、大学病院へ行かずに大学の医局にも少しの間しか居なかった私が学位論文を作成して学位を得た事、そして現在整形外科開業医としてやって行ける事は長田先生を始め、多くの諸先生方の御指導によるものと今も日々感謝しております。

種々の事情があって昭和54年に金剛団地で開業しました。当初は診察は勿論のこと、事務員、レントゲン技師から小使いまで何から何まですべてのことをして無我夢中で頑張りました。開業も順調に軌道に乗り始めた5年のある日私は突然に狭心症発作を経験しました。42才の時です。この時まで自分は医者であって病気を治す人であって自分自身が病気になることは全く考えていなかったことに気がきました。

幸い検査の結果、冠動脈の1ヶ所の狭窄で入院してP T C Aにて回復して今まで通りの生活や仕事が続けられるようになりましたが、これを契機に今までの自分を振り返ってみました。

それまでの人生の中で私は何事に対しても一生懸命に努力して精一杯頑張ってきた後悔することは余り有りませんが、人生42年で終止符をうつのは余りにも早過ぎる。それまで長い間にわたって研修して得た知識や経験をもっともっと先まで役立てたい。また妻と共に築いて来た家庭や家族に対する責任や今迄治療させていただいた患者さんに対する責任も果したい。更にはこれから先の多くの楽しみや喜びも経験してみたい。医者 of 私が言うのは恥しい限りですが、人間は健康であることがいかに大切なことであるかを痛感した次第です。

少しでも長生きする為にまず始めに診察日を減らし、診察時間の短縮を行ない、診察はあせらず、ゆっくり、ノンビリをモットーにして、欲を出さずに行なうことにしました。また休みの時間は仕事を忘れて自分の好きなことをするようにしました。

その甲斐あって病気をしてから12年が無事に過ぎました。開業当時は小学校1年生であった娘が大学を卒業して社会人に、幼稚園年少組であった息子は医学部の5年生になります。しかしまだまだ父親を必要としています。今後とも苦労を共にしてくれた妻の為に子供達の為に、私を頼りにして下さる患者さんの為に、そして自分自身の為に細くてもいいから長い人生を送りたいと考える今日この頃です。



タイ国の病院で

門田 嘉弘

整形外科に入院させていただいた1年前の1967年、現J A I C Aの前身である海外技術協力事業団により派遣された日本の医療チーム（内科医1名、外科医1名、検査技師1名、看護婦2名、コーディネーター1名で構成）の一員として、タイ国スリサケット州立病院に勤務した。チームの目的は技術指導と病院設備の近代化のための医療器機の供与であった。

スリサケット州はタイ国東北部にあり、バンコクから約500km、ウボン行きの東北線急行で8時間、州の東はウボン州をはさんでラオス、南はカンボジアに国境を接した僻地であった。人口は約70万、州の中央部から北部はタイ族、南の国境に近い地域はカンボジア系のクメール族が大半をしめ、その他少数民族の中国人が住んでいた。

バンコクやチェンマイは当時でも観光客が訪れ、今日では日本人にもおなじみなところとなっていますが、この地域は今も観光客が訪れることはありません。大太平洋戦争中も戦略的に重要な地域でなかったためか日本軍は進駐せず、私共がこの地域に来た最初の日本人だと云われた。町を出れば水田と灌漑用の貯水池が広がったのんびりした農村地帯であった。

州のあちこちに、かつてこの地域がクメール王国の支配下にあったことを示すアンコールワットと同様式の荒れはてた石造のヒンズー教寺院の遺跡があった。カンボジアは今では日本のほぼ半分の面積しかない小国ですが、中世のクメール王国の最盛期には北は今のタイ国の中央部、西はマレー半島、東はベトナムまでのインドシナ半島の大半をしめていた。スリサケット州はタイ族が南下してくるまではすべてクメール王国の土地であったためカンボジア系の住民の多い地域であった。当時、タイ国とカンボジア王国は国境地帯の領有をめぐり国交は断絶、交戦状態にあり、それぞれの軍隊がアメリカ製と中国製の武器を使って砲撃をくりかえしていた。

州立病院はベット数150、高床式の木造病棟が3棟あった。設備は日本と較べものにならない貧弱さで特に検査部門のお粗末さが目立っていた。タイ人医師4名、歯科医師1名、専門医はおらず全員がG Pであった。州内には他に病院はなく、医師数は私共を含めても6名であった。G Pにお目にかかったのは、はじめてであったが、全科をこなし、婦人科まで何人でもみていたのには驚いた。彼等は手術が好きなようであり、積極的に手術をしていたが、専門的な知識不足から、手術適応の決定、術式、術中管理、術後のケアに問題が多かった。医療のニーズを充足するため医師不足の状況下ではやむを得ない制度かと思われた。病院の運営は政府から支給される予算が充分でなく、不足分は一般からの寄付金でまかなわれていた。院長は寄付金集めのため町の有力者を訪問し苦勞をしていた。健康保険制度はなく、支払のできない人には無料で治療をしていた。坊主は特別扱いで医療費は無料であった。

手術数の最も多かったのは膀胱結石手術であった。飲料水の水質が悪いのが結石多発の原因と思われ、病院の標本室には大小の結石がダンボール箱に山盛になって保存されていた。結石症の診断はX線造影や膀胱鏡検査はせず、臨床症状と尿検査、尿道から細い金属

カテーテルを膀胱内に挿入、カテーテルの先端が結石にふれたときの感触で診断すると云うユニークな方法で行っていた。石が大きく患者数の多いので、慣れれば診断が外れることはまずないとの事であったが、病院に膀胱鏡がなかったためかもしれない。

私は一般外科の手術を担当したが、外傷では日本では経験したことがなかった銃創がよくあった。銃規制はなかったので飲酒の末喧嘩となり銃を持ち出して発砲するのが原因の殆んどであった。輸血用の血液は最初は血液銀行から持ってきているものと思っていたが、そうではなく、血液銀行や献血制度はなく町の中にある刑務所に病院の職員がでかけて採血していたことがわかり、輸血する都度複雑な気持になった。

私共も外来担当日にはタイ人ドクターと同じく全科の患者を診察した。現地の生活環境を反映した赤痢、腸チフス、コレラ、マラリア、レプラなどの伝染病、鉤虫症、回虫、肝ジマトマ、肺ジストマなどの寄生虫、夜盲症をはじめとするビタミン欠乏症、破傷風、狂犬病、毒蛇の咬創などがあった。定期的に予防薬を内服していたので私共はマラリヤの感染はまぬがれたが、免疫がないためデング熱には次々と全員がかかった。

激しい勤務に耐え、悪条件下で精一杯働けたのも若くて元気が余っていたからできたものと思っている。今年の8月11日から盆休みを利用し、久しぶりにタイ・カンボジア・ベトナム三カ国を再訪した。関空ではスイスに向かわれる市整会の榎本先生にお会いした。カンボジアは内戦の影響で以前より悪くなっていた。バンコクやサイゴンは日本からの企業進出もあり活況を呈していたが、田舎の農民の生活は30年前とあまり変わらないようであった。



新高山（玉山3,997米）

奥田 好彦

昭和42年4月6日、早朝に嘉義の駅のプラットホームに一番乗りして、朝であるのになりの日射しを受けながら待っておりました。やがてホームは乗客でいっぱいになったころ、遊園地にでもありそうな、小さな汽車が入って来ました。客車は3輛ありましたが、その内の1台は、家畜車を代用した車であり、それが運悪く我々の前に止った。入ってまた吃驚、何百という蠅が舞い上った。強烈な日差しが陰など無くしてしまわんばかりに降りそそぎ、その滴を受けて大きく生長したバナナの森がいたる所に見える。熱帯はええ、熱帯は何と言っても若い者の住む所だ、その内面と外面がぴったり合う、時間が止り結晶が出来上る、黄金の結晶が、その中を首までつかった水牛が、2～3頭、なんとそれは力強く、かつ大きい事か。やがて行くうちにバナナの森も少なくなり、水田も少なくなり、その中に首まで浸かっておった水牛も少なくなって森林が目立って多くなる。温度も下ってくるとやがて雲が空高くあたりを包み出す。汽車は僕達が走るぐらいの速さで喘ぎながら登り続ける。阿里山に着き、台湾省山岳協会より紹介された陳僭さんを訪ねて行く。奥さんが仕事中の陳さんと呼びに行ってお下さる間、文山旅社の一番安い室へ泊る事になる。旅社の窓から下を見ると何が見える。何を隠そうそれは糞の海であり、その行き着く所は

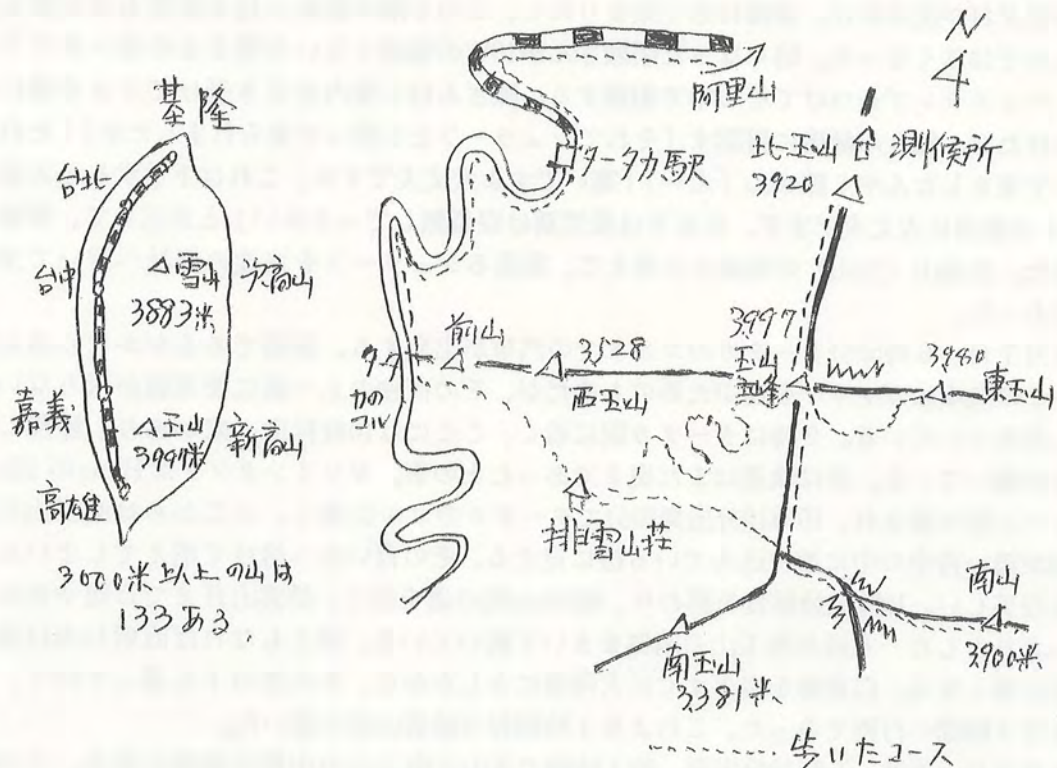
野菜畑である。我々の左向いには何があるのか、黒豚がぎゃあぎゃあ喚いておるのである。「おもろないなあ」「ぜんぜんいやになる」「もうやめて帰るか」「豚釣りでもやれへんか」。やがて夕日が沈みかけ、雲海は赤く染まりだし、この2階の窓から見る景色もまんざら悪いものではなくなった。暗くなった頃陳さんが10Wの電球ぐらいの明るさの室へ来て下さる。ヘッドランプをつけてその中で相談する。陳さん自ら案内を引き受けて下さる様になりかけたが、陳さん最後に質問す「それでシュラフとか持って来られましたか」「それが置いて来ましたんや」陳さん「えー」「寒いですよ大丈夫ですか」これは下手すると大変、「我々は絶対に大丈夫ですぞ、日本では残雪期は寝袋無しでっさかい」とか言って、事無きを得た。次高山（雪山）の気温から考えて、嵩張るシュラフを嘉義の旅社へ置いて来たのであった。

4月7日、6時50分タータカのCOLまでの汽車が出発する、快晴であるがかなり冷え込む、この汽車はガソリンを運ぶためのものだが、その荷物の上一面に便乗組が落ちない様にしがみついている。9時にタータカ駅に着く、ここには10軒程度の家があり、除隊した人々が働いている。昔は軌道はまだ奥まであったとの事。ガソリントankはHinoの10tトラックに積み移され、10時10分出発20分でタータカのCOLに着く。ここからは南玉山の枝尾根が濃い青空の中に溶け込んで見える。その青い中へ溶けて消えてしまいたくなる程美しい。10時50分昼食を終わり、幅50cm程の道を行く。排雲山荘までは緩やかな、はっきりとした一本道が西玉山の南側をまいて続いている。昼ともなれば直射日光は強く非常に暑くなる。白骨林を過ぎすぐに大障壁にさしかかり、その壁の下を通って行く。ここまで3時間の行程であった。これより1時間程で排雲山荘に着いた。

4月8日、快晴、6時10分出発、約1時間で玉山と南玉山の中程の稜線に出る。この辺りは這松が茂っており、道は踏跡程度で所々無かったりする。8時30分南山頂上に着く。45分で稜線まで戻り、真すぐに尾根通しに玉山に向う。玉山へ登る道はあまりはっきりしていない。頂上真近では脆くて急である。爪先1cm程引っかけて冷汗をかきながら登る岩登りとは違うが、触る所ぼろぼろと崩れ少し注意がいる。1時間15分で頂上に着く。水平線が遠くの方に案外高い所に見える。頂上には故国会議院議長の胸像が北西の方を向いて建っている。東玉山へ向うには、像のあるピークより東40mの所を、東へ沢を下る。東玉山への道は無く、這松を抜いでかなり時間がかかる。東峰の登りは岩が板状に重なっていて案外しっかりしている、簡単な岩登りが楽しめる。1時間20分で東峰に登頂し、主峰に再びもどる。主峰より排雲山荘へは幅80cm程のしっかりした道がついている。

4月9日、6時5分出発、玉山主峰への道を行く。7時に玉山下の稜線に着く。これより主峰と北峰との道が分かれている。北峰には測候所があり、最後の登りで歓迎の声が揚がり、中華民國の国旗が挙る。8時15分に登頂す。測候所には1ヶ月交代で3名が勤務している。谷の底には残雪があり、12月～2月は雪積期、12月～3月は排雲山荘より上ではピッケルとアイゼンが必要、5月6月は梅雨、7月8月は台風シーズンである。全員で記念撮影した後下山、その日の内にタータカ駅まで下りる。

4月10日、タータカ駅から軌道伝いに4時間かけて阿里山に着く。陳さんに博物館を案内してもらい、奥さんの手料理を御馳走してもらったりした後、14時10分発の中興特快と言うディーゼル車で、海拔2,274mの阿里山を後にする。急行ともなれば行きの家畜車とは違い、尻も胸も大きな女ごはんが、御絞りと御茶をサービスしてくれはる。18時半に嘉義に着き、その日の内に高雄へと向った。森林鉄道に乗ったころから降り出した雨がどしゃ降りとなっていた。



25歳の時

許 国広

ボーリングしていて腰椎推間板ヘルニアがひどくなり、木下先生に診てもらい、卒業式の前に（故）小谷教授に執刀してもらい、松田先生、（故）星先生の主治医のもと1ヶ月の入院生活。持病がもとで整形外科医をめざすこととなり28年。何科にすすむかという決断はそれぞれ人により悩むこととおもうのですが、私の場合はスムーズに決断できました。貴重な入院期間、整形外科の入院患者のいろいろな人と交流でき、患者の悩み、不安、こころの持ち方、医者、看護婦になにを望んでいるか勉強になりました。医者である前に人間であれ。いままでの生き方に良き教訓となりました。学園紛争のまっただ中、一部の教授の専門バカに驚かされましたが、昭和44年に済生会中津病院整形外科に入り、柴田医長、野島医長、吉川先生、（故）星先生のもと手術日は朝9時から夜9時まで手術したこともあり。メスを持つのが楽しかった時期でした。飲みにも連れていってもらい、麻雀も

し、恋愛もし、勉強も大いにやり青春のまっただ中でした。今まで2000例以上も麻酔をかけました。手術も数えられないほどやりました。3例の手術ミスもしました。若かったから許されたものと思います。25歳の青春時代でした。教授に執刀してもらうには10万円のお礼が必要なうわさがありましたが、学生であるということで堪忍してもらいました。お金もなかったのですが、教授にお礼しなかったのは、私だけでしょう。申し訳ない思い出です。

その後、前助教授の石田先生に呼び出され、助手のポストが開いてるので大学に帰って来い、と言われたのですが、手術に明け暮れる魅力ある済生会をやめられず、ここが医者としての分かれ道でした。

25歳に帰りたい。もっとやれる整形外科医、ある分野での専門医と後悔先にたたず、もっと立派な整形外科医になりたかったですが。52歳で開業してみてもつくづく思います。若い先生で将来開業する予定の先生は早く開業するべきです。大阪市大整形外科25周年、青春真っ盛り。センセーショナルな話題になりにくい整形外科ですが、地道に医局員の皆さんに頑張ってもらい、大阪市大の名前をもう少し売ってもらいたい、そう期待します。



「懲りない人達」

中村 英健

私の卒業した高等学校が、先年、創立100周年とやらで、かなり大がかりな記念事業をやったらしい。後に、その資料が送付されてきた。その中の一部に寄付金一覧というのがあった。卒業年度によってその額がかなり凸凹であり、その訳を考えてみるのも面白かった。私は1962年3月の卒業という事になる。50歳を過ぎて、サラリィマンであれ、自営業であれ、私のような開業医であっても、平均して2～3人の子息の教育費に頭の痛い年頃なのだ。私達は、立派に最下位にあった。無理もないと思った。

かといって、同期会に無関心という訳でもないようで、つい先日も、何人かの仲間が呼び集められて5年ぶりの同窓会の打合せという事になった。私の診療所が母校のすぐ側にあるからか、何かと声がかかるのだ。今度は、卒業35年という。

男も女も50過ぎなら、禿頭、白髪、肥満、そしてなにより無残な容貌の変化、「なんでもあり」があたりまえである。5年、10年前の同窓会で懲りているはずなのだが、承知の上で集めようというのだ。青春の一時期を共有した時間を確かめる作業でしかないのだが、それでも人は群れたがるのかもしれない。

同窓会の案内文を書きながら、この5年間の出来事を考えてみた。バブル崩壊後の大不況、阪神大震災、オウム、サリン事件、高級官僚の不祥事、等々碌な事がない。人々は誰もみな不機嫌で、怒りっぽく、そのくせ金の匂いには敏感で、女子中高生が世界最古の職業婦人を真似る世の中になってしまった。世界中を民族主義が濶歩し、なんだか世の中の振り子が右へ、右へと振れている気がしてならないのだ。100年前もこんなではなかったろうか、、、杞憂であれば幸いなのだが。

川は流れる。時はいつの間にか過ぎていく。夢の苦さも、冷たい風雨も知り尽くしたはずの中年男は、くたびれたネクタイを結びながらちらっと昔の彼女の顔を想ったりする。そしていそいそと、玄関を出ていくのだ。



“美しき鳥たち”

小野 興三郎

入母屋造りの芽茸き集落でよく知られた北桑田郡美山町は京都府の北西部にある。以前よりその存在は知っていたが、地図で見えて、ある時ふと思い立ち行ってみた。当時、世間ではまだ無名で、美山川と地元で呼ぶ由良川の上流に茅葺き集落があり、昔懐かしい正に日本の田舎の風景だった。杉・檜の植林の少ない周りの山々は色鮮やかに紅葉していた。当地の秋の気候は昼夜の気温差が大きく、軟らかく美味しい野菜が育ち、京野菜として市場にでている。とある無人野菜売り場に立ち寄った時、近くの橋上に三脚を据えた人がいた。バード・ウォッチャーで、つい先ほどまでカワセミがいたと言う。すぐに見つからず、諦めかかった頃、川上から一羽の小鳥が水面をかすめるようにやってきて、我々の立っている橋の下をくぐって川下へと飛び去った。スズメより少し大きい程度で、胸は緋色、背中は鮮やかなコバルト・ブルーで、美しい。視界から消えるまで思わず凝視していた。カワセミは川瀬見とともに翡翠とも書くことは後で知った。

帰宅後、早速双眼鏡を購入し、2週間後、我々夫婦はまだ川霧の立ちこめる早朝その橋の上に立っていた。好運にも10分程で川面でホバリングしているカワセミを発見した。その後、カワセミが水中にダイビングし、小魚を捕るのも見られ、2週間前の「偶然の出合」を喜んだ。しかし、偶然の出合はこれだけでは無かったのである。

その後、我々は美山へ通う様になり、宿泊先への連絡は「西宮の小野」というだけで通じるリピーターにいつの間になっていた。カワセミ、ヤマセミ、オシドリなどを、毎回ではなかったが、観ることが出来た。しかし、行く回数を重ねるにつれ、あることに気付いた。あの橋の処でその後1度もカワセミが見られないのだ。朝夕立ち寄ることもあったので、少なくとも数十回は橋上に立った。でも、あの2日だけだった。「出合」から1-2年も経った武田尾での探鳥会で橋上の「あのご夫妻」と偶然再会した。我々の自宅から程遠くない処にお住まいで、美山へはあの時が初めてで、その後1度も行ってないこと、探鳥会には我々同様殆ど参加しないことなど聞き、余りの偶然に驚いた。我々が探鳥を始めるきっかけを与えてくださったKご夫妻、そしてあのカワセミに今でも感謝している。

阪神大震災の影響、そして地震に背中を押されるに決心した開業のため、探鳥には殆ど出かけていない。池田市の医院周辺ではカワヒラ、メジロ、ジョウビタキ、モズ、すぐ側の池ではオシドリ、バンが見られる。この夏はツバメが少なかったようだ。特にツバメに混じり、例年なら居るはずのコシアカツバメが殆ど見あたらなかった。

双眼鏡やフィールド・スコープを持っていると、たまに何を見ているのかと訊ねられる。鳥を見ていると答えれば、次に「鳥を見てどうするんですか？」と詰問される。仕方無く、

見ているだけと答えると、大抵馬鹿にしたような顔をされる。探鳥は一文にもならない。それが良いところと、ひねくれ者の僕は密かに思っている。美しいものをただただ見つめている。そんなところがよい。「野鳥の会」は探鳥を通じて自然保護・環境破壊反対を会員に訴えている。その主旨に反対ではないが、探鳥の主目的は鳥を見ることだと思う。ただ単に見るのではなく僕流に云えば、その美しさに感心しながら見つめている、あるいはただただ見とれていることだと思う。例えてみれば、自分が本当に好きなタイプの女性を、少し距離を置いて見ている様なものかも知れない。ただし、下心は厳禁である。

切りとった様に日常生活とは無縁な時間を時々持つことの必要性を開業して以来特に感じている。請求書、見積書、領収書など書類の山、各種業者との折衝、看護婦を始めスタッフ間の調整に疲労感を覚え、澱の様なものを自分の心の中に感じることもある。運動不足と共に解消する努力を怠ってはならない。早期診断早期治療みたいなものだ。

花と同じく、四季それぞれ違った鳥がいる。声は聞こえてもなかなか姿の見えない春のウグイス、声の美しい夏のコマドリやミソサザイ、秋は年中で一番鳥が少なく寂しい時期、冬にはまた見たい憧れの赤いベニマシコなどいろいろ居る。

少し時間と心の余裕が出来たら、また探鳥に出かけようと思っている。北海道・霧多布岬で見たオオワシ、オオセグロカモメ、ケイマフリ、釧路湿原のタンチョウヅル、アオバト、エゾセンニュウ、鹿児島県・出水市のマナヅル、ナベヅル、木曽御岳山のホシガラス、自宅近くの広田神社のアオジ、伊丹市・昆陽池のカモ、サギ、カイツブリ、カワウ、キンクロハジロ、ホシハジロ、。。。。

探鳥を6-7年前に始めた契機を思い出す度に出合はつくづく不思議だと思う。



夢

佐竹 兼爾

夢 一

《小高い丘の上に立っている。周囲はビルが乱立している都会。すぐ横にタワーがあり、北の方向には高い山々が連なっている。右後方の上空でゴーッという音、ふり返ると、ジャンボジェット機が機首を下げながら、北の方に向っている。と、突然右後方の翼のあたりで『ボン』という爆裂音がした。墜落する！と感じた。近くに妻がいて、「電話してくる。」と走り出した。「大丈夫、ここには落ちないから。」》

あれから十数年、小学校の校長先生の息子さんもその時亡くなられ、電話での連絡があった。

夢 二

《自動販売機にお金を入れ、釣り銭のボタンを押すと、ジャラジャラととめどもなくお金が出てくる。故障だろうか？もうとても持てない。》

翌日パチンコに行った。ノーパンク台で連チャン。こんな夢なら、毎日でもみたいが。。。。

夢 三

《鮎釣りに行った。石の周りに姿が見える。早速釣れた。鮎の顔を見ると、オデコに湿布がはってある。『お前、どないしたんや』鮎答えて言わく、『病気でんねん』》

この年、冷水病で鮎釣りはサッパリ。

夢 四

《兵庫県のほぼ中央部、氷上郡氷上町の故郷の家の前に立ち、南の山の方を向いて立っていた。夜だった。山の峰を越して、小型のロケットが飛んで来る。眼前の道路に突き刺さる。長さは50センチ位。先端から10センチ程赤く点燈している。と見る間に少し東よりから又一機、そして又一機。合計三機が突き刺さり、地面の下をモグラの様に穴をあけて走り回る。『ウーウー』とモーターの音が騒がしく、足のふみ場もない。》

数ヵ月後、阪神大震災が発生。でもこの夢が地震の事とは気付かず、震災後、しまった！と思った。

夢 五

《又しても故郷の家の前に立っていた。東の方向から小型ロケット飛来し、地面に刺さる。夜の八時頃。》

夢 六

《周囲はまっ暗、体が地上2米位の高さで浮いている。下を見ると地面がXの字に裂けている。その裂け眼に、両手、両足を大の字に拡げて地盤をささえている男がいる。『何してまんねん』彼苦しそうに答える。『このままでは何人も死ぬ事になる。そうせんために、どうしたらええんやろうか？』『ちょっとづつ、ちょっとづつゆるめていって、裂け眼を合わさなしょうがないな』》

猪名川中心の群発地震は今の所、おさまっている。



開業して16年

山田 忠尚

田舎（大津市堅田）で開業して、16年が過ぎようとしています。

この2～3年の間に、当地は、若い先生方による開業が盛んになっています。又、団地や高層マンションの建設も多くみられます。ですから以前から開業しておられる先生の間では、患者の数が減少傾向にある場合もありますが、私の所では、なんとか現状維持を保っています。人口は、土着の人より都会からの流入組が多くみられます。その為か、診療に関して、完璧なことを要求されるケースがふえています。ですから、骨折線の見逃し等のミスがないように、視力低下を気にしながらシャーカステンをしっかり見つめています。

そうは言っても、土曜日の午後、日祭日は仕事はフリーにしていますので、この地を利

用して、山登り、ゴルフ、水上スキー、スキー、ウォーキング等を楽しんでいます。このことは、50才を過ぎて、老いて行く自分に活を入れるためか、又は、抵抗するためか、体力を使ってやるスポーツを好んでしています。

最近、落ち着いた、心を豊かにするようなことに、気力、体力、知力を使いたいと思うようになったのも事実です。



『金土金土金日日』

楠 正 敬

消費財があふれ、週休2日制になった今日では、想像もつかないことですが、ほんの半世紀ほど前には、「月月火水木金金」とか、「欲しがりません勝つまでは」という言葉がありました。昔の人は我慢強くよく働いたものだと感心します。戦後育ちの私などは、いつもどうすれば楽できるかを考えながら働いているようなものです。開業してまだ2年にしかなりませんが、もうすでに、開業医は働き過ぎではないかという疑問が頭をもたげてきました。

大学病院の勤務医から開業医になって、まず最初に感じたのは、診療上のストレスから開放されたことです。大学病院は、必ずしも優秀な医者ばかりではありませんが、少なくとも患者側は最終病院であるとの認識を持っていますので、うっかり「知りません」「分かりません」という言葉をいえません。いつも後のないどん詰まりの状態にあって診療していましたが、その点開業医は気楽なものです。たまにしか「ほんまもんの病人」は来ませんし、来たって自信がなければ「ほんまもんの医者を紹介してやる」といえやすむのですから。

一方、週間あるいは年間の生活リズムはというと、勤務医時代は、外来診察がせいぜい週に2、3回で、手術や回診それにリサーチや学会の準備などであわただしく日が過ぎて行きますが、開業医の生活は極めて単調です。単調な生活はマンネリを生み、新鮮な気持ちで患者に接することができなくなるでしょう。3時間を1単位とすると、多くの開業医は1週間に9-10単位の外来診療をこなしていることでしょう。私も土曜と日曜が休診で、木曜午後も休診にしていますが、それでも週9単位27時間外来診療しています。米国の開業医は、医療システムも異なり、複数の医師での開業が常ですので、簡単には比較できませんが、日本の開業医はやはり働き過ぎ（というよりは患者の診すぎ）でしょう。それぞれの開業医が自分にあった方法でもう少し診療時間を短くして、日々新鮮な気持ちで患者に接する工夫が必要だと思います。一週間のスケジュールにメリハリをつけるのもその一つの方法として考慮してもいいのではないのでしょうか。

もし私が火曜の午後を休診にしたら、月曜一日働いたら翌日は半ドン、水曜一日働いたら翌日は半ドン、金曜一日働いたら土日が連休となります。月曜日は翌日が半ドンなので金曜の気分ですし、水曜も翌日が半ドンなので金曜の気分です。すなわち一週間は「月火水木金土日」ではなく「金土金土金日日」になるでしょう。実際に実践されている方もお

られますので、これはあながち夢物語ではないと思われます。

そうすれば、医師だけでなく従業員の研修とリフレッシュにも役立ち、ひいては患者に良質な医療を提供することにもつながるでしょう。確かに経営上成り立つかという問題もありますので、何らかの工夫は必要になるかも知れません。しかし、多少収入に響いても、その影響は案外ペンをカラーにすれば解決する程度かも知れません。

勤務医が開業するという事は単に働く形態が変わるということに過ぎず、開業医になって金儲けをするという発想はすでに時代遅れになっていることは多くの人が認めるところでしょう。医師としていかに生きがいのある開業医生活をするかが今後ますます問われることでしょう。

以前勤務医時代に、先輩から言われた言葉を思い出します。「日常診療に埋没してはならない」、「患者を沢山みれば名医になれるのだったら町の開業医はみんな名医だ」、「知的再生産のための時間を持たなければ進歩しない」と。日常診療こそが仕事である開業医においてもこのことは真実だと思います。遊ぶ時間を創るためではなく、発展的な開業医生活のためにも「金土金土金日日」スタイルの働き方をしたいものですが、やっぱり無理かなあ――。



「ゆとりを持って」

菱川 泰

病院からクリニックへの転換は、私に「ゆとり」というものを与えてくれました。診療面においては、一方的に自分のやり方を押しつけるきらいがあった病院時代と異なり、まず患者さんの話をよく聞き、当人の好む診療方法を選ぶようになりました。また時間的にも、数名の従業員とともに10数年ぶりに海外旅行に行ったり、自分の趣味、知識を広げる「ゆとり」を持てるようになりました。

4年経ったいまも旧病院の跡地利用のための駐車場の設備、隣接ビルとの境界線の確認及びフェンスの新設等々やらねばならないことは沢山ありますが、焦らず着実に解決していくつもりです。

自分が「ゆとり」を持てるようになると、今度は患者さん自身にも「ゆとり」を感じてもらうために、クリニックを「憩いの場」として提供することが自分の役割だと思えるようになりました。外来患者さんの大多数は老人です。高齢化社会における医療として、私はこのようなメンタルな部分にもっと目を向けていくべきであり、小さな一クリニックであってもそれは可能であると確信しています。

自分勝手な65歳定年まで後12、3年。遅まきながら、今が自分の旬の時だと思っております。



『この4年間を振りかえって』

頼 功

開業してはや4年が経とうとしています。日常診療の忙しさに追われ、知らぬ間に時が過ぎてしまいました。21年間の勤務医時代にピリオドをつけ、開業医の道に足を踏み出したのですが、元来外来診療が大嫌いでむしろ手術している方が好きだった私が1週間まるまる外来診療にあたり、医師であって放射線技師、理学療法士、事務長、さらに雑役夫なども兼任しながら、尚、自分が経営者として陣頭として頑張らなければならないことなど、勤務医時代との大きなギャップに当初大変戸惑いがありました。また午前診療、休憩、そして再び夕方に診療をすると言う生活リズムに体調を合わせて行かななければならないことにも参りました。ただ水曜日は午後から休診にして近くの植木病院（市大整形外科教室関連病院）の手術の手伝いに行くことが唯一の息抜きになっております。患者さんの血を見ることによって気分転換を図るという不謹慎なことをやっておりますが、自分でメスを取るということはほとんどなく、もっぱらアシスタントに徹しています。もっとも居眠りばかりしていて、むしろレジスタントになっているようで整形外科中本俊毅先生（S58卒）にいつもご迷惑をかけております。植木病院はなかなか居心地のよい病院で、このゴルフコンペ（年6～8回）によく参加させていただき、公私ともになくはない存在であります。私のクリニックの病診連携についてすこし触れてみますと、整形外科疾患の患者さんを紹介しているのがほとんどであります。その大半がすぐ近くにある大阪労災病院（私の前勤務先）をお願いしております。整形外科の細分化された各分野の専門医（関節外科、脊椎外科、手の外科、スポーツ整形外科、小児整形外科、リウマチそして腫瘍外科など）がたくさんおられ、いずれのドクターとも懇意にいただいておりますので気安く患者さんを紹介させていただいております。ただし新鮮外傷については前述の植木病院をお願いすることが多くなっています。その他に大阪府立身体障害者福祉センター附属病院や馬場記念病院など私が勤務医時代にお世話になった病院（私の勤務医時代のほとんどが堺市内の病院でした）が比較的近くにあって心強く思っています。

ところで私のクリニックの所在する堺市蔵前町は堺市の北部に位置し、南におよそ30000人の人口を抱える新金岡団地があり、東には500m足らずで松原市に接し、北にはおよそ1500mで大和川に達する。いわゆる診療圏と呼ばれる半径500mの円内は勿論のこと半径1500mの円内でさえも、整形外科出身のドクターの診療所としては私のクリニック1軒のみで、前述の新金岡団地の中には外科出身のドクターのクリニックがあるけれども整形外科出身のドクターのクリニックが1軒もないのであります（開業を考えている若い先生方へ、この場所が穴ですぞ）。したがって私のクリニックには、かなり離れた所にお住まいの患者さんも割合と訪れているようです。新患患者の数が結構多く、カルテ番号が8000番を越えている。午前診と夜診とでははっきりと患者層が分かれており、午前診はお年寄りや主婦が多く、夜診は学生、サラリーマンやOLが比較的多くみられる。周りに学校が多いこともあって子供の骨折やスポーツ外傷も比較的多いように思われる。もちろんお年寄りの骨折もよくみられる。当初より骨折の治療は当院でできる範囲内の骨折に対してできるだけ当院でやってしまおうという方針であり、ときにイメージを用いながら経皮的鋼線固定術

程度のオベまではしている。周りの整骨院には絶対に負けたくない、他のクリニックとはひと味ちがう医療を、当たり前のことであるが、できるだけ良質な医療を患者さんに提供すべきをモットーに日常診療に携わっている。しかしながら整形外科疾患、特に慢性変性疾患については治りにくいものが多い（ほとんど完治させることができないものばかりである）、患者さんは実際長期にわたって通院されることになる。治療は相対的な機能改善を目指すことが多くなり、それに伴って患者さんの心を癒すことも学んでいかなければならない。開業してつくづく身近に感じることである。

『症状は完全には治りませんよ。でも、もう少しマシになるように治療しましょう』『うちのクリニックに通院しながら、いかにこの病気と上手に付き合っていくかを学んで行きましょう』『そろそろうちのクリニックを卒業しましょう。また症状が増悪すれば、治療を再開しましょうね』などとムンテラしながら患者さんの早期社会復帰を計っている。もっとも小生の実力、治療技術が未熟なるがゆえ上手く患者さんが治っていないのかもしれないが、いずれにせよ患者さんの心因性の病態を分析し、患者さんの立場に立って心を癒す治療をもすすめていかなければならない、と時に自戒している。勿論手術的治療によってかなりの機能改善が期待できそうならば、すみやかに病院を紹介している。もっとも開業して保存療法ばかりしていると、勤務医時代に思っていた以上に保存療法が結構効果あるような印象で驚いている。保存療法をもっと勉強しなければと思っている。いろいろと試行錯誤しながら地域医療にはげんでいる今日この頃であります。何かを励みにしたいため、取り敢えずはカルテ番号が新金岡団地の人口30000人に匹敵する30000番をめざして。どこまで頑張れるかな！



クラフトマン・シップ

吉田 昌司

本年度（'96）の慰安旅行は、参加者が少なかったこともあり、少々奮発して、函館へ行きました。11月ということで、さすが北海道は冷え込み、特に函館山の頂上では、完全な防寒服が必要でした。冷たく澄み切った空気の中で、かの有名な夜景はそれなりに値打ちのあるものでした。現地の海産物の、新鮮さ、旨さ、安さも十分、大阪人を満足させてくれるものでした。「明治館」と称し古い赤レンガの倉庫群を改造したショッピングセンターでのことですが、ガラス工芸品、その他並んでいる一区画にオルゴール館がありました。

中から微かに聞こえてきた心地よい響きに引き込まれて足を踏み入れてみれば、大小さまざまな美術工芸品とでも言うような凝った箱から簡素な箱のものまで、たかがオルゴールがこんなに、と思うほど多数陳列されておりました。引き込まれた響きは小さな音ながら輝きを増し、天井のスピーカーからかと思わせ、辺りを見渡しました。中には小さなオルゴール演奏会場まであったので、耳を澄ませて音源を探し当ててみると、シンプルな木箱に納まった比較的小さなオルゴールではありませんか。ここまで魅せられては買うしかない、店員に値段を聞いてびっくり、9万円。たかがオルゴールおもちゃじゃねえか。まし

て凝った箱でもなし。もう少し安い物とは、えーと、ま、予算は3万？。鳴らしてもらえば、これでもなかなかのものではありませんか。しかしひと聴き惚れは、もはや耳から離れません。かくしてたかがオルゴールに、9万円出すはめになりました。曲は“カノン”、原産地はスイス。オーケストラの曲を編曲したのですが、音程は確か、間合いも絶妙、ローラーに一本一本ピンを植え込むハンドメイドの中に、真に製作者の「音楽性」を感じる響きです。近頃はやりのコンピューターミュージック、自動ピアノの無機的、機械的な響きとはほど遠い、暖かみのある、製作者の鍵盤へのタッチを感じさせ、忙しい毎日のふとした合間に聞き入っていると、疲れを吹き飛ばしてくれるような安らぎを感じます。これぞクラフトマン・シップというのではないのでしょうか。手術というのもこれに通じるものがあると思われます。開業後は手術というものには殆ど関わらない毎日ですが、日常の場において、無機的ではない、機械的大量生産ではない、真にハンドメイドの診療をと心がけている毎日です。



開院2年を振り返って

中嶋 一行

1995年、平成7年、私にとって忘れる事の出来ない年である。開院の年であり、阪神大震災の年である。

1995年1月4日、開院日若干の緊張と不安の中目を覚ましたのは寒い雨の朝でした。

イヤーな予感、友人の忠告を思いだす、「何故1月4日ヤ！患者さん誰も来えへんで。」

朝9時受付開始、なんと待ち合は患者さんで満杯、サクラはまったく無しである。喜びで不安と緊張はふっ飛び診察を終えたのは夜の9時。唯々混乱の中で終了。

多忙な中で1月15、16日の連休を迎える、いつも通りのテニスを終え、風呂に入り、ビール、そして夕食。思考力皆無、とろけた体は9時にはベッドの中、そして深い眠りに…。

突然体が宙に舞う夢とも現実ともつかぬまま闇の中唯驚きの声をはり上げるだけであった。1995年1月17日早朝、かの阪神大震災である。永遠の如く感じられた大きな揺れ、除々に日は覚め地震と気付く。

家具が転倒した程度で家の損傷はわずか、家族も全員無事、大きな揺れであったが、まあ大した事も無いだろうと、絶えた電気、ガス、水道の中適当に朝食をとり診療所へ。

山の上の家から歩いて下って行くにつれ被害の大きさに驚く。門柱は倒れ、道路はひび割れ、診療所に近づくにつれ半壊、全壊の家々が。もうだめかと思いながら恐る恐る見た診療所は無事であった。隣の八百屋さんは全壊、幸い住人は無事救出されていた。

前のJR、山陽電車塩屋駅は大変な被害、レールはアメの様に曲りくねっていた。

診療所はそのままの姿で建っていた。

アア、神様、仏様!!

地震後の約2週間は打撲、切傷、熱傷と地震がらみの患者さんばかりであった。しかし驚く事無かれ、地震当日も負けじと理療に来られたお年寄りがおられたのである。

診療も除々に平静を取り戻し従来の患者さんへと変って行った。開院1ヵ月、おかげ様で1日来院患者100名を越え、御祝いにと従業員と共に丹波へボタン鍋。

ホテルに到着、フロントには誰もいない、客はどうやら我々だけである。大きな声で叫んでやっと部屋に案内される。

この震災の中、旅行など、まるで非国民あつかいである。でも長い間入っていないお風呂、あったかいボタン鍋、夢の様な楽しい、楽しい、有難い1日でした。

早いものです。丸2年が経とうとしています。

単調な日々ではあるが良くも悪くも自分のペースで仕事の出来る事、プライベートな時間が思ったより多く、これを自分のやりたい事に費やせる事、本当に恵まれていると感謝の気持である。テニス、水泳、英会話、油絵、ピアノ、カラオケ……。なんと軟弱な生活！

若い頃抱いていた理想の医者像となんとかけ離れている事か！と時々は思い悩みながらも、まあこれでいいかと納得。

病氣、老いの悩み、苦しみはさる事ながら生活の悩みまでも、患者さんは好き放題に訴えるのである。寛容な心、いたわりの心、そして忍耐と体力、まずこれらが町医者にとって不可欠である。そして科学者である医者としての知識。しつこく訴える患者さんには新たな気持ちで耳を傾け、よく診ようとする心、これが不可欠である、と思うのである。

マンネリに押し流されぬ様、若年性痴呆にならぬ様、頭と心を常に活性化し今後10年、20年、いや30年(?)現役で頑張らねば、少なくとも市大整形外科70周年には憎たらしいほど元気な熟年医師として又投稿したいものである。



整形外科医としての御師匠さん達

吉田 研二郎

49年に卒業して以来人並みに外回りをしながら整形外科の研修をしてきたわけだが、これで一人前というレベルに達しない前に他人に教える立場、戸惑っている間に開業をしてみれば回りには教えてくださいという奴さえいなくなる始末。自分が人に教えていない割に、いろいろ師匠がいたことの記憶はなかなか消えず。

研修医の時はその名の通り教えられることが当たり前、自分で調べて自分で判断することをしない。済んだとたんに暁明館病院の小川トーマス先生のところに行くことになってもまだまだ研修医気分。ところが、小川先生、肝臓の調子が悪いとかなんとかいってさっさと入院。あれよあれよという間に一人ぼっち。まあ、お伺いに行けばいいのだけでもいちいち患者さんをまえにそう言うわけに行かず。心細いやら、うれしいやら。尺骨神経麻痺の患者さんがいて、神経移行をする事にムンテラ、じつは神経の手術などはいいい加減にしか見たことがなくキャンベルを読んだり陣中を眺めたり一応準備をするものの読めば読むほど心細い、とうとう同級生の岩宮先生に手伝ってもらうことに。階段のところで通りすがりの木下孟先生に“どないしましょ”と聞く始末。“本読んで勉強して、うまい事いか

んな様な手術はその手術があかんのや” とのお言葉。手順どおりやってうまいこといかんかったら、俺が悪いのやなくて手術が悪いんかとえらく納得してしまい。だいたい、初めての手術は失敗なく2-3度目の慣れた頃が危ない。この手術は何とかうまく行ったような、少なくとも悪い結果はなく、なにぶん神経ほんとの回復は少々時間を頂くことに。見たことのない手術にえらく魅力がでてきて、人工膝関節もパンフレットを見ただけなのにトーマス先生のお許しを頂いたのが始まりでずっと人工関節をやることに。マーマーをやって結果はまあまあだったけど、今頃は どうしておられるのか。

研修医のときに社会医療センターの故橋本賢治先生のところで関節鏡の手ほどきを初めて受けたところで、これはいけるでてもんで、借り出してはいろんなところに持ち出して暁明館でもときどき関節をのぞかしてもらっていたが、電球管式のため少し乱暴に扱っていると電球管のところでよく折れる。真っ暗になってしまうやら折れた先が関節の中の異物になったりしてえらい目にあったが、よく考えれば単にへたくそでっただけ。

藤井寺市民病院、そのころは道明寺病院と言っていたが、そこでも関節の中に電球管を折り込んでしまい顔は真っ青。故前田先生（第2外科）が顔を出してくれて“開けなしゃあないな。” ちょっと関節鏡で見ただけが関節切開まで。当時はそれでも何とかうまく行きましたが、よく考えれば前田先生のお力か。下手なくせに変形性関節症のおばあさんを覗くなんてもう少しまともなムンテラが必要だったわけ。いま、局所麻酔で80才の年寄りも半月板の切除などを鏡視下でやっているのと比べると単に下手だったのと、こんな物と思ってしまう心がいけないかも。

関節鏡の師匠の橋本賢治先生は何やらいつもエネルギッシュなかとで、たぶん尿酸値も高かったに違いない。淀川区の松本病院（今の桂寿病院）で夜中まで手術した朝にどこやら出かけていってお風呂に入ってきたと思えば朝の飛行機で高松に。高松南病院の整形の患者さんを一手に引き受けて明るく朝にとんぼ返り。いつ寝ているのか和からに生活を見せ付けてくれたもの。そのころの関節鏡といえば、テレビシステムがなく半月板が見えるとその位置で持っていてくれてそーっと横から覗いて、“見えたか？” といわれれば“はぁ” と答える。スケッチ用の紙を滅菌しておいてそこに鉛筆でスケッチを描いて、ここが半月板の切れたところなんて情報の伝達、絵の下手な奴はどうするんだい。そのころの社会医療センターは本田良寛先生が元気でひどく家庭的で、家族と認められれば何でもありの感。こっちの勝手な思いこみかもしれないが、関節鏡などはずいぶん持ち出してはいろんなところで使わせてもらいました。センターそのものが一流の道具と先端の医療という気概があったのか結構いい道具が揃えてあったよう、少なくともそのころは。師匠も施設も道具もやりたい奴は使いたい奴はつこたりんかいという感じがあって自主トレーニングをする環境が合ったよう、今はどうなんだろう。

卒後10年目くらいのとき、まだまだ一人で適応を決めて手術するのが恐くてなどと言っていると、長田先生が、“わし等は10年目で労災病院の医長になっていろいろ大きな顔してやっとなでえ”。このお言葉も、“実力の方はおいといてああそうか俺も10年目もう大きい顔してええんかぁ” とええ様に納得。多少、他人に認められた納得がいるように思うけど、今はあんまり大きな顔をしていると、道も歩きにくい。思いこみも、段々実力が付いてくればしめたもの。



雑 感

楯 憲一郎

幼少時より、祖父と親父の働く姿を見ていて、何となく医者という職業は、大変だけれども、やりがいのある仕事なんだという漠然とした感じを抱いて成長した。大学時代はのんびり、勉強半分、遊び半分で過ごさせてもらい、何となくhappyな気持で卒業したが、卒業して国立大阪病院に研修医として採用してもらった時に、まず一番驚いた事は、まがりなりにも、6年間大学へ行き、一応医師としての資格で就職しているのに、初任給（日給月給）が、新卒の看護婦より安かったという事です。それから世の中の荒波にもまれての苦労がはじまりました。働いてお金をもらい、それで生計を立てるという事が、どんなに大変な事か痛感しました。生活費を稼ぐ為に、（いつまでも親の援助は受けられないという自覚？と卒業後、結婚した為）まだ糸結びも、まともにできないうちから先輩に救急病院のバイトを世話してもらい、国立病院の仕事が終わってから、そこへ夜間当直という名目で、とまりに出かけて行きました。はじめの頃は、ベテランの看護婦さんに、殆んど、介助をしてもらい、自分はただ白衣を着て、坐っているだけというような事も何回かありました。内科的な救急患者が来た時は、夜中でも、田舎の親父を電話で呼びだして、アドバイスを受け、その通りに薬を処方していました。国立大阪での2年間の研修を終えた時に、当時の医局長だった吉中先生から、国立呉病院へ行ってくれないかという打診を受けましたが、ちょっと遠いなあなんて考えていたら、田舎の親父から、学位を取るようにとの指令？があり、逆らえないし、まあいいかという事で、母校の法医学教室に、某先生の紹介で入れてもらい、臨床とは全く関係のない、ヒト血清蛋白トランスフェリンの変異を、電気泳動にて見つけようという、これ又、訳のわからないテーマを与えられて、毎日、試験管振りとか、寒天ゲルづくり、電気泳動に明け暮れていました。幸い、2年程で論文ができたので、再就職先をさがしていたら、国立大阪病院でお世話になった酒井名誉院長先生が、国立泉北病院にいかれていたのので、先生にお願いして、何とか入れてもらった次第です。それから約5年間、江口先生の指導の下で、酒（主に焼酎）の飲み方と整形外科をみっちり勉強させてもらいました。何よりも一番うれしかったのは、いきなり、大腿骨頸部骨折の患者さんをもたされ、一度もしたことの無い、人工骨頭置換術という大手術を、始めから終わりまでさせてもらった事です。（3～4時間かかった記憶があります。）この時、はじめて、整形外科医になったんだという実感をうけました。今から17～8年も前の事です、一番強烈な印象として、今でも心に残っています。整形外科医になった以上は、とにかく人工関節、椎間板ヘルニア、骨折の3つだけは人に負けないような手術をしようという誓いをたてて、頑張ったように思います。泉北病院を辞めてから、岸和田市内の個人病院に、約4年間程、勤務しました。年間400例近くの手術を、江口先生に指導していただいて、殆んど二人でこなした記憶があります。泉北病院で手術の経験を充分積ませてもらっていたので、その頃は手術が楽しみでした。年令的にも34～5才で、一番元気のあった頃だと思います。

手術が終わってから、仲間のDr（内科・外科）と北の新地へくりだして、朝方まで飲み歩いて、自宅へ帰り、3時間程睡眠をとってから、又病院へでかけるといった生活をくりかえ

していました。自分の人生の中で、その当時が一番、いろんな意味で、充実していたような気がします。又、個人病院での経験が開業に非常に役立ったように思います。縁あって、泉大津で開業してから8年目に入りました。医学部を卒業してから、国立病院、基礎の教室、個人病院、開業医と、医者としては、一応一通りのコースを経験した訳ですが、最近、時々（かなり頻繁に）今まで苦労して一生懸命、手術を修得したのは一体何だったのか、整形外科医として、手術を中心に、患者を治す事が、本来の希望だったのに、今、自分がやっている事は、毎日毎日患者さんに注射（ブロック・関注等）をしているだけ。最終的に自分で選んだ道とはいえ、開業医としての毎日の単調な生活の中で、いかにマンネリズムに陥いらずに生きていくか、精神的な支えを、どこにおいて、生きていくか、それがこれからの人生の課題のように思えます。

自分のように、ゴルフと、時々、酒を飲みに行く以外は、特に趣味のない人間にとって、非常に難問のように思える今日このごろです。（ぜいたくな悩みかもしれませんが）



ある少女の死

阪本 邦雄

まだまだ暑い日が続き、蝉の泣き声も耳うるさく聞こえていた、昨年8月のある日のことである。午前の診療も終わり、昼食後、何げなく新聞に目を通していると「父親が運転していたウオーターバイクが転倒。乗っていた二人の子供のうち弟が死亡、姉は重体。」という記事であった。「ああ、夏やなあ。こんな事故が多いなあ。」と記事を読んで行くと、姉のMと言う少女の名前が目に入ってきた。「あれ、どっかで見たことのある名前やな?」。しばらく記憶をたどっていると、突然 思い出した、「あ! あの子や。」

.....

その子をはじめて見たのは、生後間もない昭和63年6月の私がまだ国立泉北病院に勤務していた頃であった。産婦人科の先生に呼ばれて新生児室に入り、その子を見た。まると太ったかわいい女の赤ちゃんであった。

「先生、この子の右足、内反足とちがうか?」と産婦人科の先生。診ると典型的な先天性内反足である。「先生、早速治療を開始します。」と返事、翌日から矯正ギプスを開始した。毎週、毎週、小さなマシュマロのような柔らかい、かわいい足にギプス包帯を巻いて行く。毎週、毎週、ガラス細工のような足を壊さないようにギプス包帯を巻いて行く。何とか矯正されますようにと、祈りながら。

しかし、内反足の治療は難しい。その祈りもむなしく、矯正不十分な為、翌年の3月にPostero-Medial Releaseを行い、ギプス固定、さらにBraceへと移行した。Braceにより、しばらくの間矯正位が保持され、足底部で荷重歩行を行っていたが、その内、除々に足外側部荷重歩行を呈して来た。Braceをいろいろ替え、矯正を試みるも、足外側部荷重歩行は、一向に改善の傾向を見せなかった。

2年後私は開業、彼女は4才となり、開業医の私のところに通い出した。その当時、屈

託のない笑顔で診察室を走り回っていた。また、診察は、2～3ヶ月に1回ぐらいになっていたが、その内、母親は彼女の弟もつれて外来に来るようになった。実は、この母親も、内反足であったが、非常に明るく笑顔のかわいいお母さんであった。この二人の笑顔は、症状の改善が見られないことに対する私の不安を、しばしば追い払ってくれた。だが、足外側部歩行は、改善されず平成4年11月に大学で広橋先生にお願いし、骨切り、イザロフの創外固定術を受けることになった。

平成6年7月に術後初めて私の診療所に来院、あれだけBraceで不可能であった足底部荷重歩行が獲得されていたのである。やはり必要な手術は、すばらしいものであると感じ入ったものである。それからは、3～4ヶ月に1回ぐらいの通院となり安定した状態が続いていたのが……

2日後の新聞ではその姉も、死亡と報道された。

父親の無念さと悲しみを思うとともに、今でも彼女のあの屈託のない明るい笑顔と母親のすばらしい笑顔が思い出される。



趣味と実益

箕輪 恵次

中学生の頃、近所にアマチュア無線用ダイポール型ワイヤーアンテナを上げている家がありました。私はこのアンテナから電波が飛び出し世界の人々と話が出来る装置はどのようにして動くのか大変興味を持ちました。当時、初級アマチュア無線の免許試験でも筆記式で中学生には大変難しい試験のように思いました。大学に入った頃、市販のTransceiverが発売されており初級アマチュア無線の免許試験は四者択一式になっており、大学入試物理の知識で簡単に取得することができました。小遣いをためKencraft（現在のKENWOODのキット製品子会社、現在はありません。）のメイン回路が真空管式50MHz Transceiver kitを組み立てました。このTransceiverを改造したりして約1年間使用していましたが、やはり出力が足りないと考え当時50MHzで最高出力許可が取れる上級免許を受験することにしました。筆記式の工学・法規とモールス電信術の試験を取得しました。その後、50MHz 50watts出力リニアアンプを作りました。最終段増幅に真空管2本をプッシュプル回路（パラレル回路ではテレビ障害が出ることが多い）で使用するもので、真空管の陽極電圧は1000voltsを課けましたのでビクビクしながらゴム手袋をして作業しました。トランジスターを用いた定電源装置など便利そうな装置を次々と作りました。IC素子が出現したとき24個ICを用いた（当時のIC集積率は低かった。現在では2～3個のICで可能です。）高周波数カウンタを作りました。こうした回路はメーカーの素子データ、参考書から回路図を決め、両面銅膜を貼ってある基板を塩化第二鉄溶液でエッチングして回路基板を作り部品を半田付けしていきます。

私は、にわかにモールス電信術を覚えたので電信術は下手くそでした。現在のマイコンの元祖であるNECワンボードマイコンキットTK80が発売され直ぐに飛びつきました。このワンボードマイコンを用いたモールス電信解読機の開発がマニアの間で大変盛んでした。私も電信術の「下手くそ」を助けるためにインターフェイスを作り、プログラムの開発に没頭しました。はじめはノートにアッセンブラでプログラムを書き機械語コードをテンキーからマイコンに入力します。後に、開発されたアッセンブラソフトを利用しました。しばらくしてBASIC言語が出現しました。この言語を利用したプログラムも利用しましたがスピードが遅く、再びアッセンブラでチャレンジしました。しかし、どうしても満足できませんでした。その問題点は強い信号では機能が良くても、人間の聴力でノイズの中から識別できる僅かな信号を区別するインターフェイスの開発は無理であるということです。このインターフェイスの開発にもオペアンプICを利用した装置を何度となく試作しました。人間のバランスの取れた生理的機能がいかに優れているかを再認識しました。

私は、中学生の時から語学は苦手で、特に発音がだめでした。高校生の時に何とかしたいと当時レコード式のリングホン英会話（船でアメリカへ行く話）を買いましたが、ものになりませんでした。外国へ行ったことがありませんでしたが、無線交信で外国人と会話をするには簡単な英会話が必要ですので再びテープ式のリングホン英会話（今度は飛行機でアメリカへ行く話）を買ってチャレンジしました。最終的にはドグマチックに英会話はできるという自己過信に辿りつきました。

医学部を卒業して整形外科の研修医になり、新研修医講義がありました。当時桃山市民病院で森 稠先生の大腿骨頸部骨折の講義がありました。そして最後に手術を上手にしたいのなら木にドリルで穴を開けたり、竹を鋸で切ったりが満足にできない者が人間の骨に穴を開けたり、切ったりはできない、自分でドリルや鋸の扱いを練習するようと言われました。この点はもう十分にやったなと思いました。手術治療の過程は物作りに共通するものがあり、計画は緻密で、出来上がりはエレガントで、作動・機能は妥当性があることです。

大学院へ行く時、整形外科の希望が多数いましたので島津 晃教授に相談して整形外科も勉強させて頂くことで第一生理学教室にしました。この生理学教室には実験に使用するオシログラフがあることを知っていました。このオシログラフは電子回路を作る時ぜひ欲しいもので当時高価なものでした。これを利用したいという単純な動機もありました。大学院のはじめは特にすることもなく教室にあったIBMタイプライターでキーボード入力の練習をしていました。生理学教室では神経細胞に硝子微小電極を挿入して様々な神経細胞の活動電位を測定していました。この電位を正確に測定するにはハイインピーダンス入力アンプが必要でした。教室の装置は予算の関係で古く、最新の装置は高価でした。私はハイインピーダンスオペアンプICを用いた入力プリアンプを作れば経済的で高性能な実験回路ができると教室の先生方に進言しました。このプリアンプは3個のICを用いたinstrumentation amplifierで極性反転回路ケースも含めて数千円で出来ました。この入力プリアンプは数個つくりましたが、主に高周波回路を作っていた私には簡単なもので数日で完成しました。こうしたお陰で私の嫌いな動物実験も先生方には快くお手伝いいただき大変感謝しております。最終的には松裏修四教授が市医学会誌に入力プリアンプの簡単な英文論文にして掲載されました。私が書いたのは論文の回路図だけでした。

79年にStockholmで開催された国際筋電図学会に近藤正樹先生の演題がアクセプトされ、近藤先生からプラットホームで代りに発表してほしいと依頼され、チャレンジすることにしました。タイプライターで発表原稿を何回も推敲しました。同時にリングホンで英会話

を練習し、原稿を英会話が堪能な岡島幹雄先生に朗読してもらい、この録音テープと同じように発音できるように練習しました。医局の図書室で故豊島 泰先生が聞いてやるからここでスピーチしてみろとなりました。スピーチを始めると直ぐに豊島先生は腕組みをしてコクコクと居眠りを始めました。どうしたものか考え倦ねました。この先生は教育的に物事を教えられる親切な方でしたが、カンファレンスや研究会で実によく居眠りをする先生でした。そして、前野岳敏先生が旅行世話役ではじめての海外旅行に出発しました。この時、川崎医大におられた現教授山野慶樹先生も同行していました。Stockholmでの発表が終わった時、London経由で現地に來られた松田英雄先生に「箕輪君の英語が一番良く分かったわ…」とお誉めとも皮肉とも取れるお言葉を頂きました。学会後3週間西欧各地をレンタカーで旅行しParisから帰国しました。西欧の都市には歴史があり大変面白く思いました。また、山野、前野両先生がポルノショップとライブショーが好きであること、山野先生がよく怒ることが分かりました（現在と同じです?）。それでも初めての海外旅行の私にいろいろご教授していただき、ものごとの見方が変わるほどの大変有益な旅行でした。

私は長居公園に隣接したマンションに住んでいました。この公園で夜明けとともに小型のラジコン飛行機を飛ばして楽しんでいる数人がいました。子どもの頃から長居公園でラジコン飛行機を飛ばしていることは知っていましたが、子どもには大変高価なものでした。そこで一度、飛ばしてみようと思いました。1ヶ月掛け初級練習機を作り操縦教本を熟読し万全のもとに夜明けを待って初飛行に出かけました。エンジンは快調で離陸は簡単でしたが、初級練習機といえども飛行機のスピードに焦りました。飛行機は約20秒で地面にはほぼ垂直に墜落、大破し修理不能でした。帰宅してwifeに状況を説明するとゲラゲラ笑われ馬鹿にされました。それでもめげず2号機を作り、もっと広く安全な奈良の造成地へ家族と共に出かけました。この時は前半は快調でしたが着陸がうまくできず、離れた茂みの中に不時着してしまいました。探しましたがなかなか発見できず夕暮れになりました。それを待っていたwifeが私の気持ちも知らず「もう諦めて帰ろ」とのたまいました。帰宅後も私は諦めきれず、特に高価な無線コントロール装置は回収したく思いました。次の日みんなが眠っている夜明け前に小雨の中、双眼鏡と雨かっぱをもって奈良まで車を飛ばしました。操縦していた所に立ち飛行機が不時着した方向の茂みを双眼鏡で舐めるように探しました。そして、茂みの中にわずかに見える垂直尾翼のカラー塗料を発見し機体を回収しました。損傷はほとんどありませんでした。帰宅後、wifeに説明するとまた馬鹿にされました。当時wifeは住吉市民病院の内科にいました。同じ病院の整形外科の山崎匡二郎先生がライブスチーム蒸気機関車を走らせているがこれをラジコンでコントロールできないか聞かれているとのことで、早速山崎先生の自宅に見に行きました。自宅の周囲に庭木の枝を切り敷設したレールを子供たちを乗せて走る蒸気機関車は実に楽しいものでした。蒸気機関車はキット製の1台と自分の旋盤で部品から作り上げたという1台がありました。自宅の中には各部屋の壁をくり貫きHOゲージ小型模型電車が走っていました。夕食をご馳走になり帰宅しました。「マニア」とは「狂っている」ことですが、この先生は相当の「マニア」というのが実感でした。山崎先生は有名な「水野プレート」はもともと自分が考案したプレートだと言っておられますが、このマニア性から考えて本当の事だと思います。しかし、私は抜釘した経験からこの「水野プレート」は生物学的に脊椎が固定されるまで内固定を保持するにはスクリュウ・ナットの緩みに対する強度に難点があり好きではありません（それが良いと考える先生もおられる）。ラジコン飛行機は約20機製作し、スポーツ機で曲技飛行が出来るようになり長居公園での早朝飛行にも安全性に問題があるので中止としました。現在も数機の飛行機が屋根裏の納戸に残してあります。

89年に現在の自宅を新築しました。建築設計の時もいろいろと考えましたが実際に使用してみると電気設備に不満があり合法的に改善しようと第2種電気工事士の免許を取り、パソコン通信の時代でしたので電話回線もレベルアップしようと工事担当者（アナログ1種・デジタル1種）の免許も取りました。電源回路を整備し無線設備も更新しました。身についた下手な英会話を必要ともせず、モデム通信が趨勢でしたがずっと懂れていました国際通信があるラジオテレタイプをしてみようと考えました。以前はラジオテレタイプ装置は機械式でコードを作り信号を送っていましたが、集積回路の進歩で弁当箱位のアダプターとマイコンで信号を送受信出来るようになっていました。始めはアダプター附属のプログラムソフトを使用していましたが、下手な英文タイピングでは交信についていきません。そこで自分用のソフトを開発することにしました。スピードを考えC言語を使用することにしました。C言語を使用するのは初めてで一から勉強しました。方針は見かけ上はこれまでのソフトと同じですが、登録してある電文が交信中も自在に取り出しができ登録も即座にできるようにしました。ほぼ満足のできるプログラムができ実用使用しました。しかし時代はWINDOWSの時代となりC言語もC++言語に変わってしまいました。そこで作ったプログラムをWINDOWS用に移植しようと考えましたが、余りにも進歩が早すぎて40才台後半になると能力が追いつかなくなっていることに気付きました。現在のプログラムの開発は30才台半ばまでの柔軟な脳でないと困難な状態になっており、プロのソフトメーカーでもWINDOWS用ソフトの開発が遅れた理由はプログラマーの能力が追いつかないことが原因の一つです。ソフトメーカーは若いプログラマーを導入すれば解決できますが、私が若返ることもできず困った問題だと思っています。96年に開業しましたが診療所の電気設備設計、部品選定の管理もしコストパフォーマンスを上げました。また、通信設備も電話・LAN回線路敷設は業者に依頼しましたが（危険な仕事は避け、力仕事は不向きなため）、装置の選定購入、設置は自分でしました。

学生時代、細菌学の故増井正幹教授の講義がありました。この先生の講義はさっぱり分かりませんでした。発音が口籠もりモグモグと聞こえ、何時も教室の後ろにいる私には理解できませんでした。何かの細菌代謝系の説明の中でエネルギー上無駄な系路があるが、こうした無駄があることが生物が活着していることの証であると言われ、この時だけはなかなか含蓄のある話だなと思いました。私もこれまでにいろいろな趣味に無駄な時間と経費を使いました。人のする多種多様な無駄な行為を理解できない人は生きた人間の治療をする医師としては不向きだと思っています。これからも無駄な時間と経費を大いに使い自分が人として活着していることの証にしたいと思っています。



最近の私

西上 茂樹

私は開業する一年前から鍼治療に興味をもち、色々な研究会や講習会、学会に出席しています。現在も定期的に2つの研究会に参加しています。研究会ではパソコン通信も盛んで情報交換しながら勉強できます。大学でも開業医向けにパソコン通信で情報をお教えいただけたらいいのですが。

研究会に参加しているのは鍼灸師や柔整師が多いのですが、彼らは非常に研究熱心で解剖に関する知識も豊富で細部までよく知っています。何故なら彼らにとって触診が問診と共に患者からの情報として大事なためです。ところが我々にとっての情報は画像や血液検査に頼っていないでしょうか。先日、ある患者が前医（整形外科）ではレントゲンをみて診察もしないで『異常はありません。湿布で様子見て下さい。』と顔も殆ど見なかったと話していました。

鍼灸師らの指先は敏感でいわゆる穴を的確にとらえて治療しているようです。治療は局所にとらわれず全身を考え、局所からはなれた遠位部にすることが多いように思います。例えば五十肩は反対側の薬指を刺絡（針を刺し出血さす）するとただちに改善します。腰痛や膝痛も効果的です。このような治療を経験すると人間が摩訶不思議なものであることを実感します。

最近には気にも興味があり効果も実感していますが、診療に使うのはためらっています。時期がくれば使いたいと思っています。



『開業医としての出発』

飯田 伊佐男

謹啓 蒸し暑い日が続きますが、皆様お元気でお過ごしのこととご拝察申し上げます。

さて、この度 17年間の勤務医生活にピリオドを打ち、小さいながらも心の通ったクリニックを開設するべく、独立する決心を致しました。今まで受けました数々のご指導、ご厚情に対しまして、心より感謝申し上げます。

7月1日から、西宮市大屋町にて新たなスタートラインに立ちます。医療は実に多くのパラメディカルと様々な業種の方々の協力で成り立っています。医師はその中であるものの、一人では何もできないことを開業準備のなかで痛感しているところです。

今までに数多くの患者さんから与えられた経験を生かしつつ、微力ながら地域の皆様の健康の回復と維持、増進のため全力を挙げて努力する所存でございます。これまで以上に、ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



開業医生活を振り返って

久保 俊雄

昭和62年4月に大阪市旭区にて開業し早や10年の年月が過ぎ去ろうとしている。開業当初は未体験の連続で医薬品の準備やスタッフへの指示やらで非常に気苦労があったのを覚えています。

しかし自分が責任をもって診療、医業経営、職員の教育等を実施していく満足感はその苦労に比例していく様で充実した時期ではなかったかと思ひ返されます。

その中でも人の問題（スタッフは当初受付2名 看護婦2名 リハビリ柔整師1名 女性助手1名）では非常に気を使いましたし苦労させられました。看護婦同志が感情のこじれから急に退職したり、受付で患者と職員がお金の受け渡しの事でもめたり、経営者サイドに反抗的であったり数えあげたらきりが無い程苦労させられましたし、今後も苦労させられると思います。

地区医師会には開業3年目より参加させて頂いていますが地域医療を実施していく上で大いにプラスになっていると思います。

自分の診療所の中で医療を実践していくだけでなく地域社会の中での医療の役割、医師の立場について幅広い知識と情報を提供してくれる場だと考えております。

かいつまんで私が担当しました医師会の活動につきまして書きたいと思います。

最初は医事紛争以後救急医療、地域医療、医業経営を2年毎に担当しました。

医事紛争では地区医師会の役割のむづかしさ特に感情的もつれと金銭面では全くの素人であり専門家に相談しながら解決（担当期間中一件紛争あり）ホッとしたのを覚えています。この間カルテを含む記録の保管や医師賠償保険については十分に対応しておく必要があると痛感致しました。

救急医療では休日急病診療所出務医師当番表の作製では正月、五月のゴールデンウィーク時の出務者の決定には随分気を使いました。

又、区内で不発爆弾の撤去が実施されその対応に追われたり、救急救命士制度が充足して間のない頃でその業務内容の医師間への広報に気を使ったり結構いそがしい時期でありました。

先日NHKのテレビ報道で救急医療の現場が特集されていましたが救急救命士が医師の指示を受けて初めて有効な救護活動が出来る現行の体制の問題点を問いかけていましたが、救命士の医学的知識の充実と実践トレーニングに十分時間をかけた上で制約を解除し、より敏速な救護活動が実施されればいいなと思われた。

地域医療では特に在宅医療の面でいそがしかった。当区でも城北市民病院跡地に医師会主体の老健施設、在宅介護支援センター内の訪問看護センター設立が予定され、小委員会を設立し勉強会を開いたり施設見学を実施したりで設立・運営の大変さを痛感させられました。

又、在宅医療の保険点数の算定規律に対する解釈、病診連携、グループ往診の組織化等今後の地域医療にとって非常に重要な問題について考えてまいりました。

現在は医療経営担当ですが、少しゆっくり出来そうです。趣味は時間の合間を見てテニス

やゴルフを楽しんでおります。

テニスは2年前より医師会のテニス部の幹事をさせて頂き、平成6年度の全日本医師テニス大会の大阪大会では運営委員の一員に加えて頂き、大会実施一年前より準備運営のための会合に参加、大会実施にあたり多くの人の協力が必要でありその一員として頑張れた事は非常に有意義でありました。現在医療情勢は急激なスピードで変動しており、来年度には老人負担の定率化や薬剤費の給付率の低下・健保本人の負担増大等きびしい内容になっていく様です。

今後医療情勢の推移に従い自分の出来る事を認識して頑張っていきたいと思います。



マイペースで働いております。

呉家 守二



大学卒業後、現在、そして これからの自分

島田 永和

自分が整形外科医になって以来の足取り調査をしました。まずは研修医時代。国立大阪病院で厳しくも楽しい外科系の研修をさせていただきました。整形外科よりも一般外科や麻酔科で過ごす時間の長い「変な奴」でした。つまり整形外科ではなく、「外科系研修医」でした。その後、大学に戻り、臨床研究医となりました。松田英雄先生の神経に対しての学問的な追求の姿勢に衝撃を受けました。先生には、直接ご指導もいただいて研究の真似事をさせていただきました。この頃は手術や筋電図の仕事で、帰宅は連日、深夜でした。しかし、しんどかった記憶よりも楽しかった思い出が残っています。研究の面白さが実感できるようになった「整形外科研究医」時代です。

それから国立泉北病院での勤務を命じられ、赴任しました。正式な給料をいただける身分になって嬉しかったのを覚えています。江口亨先生にご指導いただいて、初めていろいろな手術を経験させていただきました。「新米の整形外科臨床医」です。その頃、市川宣恭先生に誘われ（脅されたような感じでしたが）、身体障害者スポーツセンターで柔道をしたのも良い思い出です。また、泉北病院勤務中に肝臓疾患から急性腎不全となり入院しました。透析も受けました。以来、自分のオシッコには、特別の感慨があります。出るべきものは出ないといけません。多くの方にご迷惑をおかけしました。禁煙することで感謝と決意を

表わすことにして、今日まで続いています。貴重な「患者」体験でした。

そして、卒後7年目に、悩みながら父の経営する病院に就職しました。後ろを見ても誰も見守ってくれてはいない環境で、たくさんの手術をしました。今から思うと度胸があったというより、無謀というべき体験もしました。しかし、そういった環境で整形外科医としての技術は随分鍛えられたように思います。一人前の「臨床整形外科医」への学習期です。一方、市川先生のご指導により、スポーツ選手の診療を専門的に行うようになり始めました。スポーツ医学関連の学会に発表することが多くなり、一端の研究者気取りでした。執筆依頼があると、有頂天になって書きました。「スポーツ整形外科専門医」の端くれになった気分でした。

卒後丸10年経過して、父が引退し、院長になると同時に、医療法人の理事長にも就任しました。素人の「病院経営者」です。外来診療や検査、手術、そして、入院患者さんの管理に加えて、経営や管理のことを勉強しなければなりません。その当時、厚生省は医療費抑制策のもと、次々と厳しい医療費抑制政策を打ち出し始めていました。経営の勉強会に出席すると、「病院経営 冬の時代」と言われているのに驚きました。素人なりに何とか頑張るしかないと思いました。

次第に整形外科医としてよりも、病院経営者として働く時間が長くなってきました。院長になって7年経ち、少し落ちつく、老人保険施設や訪問看護ステーションなど老人医療や在宅医療にも取り組むようになりました。今年は島田病院の院長を上野憲司先生にお願いして、法人の理事長に専念し、新しい病院の経営に乗り出しています。理事長は、法人全体のビジョンや目標を示し、実際の運用は各施設の管理者にお任せするものだと思います。時々、自分がやったほうが楽かなと感じるときもあります。でも、後で優れた方策が提案されてくると、つくづくチームでの運用の有り難さを感じます。いくつかの組織をまとめる役目の難しさと面白さに気付きはじめたところです。

こうして、医者になってからの軌跡を振り返ってみると、未熟な私でもたくさんの役割を与えていただいて来たんだなと実感します。これからどの方向に進んでいくのか自分でも分かりませんが、悔いのない人生にしようと、いろんな計画を立てては楽しんでいます。



休日は家庭サービス

岩本 善介

開業して8年目やっと町のお医者さんになれたような気がします。好きなゴルフをどんどんしたいのですが、子供がまだ幼い（3才）ので、休日は家庭サービスに努めています。



読書の愉しみ

堀澤 欣弘

はやいもので、開業して一年半が過ぎました。くる日もくる日も外来患者さんを診ることに漸く慣れて、自分なりのペースというか習慣が出来上がりつつあります。特に用事のない日は午前の診察を終え食事のあと、軽く昼寝をしてから一時間ほど読書进行します。そうすると、あっという間に夕方の診察の時間になり、また診察を始めてという具合で一日が過ぎていきます。開業当初は昼間にはストレス解消のため、近所のスポーツクラブにでも通おうかと思いましたが、患者さんもたくさん通っているのが判り、かえってストレスが増えそうなので止めました。結局、空いた時間は好きな読書をするのが習慣になり、これが現在の私のストレス解消となっています。

最近の読書の傾向は、フィクションよりも科学、生物や古代史などのジャンルの本を読むことが多くなっています。以前は肩の凝らない時代小説や海外のミステリー小説が好きでしたが、図書館を利用するようになってから、少しずつ本の好みが変わってきました。きっかけは子供が宿題を調べるために、近所の図書館に一緒についていったことでした。何十年ぶりかで図書館に行きましたが、驚いたことに、沢山の海外のミステリー小説が新刊のものまで揃っており、早速4、5冊を借り出しました。図書館という、暗くて面白くない本ばかりしかないと思い込んでいたので、うれしい驚きであり、それから月に数回は図書館に足を運ぶようになりました。最初は小説ばかりでしたが、読みたい本を一通り借りると、自分では買わないようなノンフィクションの本も借りるようになり、そして立花隆の「サル学の現在」という本を読んで、決定的に読書の傾向がそれまでと変わりました。この本は日本サル学の研究者たちにインタビューをし、それをまとめた七百頁以上の分厚い本ですが、サルの知られざる興味ある生態が紹介されています。別にサルのことをいくら知ったからといって何の役に立つものでもありませんが、知らなかったことを知り、そのことについてあれこれ思いを巡らせるということが、いかに楽しいことかが判りました。ちょっと時間が空いたときに、読んでいる本の内容を何となく考えているということは、小説だけを読んでいた時にはあまりなかったように思います。また、そういう本を読めば読むほど色々な疑問がわいてきて、それに関連した本を読みたくてきます。生物の進化とは本当に漸進的なものか？ 脳のメカニズムは？ 脳死問題とは？ ギザのピラミッドはいつ、誰が作ったのか？ 縄文時代の人々の生活は？ 天智天皇の正体は？ 従軍慰安婦問題の真実とは？ などなど、興味のわくままに色々なジャンルの本を読み漁っています。その間にもベストセラーの小説がでればやはり気になるし、次はどの本を読んでやろうかと悩むことも愉しみのひとつです。狭い医療の世界しか知らない自分にとって、願わくば、こういう実生活には役に立たないような読書でもそのオマケとして、社会の出来事を少しでも複眼的に見られるようになればと思っています。

最後に、この数年間で特に強く印象に残った本を少し紹介させていただきます。立花隆著「臨死体験」：体験者のインタビューを通して臨死体験という現象に理性的にアプローチしている著者の態度に感心します。他にも、この著者の脳死に関する三冊の本は医師として必読の書だと思います。スティーブン・J・グールド著「ワンダフル・ライフ」：カ

ンブリア紀の奇妙な生物の化石を通して進化論について論じたもので、同じ著者の科学エッセイのシリーズを含め、生物の進化の巧妙さに目を見張ります。秦郁彦著「昭和史の謎を追う」：右にも左にも偏らない歴史観で様々な事件を調査しており、マスコミ、特に新聞報道に対する疑問を強く感じるようになります。興味がわきましたら、是非、一度読んでみて下さい。



私の少年期を過ごした村

山中 健作

私は徳島県南部の小さな漁村“阿部”で生まれ、中学卒業まで過ごしました。当時人口600人の村の8割は漁業で生計を立てています。昔から、“陸の孤島”と言われ隣町との間でバスは1日2往復しかありませんでした。小学校は21人で入学、中学卒業までほとんど同学年変わらず、卒業も21人でした。小学から中学まで遊びと言え、海を相手にしたことが多かった。夏になると、素潜りであわび採ったり、魚を突いたり、天草を採ったり、とにかく一日日が暮れるまで海の中で過ごしました。

私の村では、水泳大会と言えば、プールがありませんので、前の海で行いました。クラスほとんどの生徒は小学校入学までに遠泳できるようになります。又、近くの川では、よく鰻を筒（中にミミズを入れておく）仕掛けでとったものです。筒は夕方、川床に置いておき、翌朝上げに行きます、上下に振ると鰻が2〜3匹入っている時は“ドドー”と音がし、「やったぞ！」と胸が高なる喜びを感じたものです。

その鰻を自分で料理し、砂糖しょう油で食べました。その天然鰻のおいしさは今も忘れません。

同級生のほとんどが、2代目漁師になる子が多く、私もあまり進学のことには中学生になるまで考えもしませんでした。塾もなく、信号もない村のことです。ノンビリと過ぎていきました。しかし、中学も2年〜3年になって来ると、どういうわけか高校のことが気になり始めました。私の兄貴が進んだ「富岡西高校」にどうしても進学したい気持ちになり、その頃から勉強を始めましたが、今まで遊び遊びで来ていたものですから、町の子供たちよりはるかに遅れておりました。中3の最終の頃の模擬テストで、富岡西高校進学希望者確か294人中294番であったことを今も憶えています。担任の教師が100%落ちるから受験を止めるよう言ったが、中学浪人覚悟で受験、後ろから10番目で合格、あの時の喜びも又忘れない思い出です。

しかし、思い起こせば、阿部の村で過ごした十数年は、開業医となった今にほんとうに役立った知識、考えをもたらしてくれていると思います。



市整会25周年にあたって

秋野 一男

市大整形外科開業医会の発足25年を迎えられ、まことに御目出度うございます。会員の一人として、本当に喜ばしく、御苦勞をなさって、ここまで育ててこられた諸先輩方に、感謝の意を表わしたいと思います。25年と言えば、私の25才の頃は、丁度、国立大阪病院での研修2年目でした。毎日が楽しくて仕方がなく、人生は無限に続くと考えておりました。大学を卒業後しばらくは、「先生」と言われて、とまどった事にも慣れ、院内を肩で風切って歩いておりました。仕事で新しい事を覚えることが得意でしかたがなく、よく仲間通しで、この手術ができる様になった等の話をしました。他の友人より、自分が少し遅れていると思うと、非常にあせったりもしました。若かったため、よく遊びにも行きました。仕事が終わったあと、病院の近所の“桂”という居酒屋で飲み、その後カラオケへとなだれこむのが、おきまりのパターンでした。

当時、研修医仲間の天野先生は、豪快で、又、非常に芸達者な方で、一緒に遊ぶのが楽しくて仕方ありませんでした。車で阪神高速に乗って、よく神戸まで、ドライブしたりもしました。再度山の、トゥールドゥール、芦屋のスマイリングリンカーン等によく通いました。アルバイトの当直も、先輩の目を盗んでよく行きました。

いずれにしても、重い責任もなく、毎日が楽しくてしかたありませんでした。今、思い出しても、人生の中で、楽しい思い出の、かなりの部分を占めているように思います。

あれから10数年が経ち、私事です、本年私も40才を迎えました。無我夢中で暮らしてまいりましたが、さすがに、この年齢になると、人生について考えるようになります。若い頃と違って、人生は有限なのは、との思いが頭をよぎるようになってまいりました。この間に、結婚、開業と、種々な事があり、ふと気が付くと、子供もでき、開業後、丸4年が経過しました。子供達のこと、従業員に関する事などの数限りない問題がいつもあるものの、生活も割と単調なものへとなってくる事と相まって、新しいことへとチャレンジする気持も、薄れがちになってきておりました。

最近、新聞で、キューバのカストロ首相が70数才の年齢であるにも拘わらず「私は、最近、人生が無限ではないと考えるようになった。」との話を読み、やはり大物は違うなと妙に感じました。75才を過ぎれば、そんなことは、あたりまえだと思っていましたが、不惑の年を迎えて、カストロより30才以上も若い私が、枯れてはいけない思い出しました。

臨床家として開業医を選択した今、臨床家としての道に、再び初心に戻り、邁進したいと考えるようになってきました。医師過剰時代を迎え、近隣に、競合の医療機関も増えつつあり、また保険制度の改革など、仲々大変な問題が目白押しにある今、原点に帰り、医師とは、開業医とは、を再び自らに問い直し、明日よりの診療、経営を行なっていくと考えております。なにかと至らぬ所の多い私で、御迷惑をおかけしますが、引き続き市整会の一員として、末席に加えていただき、相変わらぬ御指導を御願いしたいと思います。



「楽しみ」

倉田 順弘

現在の楽しみは、バタフライウォッチングと読書である。バタフライウォッチングという言葉は、バードウォッチングから勝手に造ったもので、蝶のいる風影を楽しむと言うぐらいの意味のつもりである。従兄弟からの影響で、小学校3年生の頃から蝶に接するようになり、初めは付近にいる普通種から次第にめずらしい種類へと範囲を広めて行った。クロアゲハ、ジャコウアゲハからギフチョウ、オオムラサキ、キリシマミドリシジミと言ったぐあいである。大学の教養課程の頃までは、飼育と標本作りをしていたが、今は飛んでいる蝶をただながめて風影画を楽しむように楽しむだけである。昔のようにネットでつかまえて自分の物にしたいという欲求は起きなくなった。羽を振わせて花から花へと舞う蝶の姿こそ美しい。死んで標本にすれば、あとは色あせるだけである。そもそも私が蝶に引かれるのは、その色彩の美しさ、あるいは、詩的な部分であって、科学的、研究的な意味ではない。子供の頃、蝶がすきと言うと大人は、将来は昆虫学者になるのかと言ったものだが、自分では何となくわかっていて、学校でもクラブはサッカーをしていたし、大学も理学部や農学部へは行かなかった。自動車が好きな人にも、車のメカニズムに興味のある人、車を集めるのが好きな人、乗ってスピードを出すのが好きな人といろいろな様に、蝶がすきと言っても人様々なのかもしれない。

読書の方はもっぱら、冒険小説、スパイ小説、国家謀略小説専門である。仕事の合間に読むのに気分転換にもなって丁度よいのである。映画も好きだが、映画館へたびたび行くのには時間もないし、ビデオにしても2時間続けてみる時間がなかなかない。切れ切れに見ても見た気分がしない。それにひきかえ、読書の方は、いつでもたいていの場所で、好きな時間読むことができて便利である。私の小説ずきは映画と関係していて、これは父からの影響である。洋画が好きだった父は、小学校低学年の頃から、ターザン映画を見によく連れていってくれたものである。自然とターザンのファンになり、本が読めるようになるとその小説を読んだ。小学校高学年の頃にはちょうど007ブームで、やはり父に映画館に連れて行かれた。少し遅れて、小説の方も読み出したが、クラスの同級生もたいてい読んでいた。今は東西冷戦も終わり、ジェームズボンドのようなスパイは活躍の場所がなくなってきたようで、結構なことであるが、小説の方では、新たな敵を探さなければならない。

最近読むのは、トム・克蘭シーの小説で、主人公のジャックライアンは、CIAのアナリストから、情報担当副長官、国家安全保障問題担当大統領補佐官と言うように、新作のたびに出世して「日米開戦」では、副大統領を経て、大統領にまでなってしまった。主人公が、大統領にまでなってしまうと終わりなのか、後どう続いていくのか楽しみである。

最後に、蝶と007シリーズとの関連性のある話題を一つ。映画「女王陛下の007」の中で、ジェームズボンドが、いろいろな分野に博学であることを披露するシーン。上司の「M」が、蝶の標本をいじっている所へボンドがあらわれ、「それは小さいタラチョウの一種ですね。」M「君は蝶のことにも詳しいのかね。」Mの背後の壁には、標本箱がずらりと並んでいた。何と、イギリスMI-6部長の趣味の一つは、蝶の収集だったのである。ただし、イアンフレミングの原作がどうだったかは記憶にない。



フラメンコギターに出会って

茶之木 頼彦

中年になってピアノを習い始める人が増えてきているらしい。NHKのポピュラーピアノ講座に出演していた生徒も30から40才位の男性が目立っていた。新聞の社会面によると、これは、人生の折り返しが近づき、仕事や家族関係の先が見えてくる時期に自分自身の新たな楽しみを見つけだそうとする行動の一種で、一人でできること、達成感が得られること、情緒の安定が期待できること、できたらカッコいいと思いこめることなどから楽器の演奏に走るのだそうだ。私も開業生活に慣れてきた3年目を過ぎた頃にそういう精神状態に陥ったのである。我が家の場合、妻と二人の小学生がピアノを習っている。たった一台のピアノの席取りに打ち勝つだけの家庭内での発言力はないし、子供たちより上達が早くなる訳はないことや、近所への騒音迷惑を考えるとピアノに手を出すことは諦めることにした。そこで、昭和40年代のはじめ、フォークソングが流行っていた頃、コードを少し覚えた経験もあったので、持ち運びが便利で昼休みにも練習できるギターをやってみることにした。その気になって先生を捜していると、地元十三の駅前にフラメンコギター教室の看板を見つけた。早速入門し、個人レッスンを受けることにしたのが平成7年4月。数回の引っ越しのうちに、いつの間にかネックが反り返ったため、粗大ごみとして大阪の空に消えた安物のギターのことを思い出しながら、気持ちを新たにフラメンコギターを購入した。四半世紀ぶりにギターを手にしたものの、スケールのポジションもすっかり忘れてしまっていた。そこで、診察室の机の上に目立たないようにギターのフレットの図を貼って診察の合間に覚えることにした。最初は、小学一年生の童謡『カッコウ』からはじまって、『禁じられた遊び』がどうにか弾けるようになるまで3ヵ月かかり、やっとフラメンコギターの基本リズムを教えてもらえるようになった。

入門時には、フラメンコギターというジャンルの存在すら知らなかったが、フラメンコギター界のスーパースター、パコ・デ・ルシアのCDを聴くにおよんで、マーラーの交響曲を初めて知った時以来の音楽的感動を覚えたことが、フラメンコギターにのめりこむ一因となった。

フラメンコはスペインのアンダルシア地方の伝統芸能でカンテ（唄）、バイレ（踊り）、ギターラ（ギター）が一体となって発達してきたものである。元々は、東方から流れ着いたジプシーたちの芸能が地元の芸能と融合し、さらに中南米の音楽も採り入れて現在ではコスモポリタンなものになっている。ギターは唄や踊りの伴奏に用いられてきたが、次第に伴奏のリズムの間に演奏されるファルセータ（メロディー）が、ギターソロの曲としても認められるようになったという。フラメンコ音楽の形式として、ジプシー色の強いソレアやシギリージャ、鉾山での苦しい労働を連想させ不協和音を多用したタラント、セルビアの祭りに踊られるセビジャーナス、中南米由来のルンバ・フラメンカやコロンビアーナなどの明るい曲まで40種類ほど存在している。ギター奏法に関してはクラシック、ジャズ、ボサノバに比べて右手の指の使い方が随分変化に富んでいて面白い。ピカートといって、示指と中指を交互に力を入れて弾く方法、母指以外の指の伸展運動を連続させて行うラスゲアード、母親の爪をピックのようにするアルサプーアなどがフラメンコ独特のリズムと

ノリを生み出している。

フラメンコギターを習い始めてまだ間がないが、テンポが速くリズム感のすばらしいブレリアを弾けるようになることを当面の目標に毎日練習に励んでいる。左手の指頭の指紋が薄くなるまではまだまだ時間がかかりそうだ。そして、いつかアンダルシアで本場のフラメンコに出会い、ドゥエンデ（フラメンコの深いフィーリング）を感じたいものである。



開業して思うこと

増田 博

開業して約2年半の歳月が流れ、いろんな患者さんと接するようになり、今までに患者さんにたいして思うことを書きとめてみました。

診察していて疲れを感じさせない患者さん。

1回の注射だけで、痛みがすっかりとれて、とても感激してくれて、私を神様みたいに思ってくれる人。

ほかの先生より聞きやすいということで、私の専門分野以外のことをいろいろ聞いてくれたり、自分の病気のことはもちろんのこと、家族の病気のこともいろいろと聞いてくれる人。

いつもはとても痛みを感じるが、診察室に入って、私の顔を見ると痛みがなくなってしまおうと言ってくれる人。

診察していて、困ったなと感じる患者さん。

こちらの言うことを聞かずに、一方的に自分のことを話す人。病気のことではなく、昔話とか、同窓会のこととかを話し続け、やっとの思いで話を切り上げたら、突然病気の話を始める人。

毎日、毎日理学療法に來ている人で、すいているときもひたすら電気を当てているが、いつになく患者が多く、混み合っているときに限って、診察に入り、あちらこちらが痛いという人。

診察するのがとてもつらく感じる患者さん。

こちらがいろいろと説明をしても、顔に不信感が見えており、なかなか理解をしてくれない人。

痛みを止めるために、注射をしようとする、いやだと言、痛み止めを出そうとすると、痛み止めは胃を荒すから飲みたくないと言、それなのに痛い痛いと言訴える人。

まだ開業して2年半しかたっていませんが、これからもいろいろな患者さんを診ていくことになります。一人で診察していて、相談する相手がなくて不安になるときもありますが、日々精進していきたいと考えています。



人生はあみだくじ（？）

馬野 隆信

市整会の25周年に当たり、若輩ながら市整会の一員として節目を迎えられることを光栄に思います。

私は開業して未だ2年余りではありますが医師免許修得以来ここまでやって来れたのも大阪市大整形外科教室並びに市整会の諸先生方のおかげであると感謝いたしております。

この25年間を振り返ってみると、自分自身の人生の節目には結局運命というか「くじ」に左右されていたのではないかと思うこの頃です。中学入学では国立の附属中学であったせいで学力試験の後抽選で入学者を決められました。幸いに合格者の中に入り無事入学する事ができ、そのまま高校卒業まで至ることができました。市大の入学試験から卒業まではそれ程人生を決める程の抽選は無かったようには思いますが、卒業試験の当たりはずれなど、ある意味では順調に來れたのもくじ運が良かったのかかもしれません。

整形外科教室では入局に当たっては特に抽選は有りませんでした。他科では卒業生の入局に当たって抽選が行われていた教室もあり、入局という人生の一大転機があみだくじで決められるというのは一つのショックではありました。

入局してからはアルバイトの振り分けなどにみんなであみだくじをした事もあり、その当たりによっては手術をいろいろさせてもらえたり、救急疾患を経験させてもらえたりと、その後の進路選択に影響を受けたように思えます。私の場合は、市整会の先輩方の施設に行かせて頂いたりして今となっては良い経験であったと思います。

私は大学院を基礎研究のため病理学教室に進ませて頂くことが出来ましたが、大学院を卒業して次の勤務先を選ぶに当たり、医局長先生に呼ばれ同期のM先生とあみだくじをしたことを今でも鮮明に覚えています。その時は国立泉北病院と国立療養所千石荘病院とで選択したのですが、その時のあみだの結果によって現在の開業医人生が決定されたように思っております。私はクジの結果千石荘病院勤務になったのですが、当時は整形外科が派遣されたばかりで、第一線の整形外科というよりは老人病院の中の整形外科という様で、毎日他科の先生方のお手伝いかいわゆる“整形内科”ばかりで、国立泉北病院でバリバリ手術をこなしている同期の姿を見てくじの結果を悔やんでおりました。しかもその時のアルバイト先といえば一般救急病院しか無く、バイト先で手術の腕を磨く事もできずむしろ小児科や一般外科・内科を仕方なく勉強するといった毎日でありました。開業した今となってはその時の経験が非常に役に立っているので、あながち“ハズレ”では無かったと思うようにしています。その時には他の大学のしかも整形外科以外の先生方と知り合うことができ、現在もその人脈が生かされていることを考えると、今の私にとっては悪い運命では無かったと思っております。

その我慢のおかげか、その後豊昌会林病院にお世話になることができ、良き先輩方に出会い、そのご指導で様々な外傷・災害外科を学ばせて頂きました。次の勤務先である（財）掖済会病院でもそれらの実績が生かされた様に思います。内科疾患を経験させて頂いたのも良い経験でした。

ただ、開業を決意するに当たっては、その決断や場所の選択など、クジだけではどうに

もならない問題が生じてきました。あみだくじで開業の場所・時期が決められたらどんな楽なことであつたでしょう。その時、今まで重要な節目はくじで決められていた私としては逆にいろいろ悩みました。結局、拠り所としたのは“四柱推命”でした。方位と時期を占ってもらって決めるというのは学生時代の自分からは想像できないことではありましたが、所詮、人生はあみだくじだと割り切っていたせい、今では新築や引っ越しの時期まで四柱推命で判断してしまっております。

本当に今までのくじが自分にとって良い方に当たったのかそうでなかったのか、結論は25年後にしか出ないように思います。今となつては、生涯、国家公務員で終わるか若しくは一介の開業医で終わるか、くじにより決められてしまったように思いますが、25年後に“良かった”と思えるようには今この日々を地域社会のために頑張るしかないと感じております。

これからどんな“くじ”を引かされるのか楽しみではありますが、とりあえず悔いの無い人生が送れるように精進してゆきたいと思っております。



「最近の暮らしぶり」

光武 宏

開業して早一年が過ぎ、なんとなく開業医らしくなってきたのかなと思う此の頃である。

毎朝6時に目覚し時計が鳴り（今は夏であり暑くて早く目が覚める）、子供達を起こしてラジオ体操に行かす。これがとても大変なことで、毎朝親子喧嘩をする。それから朝食。残念ながら時間の関係で子供達と食卓を囲むことができない。7時15分には自宅を出て電車とバスを利用した通勤となる。ラッシュアワー時間帯にはいつているが、人の流れとは逆方向なのでゆっくりと人に押されることなくいける。涼しい時などは駅から歩くこともある。時々道すがら「おはよう」と声をかけてくれる人ができた。患者さんである。なんとなくうれしい気分になれる。8時20分頃に診療所につき、「さあ、今日もがんばって働きましょう」と自分にいいかけながら室内の換気のために窓を開けたり、クーラーのスイッチを入れたり準備にかかる。早出の職員が8時半に出勤して掃除をはじめる頃には手紙などに目を通し雑用をすます。9時の診療開始とともに室内は騒々しくなる。あれこれとするうちに昼になり午前中の診療は無事終了。職員が昼食に帰宅する頃、製薬メーカー、卸し諸氏とのお話しが始まる。これが終了するとやっと昼食にありつける。その後外回りの雑用（銀行）。この時間が唯一外の空気を吸える。2時半頃になってやっと1時間程度の休憩がもらえる。3時半になると夕方の診療に向けての準備が始まる。4時に診療開始。再び喧騒の中となる。しかし喧騒の中にあるうちは充実感に満ちるが、患者数の少ないシーンとした時間はなんとも言えず重たい気分になる。7時に受付を終了するが時間を過ぎてこられる患者さんもあり、診療終了は7時半を過ぎる頃になる。帰宅のバスの時刻（15分毎）を気にしながら帰り仕度をする。自宅にたどりつくのは9時。子供達はとくに寝ており、毎日子供の寝顔をみるのみ。風呂にはいり、遅い夕食を食べ、テレビニュースをみ

て11時には就寝。この生活パターンの繰り返しである。最近酒量が増えてきたのもこの生活態度と関係しているのかもしれない。月火・・・土曜日と過ぎやっと日曜日となる。勤務医の時にはそれほど思わなかったが今では唯一の楽しい日になっている。先日京都の宇治川に家族4人で遊びに行った。我が家には自家用車というものがない。それで移動には電車、バス、それと自分の足ということになり、各自が水筒と弁当をリュックに詰めていく。子供達は重いリュックを背負って暑い中をテクテクと歩いていくのがとても嫌で、いつも家を出る時には喧々囂々の大騒ぎになる。今のところは親の力が勝っている為シブシブついてくるが、いつまでこれが通用するやら。京阪電車に乗ること1時間。やっと宇治駅に到着。そして宇治川を見たたん。子供達の目の色が変わり、不機嫌さはどこへやら、歓喜の声に変わってしまう。この現金なことときたら・・・。川の上流に向かって歩いていくと緑の木々の中にせみの鳴き声がよくマッチして心が洗われる。天ヶ瀬ダム手前に吊橋があり、そこで川辺りに降りると川床がよく見え、水の透明度は申し分なく、川魚がゆったりと泳いでいる。これが子供の頃にみた自然なのだとしばし我を忘れる。子供達はパンツ一枚になって川の中にはいり（O-157に注意。遊泳禁止。という立札があったが）水遊びを始める。魚をつかまえるんだといって追いかけまわしている。お腹がすいたと言っては持参のおにぎりを食べ、再び川の中にはいってバシャバシャと遊びが一段落した後、天ヶ瀬ダムの見学に出発。ダムは高所にあり、徒歩でゆくのは大変（他人は車でスイスイと登っていく）。やっとの頂上にたどりつくときさすがに見晴しがよく、がんばってきたかいがあったと思う。帰り道は森林の中を遠回りして帰ったが有意義な一日であった。帰り際には子供達は文句もいわず、又一緒に行きたいと言ってきてしてやったりと思った。このような日々の生活が続いていくのかなという思いで今この文章を書いている次第である。



『老無く男女 拳ってプールリハビリテーション』

阪本 博史

この度は、市整会に入会させていただきありがとうございます。平成8年4月1日から北野田の大美野噴水前で『整形外科、外科、消化器科、リハビリテーション科、リウマチ科』を標榜させていただいています。義兄が外科、消化器科を担当し、私が整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科を診療しています。

診療所の特徴としては、リハビリテーション用のプールを併設していることです。以前勤務していました淀川キリスト教病院にリハビリプールがあり、人工関節等関節手術後や四肢外傷後、脳血管障害後遺症等の運動能力回復が速く、腰痛、膝関節疾患等の症状回復にプール内のリハビリが非常に有効であることを経験し、診療所を開設するには是非リハビリ用プールを作りたいと考えていました。以前の病院のプールは正方形で、水中での体操を主に考えて作られており、歩行訓練には不向きな構造になっていました。そこで今回設計したプールは12m×3mと長方形に作り、深さも「水中に胸まで浸かると、腰、

膝にかかる体重は浮力でほぼゼロになる」という理論から水深1.2mとしました。水温も一般のスイミングプールより3度高く、泳ぐほどの運動をしなくても体が冷えないよう設定しました。また、歩き易いように底はノンスリップという凸凹のついた材質を使い滑りにくくし、階段、手摺りは勿論、運動能力の低下している患者さんにも安全に運動していただけるように工夫しました。発案当初は「水着に着替えてまでの運動はあまり御高齢のかたには抵抗があって、せいぜい50代半ば位の患者さん中心の治療になる」と予想していたのですが、実際ふたをあけてみると御高齢の患者さんが喜んで参加され、平均年齢は優に65歳を越えている状態となっています。プールを使用していただく患者さんは特に制限は設けていませんが、心電図検査とB-X、循環器系疾患の有無を問診し、毎回プールに入る前に血圧のチェックをしています。プールではいろいろおもしろい事がありまして、例えば「スイミングキャップを用意してください」と患者さんにはお願いしているのですが、なかにはシャワーキャップをかぶって来られて『大黒さん』のような頭でリハビリをしているおばあさんがいたり、年甲斐もなく男性と一緒にプールに入るのを嫌がる70歳過ぎのおばあさん、大正時代の膝まである水着スタイルで来られるおばあさんなどさまざまな方が来られます。しかし総じて、水の中に入ると全ての大人が子供に戻るようでボール遊びなどを勧めると皆無邪気になり、老人でも楽しんで運動をしておられます。

関節疾患、運動不全麻痺の回復にはいうに及ばず有効なリハビリ方法ですが、さらに喘息患者の発作回数が減った、リウマチ等膠原病患者の症状が軽くなり薬の量が減った、不眠症のかたが眠剤がいらなくなった、冷え症が治った、更年期障害が軽くなったなど（浅学の為か）予想外の疾患に有効なことがわかりました。

なかでも最も嬉しい事は、殆ど全ての患者さんが一様に明るくなり、喜んでプールに通っていただいている事です。

このようなプールリハビリテーションという治療法をライフワークとして今後地域医療に僅かながらでも貢献させていただきたいと考えております。今後ともよろしく願いたします。

〔Ⅳ〕 あんけ〜と

- | | | | |
|----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 沢井康悦 | 24. 階堂嘉壽雄 | 47. 越宗正晃 | 70. 西上茂樹 |
| 2. 三好宏 | 25. 江口享 | 48. 中村英健 | 71. 飯田伊佐男 |
| 3. 矢頃恒三 | 26. 越川恵 | 49. 小野興三郎 | 72. 河合栄蔵 |
| 4. 伊藤成幸 | 27. 石崎嘉昭 | 50. 片上善嗣 | 73. 島田永和 |
| 5. 大村清一 | 28. 小松堅吾 | 51. 黒田晃司 | 74. 清水孝修 |
| 6. 近藤隆 | 29. 長田明 | 52. 近藤正樹 | 75. 堀澤欣弘 |
| 7. 坂本和英 | 30. 笹岡正雄 | 53. 佐竹兼爾 | 76. 故嶺義信 |
| 8. 有馬英之 | 31. 饗庭隆 | 54. 山藤修輔 | 77. 山中健作 |
| 9. 奥野博敏 | 32. 井上博夫 | 55. 南平克積 | 78. 秋野一男 |
| 10. 木下孟 | 33. 榎本高明 | 56. 山田忠尚 | 79. 倉田順弘 |
| 11. 松尾澄正 | 34. 柿本俊夫 | 57. 菱川泰 | 80. 坂本和彦 |
| 12. 和田忍 | 35. 三明靖昌 | 58. 前田勉 | 81. 茶之木頼彦 |
| 13. 有馬清徳 | 36. 永田清員 | 59. 吉田昌司 | 82. 天野祐一 |
| 14. 岩津昭 | 37. 傍士繁稔 | 60. 頼功 | 83. 増田博 |
| 15. 榎原幹雄 | 38. 布谷国廣 | 61. 金川雅洋 | 84. 馬野隆信 |
| 16. 木股康時 | 39. 廣田龍二 | 62. 岩宮裕 | 85. 光武宏 |
| 17. 柴田辰男 | 40. 前野岳敏 | 63. 吉田研二郎 | 86. 金井秀彰 |
| 18. 花岡俊行 | 41. 岩瀬久雄 | 64. 桜井誠 | 87. 阪本博史 |
| 19. 吉田正和 | 42. 明石武彦 | 65. 楯憲一郎 | 88. 柴田和弥 |
| 20. 小寺太平 | 43. 門田嘉弘 | 66. 西賀隆夫 | 89. 中瀬嘉人 |
| 21. 宮内貴 | 44. 山田守義 | 67. 片平卓男 | 90. 黒澤克也 |
| 22. 石上直 | 45. 奥田好彦 | 68. 阪本邦雄 | 91. 川満政之 |
| 23. 竹村永 | 46. 許国広 | 69. 箕輪恵次 | 92. 山下豊 |

今回、会員の先生方に市整会創立25周年を記念して、主として私生活にわたるアンケートを致しました。前回20周年記念行事では会員の先生方を写真で御紹介いたしましたが、今回は先生方の内面を御紹介する目的で企画致しました。いろいろとお答えの出にくい質問もありましたが、約90通もの御返事をいただき、誠に協力ありがとうございました。アンケートは、下記の項目につきさせていただきます。

- ① “26才のころ”の思い出について書いてください。
- ② あるべき整形外科医師像について。
- ③ 何才まで医者として働けると思いますか。
- ④ 好きな患者、嫌いな患者のタイプについて
好きな患者：
嫌いな患者：
- ⑤ 自分の得意、不得意について
- ⑥ a) 医者になって良かったと思うこと。
b) 医者になって間違いだったと思うこと。
- ⑦ 奥様に対してどんな時に感謝し、またどんな時に不満を持たれますか。
感謝する時：
不満を持つ時：
- ⑧ この質問のみ奥様に御質問いたします。
開業医の妻として幸せですか。
- ⑨ 健康についてどんな努力をしておられますか。
- ⑩ 現在どのような趣味をお持ちですか。
- ⑪ これまで乗った車、現在乗っている車、これから乗ってみたい車の種類。
- ⑫ 今まで旅行して一番良かった所。
- ⑬ 今までの愛読書。
- ⑭ 市整会に対して望むこと。

これらの項目につき、各先生方のご回答を御報告申し上げます。

(なお、当初一部の先生方には、無記名ということをお願い致しておりましたが、アンケート形式というより質問に近い形式であり、先生方の人柄や考えが表現されていることが多くそのまま載せる方が、良いのではないかと考え、誠に勝ってではございますが、御回答を公表させていただくことになりました。御了承いただきますよう重ね重ねお願い申し上げます。)

1. (特別会員) 沢井 康悦



- ①臨床と手術と研究、そのあとの酒の毎日。(第一外科教室で)
- ②技術と巾広い人間性。
- ③目が良くて、手がふるえない間、働けると思います。
- ④好きな患者：特になし。
嫌いな患者：好きになる様に努力しております。
- ⑤得意：小手先の仕事。不得意：力ごと。
- ⑥a) 一を以って、之を貫ける職業。
b) 社会性に乏しいこと。
- ⑦感謝する時：夫婦げんか、食事。
不満を持つ時：仕事の理解度（これはお互いさまか）。
- ⑧愚問。
- ⑨仕事の合間に、ストレスをとる工夫をしている。
- ⑩旅行・ゴルフ。
- ⑪トヨタのロイヤルサルーン。乗ってみたい車はなし。
- ⑫ブラジルのリオデジャネイロ、オーストリアのインスブルック、スペインのマラガ、グラナダ。
- ⑬日本医事新報、日本病院会雑誌、ベルツ、シーボルト関係書、national geographic。
- ⑭益々の発展と共存共栄。

2. (特別会員) 三好 宏

- ①無為徒食。
- ②特になし。
- ③終生。
- ④好きな患者：医師の指示に従う患者。
嫌いな患者：医師に対して検査・処方・薬の内容を指示してくる患者。
- ⑤得意：酒を飲んで大口をたたくこと。
不得意：読書。
- ⑥a) 診療治療を通して労功のうれしさ、かなしさを体験出来た。
b) 特になし。

⑦感謝する時：銃後の守りがしっかりしていること。

不満を持つ時：年齢と供に逆転現象が生じて私に指示してくること。

⑧聞いた所、特にどちらとも云いませんでした。

⑨睡眠・飲酒・スポーツ。

⑩スポーツ鑑賞程度、特に無趣味。

⑪一貫してクラウン系。

⑫南フランス（プロバンス地方）。

⑬特になし。

⑭協調の精神をより強固にすること。

3. 矢頃 恒三

- ①自由題に記す。
- ③一生涯。
- ⑥a) 昨年から老年以降。
b) 若い時代、受持患者が死亡したとき。
- ⑦いつも感謝。
- ⑧どちらとも云えない。どちらの場合もある。
- ⑨山歩きとカルチャー。
- ⑩山歩きとお稽古ごと。

4. 伊藤 成幸



- ①水野教授にしごかれていた。土、日の休みもなく出勤していた。しかし1週間のうち2、3回は同僚とよく酒を飲んでうき晴らしをしていた。
- ②研究、勤務、開業と認定医の資格をとった時点で将来に向かって進む必要があるように思う。
- ③75才位まで働けるような気がする（現在69才）。
- ④好きな患者：治療の流れにうまく乗るような患者。
嫌いな患者：治療の流れに乗ってくれない患者。
- ⑤得意：骨折の徒手整復術（とくに上肢）。
不得意：とくになし強いて云えば腱縫合。

- ⑥ a) 患者が思う通り治った場合。
 b) 医者は人権があるのかと思う時。
 ⑦常に感謝しています。
 ⑧どちらとも云いかねる。(職業人としては幸せ、家庭人としては不幸)
 ⑨毎朝、犬をつれて。30~40分散歩している(雨でも)。65才よりゴルフを開始、68才より尺八、歌をはじめ(頭の老化防止で)。
 ⑩ゴルフ、からおけ。
 ⑪ソアラ2800に乗っていた、現在ベンツ300E、これから乗ってみたい車は今のところなし。
 ⑫(外国)ノルウェー、(日本)屋久島。
 ⑬とくになし。
 ⑭勉強会の際、10分でも20分でも保険請求の疑問点についての話また、Q and A的なこと。薬価その他についての情報等々直接開業に関係する話題を!!

5. 大村 清一

- ①シップドクターとして半年間の航海を終え、関西労災病院に就職が決まりやっと整形外科医として希望に燃えた事でした。
 ②一寸考えつきません。一般医としてどの位働けるのかの毎日です。
 ③75才位まで(あと5年)。
 ④好きな患者：やはりこちらの言う事を理解出て、よく相談してくれるタイプ。
 嫌いな患者：訴えのおおげさなもの、自己主張の強いもの。
 ⑤特に可もなし不可もなし。
 ⑥ a) 他の職業ではここまで来なかった。
 b) なし。
 ⑦亡き今日反省のみ。



6. 近藤 隆

- ①結婚後まもなく肺結核を患って暗黒の世界であったように思う。
 ②自らは背すじをのばした頼もしさを感じ

させるもの。

- ③先輩は一生やめたらだめだという。獨りで、気楽に気ままにできるものなら80才でも医籍にいたい。
 ④好きな患者：家族ぐるみの患者。
 嫌いな患者：先ばしる。
 ⑤得意：とくになし。不得意：精度精密を要するもの。
 ⑥ a) 実際生命を救えたと思えるとき。
 b) 余り勉強しない、研究者でないこと。
 ⑦感謝する時：随分友人づきあいで内助。不満を持つ時：最近はや院の手伝が少なくなった。その他山積。
 ⑧幸せです。
 ⑨1.食物のバランス 2.運動(軽スポーツ)
 ⑩パソコン、旅行。
 ⑪フローリアン、セドリック、シーマ。
 ⑫北イタリア。
 ⑬特になし。
 ⑭特になし。

7. 坂本 和英

- ①中国の戦線にいました。只勝つことに精魂をつくしていました。航空隊です。
 ②今日の社会構造との連がりやがうすい様に思えます。
 ③63才でclinicを引退しました。手のふるえがきたので…。
 ④好きな患者：別になし。
 嫌いな患者：教員と警察官です。(もともと好き嫌いがあったはおかしい)
 ⑤社交性。
 ⑥ a) 人の命が救えること。
 b) 人の命が救えないとき。
 ⑦医師は宿命的にどんづまり追いこまれることがある。その時妻のあり方がきまる。
 ⑧多分不幸と答えるでしょう。(妻なし)
 ⑨スポーツをたのしみます。
 ⑩新しい事業に挑戦して、余生を送っています。
 ⑪スポーツカーにのりづづけている。

- ⑫日本アルプス、阿蘇山。
- ⑬新聞。
- ⑭もっと大きくなって下さい。

8. 有馬 英之

①戦後の物のない時代病理教室で飯ごうで昼食をたきながら動物実験にあけていた。



- ③70才。
- ④特にない。
- ⑤脊椎外科。
- ⑥a) 患者さんが心から感謝をしてくれた時。

b) 現代の医師不信の風潮。

⑦感謝する時：現在までよく私の欠点を支えてくれたことに感謝している。

不満を持つ時：特にない。

- ⑧幸せです。
- ⑨規則正しい生活をする様心がけております。
- ⑩旅行。
- ⑪有りません。
- ⑫ドイツ。
- ⑬特にありません。

9. 奥野 博敏

①故水野教授の回診、手術開始時間が早く、夜の遅い私にはそれに間に合う様に早起きするのが大変であった。



- ②病気や外傷等を完全に治す技術も大切であるが、何よりも人間を治す医師であって嬉しい。
- ③個人差が大きく一概に言えないが、体力的にも十分責任を全う出来るのは70才迄と思う、特に体力を使う外科系には強く言えると思う。
- ④人間も動物である以上、本能的な勘により、好きな人、嫌いな人が出来る。この勘の表現はむづかしいので省略します。ただ、診療に際しては両者には全く差別

なく、同じに対処している。

⑤損得の計算は苦手である。この為私の診療所では100%院外処方薬を使用、15年前より薬価差益からの収入を考えずに診療を行っている。

⑥a) 医師は自由業であること、特に一国一城の主として自分の思う様に仕事がしやすいこと。

⑦感謝する時：家内も眼科として自分の独立した診療所を管理しているがその上家事一切に気を使い、私の健康管理にも気を使ってくれており万事感謝しております。

⑧家内にこの質問はしていません。多分あまり良い返事はないと思います。

⑨ストレスの溜まらぬ様、旅行、社交ダンス等で発散させています。老人性疾患等は当然起るものと考えており色々な病気についてはあまり気にしていません。

⑩旅行、ビデオ、社交ダンス、ゴルフ。

⑪昭和32年免許を取った頃はフランスのルノーに乗っていました。今迄何台も国産車を愛用して来ましたが今はプリンスの英国で生産されたと言うプリメラーに乗っています。余分の飾りが少なく、小廻りのきくヨーロッパ車が気に入っている。

⑫旅行前に十分プランを考えて行き先を考えているので何処へ行っても満足しており甲乙は付けられません。三泊四日のエーゲ海クルーズ等の航旅が印象的です。

⑬雑誌型で特に愛読書はありません。

10. 木下 孟

①インターンが終って今は亡き水野、宮本、木部諸先生に神鍋スキー行をおごって貰って整形入局をすすめられました。国試、整形入局と私の人生の turning point の年でした。

②医師はサーヴィス業であると共に聖職業でなければならないとおっしゃる人がおいでになります。私は今のままですご

す積りです。

③昔は70才までかと思いましたが70才を前にもう2-3年はやっていけるかなと思っています。

④好きな患者：とくにありません。

嫌いな患者：時間をはじめ約束を守ってくれない患者です。

⑤この年になると自分の人生、不得意な生き方をしてきたなあと思うことしばしばです。

⑥a) 良かったとか間違ったとかを思うには年をとりすぎました。

⑦お互いに空気みたいなもので、いい空気を吸っていたと思うだけです。とくにございません。

⑧女房にも聞きましたが可もなし不可もなし“勝手に書いて”と云っておりました。

⑨飲みすぎないようにしております。

⑩とくにこっているものはありません。強いてあげれば山歩き、ハイキング位でしょうか。

⑪運転免許を持っておりません。

⑫スペイン。

⑬とくにありません乱読派ですので。

⑭いつもお世話になっております、いまのままで十分です。

11. 松尾 澄正

①まだ医学生だった。良く勉強したつもりだが、いろいろな巷で思い切り遊びもした。

②在宅看護、在宅リハビリに真剣に取り組むべしと思う。

③70才。

④好きな患者：治療に協力してくれる患者。

嫌いな患者：赤本なんかを読んで、知ったかぶりの患者。

⑤大工仕事はうまいと思っている。物を書く事、しゃべる事はあまり得意ではない。

⑥a) 一生懸命治療したのに亡くなられ

た患者の家族からお礼を云われたとき。

b) 何もかもうまく行かなかったとき。裏目々々に出たとき。

⑦感謝する時：我がまを良く聞いてくれる。

不満を持つ時：特にない。

⑧時間的には勤務医時代の奥様の方が気楽だと、うらやましく思いますけどどちらとも分かりません（大病院は別でしょうが小さな診療所では妻の労力奉仕が多大）。

⑨食事：食い過ぎ、飲み過ぎない様。適度の運動。

⑩ゴルフ、(Hdcp27) 剣道（教士7段）。

⑪ベンツ、ポンチャック、キャデラック、ロールスロイスに乗ってみたい。

⑫オーストラリア。

⑬クーベルナールの実験医学序説を若い頃読んでそんな医者になりたいと思った。現在は乱読。最近読んだ本（四手井網英著「言い残したい森の話」）。

⑭開業医の地位と協同の利益を守る為お互いに良い知恵を出し合う。

12. 和田 忍

①一心不乱に勉強、研究に励んでいた。

②患者をよろこびとしてみることに。

③75才位かな。

④好きな患者：みんな好き。

嫌いな患者：なし。

⑤患者さんをみるのが私の最大のリクリエーションです。

⑥a) ほかの人生はなかった。

b) なし。

⑦感謝する時：子供を育ててくれたこと。

不満を持つ時：なし。

⑧幸せと言うでしょう。

⑨なし。

⑩なし。

⑪ジャガー。

⑫1955年のニューヨーク。

⑬赤と黒。

⑭老兵は消えるのみ、若い世代に期待。

13. 有馬 清徳

①関西労災病院勤務、朝8時に出勤、20人の受持患者の回診のあと外来手術など深夜までの強行軍を楽しみました。

②その人その人の仕事の状況で異なるが、専門医として尊敬されたい。

③70才までにやめたいと思う。(70才を越して診療するなど恥ずかしいぞ) もっとゆったりした医師でありたい。

④患者を医師が差別してはならない。

⑤このような質問の意図が分らないが自分の守備範囲を守ればよい。

⑥a) 人々に信頼され、人々の苦痛を救えることは尊い。

⑦感謝する時：仕事(医学・写真とも)協力してもらえ感謝する。

不満を持つ時：それぞれ個人的には不満もあるがしんぼうしなければならない。

⑧幸せです。

⑨ダイエット、ヘルシー食など妻が協力してくれる。

⑩趣味ではなく第2の仕事が写真(日本写真作家協会常任理事)。昔はモータースポーツ(レース・ラリー('72ラリーチャンピオン)、ゴルフ、旅行)。

⑪オースチンA50(日産製)、ヒルマンミンクス、いすゞベレットGT、ベレットセダン、ワークス・ベレットGTR、いすゞ117クーペ、いすゞジェミニクーペ・セダン、いすゞピアッツァ、アルファロメオ、アルフェッタGT、メルセデスSLC、ランボルギーニ・ウラッコ、フェラーリ308GTB、メルデスベンツ190E、現在の車(三菱RVR、メルセデスベンツSL500)。これから乗ってみたい車ボルシェ、ボクスター。

⑫南極、シルクロード、シベリア北極圏。

⑬白川義員著：中国大陸、聖書の世界、南極大陸。

⑭我々市整会創立会員から見れば、現在は新しい世代の方々が活躍されており、昭和のシングルには会とは遠くなった感があります。殊に我々大阪市より隔れた

会員には公私ともに疎遠になります。地方会員への優遇措置(例えば会費半額など)があってもよいのではないか。

14. 岩津 昭



①両下肢まひ、膀胱直腸障害で関西労災に5ヶ月入院していた。時の立つのも忘れて麻雀に没頭していない。上の先生のしごきにあって夜な夜な泣いていたかも…ね。彼女が多くて夜も眠れなかった。普通に勉強、研究に励んでいた。

②世相に流されて行くでしょう。

③70才。

④好きな患者：特になし。

嫌いな患者：ねちこい奴。

⑥a) 余りない。

b) 元来医者志望ではなかった。

⑦ほとんど感謝してます。

⑧幸せです。

⑨主治医をもっている。

⑩特になくなりました。

⑪スバル360、トヨタコロナ、ニッサンブルーバード、クラウンスポーツ、マツダカペラ、ミニクーパー、アウディースポーツ、ボルシェ911S、B.M.W733i、ニッサンRZ-1、ニッサンマーチターボ、フェアレディZ。

⑫北大、美唄労災での3年目の内地留学。

⑬雑誌。

⑭吾々の時代から貴兄達のそれは光金にのみこんでかわろうとしている。

15. 榎原 幹雄



①未だ学生でスポーツに熱中。

②心暖かき医師。

③75才ぐらい。

④好きな患者：いたわりのある患者さん。

嫌いな患者：いたわりのない患者さん。

⑤得意なし、不得意はたくさん。

⑥a) 今も働けること、他人に少しでも

役に立ちやすい。

b) なし。

⑦何ものなし。

⑧わからない。

⑨体操。

⑩無趣味。

⑪なし。

⑫西日をうけてあかくそまった桜島。

⑬漫画。

⑭恒に感謝しております。

16. 木股 康時

①天理教にすぎり子宮頸癌の手術を拒み、3年間父・弟夫婦つきあった未、S27年5月死まで全在宅でお守りした。

②専門論文を書ける医師になってほしい。私は今頃痛切に感じている。

③寝る時間のやりくりが出来る間は働けると思う。80才でも可。

④好きな患者：仕事に会話を持ち込むことを避けている（工夫をしている）。

嫌いな患者：手応えの無い患者の中に居ると逃げ出したくなることがある。しかし逃げないように努めている。しんどいがやりがいのあることだと思っている。

⑤これも自分の人生観、哲学というところでしょうが、考えないようにしている。

⑥a) やりがいがある。→科学と対話が出来ること。

b) 無い。

⑦感謝する時：うるさくないので感謝している（頭が良いからだろう）。感謝あるのみ。

⑧食事の量と質について努力している。

⑨全宝協会員、ゴルフ ダメ、スキー（セミシルバー）。

⑩二輪車事故後運転はやめている。ペーパードライバーは続けていくつもりである。

⑪今年2月10日間エジプトに行った（独り）。旅行社の事情で独りで行くことになった。今年のゴールデンウィークは南アフリカ8日間に申し込んでいる（夫婦

で）

⑫アインシュタイン批判書の数々読書中。

⑬会話より対話を期待する。

17. 柴田 辰男

①整形外科は、新しい分野だったので、大いに希望を持っていた。その割には、よく遊び、小坂一也の歌のように、「まわり道して帰ろう」を実行していた。



②いつも進歩の気持をわすれず、患者には、信頼される医師。

③70才位までと思っていましたが…。

④好きな患者：こちらの医療方針を理解し、信頼してくれる患者。

嫌いな患者：不満ばかり言って、何をしても感謝の気持を持たない人。

⑤小さいゴタゴタしたことは、きらい（不得意）。

⑥a) 治癒して、よろこんでくれたとき。

b) あまり考えたことはない。

⑦感謝する時：大切に思っていて注意してくれるのはうれしいが。

不満を持つ時：あまり、ごたごた言われると、腹がたつ。

⑧何とも、むづかしいご質問です。気をゆるめると、どこかに飛んで行きそうな主人との生活。身体をこわして、はじめてしっくりした家庭生活になったと思います。今の生活は幸かどうか？

⑨自分の健康を過信し、あまり努力しなかった。健康であることについての努力はしなかった。

⑩乗馬、旅行。

⑪ベントはすきでした。これから乗ってみたい車は特にない。

⑫ブラジル。

⑬特になし。

⑭医療行政がだんだんむづかしくなってきました。横のつながりを密にして、次々と出てくる諸問題に対してのご指導をお願いしたいと思います。

18. 花岡 俊行

①カルガモの親子のように水野先生のしりにいつも連なって数人であちこち回った刷り込みの時代でした。

②患者に治療法を何種類か説明し患者の選んだ手段で全力をつくすこと。他人にゆずらぬ得意とする手術を一つもつこと。

③70才までと考えています。

④好きな患者：自主的にキッチンと日と時間を決めて来る人、来られない時必ず伝言がある。

嫌いな患者：閉院間際に来る常習者。

⑤得意：病状の説明。不得意：手術。

⑥a) 患者が治療の結果に満足してくれた時。

b) なし。

⑦感謝する時：気ままに開業させてもらっていること。

不満を持つ時：旅行中の愚痴。

⑧ノーコメント。

⑨規則正しく一日を過ごしています。

⑩洋蘭栽培。

⑪スバル360→スバル1000→スバルスポーツ→中止。

⑫Salzkammergut (Austria)。

⑬カフカ全集。

⑭お互いに情報交換して助け合うことを目的とする。

19. 吉田 正和

①まだ医大2年生、グルンドの勉強と自治会活動にまっしぐら。でも時々是国内旅行の余裕も持っていた。

②整形外科はもともと社会医学的な要素を沢山持っている。世界の動きや社会の要請に敏感にえられる、広い視野を持つ医師であって欲しい。医術職人に陥ってはならない。

③75才。一寸厚顔ましい様ですが、あと5年、頑張れば…と思っています。

④好きな患者：前向きに、傷病の質や治療の意味合いを理解して自分なりに努力しようとしてくれる人。

嫌いな患者：質問や訴えは多弁なのに、説明や指示には殆ど応えてくれずに、自分の都合で不規則通院する人。

⑤職業や生活態様との因果関係が大きい傷病に対する治療・療養指導と予防・補償対策支援を一貫して行うことが得意。もう年令ですから、手間のかかる手術は段々不得意になって来ました。

⑥a) ひとと共に苦しみ共に喜ぶことの出来る、そして人間性の「じか」の触れ合いを尊重してこそ成立つ仕事を、日々行なえること。

b) 間違いとは思っていません。只、もしも生物学へ進んでいたら、もっと苦勞が少なかつたら、とは思います。

⑦感謝する時：4人の子育てを果たしてくれた一方で、診療所でのバックアップにも努力しているところに。また、私の社会活動も略々黙認されてるので。

不満を持つ時：家庭内では完全なワンウーマンなこと。

⑧幸せだと思って居ります。

⑨医師会員の毎年の健康診断は必ず受け、問題があれば市大の先生方に御相談して対処。テニスや山歩きをして体力維持に心掛けている。

⑩昆虫の研究・採集。テニス（プレイする）・ラグビーやバスケットボール等（もう観るだけ）のスポーツ。

⑪ダイハツ・ニッサンの数車種やフォードを使ったが、老害を及ぼさぬうちにと考えて、運転をやめた。

⑫オーストラリア東岸か、カナダ西岸地方か？

⑬4～6才幼年クラブ、6～8才少年クラブ、以後は手当り次第に日本文学。西洋文学・哲学・科学書を山程読んだが、特に心に残った著書は、倉田百三・和辻哲郎・ヘルマンヘッセ・カールマルクス。

⑭皆さん、よくやって下さっています。そのことの意義を全会員が、そして全教室員が、理解し評価すべきでしょう。

20. 小寺 太平



①学会発表の準備などを含めて、日、夜もときには出勤・勤務もありました。文字通り、馬車馬のような生活をしていたものと記憶しております。

②考えたことはありません。

③70才のつもりです。

④本来、病人様の一人ひとりを大切に、そして公平に取り扱うことを仕事とする職業と考えております。したがって、この質問は失礼ながら、お答えできません。

⑤総てについて、私は不行届き者と考えております。

⑥a) 病人様の一人ひとりを大切にすること。その病状の改善に努めること。

b) 考えたことはありません。

⑦感謝する時：病気したとき、苦しかったとき、ぐちも云わずに私について来てくれたことです。

⑧健康保持のため、体操ジムに通っております（1週間に2回程度）。規則正しい生活をする事。

⑨旅行、読書、ワープロ打ち（1年間に300ページの本を1冊づつ発刊する作業をしています）。

⑩トヨペット・コロナ（同車種のみ、4台目30年余）。

⑪海外旅行（ヨーロッパ、ニュージーランド）。

⑫人生の書、諸々。晩学になりますが、日々、読書に努めています。

⑬この度、教室50周年、市整会25周年、おめでとうございます。ますますのご発展をお祈りしております。

私は昭和28.8～30.3.まで在学中は、業務研究生として、昭和31.4.～35.12.まで研究生としてお世話になりました。（無給でした。）

毎々、教室のたより、市整会のたよりを拝見しております。ありがたく感謝しております。ところが、上記のような経歴

の私には、当時の要職にあって先輩諸兄や、現在、市整会にてご活躍の皆様方との間には、教室に対する感想に大きな隔たりがあることに気付いております。したがいまして、50周年、25周年の諸行事につきましては、協賛協力はご遠慮させていただきます、ご了承おき下さい。

21. 宮内 貴

①インターン生で何科を選ぶかまよっていた。

②広く浅く対応できるように（開業医として）。

③70才前半まで。

④好きな患者：こちらの対応にまじめに反応してくれる患者。

嫌いな患者：自分中心主義の患者。

⑤得意：体を使ってできること。不得意：人の先頭に立てないこと。

⑥a) 定年がないこと。

b) くちべたなこと。

⑦感謝する時：開業してよく協力してくれたこと。

不満を持つ時：くちやかましいこと。

⑧幸せ、不幸せ 半々です。

⑨ジョギングしている。

⑩山歩き。

⑪これまでに乗った車マークII、現在乗っている車ボルボ、これから乗ってみたい車はない。

⑫唐津（佐賀県）。

⑬歴史小説。

⑭力を結集して、なかよくやってほしい。

22. 石上 直

①市大病院でインターン中。大阪市内某病院で住込み医として働いていた。五里霧中の貧しい青春時代でした。

②足関節部滑液のう炎に対してMRIを行なうようなナンセンスなことが最近あったと驚いた。機器におぼれない基本的な診療技術を習熟したい。

③70才位かな。

④好きな患者：家族の背景がよくわかる患者。

嫌いな患者：中年のうつ傾向の殊に女性。

⑤得意：浅いが巾広い他科地域にわたるプライマリーケアができる。不得意：動態画像の把握（年のせいかな）。

⑥a) 地域社会にとけ込んで巾広くつき合いができること、民生委員もやっている。

b) 自由時間がとりにくいこと。経験的裏付けがあるならば、おそらく画家になりたかった。

⑦感謝する時：高学歴の女性であるが、大海にたとえられる母性の広く深い愛情を感じる。

不満を持つ時：したがって、細かいことにうるさい、健康に関することなど。

⑧幸せでもあり不幸でもある。この問題は職業よりも夫の性格、妻の性格によるのでは？

⑨三度の食事、生活環境。

⑩書、日舞、社交ダンス。

⑪これまでに乗った車日産セドリック、現在のっている車トヨタクラウン、これから乗ってみたい車BMW。

⑫カナダ。

⑬婦人画報。

⑭特に無い。

23. 竹村 永

①今年大学卒業後40周年になるので、26才頃というインター生活を経て入局1～2年目頃で歌の文句にあるようにどなられ、いびられたたかれながら…という生活。親にはそれが医者生活かとあきれられ、三喜屋で二級酒でうさばらしをする毎日でした。

②ますます専門科され、細分科されてゆくだろうか、整形外科全般のわかる医師も必要ではないか、私の目標はとりあえず今世紀中。

③手術するなら65才位まで、手術しない

ならそのあと10年以下位。

④好きな患者：よくこちらの説明がわかり、治療方針に協力的な人。

嫌いな患者：自分のいいたい事だけベラベラしゃべり、医者という事を聞かない人、うまく自分の症状を説明できない人。

⑤すべて得意なものはないが、機械に特に弱い。

⑥a) 特別良かったと思うことはないが、やはり病気が治って感謝されるとき。

b) 人に物事を順序だててうまく説明できない口下手というか、何というかわからないので一種の接客業である医師にむかないのではないか、とくに開業医には。

⑦共同経営者のようなものなのでたえず感謝はしています。

⑧不幸です。休みがないから。

⑨適当に喰べ、快眼、快便を心がけている。

⑩旅行、テニス。

⑪これまでに乗った車はフォルクスワーゲンジェッタ、現在乗っている車はベンツこれから乗ってみたい車は？

⑫北海道、カナダ。

⑬司馬遼太郎。

⑭たのしい研修会を（勉強会の話はどうでもよいが）。

24. 階堂 嘉壽雄

①第二次世界大戦に軍医として従軍中。自由題に記載しました。

②ちょっと判りかねます。

③外科系は視力、体力が大切で、70才をこえると、目も力も弱くなり、少しずつ無理になってくると思います。

④好きな患者：自分のからだなので、やはり協力的であってほしい—そういう人です。

嫌いな患者：訴えが多くて、しかも疑り深い人には、こちらが疲れている時はしんどいです。

⑤好き嫌いが左右する面もあると思いま

す。

⑥a) 大いに良かったと思うのは特に戦争で実感。

b) 自分の能力の足りなさ。

⑦感謝する時：亡妻には知的啓発を受けた事が多々あります。

⑧15年前家内と死別しています。

⑨なるべく余力を残すよう仕事の時間を短縮し、(年令考慮) 過労を避けることを第一にしています。

⑩乱読、和洋音楽、陶芸等。

⑪車は必需でないと判断し、持っていません。

⑫あまり出て行きません。国内だけ。

⑬読み返したい本はありますが、どうしても始めての本の方へ手が行ってしまいます。

⑭特にありません。

25. 江口 享

①インターン時代、資格もないのにバイトで稼ぎ(今、思い出すと、冷や汗が出る。)、酒代に費やした。

②一開業医として、問診、視診、触診に秀でた医師。

③70才ー「保険医定年制」も退職期の踏ん切りとなるでしょう。

④好きな患者：「命預けます。」と懐にとび込んで来る患者。

嫌いな患者：ねちねちと自己主張を続け、なかなか治療方針に同意しない患者。

⑤得意・不得意は治療の結果として、患者が判定することで決まるもので、自分自身には判りません。

⑥a) 治療の成果があがり、患者に感謝の笑顔がみられた時。

b) 医療行政の退廃、生命に対する価値観の低下。

⑦感謝する時：家事一切は勿論、医院の会計の全てを切り廻してくれています。私の舌に合った手料理は、最高に美味です。

不満を持つ時：あと少し、「外向性」と

「飾り気」が欲しい。

⑧「当然幸せ！」と言っています。

⑨毎朝、起床前に布団の上で柔軟体操。食事はゆっくり時間をかけて、腹八分目にしています。

⑩園芸(庭木の剪定・野菜作り等)。

⑪現在：レジェントクーペ。将来：未定。

⑫バリ島。

⑬特になし。

⑭会員の緊急疾病・外傷による休院を回避するため、予め、会員相互による応援(代診)体制を組織化(明文化)して欲しい。

26. 越川 恵

①大学に当直の時、今の新々館の所にあった“めし屋”で“すきやき”を一人で食べるのが無上の喜びであった。

②blutigに癒すことばかり考えず、unblutigに癒すことも考える。

③70才。

④好きな患者：一言で云っている内容を理解してくれる人。

嫌いな患者：神様にしか答えられないようなことを質問する人。

⑤だんだん全てのことに不得意となりつつあり。

⑥a) 治療によるVerlaufが自分の思う通りになったとき。

b) 他人の死に対して以外に冷淡であること。

⑦特に考えたことなし。

⑧不明。

⑨自分のbestと思われる体重を維持していくこと。

⑩山登り。庭作り。工作。

⑪免許証なし。

⑫スイス。

⑬吉村昭作品の全て。

⑭現行で良いと思われる。



27. 石崎 嘉昭

- ①インターンがおわり、入局1年目で肌着がくさくなると自宅に帰り、それ以外は、大学の外来や当直室などでねおきしていた。西も東もわからずただただウロウロしていた。
- ②開業する場合には、内科の基礎知識も修得しておく方がよい。整形外科でもspecialityをもつこと。
- ③今の目標65才まで。65才の時点で又考えます。
- ④好きな患者：信頼してくれる患者。
嫌いな患者：信頼してくれない患者。
- ⑤不得意：全身管理の知識が乏しい。
- ⑥a) マイペースで働ける。努力をすれば喜ばれる。
- ⑦感謝する時：今だに診療のみしかタッチしていない。勤務医と同様の感覚。それを許容してもらっていることに感謝。
不満を持つ時：なし（たてまえ）。
- ⑧いろいろと用事が多くて、その点ではこまるそうです。
- ⑨大事なこと以外は、全くズボラ。そのためストレがたまらないのだと思います。
- ⑩気が向くと、陶芸、ハイキング（あるく）、囲碁、パソコンその他…。
- ⑪現在乗っている車ディアマンテ、これから乗ってみたい車特になし。
- ⑫アイルランド（荒涼としたアラン島、楽しかったパブ）。
- ⑬若い頃はヘルマンヘッセ、今は特になし。
- ⑭各世代のものが気軽に出版されるように。会員の「母港」をめざして下さい。

28. 小松 堅吾

- ①「ゼニ」がなく、毎月の食費と本代が精一杯。日本の文化水準から考え、はるかに低水準の生活。「良き医師」になりたいという目的がなければグレていたかも…。
- ②超高齢化の結果、荷重と変形が主な課題になりそう。バイオメカがもっと進歩

し、それに対応することが整形外科の宿命となる。

③もう十分働きました。60才で手抜き、70才で第一線引退。提起されつつある保険医定年制が案外妥当かも。

④好きな患者：a.医師に頼らず自分で努力する患者。b.第一線で働き、社会的責任のある患者（意欲が大きく）。

嫌いな患者：a.診療の終了間際に、いつも来る患者。b.自分は別格扱いを希望するのが見え見えの患者。c.訴えばかり多くて、説明を聞かない患者。d.すべて社会、他人のせいにする患者。e.待つのは厭、診察は「じっくり」を求める患者。

⑤a.他人に厳しくないが、自分にも甘くルーズ。b.診察は速いが、ゆっくりと話を聞くことは苦手。

⑥a) 地域社会に多少とも貢献でき、一応の信頼を得たこと。

b) 盛業はありがたいが、「命の切り売りだ」と感じたとき。

⑦結婚30年以上、大概感謝、時には「出て行け!!」という時も。いつも「あなたが出て行って」といわれ試合終了。

感謝する時：すべてに感謝。

不満を持つ時：民法上も税制上も、自分より家内の方が恵まれている。

⑧「ホロリ」とする答えを期待したのに「幸せも不幸せも世間なみ」とヌケヌケめかしおたデス。

⑨酒、タバコとも変らず、長生きしようなんて全く考えておりません。家内は時々私に対して生意気にも、食事、運動について指導をしたがります。

⑩ゴルフ、釣り…格調の高い趣味もなくお恥ずかしい次第。

⑪車に興味ありません。大きな車はとくに大嫌い。

⑫旅行嫌い、女房にも見限られております。

⑬司馬遼太郎の作品すべて。

⑭同窓としての親睦、情報交換そして教室の発展を損得ぬきで支援すること。

29. 長田 明

- ①入局間もない頃で先輩の先生の当直を替り、1回360円(?)の当直料をもらって殆ど大学病院内でゴロゴロしていた。1ヵ月約4000円余もらった記憶がある。
- ②少なくとも内科学的知識をもっと持つ必要があると思われる。
- ③70才位までが限界と思います。
- ④好きな患者：素直な患者。
嫌いな患者：理屈をこねる人。
- ⑤?。
- ⑥a)すべてについてよかった、特に開業しているので定年がない。
b)特になし。
- ⑦常に感謝の気持ちを持とうと努力中。
- ⑧勿論幸せです。
- ⑨朝夕、犬をつれて散歩。
- ⑩特になし。
- ⑪車に対してあまり興味なし。しかし一度ジャガーに乗ってみたいナ。
- ⑫家族4人で日本臨床整形外科研修会(新潟)へ参加した時。
- ⑬乱読。
- ⑭多くの人々に会合に参加していただき、皆が顔見知りになり仲良くやっていきたい。

30. 笹岡 正雄

- ①一心不乱に勉強し、又囲碁等にも熱中していた。
- ②将来の整形外科医は、今後の高齢化社会をむかえ、患者さんの体の運動機能の回復という生活に最も大事な分野の医療であり、心のこもった思いやりのある医師像が大切と思う。
- ③理想として喜寿77才位と思います。
- ④好きな患者：所謂、常識的なマナーを持っている患者。
嫌いな患者：意思疎通能力を欠き即ち難聴等の人は大変で嫌な患者は指示通りにしない人です。
- ⑤多様化した整形外科を、全部を修得する事は、大変で絶えず努力はしています

が、得意な分野は、末梢・中枢にかかわらず神経系な疾患が得意です。

- ⑥a) 困難な治療が思い通り順調に経過した時です。
b) 特にない。
- ⑦感謝する時：常々、感謝しています。
不満を持つ時：ない。
- ⑧幸せです。
- ⑨過食を注意し、なるべく自動車通勤を避け電車通勤をし、歩行に務めています。
- ⑩囲碁、盆栽、旅行。
- ⑪乗った車：マークII、スカイライン、ローレル、セドリック、クラウン。
乗っている車：クラウン。
- ⑫どこも特色があり、比較しにくい。
- ⑬雑誌。
- ⑭会員相互の連携を大切にし、今後の一層の発展を期待します。

31. 饗庭 隆

- ③自由業だから年令に制限はない、体力による。
- ④好きな患者：自分の意見をはっきり云える人。



- 嫌いな患者：余り自分の気持ちを表面に出さない人。
- ⑤自分では判らない。
- ⑥a) 患者との信頼関係がよかった時。
b) 能力のなさ。
- ⑦感謝する時：世話になりっぱなし、頼りにしています。
- ⑧特に云うことなただ忙しいのみ。
- ⑨毎夕約1時間散歩しているのみ。
- ⑩読書。
- ⑪免許証なし。
- ⑫最近約10年は殆ど旅行していない。
- ⑬司馬遼太郎。
- ⑭皆様の健康を祈っています。

32. 井上 博夫

- ①素晴らしい自然に恵まれて、一生懸命テニスとスキーしていました。
- ②専門化の進むなかで、オールラウンド

の整形外科医師が必要とされるのではと思います。

③70～75才。

④好きな患者：こちらの指示を素直にきいてくれる人。

嫌いな患者：自分勝手な人。

⑤得意なし。

⑥a) 患者の病状が回復した時。

⑦感謝する時：いつも感謝しています。

⑧まあまあです。でも暇のないのが偶にきずです。

⑨一週一回スポーツでいい汗流してます。

⑩特になし、午睡。

⑪現在のっている車ウィングダム。

⑫志賀高原。

⑬真田太平記、竜馬がゆく。

⑭若い開業医の先生が参加して益々の発展を！

33. 榎本 高明

①大学医局に入局した年。毎日大学に出て来るのが楽しかった。物めずらしく、あちこちの研究グループに頭をつっこんで、夜遅くまで大学内をうろうろしていた。

②基本的に忠実に自然体で熱情のある医師。

③73才頃。

④好きな患者：こちらを信頼している人。問診で要領よく症状を説明できる人。

嫌いな患者：上記の反対の人。そして問診の時、私はこの辺りが痛いんですと、こちらの背中を触る人。

⑤特に意識しない。

⑥a) 自分の行為（医療行為）で人を助けることができること。

b) 特に思わない。

⑦感謝する時：一言も不平も言わずに、ただひたすら、こちらが働きやすいように助けてくれていること。

不満を持つ時：毎日曜日ゴルフに行くとき、あまりよい顔をして送り出してくれない。

⑧幸せですが、朝早くから夜遅くまで相当きつい。

⑨ストレスをためないようにしている。

⑩ゴルフ（下手なゴルフ）。

⑪クラウン、ベンツ。2ドアのベンツに乗ってみたい。

⑫カナディアン・ロッキー。

⑬サマーセット・モームの「人間の絆」。

⑭市整会の行事に会員がもっと参加してほしい。

34. 柿本 俊夫

①勉強もせず酒と読書の日々でした。

②医師としての誇りと情熱。

③70才まで働けるものなら働いてみたい。

④好きな患者：克己心のある人。

嫌いな患者：他力本願、自己主張の強すぎる人。

⑤しゃべること。相手を説得すること。いささかの詭弁を弄しても。論議に熱中すること。沈黙には忍耐が必要。

⑥a) なんといっても患者の喜びと実感した時。

b) 日のあたる職業では全くなかったこと。

⑦感謝する時：留守宅をよく守って孤独に絶えてくれていることを実感した時。

不満を持つ時：不規則な医師の生活に対し不満をもらされた時。

⑧概ね、幸福と云えます。

⑨適度にゴルフを楽しんでいます。冬にはスキーが楽しみです。

⑩読書、音楽、ゴルフ、スキー。

⑪ボルシェ911等。現在はスキー用に買ったベンツ300E 4 Maticに乗っています。故障がなければジャガーにも乗ってみたいものです。

⑫プラハ（チェコ）、ベネチア（イタリア）。

⑬青春時代の私のバイブルであったチボー家の人々、そしてジャンクリントフ。医師になってからの心の寄りどころは司馬



遼太郎氏の著書すべて。

35. 三明 靖昌



- ①インターンをしていた。北海道にいたので山登り、スキー、ドライブ、旅行と一生で最も遊べた時。
- ②Hi-Tech手術が増々進んでいくと思う。鏡視下やマイクロサージェリーにしても皆が同じレベルに達するまで特に若い間に毎日でもシュミレーションできるシステムを確率して欲しい。
- ③OPから離れた現在、70才までは大丈夫だろうと思う。但し、患者の平均年齢と同年令になればやめる。
- ④好きな患者：老年期に入った女性。（くどくど聞かないし、何を云っても角が立たない。）

嫌いな患者：以前勤務していた病院の患者。（経過が良かった患者は来ない。）
- ⑤OP全般（1人でするので手術はもちろんギプスや縫合もいやだ。）
- ⑥a）毎日の診療が終わった瞬間のホッとした時。他の仕事ではこれ程のストレスを感じずに仕事をしていると思う。

b）なし。
- ⑦感謝する時：重大な決定をする時に、必ず賛成の立場で意見を言うこと。
- ⑧幸せだそうです。
- ⑨ゴルフ、高原歩き（カメラ撮影）。1年1回の健康診断（これはあてにならない）。
- ⑩カメラ撮影・ゴルフ（どちらとも人には言えない程へたくそ。）
- ⑪マークⅡ→ボルボ→BMW（セカンド：スターレット→カーリーナ→カーリーナED）将来はジープが欲しい。
- ⑫England、Scotland。
- ⑬司馬遼太郎。
- ⑭特になし。

36. 永田 清員



- ①形態学的思考では解決できず、機能学的方面が整形には欠けているのではと感じた。
- ②細胞レベルの方向に進歩があるだろう、衰退していくであろう形態的なものは、唯遅き歩みだが前進勉強がいる。発想の転換がいるでしょう。
- ③開業医70才、勤務医60才、手術医50才。
- ④好きな患者：自分の専門得意とする分野、いくら横柄でも。

嫌いな患者：①「医学治療」と関係のない事を自慢しないと満足しない。②他の原因を医院にぶつけてくる。
- ⑤得意：頸椎、機能的な範囲→胸廓出口症候群は手術せずともかなり改善するか。不得意：股関節知らぬということも他で価値がある。
- ⑥人生60才近くなり、ふり返ってみるとやはり宿命の範囲、論せず。受けるのみである。
- ⑦私生活は表面に出したくない出さない方針。
- ⑧私生活は、表面に出さず。
- ⑨なし、黒色腫の恐怖におびえてからなる様にしかならぬ。
- ⑩なし、神経反射全体に整形外科に有用なものをさがしています。エピレナミン入キシロカインは、捻挫の安静冷却、高位等の疑問。
- ⑪動けばよい。4ナンバー。今はマーチ。
- ⑬岐阜医科大学長、「福田〇〇」「平衡機能と反射」耳科教授。
- ⑭表に出ず静かにしていきたいので何も喜ぶべきことはない。

37. 傍士 繁穂



- ①当時、公立病院の外科に勤務していましたが、忙しく、手術も多くて毎日が遅い帰宅でした。
- ②医学の進歩が著しく、細分化が進むな

かで、自己研鑽につとめ、豊かな個性を持って、患者に接することが出来たら、素晴らしいことだと思います。

③年令に関係なく働けたらいいと思っています。

④好きな患者：治療に協力的な患者。

嫌いな患者：相手を嫌いと思わないよう努力しています。

⑤得意なものはありません。

⑥a) 年をとっても、自分なりに医学書を読み、医者としての仕事にかかわってゆけること。

b) 間違いだったとは思わない。

⑦感謝する時：我が儘な小生に、だまっ

てついてくる家内に感謝しています。

不満を持つ時：ありません。

⑧幸せです。

⑨医者の不養生で、病気をしたことがありますので、自分なりに健康には気を付けています。

⑩カメラを持って旅行。

⑪スカイライン、セドリック。

⑫北海道。

⑬特にきまったものはありませんが、色んな作家のものを読みました。

⑭益々の発展を望んでいます。

38. 布谷 国廣

①インターン闘争と学生運動に明け暮れ、それまでは下手の横づきではあるが、何んでも興味をもって趣味の世界に没頭。

②専門医。

③70才。

④好きな患者：話のわかる患者。

嫌いな患者：常識のない患者。

⑤得意のないのが得意、正確に処理するのが不得意。

⑥a) 責任は重いが自分の哲学をもって仕事に没頭できる。

b) 医業以外にあまりにも多すぎる煩雑な仕事の処理。



⑦感謝する時：自分は亭主関白の生活をしてきたつもりであったが奥さんにうまく操縦されて無事結婚生活30年。

不満を持つ時：人生観、価値観の相異。

⑧大変幸せです？

⑨身体の運動。細かい神経の伴う趣味はもたないことにしている。

⑩ゴルフ、エアロビックス、水泳。

⑪セルシオ。

⑫カナダ。

⑬95' 年の衝撃、超恐慌（浅井隆著）エゴからエヴァへ（船井幸雄著）誰が国賊か（谷沢永一、渡辺昇一著）。

⑭横のつながりをつくることか、開業医がダウンしたとき医局に対しDr応援をたのめる機関をつくってほしい。

39. 廣田 龍二

①インターン中で海上自衛隊より奨学賞金をもらい、旅行し、アルバイトをし、その他人生が確かバラ色にみえていたように思います。

②専門医にとらわれず、広い視野で各年令層に於ける予防医学方面にも目をむけるべきと思う。

③②の65才迄。

④好きな患者：常識的・基礎的医学的見地からもデスカッションできる人達。

嫌いな患者：自分の考えを一方向的に押し通してデスカッションできない人達。

⑤得意：老人とは十分にコミュニケーションがとれるかが。不得意：現代の若い人達とはコミュニケーションでにくい。

⑥a) 色々な勉強を医学を通してできること。

b) 勉強、勉強、死ぬまで勉強という緊張がついてまわる。

⑦感謝する時：広い意味での医学という職種（分野）に対して理解があり、協力的である。

不満を持つ時：女性であり、協力が限定される。

⑧時に幸せ、時に不幸と色々…。

⑨栄よう管理の為関西で最も豊富な食品売場をもつ阪急百貨店の地下食品売場を素通りすること。

⑩明治、大正、昭和の過去の品物より当時の生活を想像すること（(例)紙のなかった時代トイレは…等）…。

⑪これまでに乗っていた車はスカイライン、現在乗っている車はローレル、これから乗ってみたい車は特になし。

⑫天気がよければどこもすべて良し、日本(?)。

⑬特になし。

⑭特になし、皆さんよくやっていただき感謝しています。

40. 前野 岳敏

①何も知らないインターンの頃、バイト先の病院の当直室で、夜な夜なひびく救急車のサイレンの音におびえ、おののいていた。

②機能障害を可及的減少させる治療を行い、しかも患者には希望を持たせながら現実を十分に納得させるよう説得が出来る人。

③70才前後。

④好きな患者：素直な人。

嫌いな患者：注文が多く、攻撃的な人。

⑤得意：マンネリに強い。不得意：駆け引き。

⑥a) 診療が独立していること。患者に感謝されること。

b) 別になし。

⑦感謝する時：仕事に専念をさせてくれること。

不満を持つ時：馴らされてこの程度と
思っているので、別に不満はない。

⑧健康で頑張ってくれてますし、ゆとりのある生活が送れて申し分ありません。幸せです。

⑨禁煙、程々の酒、週2回のテニス、月2回のボーリング、早朝の水やり（盆栽に）、近くの田んぼの犬との散歩、したくない事はしないようにする。

⑩さつき、山野草盆栽。色々の意見、現実を認識するために新聞のきりぬき。

⑪乗った車、カローラ、コロナ、ローレル、セドリック、クラウン、レジェント、現在乗っている車クラウン、これから乗ってみたい車ナシ。

⑫スイス。

⑬天平の薨（井上靖）・聖徳太子（黒岩重吾）。

⑭親睦の場として、情報交換の場として、又共育の場として、長く続くことを期待します。

41. 岩瀬 久雄

①結婚をした年。

②?。

③70。

④嫌いな患者：不遜な者。

⑥a) 時に感謝されることがある。

b) なし。

⑧?。

⑨睡眠を充分にとる。

⑩ハイキング。

⑪これから乗ってみたい車はジープ。

⑫ローデシア。

⑬坂の上の雲。

⑭現状で良いと思う。

42. 明石 武彦

①大学紛争の為 大阪労災病院で無給研究させてもらっていた。

②手術しないで疾病を治せる整形外科医。

③65才。

④好きな患者：何んでも訴えてもらえる人。

嫌いな患者：医者への助言、治療を受け入れず文句ばかり言う人。

⑤得意：ヘラ鮎つり。不得意：不器用、書字。

⑥a) 人に感謝されること。

b) 働きすぎ。

⑦感謝する時：医者と言う職業を理解して協力してもらえることに感謝。

不満を持つ時：特になし。

⑧自宅と医院一緒なので多少の気苦労もありますが、医院に尽力してくれている従業員に感謝する日々、幸せに思い、何より少しでも主人の役に立っていると思うとこんな幸せはありません。又、開業医会で楽しい催しに参加させて頂き楽しくとっても～幸せです。

⑨すでに大病をして、その後はのんびりをモットーにしています。

⑩ヘラ鮎つり。

⑪ベレット→カローラ→クラウン→ローレル→クラウン→ベンツ。

⑫バリ島。

⑬特になし。

⑭和気合々と話せる場。

43. 門田 嘉弘

①新潟県上越市の病院に勤務していた。スキー登山などに熱中していた。

③70才位まで。

④好きな患者：常識をわきまえた人。

嫌いな患者：信頼してくれない人。

⑥a) 自分の裁量である程度までできる。

b) 開業医については、雑用が多すぎる。

⑦感謝する時：色々と協力してくれる。

⑨肥満せぬように気をつけている。

⑩登山・バードウォッチング・旅行。

⑪これまでに乗った車と現在のっている車はトヨタクラウン、これから乗ってみたい車はクラウン。

⑫ネパール、ヒマラヤ。

44. 山田 守義

①サッカーに夢中、下級生の合宿のはしご。

③65才位。

④特に気にしない。

⑤自分では判らない。

⑥a) 他からの干渉が割りに少なく仕事が出る。

b) 高熱や下痢しての診察中。

⑦感謝する時：子供の自立時。

⑨出来るだけ運動する事。

⑩ゴルフ・サッカー・音楽鑑賞。

⑪カローラ、コロナ、セドリック、現在シーマ、乗ってみたい車ベンツ、アルファロメオ。

⑫済州島。

⑬三国志。

⑭flexibility, tolerance, freedom。

45. 奥田 好彦

①救急病院当直夜診を連日して、結婚資金を稼いでいた。

②しっかり実力をつけて患者の期待に応える事。

③80才。戦死した父の兄弟は6人いたがすべて90才過ぎて死んでる。

④どんな患者でも受診下さるなら大歓迎です。

⑤得意：特になし（腕力）。不得意：外国語会話。

⑥a) 尊敬してくれる、あほでも。

b) 特になし。

⑦感謝する時：性格が明るいので暗い私にはよい。

不満を持つ時：なし。

⑧幸せです。

⑨何もしていません。

⑩SOCCER。

⑪煙の出る車検切れのブルーバード、43年型コロナハードトップ、スカイライン、マークII、ソアラ、トヨタランドクルーザー、ソアラ、サーフ、ベンツ。

⑫宮之浦岳。

⑬罪と罰、カラマーゾフの兄弟。

⑭大して役に立たず申し訳ない。さらに発展する事。

46. 許 国広

①済生中津病院にて、朝9時から夜9時まで毎水曜日手術していた。

②患者の痛みをわかる整形外科医。

③65才。

④好きな患者：素直に治療に納得してくれる人。

嫌いな患者：理屈っぽい人。

⑤得意：外傷。不得意：神経疾患。

⑥a) 自分の考えで仕事ができる。

b) 旅行がしにくい。時間がない。

⑦感謝する時：開業を手伝ってくれる。

不満を持つ時：料理がへた。

⑧不幸。かせぎが少ない。

⑨ゴルフにてなるべく歩く事。

⑩ゴルフ、パソコン。

⑪これまでに乗った車スカイライン、現在乗っている車シーマ、これから乗ってみたい車セルシオ。

⑫カナダ、(オーストラリア)。

⑬橋のない川。

⑭特になし。

47. 越宗 正晃

①早く一人前の外科になりたかったが…。

②今后は米国におけるレジデント制度に似た卒后トレーニングが望まれる。

③私自身65才位まで手術室に、外来診察は70才位までとっております。

④好きな患者：積極的に治ろうとする人。

嫌いな患者：何事も人のせいにする人。

⑤得意：女房の毒舌より逃がれること。不得意：何事も切羽詰まらないうと立ち上がれないとこ。

⑥a) 軽快して患者さんから感謝されること。

b) 医療トラブルにまきこまれた時。

⑦感謝する時：子供をりっぱに成人させてくれたこと。

不満を持つ時：飲酒帰宅、茶漬けでもと思うと…寝たふりをしているところ。

⑧退屈する間もなく幸せ。一人になれなくて不幸せ。

⑨週一回アスレチッククラブに過去20年通っております。(故市川先生ご紹介)

⑩家内とともに、登山を3年前より始め



夏の日本アルプスに挑戦しております。

⑪中型ベンツ。

⑫ストックホルムの夜景。

⑬特になし。

⑭出身大学が別々のためか、こんなにFairな開業医会はないと思います。

48. 中村 英健

①1児の父親。労災病院で手術症例を漁って、ハイエナと呼ばれていた。

②現在も模索中です。

③70才？。

④好きな患者：なし。

嫌いな患者：来院する患者はみんな同じです。

⑤なし。

⑥a) あまり思った事がない。

b) 金もうけがヘタクソです。

⑦感謝する時：貧乏世帯の子だくさんを支えてくれてありがとう。

不満を持つ時：おそれ多くて、書けません。

⑨自然体でいる事。

⑩ゴルフ、スキー、読書。

⑪ホンダ→ホンダ→？ BENZ K？。

⑫ニュージーランド。

⑬デックフランシス、アレクサンダーケントのシリーズ、池波正太郎 藤沢周平他。

49. 小野 興三郎

①研修医で初めて執刀させていただきました。術式は小児の内反股骨切り術。オーベンは福西修先生(当時助手)でした。

②模索中です。

③健康であれば70才ぐらい。早く医者をやめたいという願望もあります。但し、借金がなくなり、他に生き甲斐があればですが…。

④建前としてはありません。

⑤不得意ばかりです。

⑥a) 50才を過ぎて、また開業という人生の選択肢が残っていたこと。

b) 本当は数学者になりたかったので、しばらくは未練がありました。

⑦感謝する時：妻がボクに感謝している時。

不満を持つ時：妻がボクに不満を持っている時。

⑧ ???。

⑨何もしていません。

⑩テニス（今年再開したところですが）バードウォッチング。

⑪オースチン、アルファロメオ、BMW、スイス、ドイツ時代中古で買い全て乗り潰しました。現在トヨタMK II、乗ってみたい車種特にありません。

⑫帰国した時、飛行機から見えた山陸沖の漁火。

⑬特にありません。

⑭入会早々ですので、まだよく知りません。

50. 片上 善嗣

①学生の頃はよく遊んだので一生懸命“外科”に没頭していました。

②整形外科的な家庭医（運動療法での指導etc）。

③同年令の患者がいる間は医者としてつき合っていく。

④好きな患者：私と同種の人（同じタイプ）。

嫌いな患者：知識人（ある意味にて）。

⑤人の前で喋ること。

⑥a) 他人の立場、観点に立ち、役に立てること。

b) 不勉強で、さぼりの性格。

⑦感謝する時：私のすべての欠点をカバーしていただいている。

不満を持つ時：もう少しゴルフをして欲しい。

⑧不幸せです。

⑨よけいなことを考えず、運動をしてよく眠れるようにしています。

⑩水泳、エアロビックス、英仏会話、ゴルフ。

⑪BMW（前、今回）、今後わかりません。

⑫パリ。

⑬奥の細道。

⑭開業医としてみなさんの健康維持に努力してほしい。

51. 黒田 晃司

①小谷教授、市川教授とセイロンにて1ヶ月ほど生活したこと。

②患者さんに尊敬されるような医師。

③あと10年と言いたいところですが、むしろこの年令を考えると70才まではあくせく働いていることでしょう。

④好きな患者：陽気で、明るい患者、自分の意志をはっきりと表わす人。

嫌いな患者：何を考えているかわからない性格の患者、他人の言を聞かない人。

⑤得意：持続力。不得意：金勘定。

⑥a) きらいな人とかかわらずに生活できる。

b) 医者以外になって生活している自分を想像しにくい。

⑦私の着るものはすべて、奥さんが用意してくれます。ときには上着そのものも作ってくれます。コーディネートもバッチリ。シャツもズボンも。数が多くなってしまって時々、忘れていた間にすてられてしまうことが不満です。

⑧患者さんに喜んで頂いた時は良かったと思い、主人が医者でありながら治せないような病気に子供になった時は不幸だと思う。

⑨週に2日（水曜日と土曜日の午後）走って、泳いで体操するためスポーツクラブに金を払っていること。

⑩切手収集—日本の切手はかなり集まっています。お札とコイン（日本）の収集—こちらは思うようになりません。

⑪センチュリー、ボルボ、GMのシボレーカマロZ28、次はロールスロイスしかない（私）。妻は年とったら、ピックアップ



プバンに革ジャン着て乗りたいと言ってます。

⑫カナダのバンフ！とオーストラリアのエアーズ・ロック。

⑬團伊玖磨の随筆「パイプのけむり」。河口彗海のチベット旅行記。

⑭楽しいこといっぱいして下さい。

52. 近藤 正樹

①夢多く、勉強もしていた。

②横の連携を深め専門性を高める。

③75才位。

④好きな患者：素直な人。

嫌いな患者：身勝手な人。

⑤得意：脊椎外科・末梢神経外科。不得意：小児整形・腫瘍。

⑥a) 良くなったと感謝された時。

b) 自分の時間が無い。

⑦感謝する時：家庭内のことすべて。

不満を持つ時：なし。

⑧不幸。

⑨時々、ジョギング。

⑩美術鑑賞。

⑪これまでに乗った車スカイライン、マークⅡ、現在乗っている車ボルボ、これから乗ってみたい車ジャガー。

⑫スペイン。

⑬特になし。

⑭特になし。

53. 佐竹 兼爾

①手術の楽しさに没頭していた。

②？。

③70才位か。

④好きな患者：病気に負けないほがらかな人。

嫌いな患者：自己中心的、一方的な自分の話がだらだら続き、こちらの話は聞く耳なし。

⑤得意：一つの事を根気よくすること。

不得意：気の向かない事はしない事。

⑥a) 頭を降げること少し。

b) とは思わない。

⑦感謝する時：一緒に働いてくれる事。

不満を持つ時：説教じみた事を言うとき。

⑧これは妻に聞きましたが、愚問らしく「返答なし」でした。

⑨特になし。

⑩釣り。

⑪軽自動車→普通車（ファミリア→カローラ、コロナ、ブルーバード、コロナ、マークⅡ、現在マークⅡ。）これからBMW？

⑫ドイツ。

⑬霊界物語：出口王仁三郎著。釣影：山本素石著。

54. 山藤 修輔

①ラグビーに専念していた。

③70才。

④嫌いな患者：自分の訴えばかり云いこちらに耳をかさない患者。

⑧幸。

⑨暴飲暴食をしない様に心がける。

⑩ゴルフ。

⑪現在乗っている車：BMW325i、Benz 280E、Daimler double six。

⑫ベルギー（ブルージュ）。

⑭なし。



55. 南平 克積

①研修医で、外科や麻酔科などローテートしていて、何もわからず何もはかどらず、気を使ってばかりいたような気がします。

②むずかしすぎる質問です。全身管理のできる基礎をもって運動器疾患を専門に取り組むべきと思います。

③70才。

④好きな患者：専門家としての意見を聞く姿勢の人。

嫌いな患者：疑ぐりぶかい人。

⑤得意：コツコツとのろいが息長く努力すること。不得意：ケンカ、理屈。



⑥ a) 定年がない。自由がある程度きく。

b) そうは思わないようにしています。

⑦感謝する時：子供をよく育ててくれたこと。

不満を持つ時：貧乏に慣れていないこと。

⑨よく眠るようにしている。

⑩ゴルフ、碁。

⑪カローラスプリンター、カーリーナ、スタンザ、マークⅡ クラウンV8。

⑫ドイツのロマンティック街をホテルの予約もなしにドライブ旅行したこと。

⑬儒教：加地伸行著。

⑭整形外科学会、同窓会、医師会と同質ではない、市大とその関連の病院で研修し、育ったものの集まろうとして150人以上のメンバーで独自の活動をしていて欲しい。

56. 山田 忠尚

①急性肝炎でゆっくり休養していた。

②どの分野でも技術的に高いレベルに達した整形外科医。

③整形外科医としては65才。医者としては75才ぐらいか。

④好きな患者：信頼して治療をうけてくれる人。

嫌いな患者：酒を飲んで、従業員に文句をいう人。

⑤診察以外は不得意。

⑥ a) 不況でもなんとか生活が出来る。

b) とくにない。

⑦感謝する時：なんでもいえてストレスの解消になる。

不満を持つ時：なかなか、思いどおりにならない。

⑧不幸ではない。

⑨とくに気をつけてない。

⑩山登り（ハイキングの延長か）。

⑪これまでに乗った車：ワーゲン、カーラ、コロナ。現在：クラウン。乗ってみたい車：とくにない。

⑫スコットランド。

⑬戦国武将。

⑭特にないが行事に参加できないので申し訳ありません。

57. 菱川 泰

①何もわからずかけだしの整形外科医だった。

②患者サイドにたって事にあたること。

③65才まで。

④好きな患者：医者の指示に従う人。

嫌いな患者：医者の言うことをきかない人。

⑤得意：遊ぶ事 不得意：お金をもうける事、ためる事。

⑥ a) 自分の性格にあっている。

b) なし。

⑦感謝する時：適切な受亨をもらう時。

不満を持つ時：家にいない時。

⑧とても幸せです。

⑨心の健康のため信心している。

⑩陶芸、ガールスカウト活動。

⑪これまでに乗っていた車ベンツ、現在乗っている車ゴルフ、これから乗ってみたい車キャデラック。

⑫1.ヨーロッパ旅行。2.グアム島。

⑬かっぽう着の法母。

⑭今までで十分です。

58. 前田 勉

①希望が満ちていました。

③70才。

④好きな患者：要求が少なく、感謝の気持の多い人。

嫌いな患者：要求が多く、医師不信感をもち医師の指示に従わない患者。

⑥ a) 患者さんに感謝又は御礼を述べられたとき。

b) 不平・不満を述べられたとき。

⑦感謝する時：家庭をしっかりと守ってくれる。

不満を持つ時：仕事に参加しない。



59. 吉田 昌司

- ①入局当時、小谷教授の思い出。
③80才、但しできることなら一刻も早く辞めたいもの。
④嫌いな患者：中途半端に知識のあるオバサン。
⑤不得意：左膝外側からの関注（なぜか痛がらせることが多い）。
⑧どちらともいえない。
⑨嫌なことは、すぐに忘れること。
⑩音楽、オーディオ、スキー、ダイビング、パソコン。
⑪スカイライン、117、ソアラ。（今後）足廻りがいいこと太いタイヤ（たかがゴム製品に命をかけている）。色はシルバー（よごれが目立たない）、高速クルージングに向いていること、外観目立たない車。
⑫リオ・デ・ジャネイロ、グレート・バリア・リーフ。

60. 頼 功

- ①のんびりと研修医を楽しんでいた。前野岳敏先生よりやさしくEMGの検査の手ほどきをうけた。
②生涯勉強である。新しい知識・医療技術の情報を吸収して、患者さんにベストの医療を提供する。うまく病診連携をしていかなければならない。全く自分ではできていないが。
③65才。
④好きな患者：物分りのよい人、従順な人、思いやりのある人。
嫌いな患者：自己本位の人、教師（とくに高校教師）。
⑤得意なものなし。不得意－沢山ある。女の扱い（とくに従業員）。口ベタ。
⑥a）患者さんから感謝されるとき。
b）自分が病気になって寝込んだとき、自分の代役がいない肉体労働者である。
⑦感謝する時：・割合とわがままにさせてくれたこと。・開業以降は一生懸命雑用をやってくれたこと。・家内の感性でクリニックの内装に気配りをしている。

不満を持つ時：時に仕事の内容に口を出すときがある。時間にルーズである。

- ⑧幸せとの由。
⑨ときどきスポーツクラブでトレーニングをしている。週1日は飲酒を控え、休肝日を作っている。
⑩ゴルフ、音楽鑑賞。
⑪これまでクラウン、ルーチェ、ブルーバード、アコード、シビック 現在アスコットイノーバ、オデッセイ、単車。これから特にないが、外車に一度は乗ってみたい気がする。
⑫ブルージュ、ウィーン、ハイデルベルグ。
⑬山本周五郎もの。松本清張もの。
⑭講演を楽しみにしています。

61. 金川 雅洋

- ①インターンを終了、春の国試ボイコット、整形外科医としてのスタート。これ迄の甘い考えにカウンターパンチをくらった様な1年。それでも未だ大学紛争の波も来ずわずかな希望をもっていた頃です。
②整形外科医のみならず医師一般更に科学者全般について云えることと思うが「何が出来るか」ではなく「何をやらねばならないか」が必要と思われる。
③現在医者として働いているのかどうか疑問である。
④好きな患者：医者と医学的知識をもった相談相手と考え共に治療に努力する患者、試行錯誤に耐えられる患者。
嫌いな患者：「経過を診る」ということが理解出来ない患者。医師に情報を与えることが下手でありながら、過大な要求をする患者。
⑤得意：これ迄にやったことがないこと（ひょっとして得意かも知れない）。不得意：これ迄やってきた様々なこと（技術が向上する以上に目が肥える為か満足出来たことはほとんどない。欲求不満の塊?）。



⑥a) 物心両面にわたってそれなりにやってこれた。

b) 物心両面にわたってそれなり以上にはなれなかった。

⑦恐ろしくて答えられません。

⑧他人の家庭を壊す様な質問はしないで下さい。

⑨時に努力はしていない。

⑩音楽、美術鑑賞、読書等。

⑪これまで：ブルバードSSS、スカイライン2000GJ（箱スカ）、プジョー504ディーゼル。現在：ホンダアコードワゴン。これから：特になし。

⑫知床。

⑬乱読タイプなので特にこれといっているが吉行淳之介、野坂昭如、井上ひさし、筒井康隆、吉村昭、中島らも、開高健、C.W.ニコル、野田知佑等の作品。今読んでいる本：生物学個人授業 岡田節人、南伸坊。

⑭気楽に参加、気楽に不参加、いずれにせよ気楽につき合える会であってほしいと思います。

62. 岩宮 裕

①観血的な治療（手術）をやりたいがっていた。

②老化現象をいかに止めるか。

③60才。

④好きな患者：主訴の多い人。

嫌いな患者：病識のない人。

⑤得意：面倒みのよい事。 不得意：落ちつきがない。

⑥a) 一般的に尊敬されている。

b) 世間を知らない。

⑦感謝する時：朝早く起き、朝食夕食を作ってくれる。

不満を持つ時：医院経営にたちいりすぎ。

⑧幸せです。

⑨テニス？。

⑩テニス、ゴルフ、つり。



⑪これまでに乗った車グロリア、現在乗っている車レジェンド、これから乗ってみたい車B.M.W.

⑫上高地。

⑬城塞。

⑭ゴルフ以外の事もやってほしい。

63. 吉田 研二郎

①結コンしてすぐ、当直どんまい。

②外科医の立場がなかなかたもてないようになっている。

③活動的は、65才。その後は話し合いか。

④好きな患者：かわいい患者。年とっても。

嫌いな患者：言いたい事と言っていることの異なる患者。

⑤不得意なことが、不得意なままになる年になりました。

⑥a) 特に思わない。

b) 特に思わない。

⑦元気な奥様はなかなか得がたい。

⑧開業したのが下の子供が16才。母親としての仕事も少なくなりつつある頃暇をもて余すのが嫌いな私にとり、最良のプレゼントが“事ム長”のポスト。幸せと思える今日この頃。

⑨漢方薬をいまのんでいる。

⑩どれが趣味かわからんようになっている。

⑪RX→クレスター→アンフィニMS8。これから乗ってみたい車はフェラ〜リ。

⑫米州、フォートワース。

⑬キャンベル？。

⑭訃報（とても遅く、時には、終わった後に届く事もありました。）他、連絡網の見直し。

64. 桜井 誠

①卒後2年目研修医で大学医局カンファレンスの后でいつも当時の医局長（あえて名前は出しませんが）麻雀でよくむしられよくバイト先を命じられた思い出があります。

②整形外科だけでなく医者としての大志を持つものが、良き医者になれるものと思います。少々自分は老けてしまいました。

③椎間板ヘルニアのopを2回行っておりますので腰が耐えられるまで多分65才位には、Stenosisでつらい思いをしていると思っております。

④好きな患者：すべて初診の患者（時に閑な時の）。

嫌いな患者：診療時間間際に平気である患者。

⑤すべて最近不得意になったと思っております。

⑥a) あまり思い当る事はないです。

b) 交際がすべて医者に偏るので色々な職種の人との交流が少い事。

⑦すべて感謝しております。

⑧答えずと云う事からみてどちらか一極だと思います。

⑨水泳、腰痛体操。

⑩水泳、ゴルフ。

⑪目的地に走れる車であれば何でも。

⑫イタリア。

⑬最近読んだ「少年H」。

⑭あまりわかりません。

65. 楯 憲一郎

①特に何も考えていなかった。

②開業医としては、プライマリーケアに徹するしかないと考えます。

③70才位（65才位で辞めたい）。

④特に好みはなし。

⑤不得意→細かい作業。

⑥a) 開業医になってから、自分の意志がすべて診療経営に反映できる。

b) 特に開業してからは、体が資本で、病気をしたら終わりだという危機感（プレッシャー）。

⑦感謝する時：事務長として、従業員の給料計算、薬の支払い、税金の支払い等、裏方一般を全部してもらっていること。

不満を持つ時：ゴルフでドライバーを

時々、オーバードライブされること。

⑧複雑です。

⑨最近アルコールを控えている。

⑩ゴルフと、時々、読書。

⑪学生時代→4台のりかえた（マツダロータリークーペ、ギャランGTO、フェアレディZ etc）現在→ベンツAMG。将来乗ってみたい車→特になし。

⑫スペイン・イタリア。

⑬沈黙の宗教。

⑭特になし。強いて言えば、関連病院の充実を大学にお願いして欲しい。

66. 西賀 隆夫

①カンファレスが早く終わって欲しかった。（先輩の先生方と麻雀したかった）。



②新しい知識・技術を持ち、患者に対し誠意のある事。

③65才位。

④好きな患者：明るく強い人。

嫌いな患者：中途半端な知識にこだわる人。

⑤得意：何でも少しだけ参加する事。不得意：ひとつの事に長期間集中する事。

⑥a) 人間相手の仕事でありながら、あまり頭を下げないですむ事。

b) 長期の休暇がとれない事。

⑦感謝する時：子供の世話を一生懸命してくれる事。

不満を持つ時：子供の事がうまくいかない時（成績など）、とばかりが私に向く時。

⑧幸せです。

⑨適度な運動。

⑩ゴルフ、テニス、ボート、囲碁、麻雀。

⑪これまでに乗った車ブルバード、スカイライン、クレスタ、クラウン、ボルボ。現在乗っている車セルシオ。これから乗ってみたい車RV。

⑫カリフォルニア。

⑬なし。

67. 片平 卓男



①昼は研修医、夜は当直と飲み歩きに忙しく家に帰ってゆっくり眠るひまがなかった。

②開業医であるならば全身管理の出来る内科的知識のある整形外科医が望ましい。

③65才位まで。

④好きな患者：全員好きです。

嫌いな患者：嫌いな患者は自然に通院しなくなります。

⑤内科合併症（DMによる神経症など）は不得意です。

⑥a）今のところ開業医は停年がないこと…。

b）長期休暇がとれない。

⑦感謝する時：自分が不得意の経理その他雑事をしてくれること。

不満を持つ時：ないことにしておきます。

⑧幸せです。

⑨アルコール、タバコを好きなだけやっています。

⑩船釣トローリング、ゴルフを始めました。

⑪これまでに乗った車はベンツ、現在乗っている車はカプチーノ。

⑫フィジー島。

⑬今日の治療方針（診療中のカンニングペーパー）。

⑭勉強にも遊びにも和をもって行ってほしい。

68. 阪本 邦雄

①当時、広島の呉共済病院に勤務、初めての一人暮らしがうれしく、銭湯の帰り屋台、寿司屋で飲み歩き、週末には広島の大歓楽街八丁堀、薬研堀を散策。今から思えば、全く未熟な医師としてのスタートでしたが、多くの失敗と楽しい思い出となった。

②特に、外科との差別化を目指して、スポーツ外傷・予防などを通じ、積極的に

地域社会に出て行く。又、高齢者に対して医学的リハビリのみではなく、社会的リハビリを整形外科がイニシアチブを取って、どんどん推し進めて行く。

③70歳まで働く。それ以後、元気であれば、週休2日制とし、午前のみ診察とする。

④好きな患者：こちらの質問に的確に答え、余計な話をしないで診察時間が2分以内の患者。（ただし、身の上話をする年寄りの患者は好き）。

嫌いな患者：症状を溜め込んで、次から次と主訴を述べ立て、さらにその一回の診察で完治を求める患者。

⑤得意：ビールを飲んで、酔っ払うこと。不得意：朝早く起きること。

⑥a）比較的、朝が遅いこと。

b）特になし。

⑦感謝する時：夜遅く飲んで帰って来たとき、すでによく熟睡している時。

不満を持つ時：ビールを飲んでゆっくりしている時に横に来てしゃべりまくる時。

⑧何とも思っていない。

⑨出来るだけよく睡眠をとっている。また、車でなく、歩くようにしている。

⑩テニス、ゴルフ、特に昼寝。

⑪サニー1000、マツダクーペ、コスモ、レパード、シルビア、ピアツア、ボルボ750、ベンツE230。これから乗ってみたい車：セルシオ、でっかいキャンピングカー。

⑫タヒチのボラボラ島。

⑬いままでの愛読書というよりも、最近の愛読書：「かくて昭和史は甦る」（渡辺昇一著）、「中国の希望と絶望」（林青梧著）、「パラサイト日本人論」（竹内久美子著）、「EQ ころの知能指数」（ダニエル・ゴーマン著）。

⑭いろいろな会がありますが、大学も同じ、職種、勤務形態も同じという会は、他にはありません。むしろ学問的な話より、いろいろな為になる裏話聞けたり、

さらに互助会的な会を目指していただきたいと思います。

69. 箕輪 恵次

①マンションを購入した時で、アルバイトに精を出していた。

②事実を正直に認め驕らないこと。

③65才まで。

④好きな患者：説明したことをすぐ理解できる人（できれば若くて美しい女性）。

嫌いな患者：どうしようもできないことを何回も聞く人。

⑤得意：失敗にめげないこと。不得意：講義を聞くこと。

⑥a) 科学者のはしくれに残ったこと。

b) 飛行機のパイロットになれなかったこと。

⑦感謝する時：内科の相談する時と料理をしている時。

不満を持つ時：時々ヒステリーがあること。

⑧答えられません。

⑨スポーツクラブ（ジム・ウォーキング・水泳）。

⑩書道。

⑪これから乗ってみたい車はトヨタセルシオ。

⑫東北（奥入瀬溪流）。

⑬特になし。

⑭特になし。

70. 西上 茂樹

①日中は研修、夜間は呉や広島を散策。

②内科もできる家庭医。

③75才。

④好きな患者：症状が少しとれても感謝してくれる人。

嫌いな患者：嫌いというよりは苦手なのは医師。

⑤得意：疼痛に対する鍼、漢方治療。

不得意：骨代謝疾患と骨腫瘍。

⑥a) 信用が得られやすい。

b) なし。

⑦感謝する時：レセプトや経理を全て任している。

不満を持つ時：なし。

⑧家事と診療所の仕事の両立は大変ですが、何事もなくきているので幸せかなと思います。

⑨瞑想。

⑩ゴルフ。

⑪これまで ブルーバード。現在 ボルボ。これから セルシオかベンツ。

⑫インド。

⑬安岡正篤。

⑭医局とは調和のとれた関係にして下さい。

71. 飯田 伊佐男

①新しい仕事を憶えるのに精一杯だった。

②視野を広くもって、人間全体を見れること。

③75才位までが理想。

④好きな患者：感謝の気持ちを忘れない人。

嫌いな患者：横柄な態度の人、医者 of 言うことを聞かない人。

⑤得意：細かい仕事。不得意：精神的に問題のある人の扱い。

⑥a) 患者さんが良くなって感謝されること。

b) 嫌な思いをすることはあるが、間違いだったとは思わない。

⑦感謝する時：いつも手作りの料理を食べさせてくれる。

不満を持つ時：特になし。

⑧幸せです。

⑨1) できるだけ、歩くようにしている。

2) 栄養補給食品を毎日食べている。

⑩特になし。模索中。

⑪現在乗っている車乗用車、これから乗ってみたい車RV車。

⑫国内では北海道、外国ではニュージーランド。

⑬船井幸雄シリーズ。

⑭情報交換、医学情報の提供、研究会。

72. 河合 栄蔵

- ①バイト病院で、手術出来る患者ばかり探していた。
- ②?。
- ③60才までにリタイヤして、第2の人生を始めたい。
- ④好きな患者：よくなってくれる方。
嫌いな患者：病識に欠ける人。
- ⑥a) 患者に感謝してもらえる。
b) 休みがとれない。
- ⑦妻として、母親として、時には経理・受け付け・看護婦役と多種多様なsupportをしてくれる妻に感謝しています。一人で海に出してくれるのは、ありがたいが、もう少しガマンして付き合ってください。
- ⑧大変幸せです。
- ⑨フィットネスで軽い汗を流す。海へ出てストレスを解消する。
- ⑩モーターヨット、キンピングカーでアウトドアでゆっくりする。
- ⑪ゲタ。
- ⑫新婚旅行のヨーロッパ。
- ⑬レオナルド・ダビンチ。
- ⑭特になし。

73. 島田 永和

- ①準夜勤の看護婦さんが終わるのを待って飲みに行ったりともかく、よく遊んだ「マメ」な時代です。
- ②PRIMARY CAREよりか専門医よりかが明らかにされるのみ。
- ③60才。
- ④好きな患者：ものわかりのよい人生に積極的にとりくむ方。
嫌いな患者：中途半端な知識で、かつ人生に懐疑的なやつ。
- ⑤得意：人との応対。不得意：人との応対。
- ⑥a) たくさんの人と会える。
b) 過大ストレス。
- ⑦感謝する時：理解がありすぎて。
不満を持つ時：うれしくて、悲しい。
- ⑧共通のモノが見えて、うれしくて、悲

しくて、楽しい。

- ⑨特になし。
- ⑩仕事。
- ⑪大きい車。
- ⑫タスマニア。
- ⑬マルテの手記。
- ⑭病院部会みたいなんがあってもえーかな。

74. 清水 孝修

- ①研修医として仕事は燃えながらも、飲み会と始めたばかりのゴルフに興じていました。
- ②今もってわかりません（常にあたりまえの医療ができることか）。
- ③65才位か。
- ④好きな患者：当方の誠意が通じる人。
嫌いな患者：よくなったことをわかってくれない、常に文句ばかりいう人。
- ⑤得意：?。不得意：人との交際～とくに会話で盛り上げること。
- ⑥a) 治療によって多少ともよくなって喜んでもらえること、いろんな人と出会えること。

b) 長時間労働。

- ⑦感謝する時：自分の仕事を理解してくれていること。
不満を持つ時：時々家事をさぼること。
- ⑧もちろん幸せですとのこと。
- ⑨十分な睡眠。深酒をしないこと。
- ⑩旅行。
- ⑪これまでに乗った車ローレル、現在乗っている車マークⅡ、これから乗ってみたい車ジャガー。
- ⑫北海道。西ヨーロッパ。
- ⑬スパイ小説。歴史小説（黒岩重吾）。
- ⑭研修会などを通してセ外その他医学に関する情報提供。

75. 堀澤 欣弘

- ①とにかく医者としての経験を積み重ねたかった頃です。
- ②心、技術、知識のバランスがとれてい

る事。

③メスを持たなければ、ボケない限りは何才までも可能でしょう。

④好きな患者：自分の病気を理解しようとする人。

嫌いな患者：医者に全てを任せて、自分の意志を持たない人。医者の説明を全く聞く気のない人。

⑤特になし。

⑥a) 沢山の人の喜びと悲しみを少しでも共有出来る事。

b) 特になし。

⑦感謝する時：常に感謝しております。

不満を持つ時：特になし。

⑧「幸せです」と申しております。

⑨特になし。

⑩読書。

⑪乗った車（シトロエン、マークⅡ、ソアラ）乗っている車（BMW）乗ってみたい車（オープン2シーター）。

⑫マウイ島。

⑬「古代への情熱」「竜馬がゆく」「遠き落日」理由：やる気と勇気が出る事。

⑭同窓会、臨床整形外科医会、保険医協会などとは異なる何かを活動の中心にして欲しい。それが何かは判りませんが、何かが必要だと思います。

76. (故) 嶺 義信

①勉強の虫。

②とくになし。

③70才。

④好きな患者：素直な人。

嫌いな患者：文句を云う人。

⑤内科領域は不得意。

⑥a) ある程度の知力を生かしている。

b) なし。

⑦感謝する時：すべてに感謝。

不満を持つ時：ほとんどなし。

⑧幸せです。

⑨運動（散歩）。

⑩オーディオ。

⑪運転できません。



⑫信州。

⑬とくになし。

77. 山中 健作

①大学1年～4年頃までは全く勉強不足がたたり確か6年に到りあわてて真剣に勉強やろうと始めた時期。

②整形外科医に限らずこれからの医師はいかにしてその病気を防ぐことが可能か、その%を上げる予防医学に徹することが大切と考えます。

③日頃から健康には人一倍気をつけて生活していますから肉体的には80才でもやれると思います。しかしそれまでには、引退するのでは。

④比較的患者に好き嫌いはない方ですが、ただ“depression”状態のpt. に対しては難しさを感じます。

⑤今後も趣味としてゴルフが得意と言いたいです。音楽関係が不得意。

⑥a) 医者も特に開業して良かったなと思います。特にマイペースで仕事をする僕にとっては最高です。

b) 特になし。

⑦健康に配慮した料理を研究して出してくれる事、今までは満足満足の結婚生活を送っています。

⑧テレで答えられない様です。

⑨プラス思考で物を考え、運動と食事に気を配っています。

⑩ゴルフ・旅行。

⑪ジェミニー、BENZ、BMW、今のBENZ、BMW等いつまでも乗りたい。

⑫オーストラリアで、日本の寒い冬を脱出、真夏を満喫したこと。

⑬特別なし。家森幸男先生の「長寿の秘密」この本は大切にしておきたい。

⑭新規若手開業医のDr.が順調に行く為の知識を伝授して上げること。

78. 秋野 一男

①研修医を終えた頃で、新しい仕事が面白くてしかたがなかった。まさに青春で

した。

②仲々難しくてよく判りません。

③65才頃まででしょうか。

④好きな患者：話をよく聞いて下さる方。

嫌いな患者：自己中心的で、話を聞かない方。

⑤変性疾患が得意です。関節鏡が苦手です。

⑥a) 喜んでいただける仕事だから。

b) あまり思いません。

⑦感謝する時：特に開業医になり、雑用等をしてもらって助かっています。

不満を持つ時：特になし。

⑧幸せです。

⑨毎日の食事にできるだけたくさんお野菜を食べる様にしています。

⑩テニス。

⑪コロナ→グロリア→マークⅡ→ここで免許取り消し→現在乗っている車（ソアラ・セドリック）→これから乗ってみたい車BMW。

⑫北海道。

⑬シドニー・シェルダンに3年前までっていました。

79. 倉田 順弘

③70才。

④好きな患者：普通の患者。

嫌いな患者：全身各部に痛みがあって、一度に5カ所も6カ所も電気を当ててくれと言う患者。

⑧ノーコメントだそうです。

⑨できるだけ歩くこと。

⑩特になし。

⑪サニー・プレリウド・チェイサー。
（現在）これから乗ってみたい車ジャガー
かベントレー（運転手つきで）。

⑫北海道。

80. 坂本 和彦

①不死身と思っていた。

③65才ぐらいとすべき。

④特になし。

⑥a) 自由。



b) なし。

⑦感謝する時：いつも。

不満を持つ時：いつもそれなりにはある。

⑧すみません。聞けませんでした。

⑨していない。

⑩溪流歩き。ワイン。仏語。

⑪車は靴の代りです。

⑫南仏プロバンス地方。

⑬特に決ったものなし。

81. 茶之木 頼彦

①無知を自覚せずに医療行為をしていた。

②経済性を考えずに医療にだけ専念できる医師。

③本当にバカバカしくなるまで。

④好きな患者：聞く耳のある人。

嫌いな患者：聞く耳のない人。

⑤得意：素材をそのまま生かした料理。

不得意：お商売としての医業。

⑥a) 人に感謝されることがたまにあること。

b) 理想と現実のギャップの大きさを思い知った時。

⑦感謝する時：常に感謝の気持ちを忘れないように努力しています。

不満を持つ時：不満を持たないよう努力しています。

⑧??。

⑨バランスの良い食事と睡眠。

⑩ピアノ、パッチワーク。

⑪ファミリア、マークⅡ、故障が少なく快適に動けば車種にこだわらない。

⑫アルハンブラ宮殿。

⑬①クィネル②克蘭シー③コーンウェルなど。

⑭よくわかりません。

82. 天野 祐一

①念願かなって医師になり、右も左もわからないまま国立病院で研修しておりました。今から考え



れば何もわからないまま走っていた時期でした。

②開放型病院を利用して検査、手術もできる環境が、開業医にもひらかれ、勤務一開業がボーダーレスになるというのは如何でしょう。

③当医師会では94才現役ドクターが居りますが、70才までは現役でやっていきたいと考えます。

④嫌いな患者：言うことをきいてくれない患者。薬はいや、注射もいや、でも症状もなおらないというように。

⑥a) 診療で疲れても患者さんからの「ありがとう」で救われる事。

b) このように先細い業界になろうとは。

⑦いつも感謝しております。

⑧「本当は開業してほしくなかった」ーとの事。

⑨酒量を減らし、週1回程度のスポーツをし、1日7時間くらいは眠る。

⑩主に読書。日曜大工、オートバイは放ったらかし、子供と作るミニ四駆？そろそろガラス器収集、陶磁器鑑賞。

⑪通勤にルシーダ（視点が高くて楽）、ヨメさんがメルセデスE320。乗ってみたいのはジャガーかポルシェ!!。

⑫パラオへのダイビング旅行。5日間を過ごしたパラオパシフィックリゾートは、この世の天国でした。

⑬乱読ですが好きな作家は多く読む、川端康成、ヘミングウェイ、開高健。近くは村上龍などなど。

83. 増田 博

①研修医2年目で少し医者らしいことができるようになり月の半分位は当直していた。

②家庭医として、患者さんの関節等の運動機能の状態を常に掌握している。

③60才。

④好きな患者：痛み等がとれて、楽になったと感謝してくれる患者。

嫌いな患者：体とは関係のない話を長時間して本題をなかなか言わない患者。

⑤得意：相手の話に合うことができる。

不得意：自分の意見を主張しきれない。

⑥a) 人に感謝されること。

b) 時間の制約されることがある。

⑦感謝する時：仕事のつらさを理解してくれる時。

不満を持つ時：仕事のしんどさを理解してくれない時。

⑧不幸ではない。

⑨暴飲暴食をつつしむ。適当な運動。

⑩ゴルフ、スキー、テニス。

⑪これまでカローラ、コロナ、トレノ、チェイサー、クラウン、ウィングダム。現在グランビア。これからセルシオ。

⑫ギリシア。

⑬特になし。

⑭先輩が後輩にいろいろ教えてくれて何でも話ができる会にしてほしい。

84. 馬野 隆信

①研修医をしていたが、どういう医者になってゆけるのか日々不安であった。

②開業医としてはフットワークよく診て廻れる医師。

③専門分野では50才、一般的には60才。

④好きな患者：治療を医師と共にガンバレル患者。

嫌いな患者：ドクターショッピングする患者。

⑤得意：口がウマイ。不得意：おべんちゃら。

⑥a) 社会に役立てられているという意識がもてたこと。

b) 休みにくい。

⑦感謝する時：自分（私）の機嫌の悪い時には放っておいてくれる。

不満を持つ時：夜遅いとwifeの機嫌が悪い。

⑧幸せ。

⑨食事の内容と自転車通勤。

⑩オーディオ・ビジュアル。

- ⑪カローラ、BENZ190E、今はBENZ320E、
これからは911ポルシェ。
- ⑫フィリピン。
- ⑬ハーバード流交渉術、エルキュールボ
アロシリーズ。
- ⑭特になし。

85. 光武 宏

- ①勉強、研究、バイトで忙しかった。
- ②専門医であるとともにgeneralistでも
あるべきと思われる。
- ③65才。
- ④好きな患者：いっしょに治療してい
ていこうとする人。

嫌いな患者：自己主張だけの人。

- ⑤リハビリ、外傷が好きです。
- ⑥a) 患者の笑顔を見た時。
b) なし。
- ⑦なし。
- ⑧不幸。
- ⑨アスレチッククラブに通うこと。
- ⑩ハイキング。
- ⑪車は運転しません。
- ⑫スイスのグリンデルワルド付近。
- ⑬自己研賛の場にしたいと思います。

86. 金井 香彰

- ①当直とお酒。
- ②プライマリーケアが
充分にできる医者。
- ③70才。
- ④好きな患者：肉体労働者。
嫌いな患者：神経症の方。
- ⑤特になし。
- ⑥a) 特になし。
b) 特になし。
- ⑦感謝する時：不満を言わない事。
不満を持つ時：特になし。
- ⑧幸せです。
- ⑨現在はおしていません。
- ⑩スキー、パソコン。
- ⑪過去：カローラ。現在：プリメーラ。
未来：レンジローバー。



- ⑫グアム。
- ⑬五木寛之作のもの。
- ⑭特にありません。

87. 阪本 博史

- ①恥ずかしながらまだ大学生でBSL
(Bed Side Learning；ポリクリのよう
なもの)をしていた。
- ②整形外科の能力を合わせ持つ医師であ
ること。
- ③70歳。
- ④好きな患者：笑顔で診療室に入って来
るお年寄り。

嫌いな患者：主訴のデパートのような
患者。

- ⑤得意：ひとを怒らせないこと。 不得
意：NOということ。

- ⑥a) 職業欄に『医師』と書けること。

b) 一生涯 収入＝自分の労働 であ
ること。

- ⑦感謝する時：充分すぎるくらい可愛い
子供を生んでくれたこと。

不満を持つ時：小市民であること。

- ⑧幸せ。
- ⑨毎日プールで泳いでいる。
- ⑩ペルシャ絨毯の収集。
- ⑪これまで：シャルマン、コロナ、ソア
ラ、ゴルフ、BMW、ベンツ。現在：セ
ルシオ、チェロキー、モーガン。
- ⑫スコットランド。
- ⑬化身。
- ⑭入会させていただいたばかりなのでま
だわかりません。

88. 柴田 和弥

- ①何事にも自分なりにが
んばっていた様な気がし
ます。
- ②どんな患者さんへもや
さしく全力を尽くす医師。
- ③できるだけ長く健康にこそがけ、働
きたいものです。
- ④好きな患者：言われたとおりにしてく



れて、よくなってくれる人。

嫌いな患者：話の長い人。

⑤オールラウンドをつねに目標にしたいと反省しています。

⑥a) 社会的に一目おかれる事。

b) 大変な仕事です。

⑦家のなかで粗大ゴミ化していても文句をいわないでほっておいてほしいと感謝はしてます。

感謝する時：感謝しております。

⑧“幸せですと書いといて”と言われました。

⑨筋トレしています。

⑩剣道（錬士六段）。

⑪インド。

⑬銀河英雄伝説全巻最高ですね。

⑭御指導おねがいします。

89. 中瀬 嘉人

①研修医生活で忙しかった。

②商人にならないこと。

③生きている限り。

⑤下町医療に徹する。

⑥a) 停年がない。

⑦感謝する時：食事と育児。

⑧自分の職業（教師）があるので開業医の妻を感じたことはない。

⑪カペラ。

⑫沖縄。

⑬三島由紀夫全集。

⑭なし。

90. 黒澤 克也

①中国の辺境を旅していました。

②開業医では整形外科をメインにした家庭医にならざるえないのでは？。

③まだ若年なのでわかりません。

④好きな患者：教科書どおりの症状、経過をとる患者。

嫌いな患者：ねちねちとしたタイプ。

⑤学位は労働衛生でもらいましたが…



⑥a) 時間が比較的自由になること。

b) 長い休暇がとりにくいこと。

⑦感謝する時：細かなことをよく覚えていること。

不満を持つ時：整理・整頓ができないこと。

⑧幸せです。

⑨趣味で野山を駆け回っています。

⑩昆虫採集（蝶）、旅行。

⑪カペラ（マツダ）、ビスタ（トヨタ）次はノア又はイプサムか？

⑫ペルー。

⑬いろいろな本を読むようにしています。小説では松本清張が好きです。

⑭大学の医局とは一線を画してほしい。

91. 川満 政之

①朝は教室で安眠、昼はラグビー、夜はひたすら産婦人科の猛勉強。

②整形外科のみではなく他科にも広く知識を持った医師。

③65才頃。

④好きな患者：医者を信頼してくれる患者。

嫌いな患者：医者を信頼していない患者。

⑤得意：膝関節。不得意：神経内科的疾患。

⑥a) こちらから“毎度おおきに！”と言うのではなく“ありがとうございました”と言われる仕事ができる事。

b) 特になし。

⑦感謝する時：3人の子供を授けてくれたこと。

不満を持つ時：？？？。

⑧ノーコメントとのこと？

⑨暴飲暴食は避けアルコールホリデーをつくる。

⑩釣り、ゴルフ。

⑪これまでに乗った車インテグラ、現在乗っている車エスティマ、これから乗ってみたい車特になし。



- ⑫オーストラリア。
- ⑬風の岬。
- ⑭今のところ特にありません。

92. 山下 豊

①結婚したてで、幸せいっぱいでした。

②整形外科のプロであるのは当然ですが、その患者全体（社会的背景も）を診れる医師であること。



③70才。

④好きな患者：「治りました。」「すっきりしました。」といってくれる患者。

嫌いな患者：説明のつかない事柄、軽微な事柄に対して「なぜですか、なぜですか」と聞いてくる患者。

⑤得意：休まない事。不得意：家内の扱い。

⑥a) 失業の心配がない。

b) 自由な時間が少ない。

⑦感謝する時：時間がなく、あまり家庭サービスができなくても不満をいわない。

不満を持つ時：家に帰ってからも、頸が痛い、頭が痛い等言われる。

⑧幸せ半分、不幸せ半分。

⑨腹八分目。

⑩釣り、ゴルフ。

⑪ファミリア→プレリウド→ベンツ。

乗ってみたい車：マゼラッティ。

⑫石垣島。

⑬山本周五郎全集。

⑭家族も参加できるイベントをお願いします。

〔 V 〕 市整会の歩み (年 表)

市整会(大阪市立大学整形外科開業医会)年表

1972年 (昭47)	11月26日	大阪市立大学整形外科開業医会の設立準備会発足	
1973年 (昭48)	5月20日(日)	<会長 伊藤 成幸先生> 第一回総会 於：大成閣 「大学紛争の前後－現在の医局について」 講師 小谷 勉教授	
1979年 (昭54)		総 会 講師 米朝門下落語家二人 秋 懇親会 唐津へ一泊旅行	
1980年 (昭55)		総 会 講師 村松 剛教授 秋 懇親会 片山津へ一泊旅行	
1981年 (昭56)	11月14～15日	総 会 講師 春日 百合子氏(浪曲師) 懇親会 熱海へ一泊旅行	
1982年 (昭57)		総 会 秋 懇親会 湯田中温泉	
1983年 (昭58)		総 会 講師 森 恕氏(弁護士) 秋 懇親会 山中温泉	
1984年 (昭59)		総 会 講師 竹本 住太夫氏(人形浄瑠璃・人間国宝) 秋 懇親会 浜松へ一泊旅行	
1985年 (昭60)	5月18日(土)	総 会 講師 村松 剛教授 秋 懇親旅行 東那峽	
1986年 (昭61)	5月17日(土) 6月14日(土)	総 会 於：新市 「帝塚山界限」 講師 石浜 恒夫氏 研修会 於：天王寺都ホテル 「医事紛争における整形外科の諸問題」 講師 米田 泰邦氏(弁護士) 「健保の新点数改正あれこれ」 講師 磯野 甫先生	

1987年 (昭62)	7月12日(土)	研修会 「芸術と人間」 講師 日高 正法氏 (前大阪彫刻会議々長) 「我々が知っておきたい皮膚科疾患について」 講師 伊藤 武彦先生
	10月18日(土)	研修会 於：天王寺都ホテル 「最近の手の外科」 講師 楠 正敬先生 (市大整形) 「一人法人のメリット」 講師 阪 秋廣氏 (公認会計士) 秋 懇親旅行 宮崎一泊旅行
	2月14日(土)	新年会 於：天王寺都ホテル 「最近の整形外科の知見」 講師 島津 晃教授
	5月	総 会 於：暫 講師 中田 昌秀氏 (しばらく社長 ライター)
	6月13日(土)	研修会 「AIDSとその対応」 講師 青木 隆一先生 (元桃山市民病院院長) 「ソバの話」 講師 薩摩 卯一氏 (美々卯社長)
	7月11日(土)	研修会 「形成外科の最近の話題」 講師 上石 弘教授 (近大形成外科) 「緑の不思議さ」 講師 長谷川 瓏厓氏 (四柱椎命)
	10月9日(土)	研修会 「骨腫瘍について」 講師 石田 俊武先生 (市大整形外科) 「仏教における こころの健康」 講師 山田 法胤氏 (薬師寺執事) 懇親会 長崎旅行
	2月20日(土)	新年会 於：美々卯 「性教育について」 講師 島津 晃教授
	5月21日(土)	総 会 於：坂口樓 (会員総数109名 出席28名) 「海外旅行裏話」 講師 松添 壮氏 (富士海外旅行(株)副社長)
	8月20日(土)	研修会 於：天王寺都ホテル (出席22名) 「局所麻酔とその事故防止ならびに 脊椎麻酔における臨床的問題点」 講師 藤森 貢教授 (市大麻酔科) 「経営者の心得、苦労話」 講師 川口 道晃 (大和実業専務)
1988年 (昭63)	11月13日(土)	懇親会・家族会バスの旅 (日帰り) 「神戸、チャイナタウンと北野異人館界限と群愛飯店」
		

1989年 (平1)	2月5日(土) 5月7日 5月15日(土) 6月24日(土) 8月26日(土) 11月12日(日)	新年会 於：美々卯(出席27名) 「これからの医師のあり方」講師 島津 晃教授 理事会 於：エコーホテル <会長 松尾 澄正先生> 総 会 於：坂口樓(出席25名) 講師 松村 剛教授 研修会 於：天王寺都ホテル(出席21名) 「薬剤とインポテンツについて」講師 岸本 武利教授(市大泌尿科) 「肩関節周辺の病変について」講師 原 延好先生(市大整形外科) 研修会 於：天王寺都ホテル(31名出席) 「顎・口腔器の異常、いわゆる顎内障について」 講師 宮内 修平助教授(大阪大学歯学部) 「百人一首の秘密」講師 林 直道教授 (市大名誉教授 大阪経済法科大学教授) 懇親会・家族とともにグルメの会 滋賀県八日市「招福樓」(35名参加)
1990年 (平2)	2月17日(土) 5月12日(土) 7月14日(土) 9月15日(土)	新年会 於：美々卯(出席30名) 「医師過剰時代はやってくるのか？」講師 島津 晃教授 総会 於：坂口樓(20名出席) 講師 山崎 道治氏(近畿管区警察学校) (8月つり大会 中止) 9名しか集まらず 研修会 於：エコーホテル(出席28名) 「一般外科医に必要な皮膚科の診療」講師 濱田 稔夫教授(市大皮膚科) 「最近の医事紛争」講師 米田 泰邦氏(弁護士) 懇親会・家族会・花の万博会場の日本館にて(55名参加) 「百人一首の話」講師 林 直道教授



1991年 (平3)	11月24日(土)	研修会 於：エコーホテル (出席者32名) 「整形外科医のための心電図」講師 前田 如矢教授 (市大保健体育科)
	1月26日(土)	新年会 於：美々卯 (27名出席) 「医学教育について」講師 島津 晃教授
	4月13日	理事会 於：新市
	6月8日	総会 於：新市 (28名参加) 「湾岸戦争の背景について」講師 村松 剛教授
	8月24日(土)	研修会 於：天王寺都ホテル (37名出席) 「整形外科領域のMRI診断」講師 井上 佑一郎講師 (市大放射線科) 「血液型からみた日本人の起源」講師 松本 秀雄教授 (大阪医科大学長)
	9月7日(土)	懇親会・家族会「暫」 出席35名 「落語を聴く会」講師 桂 文福氏 他 (落語家)
1992年 (平4)		
		
	11月9日(土)	研修会 於：天王寺都ホテル (22名出席) 「音楽療法」講師 浅井 憲先生 (京都芸大名誉教授) 「カルシウム代謝の基礎と臨床」講師 森井 信世教授 (市大第二内科)
	2月15日	新年会及び臨時総会 於：美々卯 (34名出席) 「医学教育における早朝臨床体験」講師 島津 晃教授
	4月4日	理事会 於：三井ガーデンホテル
	5月9日(土)	総会・市整会創立20周年記念パーティー 於：ロイヤルホテル (鳳蘭ディナーショー) (資料9, 10) (99名出席) 伊藤成幸先生に感謝状 (資料8)
		
		
	6月26日	運営委員会
	7月11日	若市会 於：エコーホテル (24名参加)

	11月8日(日)	懇親会・家族会 宗胤院当麻寺にて (21名参加) 「茶ガユ点心と講話」 講師 宗胤院住職 宮下 覚昇氏
	12月5日	研修会 於：エコーホテル (出席37名) 「痛みの治療－AKA法について」 講師 (元国立大阪南リハビリ科) 博田節雄先生
1993年 (平5)	2月13日(土)	新年会 於：美々卯 (出席27名) 「足の話」 講師 島津 晃教授
	3月6日(土)	運営委員会 於：新市 (出席13名) 定款一部改正 (名誉会員の新設)
	4月10日(土)	理事会 (出席21名)
	5月15日(土)	<会長 吉中 正好先生>
	5月24日(土)	総会 於：若竹 (44名出席)
	5月24日(土)	山野教授を囲む会 於：ロイヤルホテル (22名出席)
	6月26日(土)	運営委員会 於：エコーホテル (10名出席)
	7月18日(土)	第1回ゴルフコンペ 泉ヶ丘C.C (29名参加)
	7月31日(土)	研修会 於：都ホテル天王寺 (34名出席)
		「健保点数の解釈について」 講師 鈴木 隆先生 (十三市民病院院長)
	9月4日(土)	理事会 於：都ホテル大阪 (上六) (28名出席)
		(マイクロサージャリー用器具の購入の件について討議)

1994年 (平 6)	10月23日(土)	研修会 「シルクロード写真撮影の旅」有馬 清徳先生 「健保の問題点」反田 英之先生
	11月27～28日	懇親旅行・宮崎シーサイド・サンホテルフェニックス (15名参加)
	1月29日(土)	新年会 於：新市 (出席29名) 「医事紛争の話」講師 木下 孟先生
	3月12日(土)	理事会 於：新市 (18名出席)
	4月9日(土)	総 会 於：ホテルエコー (出席37名) 名誉会員表彰 矢頃 恒三先生 階堂 嘉寿雄先生 (資料11)
	6月26日(土)	運営委員会 会員の証 (資料12)
	7月9日(土)	研修会 於：ホテルエコー 「椎間板の病体と生理—動物モデルを中心として」 講師 林 成治先生 (市大大学院) 「藤の木古墳とその時代」講師 藤井 利章教授 (神戸女子大)
	7月23日(土)	若市会「暫」にて (18名参加)
	7月24日(日)	第2回ゴルフコンペ 泉ヶ丘カントリークラブ (20名参加) 懇親会「魚太郎」にて
	9月10日(土)	第1回六五会 於：ロイヤルホテル (参加20名)
		
	10月1日(土)	運営委員会 於：サウスタワーホテル (11名参加)
	11月5日(土)	理事会 於：ホテルエコー (出席20名)
	11月12日(土)	若市会「暫」にて (44名参加)
1995年 (平 7)	11月19～20日 (土・日)	懇親旅行 (15名参加) 鳥羽国際ホテル「潮路亭」と合歓の郷ゴルフコース
	1月28日(土)	新年会 於：ホテルエコー (31名出席) 「整形外科・外傷学」講師 山野 慶樹教授
	3月11日(土)	役員会 於：ホテルエコー (19名参加)
	3月25日(土)	運営委員会「暫」にて (6名)
	5月27日(土)	<会長 長田 明先生>
		 総 会 於：サウスタワーホテル (37名出席) 「日本の都市交通について」講師 山崎 匡二郎先生 (元住吉市民病院整形外科)

1996年 (平8)	7月15日(土)	役員会 於：科研製薬会議室 (22名出席)
	7月16日(日)	第3回ゴルフコンペ 泉ヶ丘カントリークラブ (27名参加)
	7月22日(土)	研修会 於：三井アーバンホテル大阪ベイタワー 「阪神大震災における活断層について」 講師 平野 昌繁教授 (市大理学部)
	9月9日(土)	第2回六五会「暫」にて (16名参加)
	11月18日(土)	研修会 於：ワシントンホテル 「屋久島の森林と猿」 講師 東 しげる先生 (京大霊鳥類研究所) 懇親旅行 (長崎の予定) 中止
	1月20日(土)	新年会 於：全日空シェラトンホテル (60名出席) 「世界の整形外科」 講師 山野 慶樹教授
	3月4日(土)	運営委員会 於：「暫」 (出席8名)
	3月16日(土)	役員会 於：ハートンホテル心斎橋 懇親会 於：日航ホテル大阪
	5月18日(土)	総会 於：ホテルエコー (出席44名) 講演「ジャーナリストの目からみた現代の医療問題について」 講師 黒田 耕太郎氏 (毎日新聞学芸部編集員)
	6月1日(土)	臨時役員会 於：ホテルエコー (出席20名)
	7月6日(土)	研修会 於：阪神ホテル 「松野迅ヴァイオリンリサイタル」 ピアノ樋口 博行氏 「社保の審査についての新しい動き」 講師 紀野 正先生 (審査委員)
	7月28日(日)	第4回ゴルフコンペ 泉ヶ丘C.Cにて (参加31名)
	9月7日(土)	役員会 於：ハートンホテル心斎橋 (21名出席) 懇親会 於：梅の花にて (17名出席)
	10月19日(土)	第3回六五会「生尾」にて (8名出席)
	11月9日(土)	研修会 於：三井アーバンホテル大阪ベイタワー 「最近の人工関節の話題」 講師 鍵山 博士先生 (大阪労災病院) 「セレッソ大阪における選手のスポーツ障害について」 講師 北野 公造先生 (済生会中津病院)
	11月23日(土)	家族会「赤膚焼の里」 (37名参加) 「古瀬ガマ」「万京」薬師寺めぐり



1997年 (平 9)	1 月25日(土)	新年会 於：ウェスティンホテル 「身体障害者のスキー」 講師 大久保 衛先生 (市大整形外科) 赤膚焼の作品の作品展示及び表彰
	3 月 8 日(土) 3 月15日(土) 4 月12日(土)	運営委員会「暫」にて (8 名出席) 役員会 於：たかつガーデン (28名出席) 懇親会 於：「リキ六」 (17名参加) 総会 於：ホテルエコー (出席) 「骨粗鬆症の治療」 講師 佐藤 哲也先生 (大阪市立弘済院)
6 月29日(土)		臨時運営委員会 (25周年記念行事について) (8 名出席) 市整会25周年記念パーティー 於：帝国ホテル大阪 (107名参加) 感謝状 松尾先生に (資料13)

〔VI〕資料

晩秋の候、先生方には益々ご健勝にてご活躍のことと拝察いたします。

私共が臨床医として教育をうけました市大整形外科教室が開設されて最早来年は25年にもなり、教員同窓会では25周年記念行事も催される由に出きおよんでおります。その間、幾多の先輩、後進の諸先生方が開業され第一線でご活躍されておりますが、平素は諸事雑多にてお互いに疎遠に過ぎ去つたことを遺憾に存じます。

私共開業しているものは、その煩雑多用さと時間の余裕もなく、医局諸先生方および各関連病院諸先生方との交流を深める機会も少なく、また、勉学する機会も少なく、お互いの意見の交換もなし得ず過ぎ去ることは互いに不幸かと存じます。

私共開業医としましては、例えば、学術研究会への参加、大学教室との学術交流、医師および従業員の充足対策、医療の管理運営および合理化、医療制度・税制度の研究など種々の問題点を皆様おもちかと思ひます。

これらの課題をもちよつて、相互の意志の協約をはかり、大学医局および関連病院との調整に努め教員同窓会内の協働を進めていくことが望ましいかと存じます。

また、開業医相互の親睦・交流を深め、開業経験およびその知識情報の交換を行ない互いに切磋琢磨し、開業医としての資質向上を図り、相互の連絡・協調を推進する目的をもつて、過日発起人有志の集りとなりました。

同封いたしました開業医会定款原案を作製いたしましたので、慎重にご検討くださいますとご賛同ご協力をお願いいたします。

次にご案内いたします発足準備会（11月26日）には、多くの先生方のご参集を賜わり会の発足にご尽力くださいますと、将来発展的展開をとげるよう諸先生方のご助力をお願いいたします。

昭和47年11月 日

市大整形外科開業医会発足準備会

日 時	昭和47年11月26日 (日)	午後6時
会 場	ホテル エコー	あべの橋西詰
会 費	¥5,000-	
議 案	1. 定款原案の検討審議 2. 寄附金の要請および会費の検討 3. 会の発足、承認の件 4. 暫定執行部発足の承認を求める件（任期 昭和48年3月31日まで） 5. 法人設立につき承認を求める件	

※ なお、当日、会の発足の承認を得られれば、会場にて同封の入会申込書を受理いたします。申込書をご持参ください。

発 起 人 （順不同）

上 田 寿 夫	立 井 選	広 谷 巖	海 原 正 治
伊 藤 成 幸	大 村 清 一	安 積 和 夫	杉 田 道 治
松 尾 澄 正	有 馬 英 之	和 田 忍	牧 野 光 夫
岩 津 昭	有 馬 清 徳	林 敏 夫	吉 田 正 和
小 林 俊 次 郎	木 岐 康 時	妻 鹿 利 和	宮 内 貴
吉 田 洋	小 寺 太 平	松 井 善 邦	竹 村 永
福 西 修	反 田 英 之	上 原 昭 夫	小 田 淑 郎
越 川 恵	梅 原 麻	上 田 晏 弘	

市大開業医会 第 11 号
昭和 48 年 5 月 1 日

各 会 員 殿

開業医会長 伊 藤 成 幸

牙ノ国大阪市大整形外科開業医会定期総会開催
について

本会定款第 17 条により標記総会を下記のとおり開催いたしますので御通
知いたします

記

日 時 昭和 48 年 5 月 20 日 (日) 午後 4 時 (時間厳守)

場 所 大 成 閣 (大丸十合百貨店の隣を東へ 200 米)

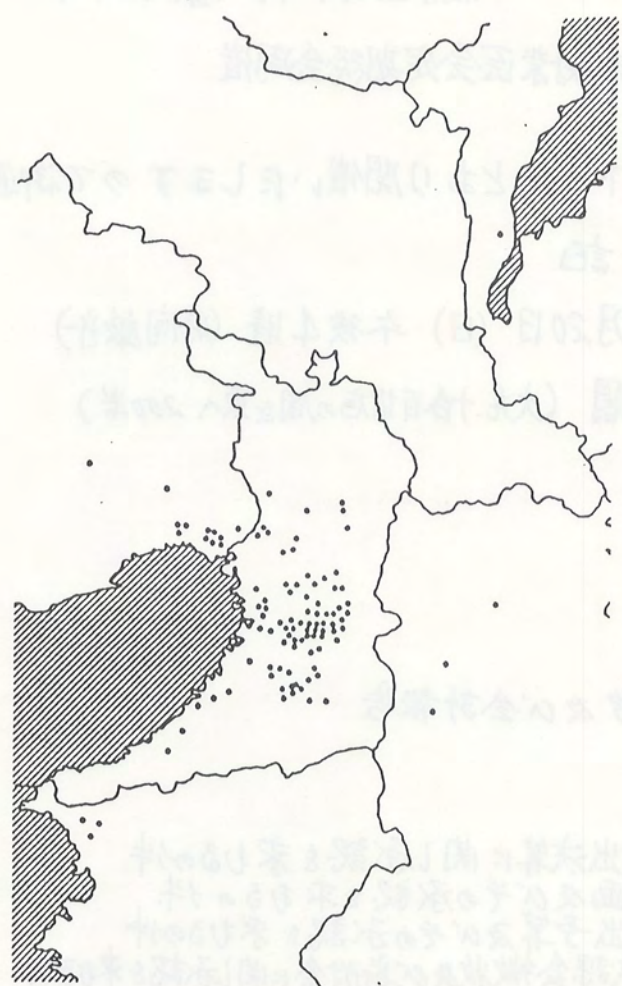
総 会 次 第

- 1 開 会
- 2 会 長 換 拶
- 3 談 長 送 出
- 4 報 告
昭和 47 年 (設立年度) 業務及び会計報告
- 5 理 事 及 び 監 事 の 送 出
- 6 議 事
 - 1) 昭和 47 年度歳入歳出決算に關し承認を求むるの件
 - 2) 昭和 48 年度事業計画及びその承認を求むるの件
 - 3) 昭和 48 年度歳入歳出予算及びその承認を求むるの件
 - 4) 昭和 48 年度会費賦課金徴収及び寄附金に關し承認を求むる件
- 7 閉 会

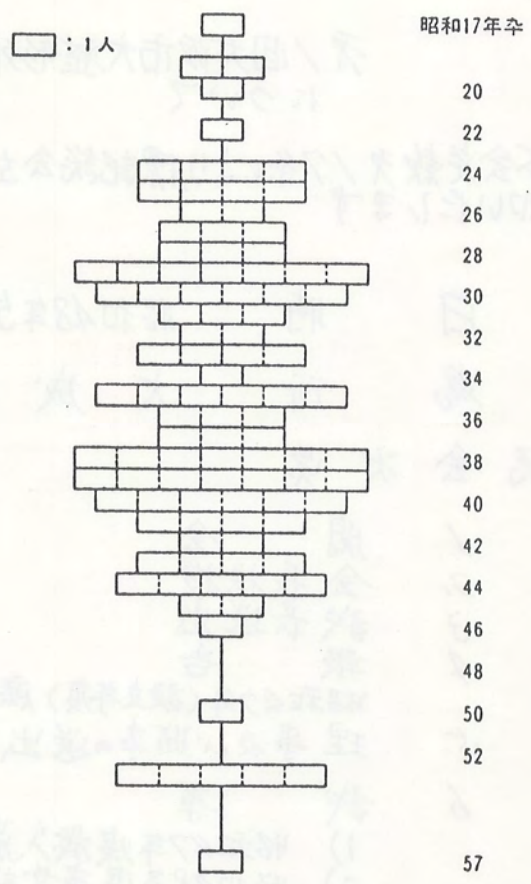
司 統 々 懇 親 会 開 催 (午後 5 時 30 分予定)

小 谷 教 授 出 席 大 学 紛 争 の 前 後 — 現 在 の 医 局 に つ い て
(約 30 分)

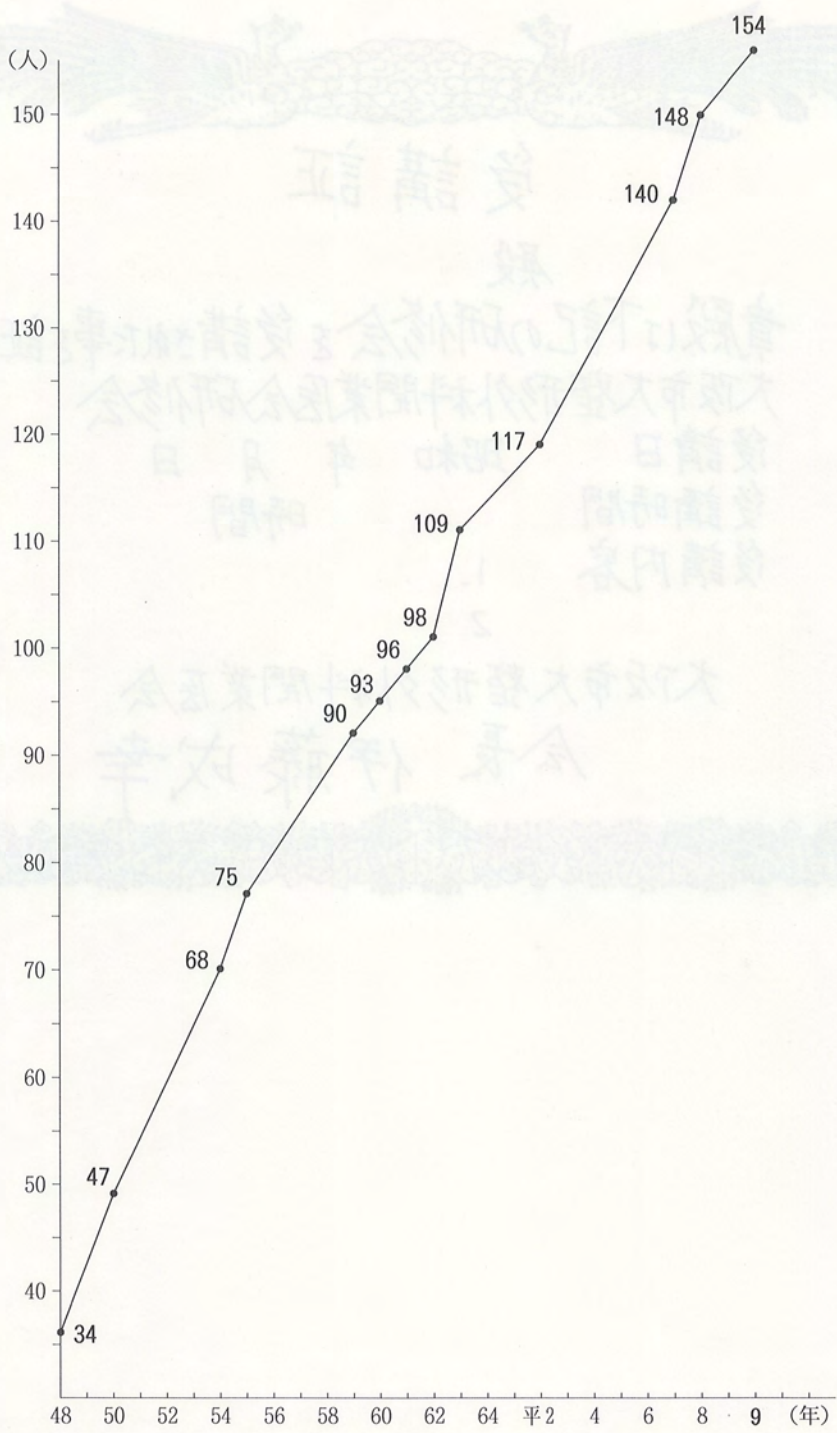
開業地分布図

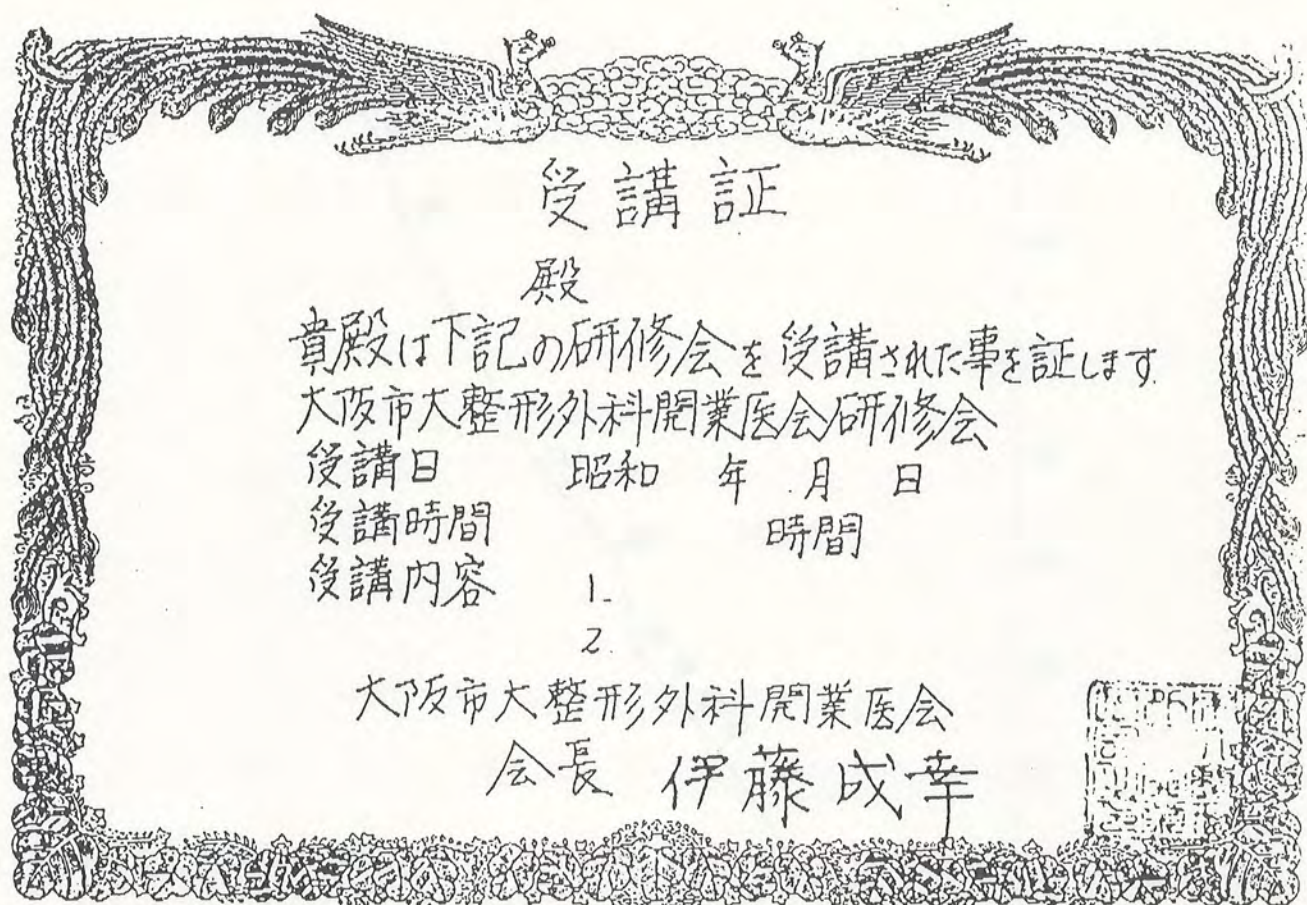


卒業年度別分布



会員数の変遷





受講証

殿

貴殿は下記の研修会を受講された事を証します

大阪市大整形外科開業医会研修会

受講日 昭和 年 月 日

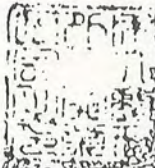
受講時間 時間

受講内容 1.

2.

大阪市大整形外科開業医会

会長 伊藤成幸



大安市大整形外科 開業医会 旅行・ゴルフ会 スケジュール 御案内.

秋も深まり 皆様には、つつがゆく御活躍のことと存じます。

日頃は開業医会運営に御協力賜り厚く御礼申し上げます。旅行のスケジュールが決定致しましたので下記通り御案内申し上げます。

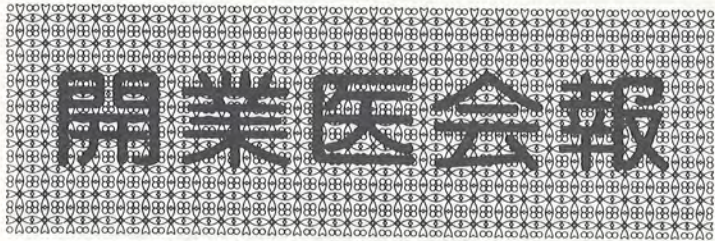
尚同封の振込用紙にて旅行費用も下記通りお振込み下さい。

(ゴルフ組 75,000円 観行組 82,000円)

幹事 渡辺 経宏
上田 晏弘

記

1. 日時 11月14日(土) - 15日(日) - 泊二日.
1. 宿泊 熱海 ホテルニューアカオ TEL 0557-82-5151
1. 集合日時 11月14日(土) 午後2時40分.
" 場所 新大塚駅 コース 地図同封御参照下さい.
1. 帰阪予定時間 11月15日(日) 午後9:30. 新大塚着.
1. 観光組には日本交通公社の社員が同行致します.
1. ゴルフ組は大箱根カントリークラブにてプレー致します.



大阪市立大学整形外科開業医会

No. 1

昭和61年 5 月 1 日 発行

事務所：大阪市旭区高殿 6－3－27

伊藤外科診療所内

は じ め に

私ども開業医会は当初 20 名で発足し、はや 15 年もたち、会員数も 93 名になっております。当時は開業医のみの特別の困難の打開や、親睦を掲げて発足したのですが、今や医師過剰傾向、医療費抑制など、困難は全医師的な共通の問題となると考えられます。

今や我々は同窓会の一員として、この会の活動

を高め、共通の困難に対処せねばならぬと考えるわけであります。

談話会の開催もこの目的であり、開業医会報を発行するのもその意気ごみの一端かと考えます。

諸先生方の御助力、激励をお願いするものであります。

(広 報)

会 報 発 刊 に よ せ て

会 長 伊 藤 成 幸

私どもの開業医会は、発足して、はや 15 年になります。その間、会の内外において、いろいろの事がありました。とりわけ、大は国民生活に、小は私どもの生活に関わる医療に対する行政の締めつけが年とともに厳しさを増してきております。このような時期に、皆様方は非常に苦勞をしておられることと思います。

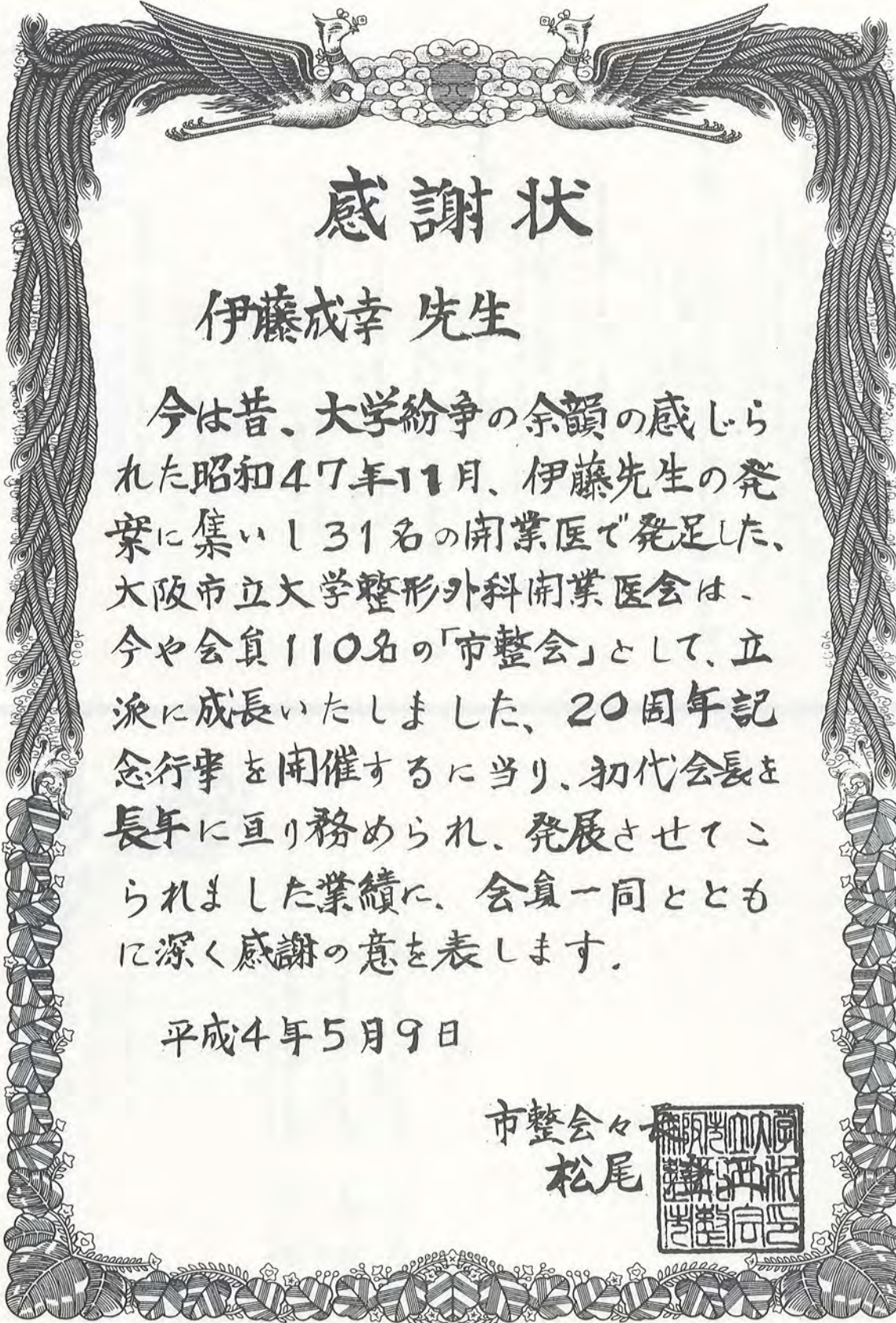
そこで、会員の皆様が親睦とともに、何か得るところがある事をやろうということで、まず、開業医と大学や関連病院との間での相互援助の問題をとりあげました。すでに委員会も発足しており、開業医が休業するような有事の際に役立つように話し合いを進めております(委員は開業医として上田、伊藤、大学から楠、神原の 4 人の先生で構成されています)。

このような会の動きを知っていただくために、このような会報をお送りすることになりました。

ついで皆様が集って、楽しい談話会を計画しました。そこで、私どもが診療にあたり、苦勞したいろんな問題についての相談や話し合いの場を持ちたいと思います。症例の検討、整外外科との境界領域の疾患に対する問題を含め、更に、会合の都度いろいろな分野の専門家を講師として、お迎えして巾広い知識を吸収できるような有意義な会合にしたいと思っております。

この会には開業医会の先生だけでなく、大学、関連病院の先生方の参加も大いに歓迎いたします。

これからも皆様の協力と援助をお願いして、いろいろな面白い企画を考え、できるだけ御期待に沿うべく努力したいと思います。



感謝状

伊藤成幸 先生

今は昔、大学紛争の余韻の感じられた昭和47年11月、伊藤先生の発案に集いし31名の開業医で発足した、大阪市立大学整形外科開業医会は、今や会員110名の「市整会」として、立派に成長いたしました、20周年記念行事を開催するに当り、初代会長を長年に亘り務められ、発展させてこられました業績に、会員一同とともに深く感謝の意を表します。

平成4年5月9日

市整会々長
松尾



市整会20周年

御祝



鳳蘭
1992.5.9.

第二号

名誉会員

天頃 恒三 殿

あなたは長年にわたり大阪市立大学
整形外科開業医会会員として活躍
され多大の貢献をされました
よって本会定款の定めるところにより
名誉会員の称号を授与いたします

平成六年四月九日

大阪市立大学整形外科開業医会

会長

吉中正好



先生

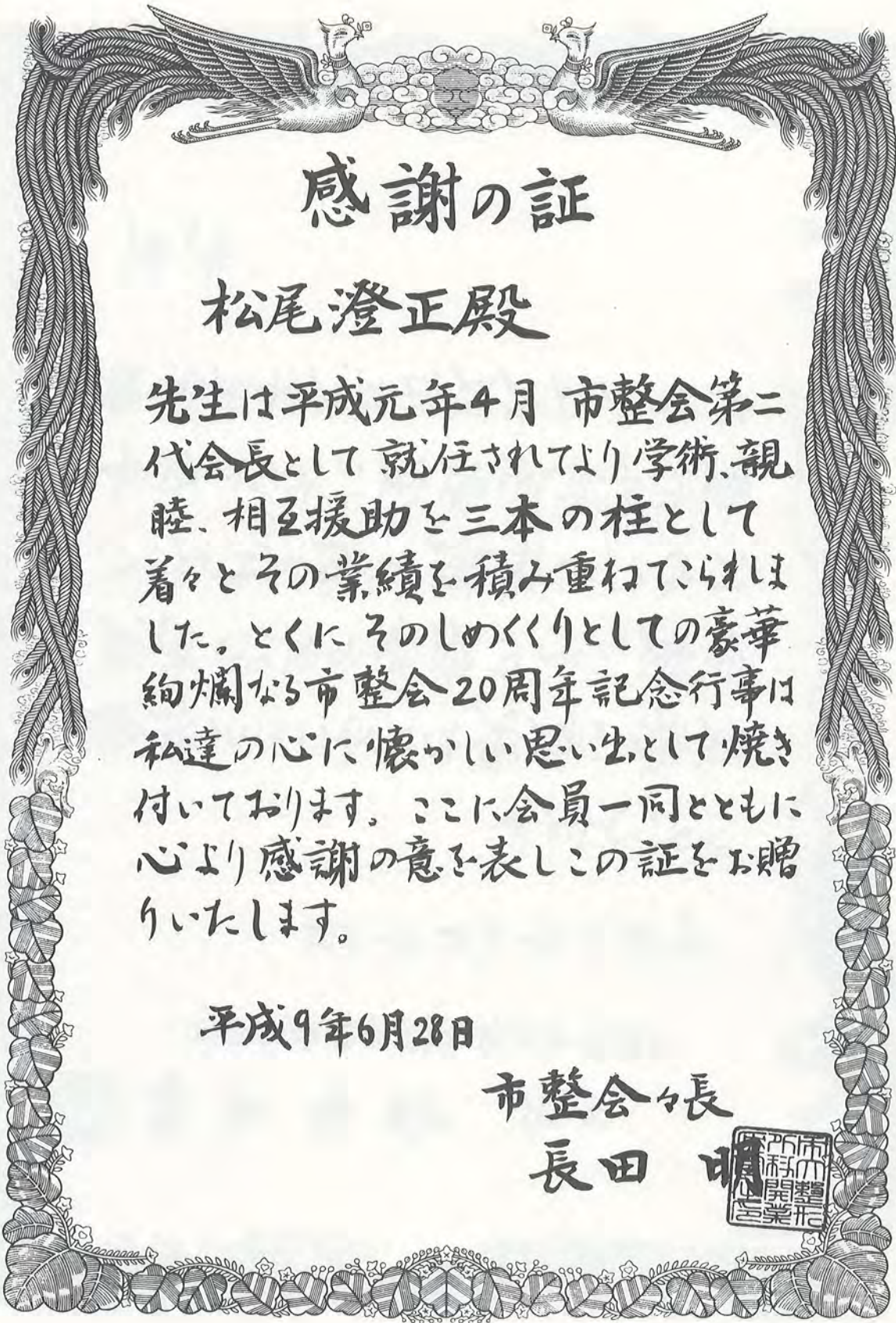
あなたは大阪市立大学医学部
整形外科教室において長年
にわたり研鑽を積まれました
今後はその経験を生かし地域
医療に貢献されることを祈念
いたします

平成七年五月二十七日

大阪市立大学整形外科開業医会

会長 吉中正好





感謝の証

松尾澄正殿

先生は平成元年4月市整会第二代会長として就任されてより学術、親睦、相互援助を三本の柱として着々とその業績を積み重ねてこられました。とくにそのしめくりとしての豪華絢爛なる市整会20周年記念行事は私達の心に懐かしい思い出として焼き付いております。ここに会員一同とともに心より感謝の意を表しこの証をお贈りいたします。

平成9年6月28日

市整会々長

長田 明



第1回 市整会ゴルフコンペ開催

平成5年7月18日(日)

市整会ゴルフコンペが、7月18日(日)堺市の泉ヶ丘カントリークラブにおいて行われました。参加者29名と多数の先生方の参加を得、暑さにも負けず珍プレー、好プレーが続出し、和気あいあいと楽しく一日を過ごしました。

表彰式は泉北のはや魚太郎で行われ、結果は、優勝が小松先生、2位が喜馬先生、3位が楯先生、ベストグロ賞が渡辺先生と各賞を獲得されました。

また、泉ヶ丘カントリークラブは従来よりコンペは禁止されておりますが、今回、楯先生の御尽力でエントリーできましたことに、深謝致します。

市整会ゴルフコンペ成績表(泉ヶ丘カントリークラブ)

	氏 名	金剛	葛城	Gross	H・S	Net
優 勝	小松 堅吾	46	52	98	26.4	71.6
準優勝	喜馬 秀樹	47	50	97	25.2	71.8
3 位	楯 憲一郎	44	43	87	14.4	72.6
4 位	南平 克積	41	44	85	12.0	73.0
5 位	渡辺 径宏	39	35	74	0	74.0

第2回 市整会ゴルフコンペ開催

平成6年7月24日(日)

本年度の市整会ゴルフコンペが、平成6年7月24日泉ヶ丘カントリークラブにおいて開催されました。20名の先生方が参加され、今年の猛暑、渇水にもかかわらず和気あいあいと、一日を楽しく過ごしました。

コンペ後の会食、表彰式は、泉北はやで行われ、結果は、優勝が南平先生、2位中州先生、3位が岩宮先生、ベストグロ賞は森沢先生と、各賞を獲得されました。

なお、泉ヶ丘カントリークラブは従来よりコンペは禁止されておりますが、今回、楯先生の御尽力でエントリーできましたことに、深謝いたします。

市整会ゴルフコンペ成績表(泉ヶ丘カントリークラブ)

	氏 名	金剛	葛城	Gross	H・S	Net
優 勝	南平 克積	41	43	84	13.2	70.8
準優勝	中州 裕	43	45	88	16.8	71.2
3 位	岩宮 裕	48	52	100	28.8	71.2
4 位	楯 憲一郎	39	47	86	13.2	72.8
5 位	沢井 康悦	47	45	92	19.2	72.8

第3回 市整会ゴルフコンペ開催

平成7年7月16日(日)

平成7年度の市整会ゴルフコンペが、7月16日(日)堺市の泉ヶ丘カントリークラブにおいて開催されました。参加者27名と多数の先生方の参加を得、暑さにも負けず珍プレー、好プレーが続出し、和気あいあいと楽しく一日を過ごしました。

表彰式は泉北のはや魚太郎で行われ、結果は、優勝が小松先生、2位が森沢先生、3位が門林先生と各賞を獲得されました。

なお、泉ヶ丘カントリークラブは従来よりコンペは禁止されておりますが、今回も楯先生の御尽力でエントリーできましたことに、深謝致します。

市整会ゴルフコンペ成績表(泉ヶ丘カントリークラブ)

	氏 名	金剛	葛城	Gross	H・S	Net
優 勝	小松 堅吾	41	41	82	10.8	71.2
準優勝	森沢 康二	36	40	76	4.8	71.5
3 位	門林 哲夫	43	49	92	20.4	71.6
4 位	榎本 高明	48	45	93	20.4	72.6
5 位	楯 憲一郎	42	45	87	14.4	72.6

第4回 市整会ゴルフコンペ開催

平成8年7月28日(日)

平成8年度の市整会ゴルフコンペが、7月28日の泉ヶ丘カントリークラブにおいて開催されました。参加者31名と多数の先生方が参加され、暑さにも負けず珍プレー、好プレーが続出し、和気あいあいと楽しく一日を過ごしました。

プレー後の表彰式及び懇親会が、泉北のはや魚太郎で行われ、結果は、優勝が坂井先生、2位が榎本先生、3位が門林先生と、各賞を獲得されました。

なお、泉ヶ丘カントリークラブは従来よりコンペは禁止されておりますが、例年、楯先生の御尽力でエントリーできましたことに深謝いたします。

市整会ゴルフコンペ成績表(泉ヶ丘カントリークラブ)

	氏 名	金剛	葛城	Gross	H・S	Net
優 勝	坂井 和夫	36	39	75	3.6	71.4
準優勝	榎本 高明	45	48	93	21.6	71.4
3 位	門林 哲夫	41	48	89	16.8	72.2
4 位	渡辺 径宏	41	40	81	8.4	72.6
5 位	増田 博	55	46	101	27.6	73.4

編 集 後 記

20周年記念行事につづいて25周年記念行事にも首をつっ込んでしまいました。原稿がたりないのではないかと心配し、皆様のご協力で沢山原稿が集まったら、今度は記念誌の予算がオーバーしないかと心配し、髪が薄くなるはずですね。

(黒田 晃 司)

大阪市立大学医学部整形外科開業医会（市整会）が創立され本年で25周年を迎える大切な節目に当たり、記念誌の発行が企画されました。企画から、約1年2ヶ月でようやく発刊にたどり着きました。当初は原稿の集まりや雑誌の構成に対して、試行錯誤し不安感が錯綜していましたが、最終的には、多数の先生方から原稿をお寄せいただき、ほっと胸をなでおろしております。また、毎日お忙しい中、貴重な時間を削って、原稿をお寄せいただいた先生方に、心から感謝申し上げます。

今回、お寄せいただいた原稿は、市整会25周年という形で応募させていただきましたが、一面、現在の私達の姿を表しているのではないかと思います。今後年数がたちあの時はこの様なことを考えていた、あんな事をしていたと、懐かしく思い浮かべていただければ幸いと存じます。

最後に25周年という現在は、突然現れたものではなく、樹で譬えるなら幹、根である過去からの積み重ねによって出来たものと思っております。このような過去を築いていただいた諸先生方に感謝を申し上げますとともに、今後とも御指導の程よろしくお願い申し上げます。

(阪本 邦雄)

なお、市整会の資料や各行事の写真が、あまり保存されておられません。お持ちの先生方、ご提供下さいますようお願いいたします。

発行責任者 会長 長 田 明

市整会25周年 記念事業準備委員会

西 上 茂 樹	森 沢 康 二
久 保 俊 雄	天 野 裕 一
呉 家 守 二	阪 本 邦 雄